

HDL-XR シリーズ 画面で見るマニュアル

もくじ

必ずお守りください	1-4	使用量制限	8-49
使用上のご注意	1-7	使用量制限について	8-49
ハードディスク故障時の交換方法	2-9	使用量制限を有効にする	8-49
カートリッジについて	2-9	ユーザーごとに使用量制限を設定する	8-50
カートリッジ (ハードディスク) の交換方法	2-9	グループごとに使用量制限を設定する	8-50
導入手順	3-11	共有フォルダー使用量制限を有効にする	8-51
ネットワーク導入手順	3-11	共有フォルダーごとに使用量制限を設定する	8-52
本製品にアクセスする	3-16	ハードディスクをチェックする	9-53
電源を切る方法 (重要)	3-20	ハードディスクのチェック方法	9-53
設定画面	4-21	アクティブリペアーでチェックする	9-54
設定画面の開き方	4-21	チェックディスクでチェックする	9-54
はじめて設定	4-23	Active Directry・NT ドメインログオン	10-55
詳細設定	4-25	Active Directoryログオンとは	10-55
ユーザーパスワードを変更する	4-26	Active Directoryへログオンする	10-56
RAID モード	5-27	NTドメインにログオンする	10-58
本製品で設定できるRAIDモード	5-27	ハードディスクやプリンターの増設	11-60
現在のRAIDモードを確認する	5-28	USB ポート1 (前面)の設定	11-60
RAIDモードを変更する	5-29	ハードディスクを増設する	11-61
暗号化ボリューム	6-30	増設ハードディスクを取り外す	11-63
暗号化ボリュームとは?	6-30	増設ハードディスクをフォーマットする	11-64
暗号化ボリュームを設定する	6-31	プリンターを増設する	11-65
暗号化ボリュームにアクセスする	6-32	印刷用設定をする	11-66
スペアキーを作成する	6-33	バックアップ	12-71
暗号化ボリュームを解除する	6-34	バックアップについて	12-71
ロックキーの削除をする	6-34	USB ポート1 (前面)の設定について	12-72
共有フォルダー	7-35	クイックコピー	12-73
共有フォルダーのアクセス権	7-35	バックアップ	12-75
共有フォルダー使用上の注意	7-37	バックアップログを確認する	12-78
ネットワーク上での本製品の表示	7-37	弊社製EasySaver 4 LEを使う	12-78
ごみ箱機能について	7-38	レプリケーション	13-79
共有フォルダーを作成する	7-39	レプリケーションについて	13-79
共有フォルダーを変更・削除する	7-43	レプリケーションを設定する	13-79
ユーザーを変更・削除する	7-44	ミラーリング	14-82
グループを変更・削除する	7-45	ミラーリングに使用できる増設ハードディスク	14-82
管理者が共有フォルダーへアクセスする	7-46	eSATAハードディスクでミラーリングする	14-83
一括登録をする	7-47	Time Machine	15-87
		Time Machine設定をする	15-87

UPS 装置を接続する 16-88

UPS装置の接続する	16-88
UPS 警告機能を有効にする	16-88
ネットワークシャットダウン機能を有効にする	16-89

FTP 共有 17-90

本製品でのFTP共有機能	17-90
FTP共有を有効にする	17-91
FTPクライアントから接続する	17-92

Microsoft ネットワーク共有サービスアクセスログ .. 18-94

アクセスログを有効にする	18-94
アクセスログを確認する	18-95
アクセスログのリファレンス	18-95

通知機能 19-96

メール基本設定	19-96
メールアドレス設定	19-96
イベント通知設定	19-97
定期レポート設定	19-97
監視サービス設定	19-98

システム管理 20-99

LAN DISKの名前を変更する	20-99
日付と時刻を設定する	20-99
ネットワークを設定する	20-100
管理者パスワードを変更する	20-101
シャットダウン/再起動する	20-101
起動スケジュールを設定する	20-102
各スイッチを設定する	20-102
ランプの明るさを設定する	20-103
省電力機能を使う	20-103
ファームウェアを更新する	20-104
システムログを確認する	20-104

出荷時設定に戻す 21-105

IPアドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す	21-105
本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す	21-106

RAID が崩壊したときには 22-107

ランプ表示別の対応 23-110

製品仕様 24-112

仕様	24-112
動作環境	24-113
各部の名称・機能	24-114
増設できるUSB機器	24-116
増設できるUPS	24-116
増設できるeSATA機器	24-116
増設ディスクに関するご注意	24-117
出荷時設定一覧	24-118
文字制限一覧	24-121
お知らせ一覧	24-123
ログ一覧	24-126
メール通知一覧	24-130

設定画面のリファレンス 25-132

本製品のステータス	25-132
ショートカット	25-132
ログオフ	25-132
情報表示	25-133
基本設定	25-139
共有管理	25-141
サービス設定	25-146
ディスク設定	25-150
通知設定	25-153
システム設定	25-156

困ったときには 26-159



本製品起動時のトラブル	26-163
セットアップ時のトラブル	26-165
本製品へのアクセス時のトラブル	26-171
設定画面に関するトラブル	26-175
本製品のIPアドレスについて	26-179
ファイルの保存について	26-180
ランプやブザーについて	26-181
カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル	26-182
eSATAハードディスクとミラーリング使用時のトラブル	26-183
プリントサーバー機能使用時のトラブル	26-184
クイックコピー機能について	26-187
バックアップ機能について	26-188
内蔵および増設ハードディスクについて	26-189
タイムサーバー機能使用時のトラブル	26-191
NTドメイン・Active Directory使用時のトラブル	26-192
FTP共有使用時のトラブル	26-193
メール送信でのトラブル	26-194
パソコンのネットワーク設定について	26-195

オプション品	27-199
本製品のお問い合わせ	27-200
修理について	27-201

必ずお守りください

お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告および注意表示

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味



この記号は禁止の行為を告げるものです。記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。



この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。



本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。

厳守



本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因になります。

修理は弊社修理センターにご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。

禁止



煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐにコンセントからプラグを抜いてください。

そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

厳守



本製品を接続する場合は、必ず本書で接続方法をご確認になり、以下のことを厳守してください。

●ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。

●接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因となることがあります。

●給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。

給電されているLANケーブルを接続した場合には発煙したり、火災の原因となることがあります。

●接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。故障や動作不良の原因になります。

●接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因になります。

厳守



AC100V(50/60Hz)以外のコンセントに接続しないでください。

発熱、火災の恐れがあります。

禁止



電源プラグをコンセントに完全に差し込んでください。

ショート、発熱の原因となり、火災、感電の恐れ

厳守



本製品の接続、取り外しの際は、必ず本書で、接続・取り外し方法をご確認ください。

間違った操作を行うと火災・感電・動作不良の原因となります。

厳守



本体を濡らしたり、お風呂場では使用しないでください。

火災・感電の原因となります。お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。

禁止



濡れた手で本製品を扱わないでください。

感電や、本製品の故障の原因となります。

禁止



電源ケーブルについては以下にご注意ください。

- 必ず添付または指定の電源ケーブルを使用してください。
- 電源ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。
- 電源ケーブルをACコンセントから抜く場合は、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
ケーブルを引っ張ると、断線または短絡して、火災および感電の原因となることがあります。
- 電源ケーブルの電源プラグは、濡れた手でACコンセントに接続したり、抜いたりしないでください。
感電の原因となります。
- 電源ケーブルがACコンセントに接続されているときには濡れた手で本製品に触らないでください。感電の原因となります。
- 本製品を長時間使わない場合は、電源ケーブルを電源から抜いてください。
電源ケーブルを長時間接続していると、電力消費・発熱します。

厳守

注意



故障や万一に備えて定期的にバックアップをお取りください。

本製品を使用中にデータを消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

厳守



本製品の周辺に放熱を妨げるような物を置かないでください。

禁止



[STATUS]ランプが点滅・点灯中に（動作中にシャットダウンを完了せずに）、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。

故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。

禁止



バスパワーで動作する USB ハードディスクは、接続しないでください。

本製品では、使用できません。接続すると故障の原因となります。

禁止



本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

- 振動や衝撃の加わる場所
- 直射日光のあたる場所
- 湿気やホコリが多い場所
- 温湿度差の激しい場所
- 熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒーターなど）
- 強い磁力・電波の発生する物の近く（磁石、ディスプレイ、スピーカー、ラジオ、無線機など）
- 水気の多い場所（台所、浴室など）
- 傾いた場所
- 腐食性ガス雰囲気中（ Cl_2 、 H_2S 、 NH_3 、 SO_2 、 NO_x など）
- 静電気の影響の強い場所
- 保温性・保湿性の高い（じゅうたん・カーペット・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所での使用（保管は構いません）

禁止



本製品は精密機器です。以下のことにご注意ください。

- 落としたり、衝撃を加えない
- 本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
- 重いものを上にのせない
- そばで飲食・喫煙などをしていない
- 本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

禁止



動作中にケーブルを抜かないでください。
故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。

禁止



本製品内部を結露させたまま使わないでください。
時間をおいて、結露がなくなってからお使いください。
本製品を寒い所から暖かい場所へ移動したり、部屋の温度が急に上昇すると、内部が結露する場合があります。
そのまま使うと誤動作や故障の原因となる場合があります。

禁止



本体について汚れなどを落とす場合、柔らかい布で乾拭きしてください。
●洗剤で汚れを落とす場合は、必ず中性洗剤を水で薄めて使用してください。
●ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使用しないでください。
●市販のクリーニングキットを使用して、本製品のクリーニング作業を行わないでください。故障の原因となります。

厳守



本製品内部およびコネクタ部に液体、金属、たばこの煙などの異物が入らないようにしてください。

禁止



動作中にケーブルを激しく動かさないでください。
接触不良およびそれによるデータ破壊などの原因となることがあります。

厳守



ハードディスク内のデータは、こまめにバックアップするようにしてください。

厳守



本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。

厳守

本製品を廃棄や譲渡などされる際のご注意

- ハードディスクに記録されたデータは、OS上で削除したり、ハードディスクをフォーマットするなどの作業を行っただけでは、特殊なソフトウェアなどを利用することで、データを復元・再利用できてしまう場合があります。その結果として、情報が漏洩してしまう可能性があります。
- ※ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくハードディスクを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。
- 情報漏洩などのトラブルを回避するために、データ消去のためのソフトウェアやサービスをご利用いただくことをおすすめいたします。
- 本製品を廃棄する際は、地方自治体の条例にしたがってください。

修理を依頼される際のご注意

本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。
改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。
修理センターでは、送付された本製品のハードディスク内のデータをすべて消去します。
必ず、データをバックアップしてから送付してください。

ご注意

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

使用上のご注意

全般のご注意

- 動作中に本製品や増設用ハードディスクの電源は切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
- 本製品を使用中にデータを消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。
故障や万一に備えて定期的にバックアップ（別の場所にデータのコピーを保存すること）をお取りください。
- カートリッジを取り外す場合は、必ず [ACCESS] ランプが消灯してから取り外してください。
消灯していない状態で引き抜くと、故障の原因となったり、データを消失する恐れがあります。また、しばらく待っても、[ACCESS] ランプが消灯しない（青点灯した）場合、そのカートリッジは取り外せません。再び [スライドスイッチ] を [LOCK] 状態に戻してください。
- 本製品は、DHCP サーバーがある環境では、自動的に DHCP サーバーより IP アドレスが割り当てられるため、本製品の IP アドレスを設定する必要はありません。
ただし、DHCP サーバーのない環境（パソコンにそれぞれ固定の IP アドレスを設定している環境）では、ネットワークに応じた IP アドレスを設定する必要があります。
- 本製品はローカルネットワーク上でご利用ください。
本製品にグローバル IP アドレスを割り当て、直接インターネットに公開すると非常に危険です。ルーターを設置するなどして、インターネットから攻撃を受けないようにするなど、お客様にてセキュリティ確保をお願いいたします。
- 本製品を複数台ネットワークに導入する場合は、本製品の IP アドレスと LAN DISK の名前をそれぞれ別々にする必要があります。
- 本製品内蔵ハードディスクは、本製品専用フォーマットでフォーマットされています。
他のフォーマット形式（FAT、NTFS など）にフォーマットすることはできません。
- 暗号化ボリュームをご利用の場合、必ず USB ロックキーのスペアを作成し、安全な場所に保管してください。
USB ロックキーを紛失、破損すると、暗号化ボリュームにアクセスできなくなります。

本製品および増設ハードディスクのデータ管理について

- 設定画面で表示されるハードディスク使用領域と Windows からネットワークドライブに割り当てしてプロパティから見た使用領域の値は大きく異なります。
本製品で使用するファームウェアの表示における仕様で、ハードディスク側には問題はありません。
正しい使用領域は、本製品の設定画面からご確認ください。
- 設定画面上から行うハードディスクのチェックディスクに要する時間は、ハードディスクの状態や容量により大きく異なり、数分から数時間程度の時間を要することがあります。
- [ACCESS]ランプ点滅中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。
故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
- 本製品の管理者は、すべての共有フォルダーにアクセスする権限をもっています。
（Windows パソコンからアクセス時（ドメインモードを除く））
セキュリティのため、管理者パスワードを定期的に変更することをおすすめします。
- ファイルコピー中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切るとコピーの処理が正常に行われません。本製品や増設用ハードディスクの [ACCESS] ランプを確認の上、電源を切ってください。
- 本製品の電源を切る際は、必ず本製品の電源ボタンを押して電源を切るようにしてください。
本製品の電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源切断を行うと、故障の原因になったり、データを消失する恐れがあります。

ネットワークで共有する場合のご注意

- ファイアウォールソフトをお使いの場合、本製品へアクセスできない場合があります。
その場合、ファイアウォールソフト側で、65 番のポートを UDP で、137～139 番、445 番、51055 番のポートを TCP でアクセスすることを許可する設定を行ってください。
- 接続可能端末数について
本製品にネットワーク経由で接続可能な端末数について、Windows では制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。

Windows	推奨する同時接続台数は 32 台まで。
Mac OS	推奨する同時接続台数は 8 台まで（最大 16 台まで）
- フォルダー名、ファイル名に使用できる文字の制限については、以下をご覧ください。
【文字制限一覧】（24-121 ページ）

共有、ユーザー、グループ設定時のご注意

本製品出荷時には、本製品に接続できるすべてのユーザーが読み書きできる [disk1] という共有フォルダーがあります。新規に共有フォルダーを作成することもできます。

■本製品に作成する共有には、「指定ユーザー」および「指定グループ」に、読み書きのアクセス制限を個別に設定できます。

■本製品に登録可能なユーザー数は最大 300 個、グループ数は最大 100 個までとなります。

1 グループに登録可能なユーザーは 300 ユーザーまでとなります。

※登録するユーザー情報（ユーザー名、パスワード）は、Windows または Mac OS へログオン時のユーザー情報と一致したものを登録する必要があります。

■設定時に使用できる文字や文字数には制限があります。以下をご覧ください。

【文字制限一覧】（24-121 ページ）

■本製品に登録可能な共有フォルダー数は最大 300 個（出荷時設定の共有フォルダを含む）までとなります。

USB 機器、eSATA 機器を接続する際の注意

■最新の対応機器については、弊社製品ホームページ(<http://www.iodata.jp/support/product/hdl-xr/>)をご覧ください。

■本製品増設ポートに増設できる機器については、【増設できる USB 機器】（24-116 ページ）、【増設できる eSATA 機器】（24-116 ページ）をご覧ください。

■本製品に増設する USB ハードディスクや eSATA ハードディスクについては、【ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い】（24-117 ページ）をご覧ください。

■本製品の USB ポート、eSATA ポートには、対応機器以外の機器は接続しないでください。（USB ハブも接続しないでください。）

■省電力設定の動作確認機種以外には、省電力設定を有効にしないでください。

■本製品本体と eSATA ハードディスクでミラーリングを構築する場合は、内蔵ボリュームの容量と同じ、あるいは大きい容量の eSATA ハードディスクを接続してください。

■バスパワーで動作するハードディスクは接続できません。

■eSATA ポートにポートマルチプライヤー（Port Multiplier）は接続できません。

■何らかの原因により、デジカメや USB メモリーより正常にデータをコピーできなかった場合の写真などのデータの補償に関して、弊社は一切の責任を負いません。必ず、転送が完了した後、転送内容をパソコンなどによりご確認ください。

■ファイルコピー中に、ポートに接続した機器の接続や取り外しをしたり、本製品やハードディスクの電源を切らないでください。コピーの処理が正常に行われません。本製品やハードディスクのアクセスランプを確認の上、電源を切ってください。

■NTFS フォーマットのハードディスクには書き込みはできません。読み込み専用となります。

■プリンターの双方向機能（インク残量の確認など）には対応していません。

また、複合機（プリンター機能以外にスキャナー機能やプリンター機能等を有するもの）をお使いの場合、プリンター機能にのみ対応します。

ハードディスク故障時の交換方法

カートリッジについて

特定カートリッジ (ハードディスク) の [ACCESS] ランプが赤点滅となった場合、該当カートリッジ (ハードディスク) が故障していますので、以下の手順にしたがって、カートリッジ (ハードディスク) を交換してください。

本製品では、電源投入中でもカートリッジの取り外しおよび取り付けが可能です。ただし、正しい手順を行わずに取り外しおよび取り付けを行うと、カートリッジ内のハードディスクだけでなく、他のカートリッジ、あるいは、本製品の故障その他の原因となります。

カートリッジの取り外しおよび取り付けの際は、必ず以下および次ページの手順にしたがって行ってください。

ご注意

- いかなる場合におきましても弊社ではRAID構成が崩壊した本製品のデータを復旧することはできません。
- 本製品のRAID構成されているカートリッジ (ハードディスク) は、障害発生時以外には取り外さないでください。不用意に取り外すと冗長性が失われたり、RAID構成が崩壊してすべてのデータを失う危険性があります。
- 本製品の電源が入っている状態で、カートリッジの取り付けができます。ただし、 [STATUS] ランプが緑点滅していないことを確認した上で取り付けを行ってください。
- 本製品の電源が入っている状態で、カートリッジの取り外しができます。必ず、以下の説明通りに行ってください。
- 誤って障害発生したディスク以外のカートリッジを取り外した場合、RAID構成が崩壊し、修復不能の状態となりますのでご注意ください。
- カートリッジの取り付け・取り外しは、必ず1台ずつ、以下の説明通りに行ってください。
- [STATUS] ランプが緑点滅中は [スライドスイッチ] を操作しないでください。
- すべての内蔵カートリッジを同時に新品に交換することはできません。
- ハードディスク故障が発生した場合、カートリッジの交換を行う前に、必ずデータのバックアップを行ってください。

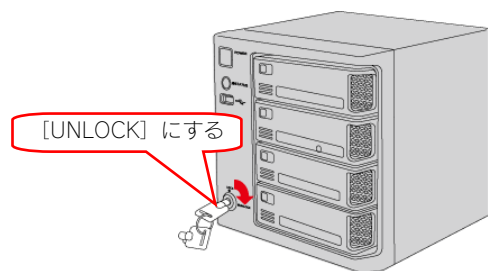
カートリッジ (ハードディスク) の交換方法

ご注意

交換可能なカートリッジについては、【オプション品】 (27-199 ページ) をご確認ください。

ステップ1：故障したカートリッジを外す

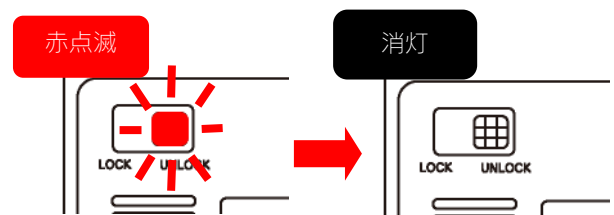
- 1 前面の [カートリッジ固定 LOCK] を開錠 ([UNLOCK]) します。添付のロックキーを [カートリッジ固定 LOCK] に挿し、時計回りにまわして、 [UNLOCK] にします。



- 2 取り外すカートリッジの [スライドスイッチ] を右に移動します。



- 3 カートリッジの [ACCESS] ランプが赤点滅から消灯するまでお待ちください。

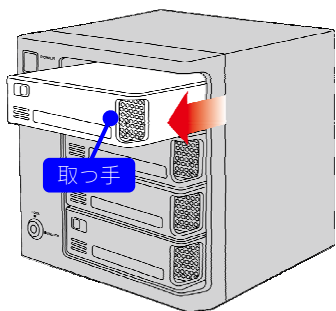


ご注意

[ACCESS] ランプが消灯しない場合は、取り外せません。 [スライドスイッチ] を再度 [LOCK] に戻してください。

※RAID を再構築中などは取り外せません。再構築が終了するまで待つなど、取り外せる状態になってから取り外してください。ただし、RAID 0 で使用中など取り外せない場合があります。

4 カートリッジの「取っ手」を手前に引いてカートリッジを取り出します。

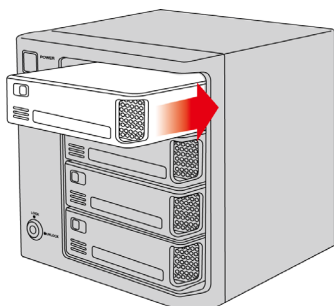


ご注意

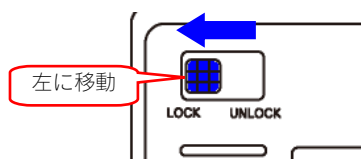
必ず、[ACCESS] ランプが消灯していることを確認してから、取り外してください。
青点滅中、青点灯中に取り外した場合、カートリッジ内のハードディスクの故障、本製品に保存されたデータの破損、あるいは、本製品の故障の原因となります。

ステップ2：カートリッジを取り付ける

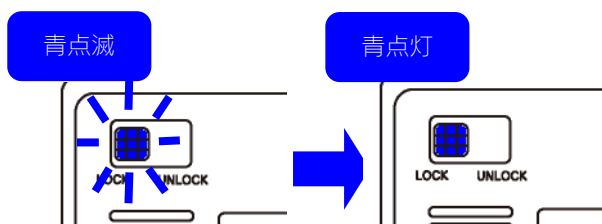
1 カートリッジをスロットの奥まで挿入します。



2 挿入したカートリッジの「スライドスイッチ」を左側（[LOCK]）に移動します。



3 カートリッジの「ACCESS」ランプが青点滅から青点灯するまでお待ちください。



4 すべてのカートリッジを取り付けた後、添付のロックキーを[カートリッジ固定 LOCK]に挿し、反時計回りにまわして、[LOCK]にします。

ご注意

[STATUS] ランプが赤点滅、[ACCESS] ランプが赤点灯、または赤点滅した場合は、取り付けに失敗しています。この状態は、システムに取り付け処理を行いましたが生体システムで使用できない状態です。（状態は「ボリューム情報」画面（25-136 ページ）でご確認ください。）



● [ACCESS] ランプが赤点滅している場合

※赤点滅しているカートリッジは使用できません。

原因1 ディスクエラー発生過多

対処 本製品はディスクにエラーが発生した回数を記録しており、エラーが多数発生したディスクは RAID を構成するディスクとして使用しないようになっています。新しいカートリッジを準備し、交換してください。

原因2 S.M.A.R.T.チェックエラー発生

対処 本製品はディスクを接続されたとき、ディスク自身の故障診断機能（S.M.A.R.T）を利用してディスクが壊れていないか確認します。

S.M.A.R.T 情報により故障と判定されるディスクは、使用しないようになっています。新しいカートリッジを準備し、交換してください。

原因3 RAID に組み込むために必要なディスク容量が足りないカートリッジを接続した。

対処 この場合、システムは RAID を構成するディスクとして使用できないため、適切なディスク容量を持つカートリッジに交換する必要があります。

導入手順

ネットワーク導入手順

通常、ネットワーク内にブロードバンドルーターなどの「DHCP サーバー」となる機器がある場合は、ネットワークに接続すればそのまま本製品をご利用になれます。

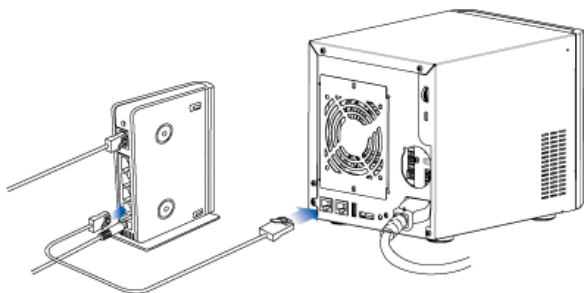
ただし、ネットワーク内に DHCP サーバーとなる機器がない場合には、パソコンを使って本製品の IP アドレスなどを変更する必要があります。

ステップ 1：ネットワーク機器を確認する

ネットワーク内のパソコン、ルーター、アクセスポイントなどが正常に動作していることを確認します。

ステップ 2：ネットワークにつなぐ

本製品の LAN ポートに添付の LAN ケーブルを接続し、もう一方をルーターやハブなどのネットワーク機器に接続します。

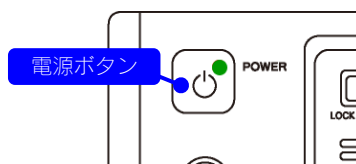


ご注意

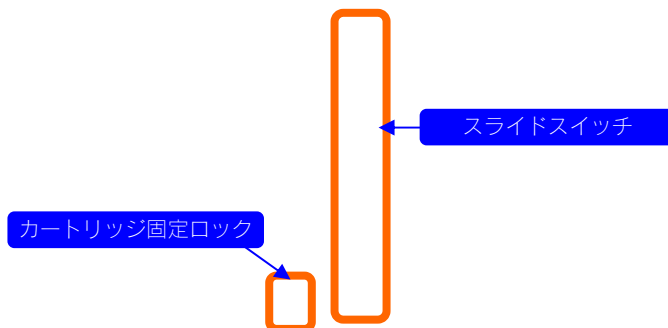
- 必ず LAN ケーブルを先に接続してください。
LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。
- LAN ケーブルはカテゴリ6 以上のものを使用してください。

ステップ 3：電源を入れる

- 1 添付の「電源ケーブル」を本製品背面の [電源コネクタ] に接続後、電源ケーブルを電源コンセントに接続します。
⇒電源コンセントに接続すると、前面の [POWER] ランプが赤色で点灯します。



- 2 [カートリッジ固定ロック] が [LOCK] 状態となっていることと、4 台の [カートリッジ] のすべてのスライドスイッチが左側の [LOCK] 状態となっていることを確認します。



- 3 本製品前面の電源ボタンを押します。
「ピポッ」と音が鳴り [POWER] ランプが緑色に点灯します。

ご注意

動作中に本製品のシャットダウンを完了せずに、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失する恐れがあります。

ステップ4：ランプを確認する

1 しばらくすると、[STATUS] ランプが緑色で点滅し、約2分ほどで緑色に点灯します。
起動が完了すると、「ピー」と音が鳴ります。

2 [STATUS] ランプの状態を確認してください。

緑色で点灯している場合

以上でセットアップは完了です。これで、本製品を使用できる準備は整いました。この後、以下へお進みください。

[【本製品にアクセスする】](#) (3-16 ページ)

赤色で点灯している場合

DHCP サーバーより IP アドレスを取得できない状態です。
右の【固定の IP アドレスを設定する場合】をご確認ください。

ご注意

ネットワーク内に DHCP サーバーがあるのに点滅している場合は、以下の手順を行ってみてください。

- ①いったん、本製品の [電源] ボタンを押して本製品の電源を切ります。
 - ②DHCP サーバーが正しく動作していること、本製品とネットワーク機器が LAN ケーブルで正しく接続されていることを確認します。
 - ③ [電源] ボタンを押して、再度本製品の電源を入れます。
- ※DHCP サーバーがあるかどうかの確認方法については、別紙【必ずお読みください】裏面の【パソコンの IP アドレス】の項をご覧ください。

上記注意を確認しても改善されない場合は、【困ったときには】の以下をご覧ください。

[【本製品起動時のトラブル】](#) (26-163 ページ)

[【セットアップ時のトラブル \(ネットワークへの導入時\)】](#) (26-165 ページ)

ご注意

起動時の[ACCESS]ランプや[STATUS]ランプが赤点灯、または赤点滅している場合については以下をご覧ください。

[【困ったときには】の【ランプやブザーについて】](#) (26-181 ページ)

固定の IP アドレスを設定する場合

ネットワーク内に DHCP サーバーとなるネットワーク機器が無い場合、本製品をお使いのネットワークで使用している IP アドレスに合った固定の IP アドレスに設定する必要があります。

ご注意

MagicalFinder で設定する IP アドレスは本製品の LAN ポートの設定になり、EXT ポートは無効に設定されます。
EXT ポートの設定も行う場合は、[詳細設定]→[基本設定]→[ネットワーク設定]より設定してください。

●Windows の場合

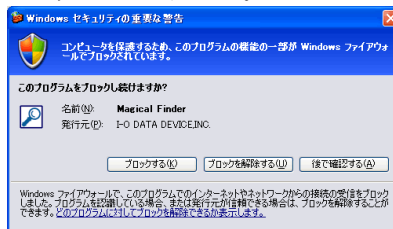
※Mac OS の場合は、[\(3-14 ページ\)](#) にお進みください。

1 ネットワークに接続可能なパソコンに添付 CD-ROM をセットし、起動したサポートソフトメニューの[Magical Finder 起動]をクリックします。

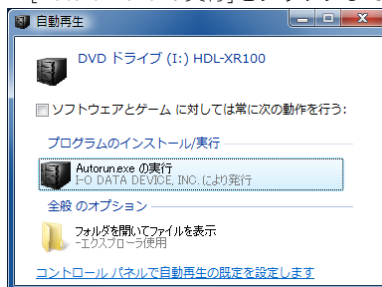


ご注意

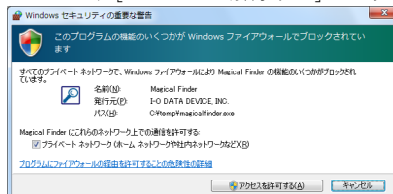
●以下の画面が表示された場合は、[ブロックを解除する] をクリックしてください。



●CD-ROM を挿入し、以下の画面が表示された場合、[Autorun.exe の実行]をクリックしてください。



●以下のような画面が表示された場合、[アクセスを許可する] または、[ブロックを解除する]をクリックしてください。



ご注意

サポートソフトメニューが表示されていない場合
① [マイコンピュータ] を開きます。
※Windows Vista では[スタート]→[コンピュータ]をクリックします。
②HDL-XRxxx アイコンをダブルクリックします。
※xxx にはサポートソフトのバージョンが表示されます。
(サポートソフトメニューが表示されない場合は、さらに [Autorun.exe] アイコンをダブルクリックしてください。)

2

自動で本製品が検索されますので、[IP 設定] ボタンをクリックします。
※本製品の電源が ON になってから、検索されるまでに約 1~2 分かかる場合があります。

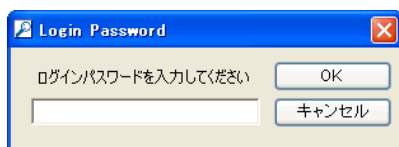


ご注意

本製品が検索されない場合
対処 1 30 秒ほど待ってから[情報の更新] ボタンをクリックしてください。
対処 2 以下をご覧ください。
【困ったときには】の (26-167 ページ)

3

管理者パスワードを入力後（出荷時はパスワードは設定されていません）、[OK] ボタンをクリックします。



ご注意

「パスワードが間違っています。」と表示された場合
対処 [OK] ボタンをクリック後、以下をご覧ください。
【困ったときには】の (26-177 ページ)

4

[LAN DISK の名前] [ワークグループ] を確認後、お使いのネットワークに合わせた IP アドレスを設定後、[OK] ボタンをクリックします。
※画面の詳細は 3-15 ページを参照してください。



5

[OK] ボタンをクリックします。

6

2 の画面に戻りますので、[閉じる] ボタンをクリックします。

以上でセットアップは完了です。これで、本製品を使用できる準備は整いました。この後、以下へお進みください。
【本製品にアクセスする】(3-16 ページ)

●Mac OS の場合

1 パソコンを起動し、添付 CD-ROM をセットします。

2 表示されたアイコンを開き、[スタート画面.DMG]をダブルクリックします。



3 表示された画面内の [Magical Finder]アイコンをダブルクリックします。

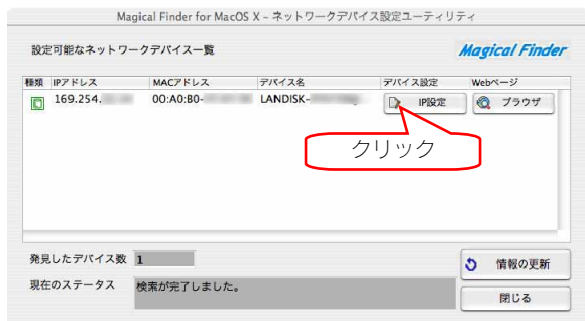


ご注意

認証画面が表示された場合は、Mac OS の管理者ユーザーのパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。



4 自動で本製品が検索されますので、[IP 設定]ボタンをクリックします。



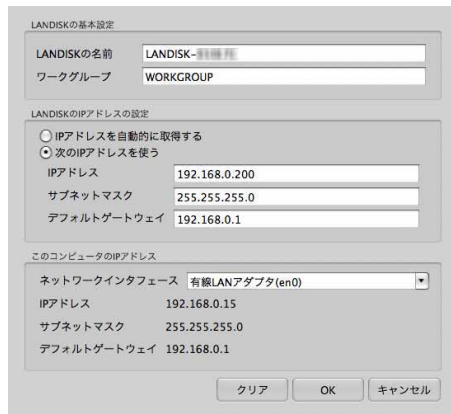
ご注意

本製品が検索されない場合
 対処1 30 秒ほど待つてから[情報の更新]ボタンをクリックしてください。
 対処2 以下をご覧ください。
 【困ったときには】の (26-167 ページ)

5 何も入力せずに [OK] ボタンをクリックします。

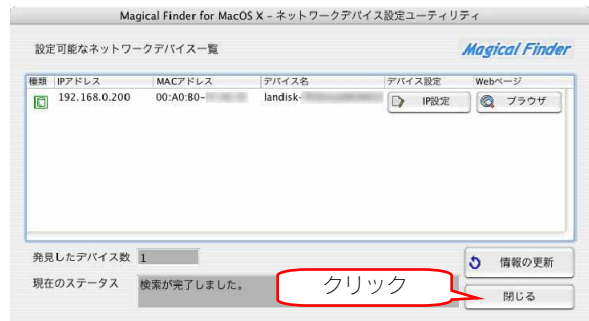


6 [LANDISKの名前] [ワークグループ] を確認後、お使いのネットワークに合わせた IP アドレスを設定後、[OK] ボタンをクリックします。
 ※画面の詳細は次ページを参照してください。



7 [OK] ボタンをクリックします。

8 4の画面に戻りますので、[閉じる] ボタンをクリックします。



以上でセットアップは完了です。これで、本製品を使用できる準備は整いました。この後、以下へお進みください。
 【本製品にアクセスする】(3-16 ページ)

[IP アドレス設定画面]

LAN DISK の基本設定		
LAN DISK の名前	ネットワーク上（[マイネットワーク] あるいは [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名称です。 ※使用できる文字には制限があります。【文字制限一覧】（24-121 ページ）をご覧ください。 ※変更する場合は、必ずメモしてください。	
ワークグループ	パソコンの「ワークグループ名」と一致しなければなりません。（パソコンのワークグループ名を確認してください。） ただし、ワークグループの名前が一致していない場合でも本製品にアクセスすることは可能です。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（24-121 ページ）をご覧ください。	
LAN DISK の IP アドレス設定		
IP アドレスを自動的に取得する	ネットワーク内に DHCP サーバーがある場合にチェックします。	
次の IP アドレスを使う	固定の IP アドレスを使う場合にチェックします。	
	IP アドレス	本製品に設定する IP アドレスを入力します。 ※使用しているネットワークのセグメント(IP アドレスのグループ)をご確認の上、他のネットワーク機器やパソコンの IP アドレスと重複しないように設定してください。
	サブネットマスク	パソコンと同じサブネットマスクを入力します。 画面の [このコンピューターの IP アドレス] 欄の [サブネットマスク] と同じ値を入力します。
	デフォルトゲートウェイ	パソコンと同じデフォルトゲートウェイを入力します。 画面の [このコンピューターの IP アドレス] 欄の [デフォルトゲートウェイ] と同じ値を入力します。表示されていない場合、入力する必要はありません。
このコンピューターの IP アドレス		
ネットワークインターフェイス	パソコンのネットワークインターフェイス（LAN アダプター名など）を表示します。	
IP アドレス	パソコンの IP アドレスを表示します。	
サブネットマスク	パソコンのサブネットマスクを表示します。	
デフォルトゲートウェイ	パソコンのデフォルトゲートウェイを表示します。通常、ルーターの IP アドレスが設定されています。設定されていない場合、表示されません。	
LAN DISK の時間の設定（Windows のみ）		
LAN DISK の時間	LAN DISK の現在時刻を表示します。	
パソコンの時間を LAN DISK に設定する	パソコンの時刻を LAN DISK に設定します。	

ご注意

●[LAN DISK の名前]について

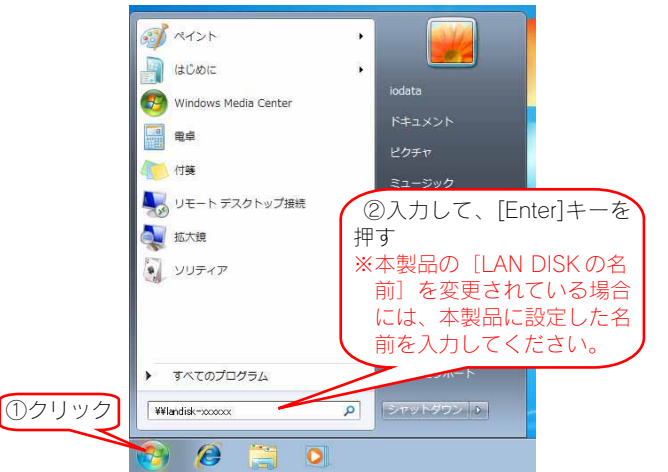
本製品は、出荷時設定として製品ごとに[landisk-xxxxxx]の名前が設定されています。

(xxxxxx は、LAN ポートの MAC アドレスの下 6 桁)

MAC アドレスは、本製品背面のシールに記載されています。※MAC アドレスは、0~9 の数字と A~F までのアルファベットで構成されています。

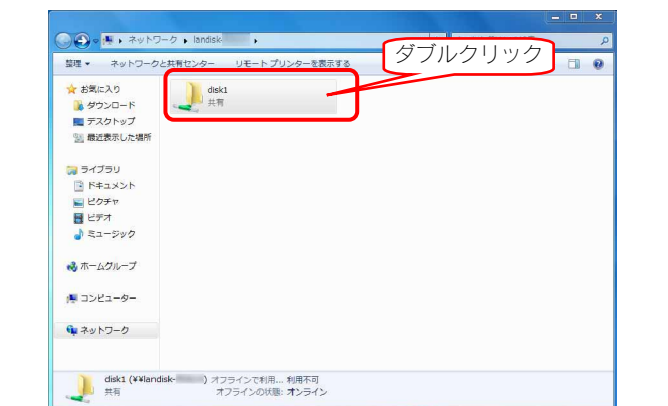
Windows 7、Vista

- 1 [スタート]をクリックし、[検索の開始]をクリック後、
¥landisk-xxxxxx と入力し[Enter]キーを押します。
(xxxxxx は、LAN ポートの MAC アドレスの下 6 桁)
※【注意●[LAN DISK の名前]について】(3-15 ページ)
をご覧ください。
※本製品の「LAN DISK の名前」を変更した場合は、
¥の後に変更した名前を入力してください。



ご注意
LAN DISK が検索されない場合
対処 以下をご覧ください。
【困ったときには】の (26-172 ページ)

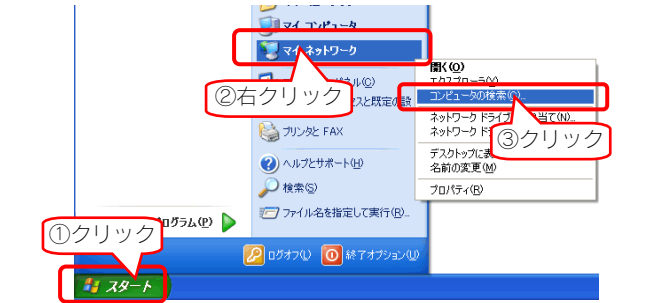
- 2 本製品の共有フォルダーの一覧が表示されます。
[disk1]フォルダーをダブルクリックします。
表示された [disk1] フォルダー内にファイルを書き込むことができます。
このフォルダー内にファイルを書き込んで、他のユーザー
と共有することができます。



次に【【参考】ネットワークドライブの割り当て方法】(3-18 ページ)
をご覧ください。

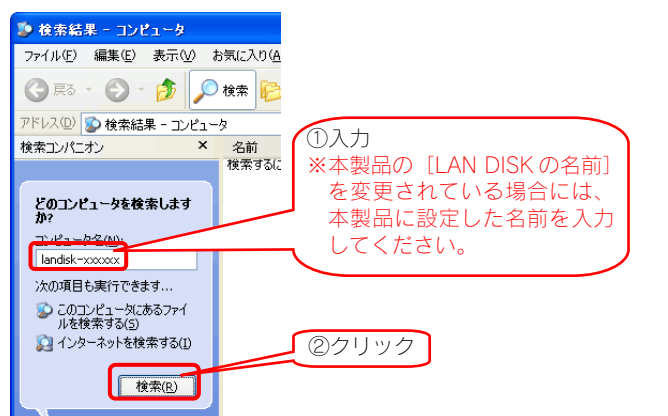
Windows XP

- 1 [スタート] → [マイネットワーク] → [コンピュータの検索] をクリックします。



ご注意
表示に[マイネットワーク]がない場合は、以下の手順を行います。
① [スタート] → [検索] をクリックします。
② 「何を検索しますか？」で [コンピュータまたは人] をクリックします。
③ 「何を検索しますか？」で [ネットワーク上のコンピュータ] をクリックします。

- 2 [コンピュータ名]に landisk-xxxxxx と入力し、[検索]ボタンをクリックします。
(xxxxxx は、LAN ポートの MAC アドレスの下 6 桁)
※【注意●[LAN DISK の名前]について】(3-15 ページ)
をご覧ください。



- 3 「HDL-XR series (landisk-xxxxxx)」が検索されますので、
ダブルクリックします。

ご注意
2つ表示された場合は、どちらかをダブルクリックします。
これは、本製品が使用しているファームウェアの仕様です。

ご注意

LAN DISK が検索されない場合

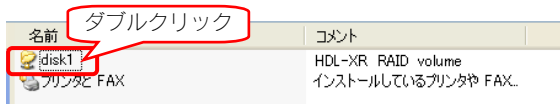
対処 以下をご覧ください。

[【困ったときには】の \(26-172 ページ\)](#)

4

[disk1]フォルダーをダブルクリックします。
表示された [disk1] フォルダー内にファイルを書き込むことができます。

このフォルダー内にファイルを書き込んで、他のユーザーと共有することができます。



次に [【\[参考\]ネットワークドライブの割り当て方法】 \(3-18 ページ\)](#) をご覧ください。

Windows 2000

1

[マイネットワーク]を右クリックして、[コンピュータの検索]をクリックします。

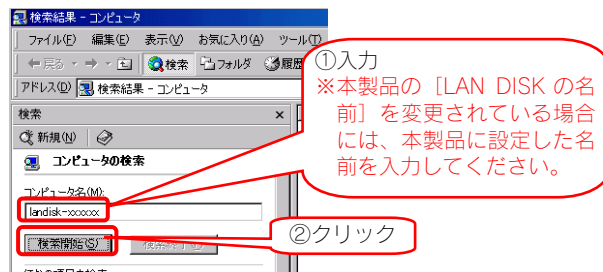


2

[コンピュータ名]に landisk-xxxxxx と入力し、[検索]ボタンをクリックします。

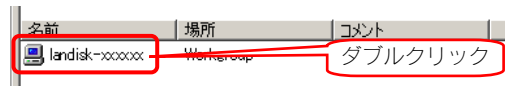
(xxxxxx は、LAN ポートの MAC アドレスの下 6 桁)

※ [【注意●\[LAN DISK の名前\]について】 \(3-15 ページ\)](#) をご覧ください。



3

[landisk-xxxxxx] が検索されますので、ダブルクリックします。



ご注意

LAN DISK が検索されない場合

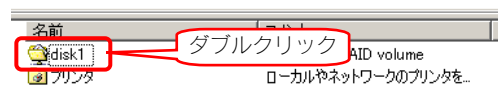
対処 以下をご覧ください。

[【困ったときには】の \(26-172 ページ\)](#)

4

[disk1]フォルダーをダブルクリックします。
表示された [disk1] フォルダー内にファイルを書き込むことができます。

このフォルダー内にファイルを書き込んで、他のユーザーと共有することができます。



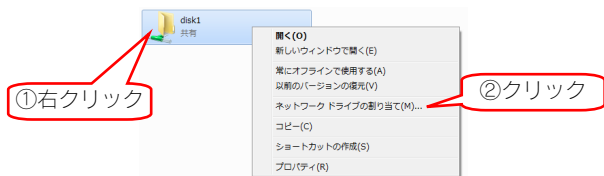
次に [【\[参考\]ネットワークドライブの割り当て方法】 \(3-18 ページ\)](#) をご覧ください。

[参考]ネットワークドライブの割り当て方法

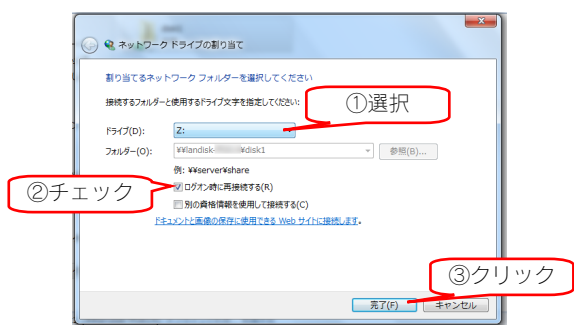
製品をネットワークドライブに割り当てれば、[コンピューター] (マイコンピュータなど) 上から簡単にアクセスできるようになります。(画面は Windows 7 の例です。)

1 【本製品にアクセスする】の方法で[disk1]フォルダを表示させます。

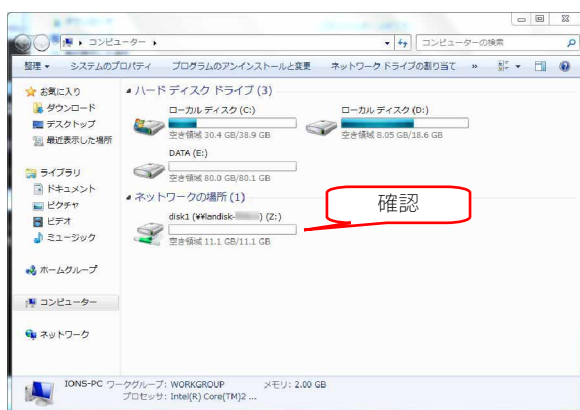
2 [disk1] フォルダを右クリックし、表示されたメニューの [ネットワークドライブの割り当て] をクリックします。



3 ネットワークドライブを割り当てます。
 ①[ドライブ]にて本製品に割り当てる文字を選びます。
 ②[ログオン時に再接続する]にチェックを付けます。
 ③[完了] (または[OK]) ボタンをクリックします。
 ドライブの割り当てが完了すると、割り当てられたドライブのウィンドウが表示されます。



4 [マイコンピュータ]を開いて、割り当てられたドライブが認識されていることをご確認ください。
 ネットワークドライブは、パソコンのハードディスクと同様にアクセスできます。



次に【電源を切る方法 (重要)】 (3-20 ページ) をご覧ください。

Mac OS X(10.5)

1 画面下の Finder を開きます。
 [共有]に本製品 (landisk-xxxxxx) ※が表示されていることを確認し、クリックします。
 (xxxxxx は、LAN ポートの MAC アドレスの下 6 桁)
 ※【注意●[LAN DISKの名前]について】 (3-15 ページ) をご覧ください。
 ※本製品の [LAN DISKの名前] を変更している場合は、設定した名前が表示されます。



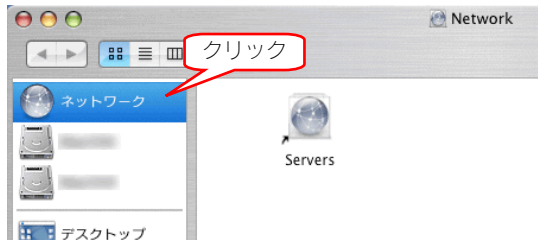
ご注意
 LAN DISK が検索されない場合
 対処 以下をご覧ください。
 【困ったときには】の (26-172 ページ)

2 [disk1]をクリックします。



以上で本製品には正常にアクセスできています。
 新規に共有を作成し、2の画面で作成した共有を選択することで、ネットワークのフォルダとして使用できます。
 次に【電源を切る方法 (重要)】 (3-20 ページ) をご覧ください。

1 Finder を開き、[ネットワーク] をクリックします。
 しばらくすると [landisk-xxxxxx] アイコンが表示されます。
 (xxxxxx は、LAN ポートの MAC アドレスの下 6 桁)
 ※本製品の [LAN DISK の名前] を変更している場合は、
 設定した名前が表示されます。

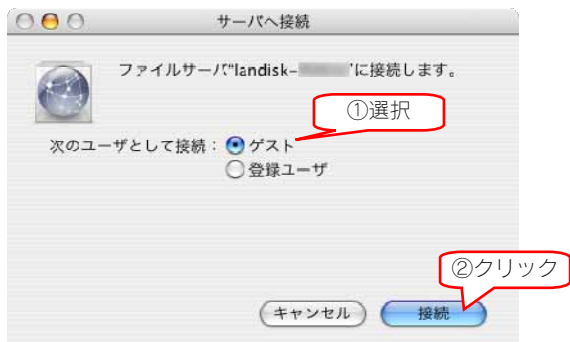


2 表示されている [landisk-xxxxxx] アイコンをダブルクリック
 します。
 (xxxxxx は、LAN ポートの MAC アドレスの下 6 桁)
 ※本製品の [LAN DISK の名前] を変更している場合は、
 設定した名前が表示されます。



ご注意
 LAN DISK が検索されない場合
 対処 以下をご覧ください。
[【困ったときには】の \(26-174 ページ\)](#)

3 [ゲスト] を選択し、[接続] ボタンをクリックします。



4 [disk1] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



5 デスクトップ上に [disk1] アイコンが表示されます。



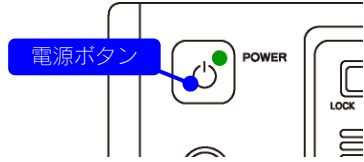
6 [disk1] アイコンをダブルクリックすると、[disk1] フ
 ォルダのウィンドウが表示されます。
 このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザー
 とファイルを共有することができます。

次に [【電源を切る方法 \(重要\)】 \(3-20 ページ\)](#) をご覧ください。

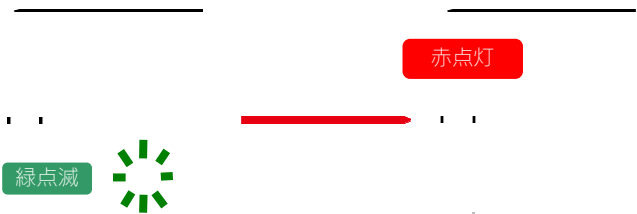
電源を切る方法（重要）

本製品の電源を切る場合は、必ず以下の方法にしたがってください。

- 1 電源ボタンを「ピッ」と音が鳴るまで押し続けます。
（誤操作防止のため、軽く押してすぐに離しただけでは動作しないようになっています。）



- 2 シャットダウン処理が開始されます。
本製品前面の[STATUS]ランプ（緑色）と[POWER]ランプ（緑色）をご確認ください。
シャットダウンが開始すると、[STATUS]ランプが点滅します。



ご注意

- 増設ハードディスクやプリンターがある場合は、以下の順で行ってください。
 - ①本手順で本製品の電源 OFF にします。
 - ②増設ハードディスクやプリンターの電源を OFF にします。
- 長期間使用しない場合は、電源ケーブルをコンセントから外しておくことをおすすめします。

設定画面

設定画面の開き方

Windows の場合

- 1 添付 CD-ROM をセットし、起動してきたサポートソフトウェアメニューの[MagicalFinder 起動]をクリックし、[MagicalFinder]を起動します。

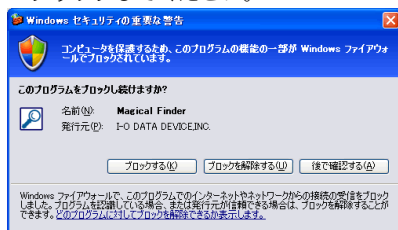
ご注意

サポートソフトウェアメニューが表示されていない場合

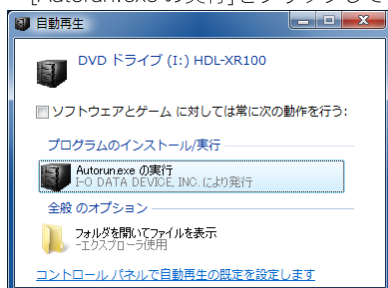
- ① [マイコンピュータ] を開きます。
※Windows Vista では[スタート]→[コンピュータ]をクリックします。
- ② HDL-XRxxx アイコンをダブルクリックします。
※xxx にはサポートソフトのバージョンが表示されます。
(サポートソフトウェアメニューが表示されない場合は、さらに [Autorun.exe] アイコンをダブルクリックしてください。)

ご注意

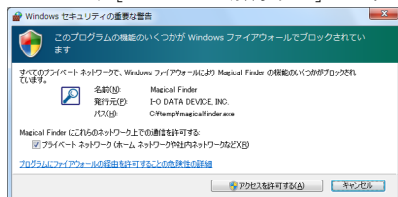
- 以下の画面が表示された場合は、[ブロックを解除する] をクリックしてください。



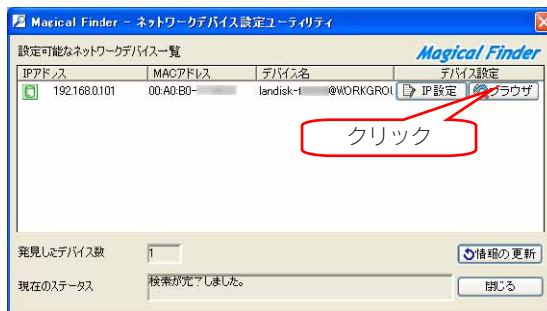
- CD-ROM を挿入し、以下の画面が表示された場合、[Autorun.exe の実行] をクリックしてください。



- 以下のような画面が表示された場合、[アクセスを許可する] または、[ブロックを解除する] をクリックしてください。



- 2 自動で本製品が検索されますので、[ブラウザ] ボタンをクリックします。
※本製品の電源が ON になってから、検索されるまでに約 1~2 分かかる場合があります。



ご注意

- 本製品が検索されない！
対処 1：30 秒ほど待ってから [情報の更新] ボタンをクリックしてください。
対処 2：以下を参照してください。
[【困ったときには】 の \(26-167 ページ\)](#)

- 3 Web ブラウザーが起動し、設定画面が表示されます。



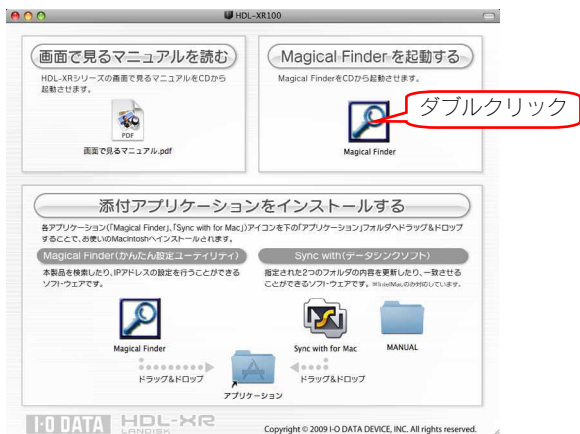
Mac OS の場合

1 パソコンを起動し、添付 CD-ROM をセットします。

2 表示されたアイコンを開き、[スタート画面.DMG]をダブルクリックします。



3 表示された画面内の [Magical Finder]アイコンをダブルクリックします。

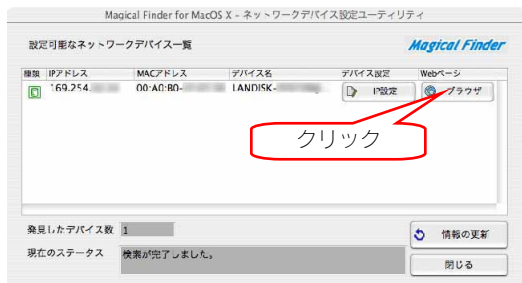


ご注意

認証画面が表示された場合は、Mac OS の管理者ユーザーのパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。



4 自動で本製品が検索されますので、[ブラウザ]ボタンをクリックします。



ご注意

本製品が検索されない場合

対処1 30秒ほど待つてから[情報の更新]ボタンをクリックしてください。

対処2 以下をご覧ください。

[\[困ったときには\] の \(26-167 ページ\)](#)

5 Web ブラウザーが起動し、設定画面が表示されます。



はじめて設定

「はじめて設定」では次の項目が設定できます。

- ・ LAN DISK の名前
- ・ IP アドレス設定*
- ・ 日付と時刻設定

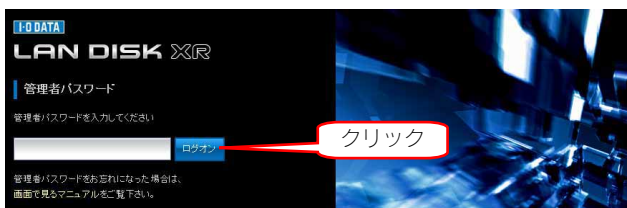
※ 「はじめて設定」では、本製品の LAN ポートの IP アドレスを設定し、EXT ポートは無効に設定します。

EXT ポートの設定を行う場合は、[詳細設定]→[基本設定]→[ネットワーク設定]より設定してください。

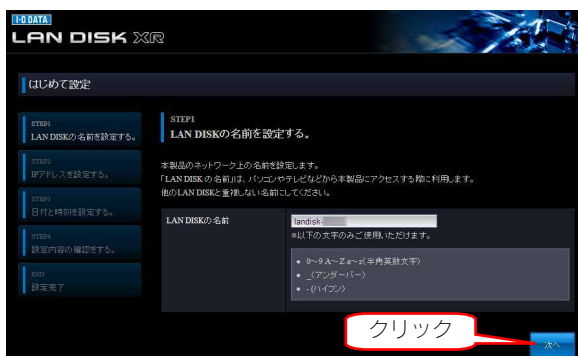
1 設定画面を開き、[はじめて設定]をクリックします。



2 ログオン画面が表示されますので、管理者パスワードを入力して、[ログオン]ボタンをクリックします。
(出荷時は、パスワード設定されていません。)



3 本製品の名前を変更することができます。
「LANDISK」など好きな名前に変更します。
※ 「LAN DISK の名前」に使用可能な文字については、次をご覧ください。【文字制限一覧】の(24-121 ページ)



4 本製品の IP アドレスを設定できます。
初期設定値では自動的に IP アドレスを取得する設定になっていますが、IP アドレスが取得できない場合は、手動にて設定することもできます。



ご注意

- ここで設定する IP アドレスは本製品の LAN ポートの設定になり、EXT ポートは無効に設定されます。
EXT ポートの設定も行う場合は、[詳細設定]→[基本設定]→[ネットワーク設定]より設定してください。

5 時刻設定ができます。



6 設定した内容の確認をして、「設定する」ボタンをクリックします。



7 IP アドレスが変更となる可能性がある場合には、以下の画面が表示されます。
内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックしてください。



以上で設定は完了です。

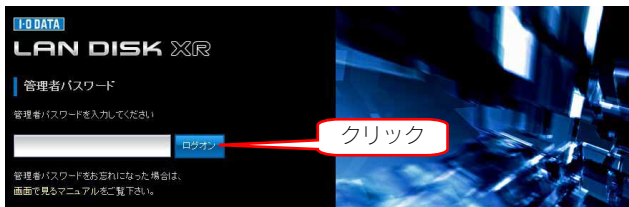
詳細設定

[詳細設定] では、本製品の各種設定ができます。

- 1 設定画面を開き、[詳細設定]をクリックします。



- 2 ログオン画面が表示されますので、管理者パスワードを入力して、[ログオン]ボタンをクリックします。
(出荷時は、パスワード設定されていません。)



- 3 詳細設定画面が表示されます。
詳しくは、【設定画面のリファレンス】(25-132 ページ)をご覧ください。



ユーザーパスワードを変更する

LAN DISK に登録済のユーザーパスワードを変更することができます。

- 1 設定画面を開き、[ユーザーパスワード変更] をクリックします。



- 2 変更したいユーザー名とパスワードを入力し、「設定する」をクリックします。



- 3 設定が完了したら、[トップに戻る]をクリックし、トップメニューに戻ります。



RAID モード

本製品で設定できる RAID モード

本製品は、出荷時 RAID6 で構成されています。本製品の設定画面で他の RAID モードに変更できます。

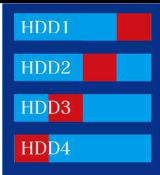
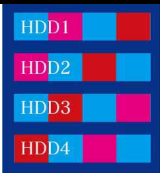

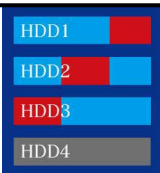

本製品では、以下の 5 つの RAID モードに設定することができます。

また、RAID5 および RAID6 には暗号化の有無がありますので、合計 7 つの RAID モードを選択できます。

※ 4 つのハードディスクを別のハードディスクとして使用することはできません。

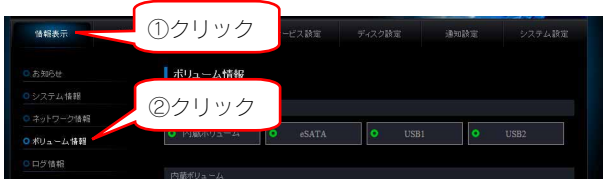
※ ディスク故障が発生した場合は速やかに新しいカートリッジと交換してください。

※ HDL-XR/2D シリーズでは、RAID0、RAID1（出荷時）のみ設定できます。（HDL-XR/2D シリーズの RAID モードについては【HDL-XR/2D シリーズ取扱説明書】をご覧ください。）

RAID5	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵ドライブ(1~4)の 75% (3 台分) を利用できます。 ※ 残り 1 台分の容量はパリティとして利用します。 パリティにより、1 台のハードディスクに障害が発生しても復旧できます。 		<p>パリティ</p>
RAID6	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵ドライブ(1~4)の 50% (2 台分) を利用できます。 ※ 残り 2 台分の容量はパリティとして利用します。 パリティにより、2 台のハードディスクに障害が発生しても復旧できます。 		<p>パリティ 1 パリティ 2</p>
RAID0	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵ドライブ(1~4)の全容量を利用できます。 アクセス速度が最も早くなります。 データの保護機能はありません。 		
RAID5+スペア	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵ドライブ(1~4)の 50% (2 台分) を利用できます。 ※ 3 台で RAID5 を構成し、内 1 台分の容量はパリティとして利用します。残り 1 台はホットスペアとして利用します。 1 台のハードディスクに障害が発生しても、スペアを利用し、ディスク切替を自動で行います。 		<p>パリティ ホットスペア</p>
RAID1+スペア	<ul style="list-style-type: none"> 内蔵ドライブ(1~4)の 25% (1 台分) を利用できます。 ※ 3 台で RAID1 を構成 (トリプルミラーリング) し、残り 1 台はホットスペアとして利用します。 1 台のハードディスクに障害が発生しても、スペアを利用し、ディスク切替を自動で行います。 		<p>ミラーディスク ホットスペア</p>

各 RAID モードの比較		RAID5	RAID6	RAID0	RAID5+スペア	RAID1+スペア
利用可能なディスク容量	HDL-XR2.0	約 1.5TB	約 1TB	約 2TB	約 1TB	約 0.5TB
	HDL-XR4.0	約 3TB	約 2TB	約 4TB	約 2TB	約 1TB
	HDL-XR6.0	約 4.5TB	約 3TB	約 6TB	約 3TB	約 1.5TB
	HDL-XR8.0	約 6TB	約 4TB	約 8TB	約 4TB	約 2TB
データの保護機能	中	● 1 台故障に対応 ● 2 台故障で RAID 崩壊	高 ● 最大 2 台故障に対応 ● 3 台故障で RAID 崩壊	なし ● 1 台故障で RAID 崩壊	中 ● 最大 2 台故障に対応 ● 3 台故障で RAID 崩壊 ● スペアを利用し、ディスク切替を自動で行います。	高 ● 最大 3 台故障に対応 ● 4 台故障で RAID 崩壊 ● スペアを利用し、ディスク切替を自動で行います。

- 1 [詳細設定]から、[情報表示]→[ボリューム情報]をクリックします。



- 2 [内蔵ボリューム]の[動作モード]をご確認ください。



RAID モードを変更する

ご注意

- 本製品で RAID モードを変更すると、内蔵ボリューム上に作成した共有フォルダーおよびその共有フォルダーに保存されていたデータはすべて失われます。あらかじめ、データをバックアップしてから RAID モードを変更するか、初期状態からすぐに構成変更してください。
- 本製品の RAID 構成されているハードディスクカートリッジは、障害発生時以外には取り外さないでください。不用意に取り外すと冗長性が失われたり、RAID 構成が崩壊して全てのデータを失う危険性があります。
- HDL-XR/2D シリーズから HDL-XR リーズの RAID モードに切り替え後は、HDL-XR/2D の RAID モードに切り替えはできなくなりますので、ご注意ください。

変更する前に

- ・ RAID モードを変更するには、必ずカートリッジが4台とも接続されている必要があります。
- ・ 内蔵ハードディスク（4台）はすべてフォーマットされます。本製品内にデータが保存されている場合は、RAID モード変更前に必ず必要なデータはバックアップしてください。
- ・ eSATA ハードディスクが接続されており、ミラーリングモードに設定されている場合は、RAID モードを変更できません。eSATA ハードディスクを取り外し、共有モードに変更してから、RAID モードを変更してください。

変更時

- ・ RAID モードを変更すると、RAID の再構築処理を行います。
- ・ RAID モードの変更処理は数分で終わりますが、再構築完了までにかかり時間がかかる場合があります。
- ・ 再構築処理はバックグラウンドで実行されているため、再構築中であっても本製品を通常通り使用できますが、再構築中に以下の操作はできません。また、再構築中は、データ保護されません。
 - ・ ファームウェアアップデート
 - ・ スケジュールシャットダウン
 - ・ アクティブリペアー

RAID 構築までの所要時間

- 以下に表示されている時間は、2TB モデル(HDL-XR2.0)の場合です。この時間は製品のモデル容量に応じて、およそ比例した時間を必要とします。ご使用のモデルにあわせ目安としてください。

変更する RAID モード	RAID5	RAID6	RAID0	RAID5+スペア	RAID1+スペア
RAID 構築までの時間	約5時間 40分	約10時間 20分	約2分*2	約4時間 20分	約1時間 30分

※1 RAID モードが暗号化機能を有するモードである場合や、構築中に設定変更やファイル操作を行った場合には、上記以上の時間を必要とします。

※2 RAID モードの所要時間は、他の RAID モードから変更し、設定画面にてモード変更処理が完了した後、再構築が完了するまでの時間です。ただし、RAID0 の場合は、再構築は行いません。

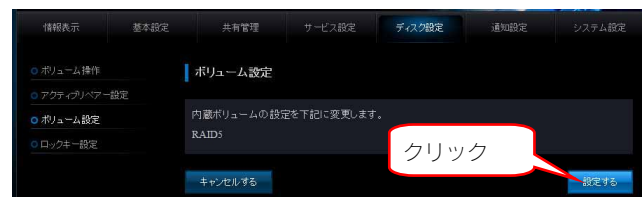
1 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム設定]をクリックします。



2 [内蔵ボリューム]で変更する RAID モードにチェック後、[変更]ボタンをクリックします。



3 [設定する] ボタンをクリックします。



以上で RAID モードの変更は完了です。変更した RAID モードの構築が完了するまでに、時間がかかる場合がありますが、RAID 構築自体はバックグラウンドで実行されているため、本製品へのアクセスは可能です。現在の構築状態は、[ボリューム情報] 画面で確認することができます。内蔵ボリュームの [RAID の状態] に「使用中：正常動作」と表示されたら構築完了です。

ご注意

- 再構築が完了しないと RAID によるデータ保護はされません。
- RAID 0 (ストライピング) の場合、再構築処理はありません。
- 再度状態を確認するには、[情報表示] → [ボリューム情報] をクリックしてください。一度開いた [ボリューム情報] 画面の情報は、再度 [ボリューム情報] 画面を開かないと更新されません。

暗号化ボリューム

暗号化ボリュームとは？

暗号化ボリューム機能は、本製品の RAID ボリュームを丸ごと暗号化する機能です。

専用の鍵（USB ロックキー）を接続しない限り、暗号化されたディスク領域にアクセスすることはできませんので、万一本製品を丸ごと、あるいはカートリッジの盗難にあった場合でも、記録された情報の漏洩を防ぐことができます。

暗号化には AES 方式（256bit）を使用し、ハードウェア暗号エンジンを用いるため、高速かつ安全に処理されます。

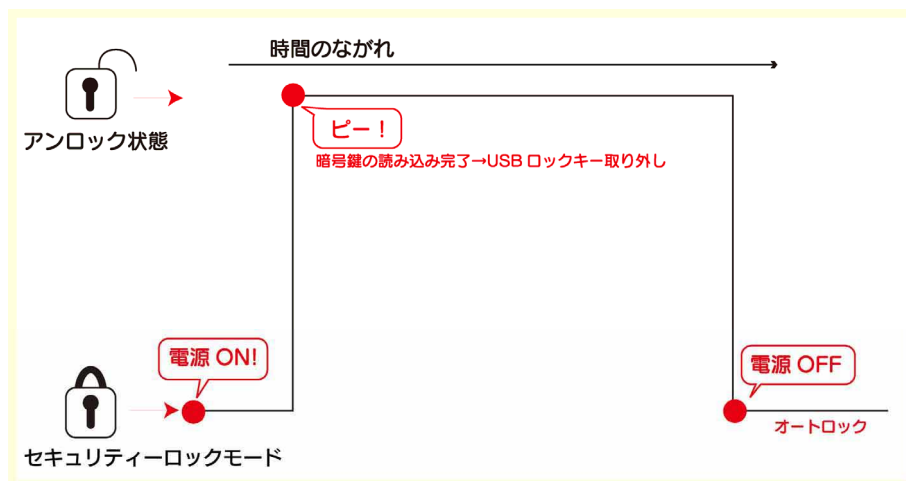
設定時に必要なもの

- ・ 64MB 以上の容量を持つ USB メモリー（製品添付の USB メモリー）

ご注意

- USB ロックキーとして使用する USB メモリーにあらかじめ記録されているデータはすべて消去されます。
- スペアーキーを作成する場合は、スペアーキー個数分の USB メモリーが必要です。
- 弊社製 USB メモリー ED シリーズなど、暗号化されている USB メモリーはご利用いただけません。

暗号化ボリュームのイメージ



ご注意

- 暗号化ボリューム設定を行った場合、本製品に USB ロックキーを接続せずに起動すると、本製品は「セキュリティロックモード」で起動します。
「セキュリティロックモード」では、すべての共有サービスは停止し、共有フォルダー上に保存されたデータにアクセスすることはできません。
「セキュリティロックモード」は、USB ロックキーを本製品に接続することで解除することができます。
※次回本製品の起動/再起動時には再び USB ロックキーが必要です。電源 ON/OFF 設定でスケジュール起動、終了を行う場合はご注意ください。
- 暗号化に利用するキーは USB ロックキー内のみ存在します。万一 USB ロックキーが壊れたり、紛失した場合、暗号化ボリュームにアクセスできなくなります。
必ず「マスターキー」と「スペアーキー」の複数の USB ロックキーを用意し、万一に備えて「マスターキー」を安全な場所に保管しておいてください。
また、スペアーキーの作り方は、【[スペアーキーを作成する](#)】（6-33 ページ）をご覧ください。
- 暗号化されるのは内蔵 RAID ボリューム上のデータのみとなります。
増設ハードディスク上のデータは暗号化されません。そのため、バックアップ機能で増設ハードディスク上、または、ネットワーク上の本製品からバックアップされたファイルは、暗号化されていない状態のファイルとなりますのでご注意ください。
eSATA ミラーリング機能をご利用の場合は、暗号化されたまま増設 eSATA ハードディスクにミラーリングが行われます。
また、LAN 上を流れる通信は暗号化されていません。
- 本製品の暗号化ボリューム機能は RAID ボリュームを丸ごと暗号化する機能です。
ファイル単位、フォルダー単位の暗号化については、市販のアプリケーションをご利用ください。

ご注意

- RAID モードを変更すると、内蔵ボリューム上の共有フォルダー、および共有フォルダーに保存したすべてのデータが消去されます。
- 暗号化ボリューム設定を行う際に、本製品に接続した USB メモリーは USB ロックキーとしてフォーマットされます。必要なデータが入っている場合は、あらかじめバックアップした上で実行してください。
- USB ロックキーに保存される鍵データは、暗号化 RAID5 または暗号化 RAID6 にボリューム設定するたびに新規に生成されますので、本製品を複数使用の場合は、それぞれに専用の USB ロックキーを用意する必要があります。

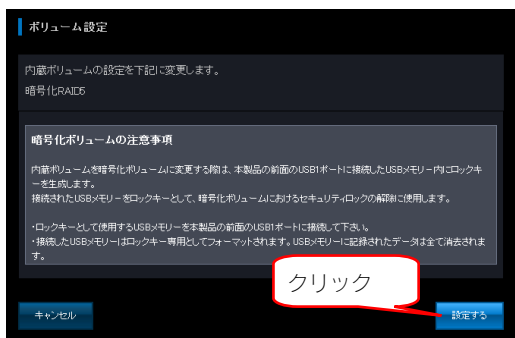
1 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム設定]をクリックします。



2 [内蔵ボリューム]の動作モードの選択で「暗号化 RAID5」または、「暗号化 RAID6」のいずれかにチェックした後、[変更] ボタンをクリックします。



3 画面のメッセージを確認の上、USB ロックキーにする USB メモリーを、本製品前面の USB ポート 1 に接続し、[設定する]ボタンをクリックします。
→数分後、完了画面が表示されます。



以上で設定は完了です。

ご注意

- 暗号化に利用するキーは、USB ロックキー内のみ存在します。万一 USB ロックキーが壊れたり、紛失した場合、暗号化ボリュームにアクセスできなくなります。必ず「マスターキー」と「スペアキー」の複数の USB ロックキーを用意し、万一に備えて「マスターキー」を安全な場所に保管しておいてください。
スペアキーの作り方は【[スペアキーを作成する](#)】(6-33 ページ) をご覧ください。
- USB ロックキーをパソコンに接続し、フォーマット、ファイルやフォルダーのコピー、削除、リネームなどを行わないようにしてください。鍵ファイルを削除すると、暗号化されたボリュームにアクセスできなくなりますので、他の USB メモリーと混同しないようご注意ください。

1	本製品の電源がOFFになっていることを確認します。
2	本製品前面の USB ポート 1 に USB ロックキーを挿入します。
3	本製品の電源を ON にします。
4	しばらくすると暗号鍵を読み込んだことを示すブザー音（ピー）がなりますので、USB ポート 1 から USB ロックキーを取り外します。
5	取り外した USB ロックキーは紛失しないよう、必ず安全な場所に保管しておいてください。

以上で暗号化ボリュームにアクセス可能となります。

ご注意

- 暗号化に利用するキーは、USB ロックキー内にもみ存在します。万一 USB ロックキーが壊れたり、紛失した場合、暗号化ボリュームにアクセスできなくなります。必ず「マスターキー」と「スペアキー」の複数の USB ロックキーを用意し、万一に備えて「マスターキー」を安全な場所に保管しておいてください。

スペアキーの作り方は【[スペアキーを作成する](#)】(6-33 ページ) をご覧ください。

- USB ロックキーをパソコンに接続し、フォーマット、ファイルやフォルダーのコピー、削除、リネームなどを行わないようにしてください。鍵ファイルを削除すると、暗号化されたボリュームにアクセスできなくなりますので、他の USB メモリーと混同しないようご注意ください。

- 「セキュリティロックモード」を解除するには、以下のいずれかの操作を行う必要があります。

方法1 USB ロックキーを USB ポート 1 に接続する
正しい USB ロックキーを接続した場合、本製品は正常動作に戻り、共有フォルダー上に保存されたデータにアクセスできるようになります。

「ロックモード」の解除後、USB ロックキーは取り外してください。

※次回本製品の起動時、または再起動時には再び USB ロックキーが必要です。

方法2 「ボリューム設定」で動作モードの再設定を行う
正しい USB ロックキーがない場合、「ボリューム設定」より内蔵ボリュームの設定を変更すると、セキュリティロックされた暗号化ボリュームをフォーマットし、再び本製品を使用することができるようになります。

ただし、初期化の際、暗号化ボリューム上に作成された共有フォルダー、および共有フォルダー上に保存されたデータはすべて消去されます。

ご注意

- 暗号化に利用するキーは、USB ロックキー内のみ存在します。万一 USB ロックキーが壊れたり、紛失した場合、暗号化されたボリュームにアクセスできなくなります。必ず「マスターキー」と「スペアキー」の複数の USB ロックキーを用意し、万一に備えて「マスターキー」を安全な場所に保管しておいてください。
スペアキーの作り方は以下の手順をご覧ください。
- 弊社製 USB メモリーED シリーズなど、暗号化されている USB メモリーはご利用いただけません。

1 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ロックキー設定]をクリックします。

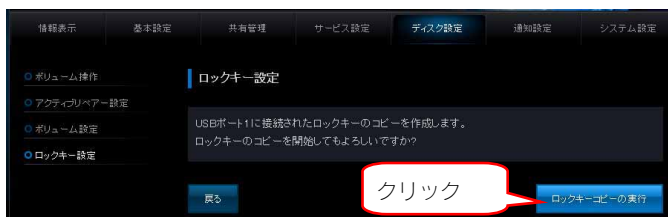


2 USB ポート1にロックキー（マスターキー）を接続します。
[STATUS]ランプが緑点滅します。

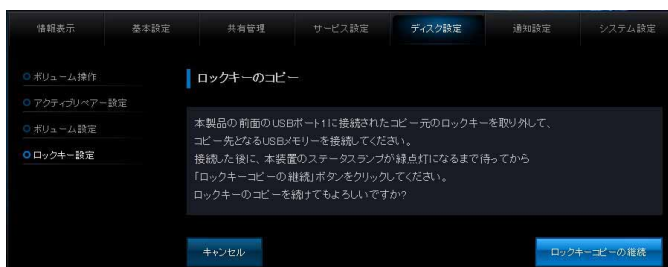
3 [STATUS]ランプが緑点滅から緑点灯に変わったら、「ロックキーのコピー」の[実行]ボタンをクリックします。



4 「ロックキーコピーの実行」をクリックします。



5 「きらきら星」の音楽が鳴り始め、以下の画面が表示されたら、ロックキー（マスターキー）を抜きます。



6 「きらきら星」の音楽が止まったら、スペアキー用の USB メモリーを USB ポート 1 に接続します。

7 [STATUS]ランプが緑点滅から緑点灯に変わったら、「ロックキーコピーの継続」をクリックします。

これで、USB ポート 1 に接続した USB メモリーはスペアキーとして使用できます。

ご注意

- USB ロックキーをパソコンに接続し、フォーマット、ファイルやフォルダーのコピー、削除、リネームなどを行わないようにしてください。鍵ファイルを削除すると、暗号化されたボリュームにアクセスできなくなりますので、他の USB メモリーと混同しないようにご注意ください。

暗号化ボリュームを解除する

ご注意

暗号化ボリュームを一般の RAID ボリュームに戻すと、暗号化ボリュームに保存されていたすべてのデータを消失します。重要なファイルが保存されていないことを確認の上、操作してください。

1 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム設定]をクリックします。



2 [内蔵ボリューム]の動作モードの選択で「暗号化 RAID5」または、「暗号化 RAID6」のいずれかにチェックした後、[変更] ボタンをクリックします。



3 [設定する]ボタンをクリックします。数分後、完了画面が表示されます。

以上で設定は完了です。

ロックキーの削除をする

1 本製品前面の USB ポート 1 に削除したい USB ロックキーを接続します。

2 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ロックキー設定]をクリックします。



3 [STATUS]ランプが緑点滅から緑点灯に変わったら、「ロックキーの削除」の[実行]ボタンをクリックします。



4 [ロックキーの削除を実行]ボタンをクリックします。



USB ロックキーのキー情報を削除しました。キー情報を削除された USB メモリーはフォーマットされ、取り外し処理が実行されますので、[STATUS] ランプが緑点灯になったら、そのまま取り外しできます。

共有フォルダー

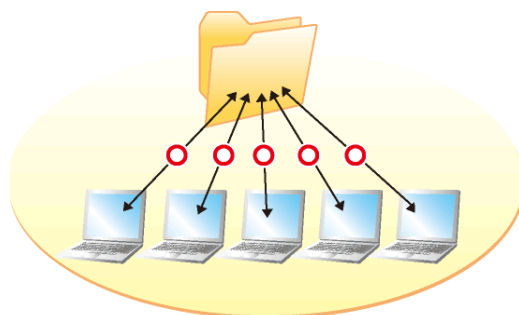
共有フォルダーのアクセス権

本製品の設定画面上で作成できる「共有」（アクセス権限）には以下の種類があります。

全員共有

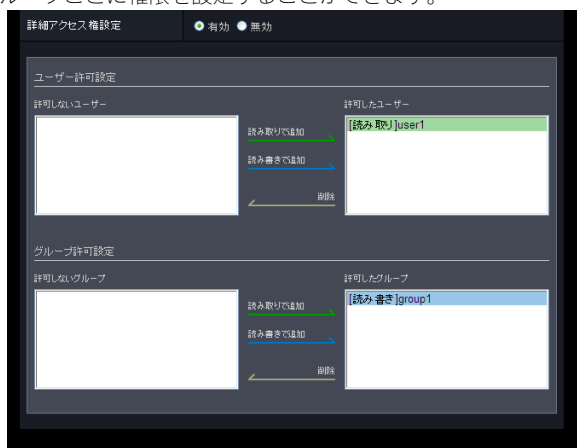
ネットワークに接続されているすべてのパソコンから自由にファイルの読み書きができる共有です。

ネットワークにログオン時のユーザー名やパスワードに関係なく、そのままアクセスできますので、ユーザー管理やグループ管理を行う必要がありません。本製品に初期設定で登録されている「disk1」フォルダーも全員共有のフォルダーになります。



詳細アクセス権設定

各共有フォルダーに対し、ユーザー・グループごとに権限を設定することができます。



<アクセス権限の優先順位について>

アクセス権の設定の優先順位は以下の①②③の順に優先される設定になります。

●Microsoft ネットワーク共有・FTP 共有

- ①共有フォルダーの読み取り専用設定
- ②詳細アクセス権設定の読み書き設定（グループ・ユーザー）
- ③詳細アクセス権設定の読み取り設定（グループ・ユーザー）

●AppleShare ネットワーク共有

- ①共有フォルダーの読み取り専用設定
- ②詳細アクセス権設定の読み取り設定（グループ・ユーザー）
- ③詳細アクセス権設定の読み書き設定（グループ・ユーザー）

AppleShare ネットワーク共有と他の共有サービスを組み合わせて使用する場合に、詳細アクセス権設定でグループ、ユーザーごとに個別にアクセス権を設定するには、以下のいずれかの方法ですべての共有サービスからのアクセス権限を統一できます。

- ・ユーザーとユーザーが属するグループに対して異なるアクセス権を設定しない
- ・詳細アクセス権設定をすべてユーザーで指定する

以下のグループにアクセス権を設定する場合（※user2 が重複していることに注意）

グループ名	所属するユーザー
RWgroup	user1,user2
ROgroup	user2,user3

例 1 グループ全体を読み取り権限に設定するが、グループ内の特定ユーザーのみを読み書き権限とする場合

共有フォルダー share1 （フォルダーの読み取り専用チェックなし、詳細設定有効）

許可したユーザー [読み書き] user1

許可したグループ [読み取り] ROgroup （user1、user2 がグループメンバー）

上記の設定を行った場合、Microsoft ネットワーク共有・FTP 共有では各ユーザーによる共有フォルダーshare1 へのアクセスは以下のようになります。

user1 読み書き

user2 読み取り

※user1 は、ユーザー指定によって読み書き指定、グループ指定によって読み取り指定と、両方の権限が指定されていますが、読み取り指定よりも読み書き指定の方が優先のため、読み書きのアクセスとなります。

※user2 は、グループ指定によって読み取り指定されていますので、読み取りのアクセスとなります。

AppleShare ネットワーク共有では以下のようになります。

user1 読み取り

user2 読み取り

※user1 は、ユーザー指定によって読み書き指定、グループ指定によって読み取り指定と、両方の権限が指定されていますが、読み書き指定よりも読み取り指定の方が優先のため、読み取りのアクセスとなります。

※user2 は、グループ指定によって読み取り指定されていますので、読み取りのアクセスとなります。

例 2 ユーザーおよびユーザーが属するグループに異なるアクセス権を付与した場合

共有フォルダー share1 （フォルダーの読み取り専用チェックなし、詳細設定有効）

許可したユーザー [読み取り] user1

[読み書き] user3

許可したグループ [読み取り] ROgroup （user1、user2 がグループメンバー）

[読み書き] RWgroup （user2、user3 がグループメンバー）

上記の設定を行った場合、Microsoft ネットワーク共有・FTP 共有では各ユーザーによる共有 share1 へのアクセスは以下のようになります。

user1 読み取り

user2 読み書き

user3 読み書き

※user1 は、グループ指定によって読み取り、ユーザー指定によって読み書きと両方の指定がされていることとなりますが、読み取り指定よりも読み書き指定の方が優先のため読み書き可能となります。

※user2 は、グループ指定によって、読み取りと読み書きの両方の指定がされていますが、読み取り指定よりも読み書き指定の方が優先のため読み書き可能となります。

※user3 は、グループ指定によって読み書き、ユーザー指定においても読み書きの両方の指定がされているので読み書き可能となります。

AppleShare ネットワーク共有の場合は以下のようになります。

user1 読み取り

user2 読み取り

user3 読み書き

※user1 は、グループ指定によって読み取り、ユーザー指定によって読み書きと両方の指定がされていることとなりますが、読み書き指定よりも読み取り指定の方が優先のため読み取りのみとなります。

※user2 は、グループ指定によって、読み取りと読み書きの両方の指定がされていますが、読み書き指定よりも読み取り指定の方が優先のため読み取りのみとなります。

※user3 は、グループ指定によって読み書き、ユーザー指定においても読み書きの両方の指定がされているので読み書き可能となります。

例 3 複数グループにまたがるユーザーが存在し、かつ、それぞれのグループに異なるアクセス権を付与した場合

共有フォルダー share1 （フォルダーの読み取り専用チェックなし、詳細設定有効）

許可したグループ [読み取り] ROgroup （user1、user2 がグループメンバー）

[読み書き] RWgroup （user2、user3 がグループメンバー）

Microsoft ネットワーク共有・FTP 共有での各ユーザーによる共有 share1 へのアクセスは以下のようになります。

user1 読み取り

user2 読み書き

user3 読み書き

※user2 は、グループ指定によって、読み取りと読み書きの両方の指定がされていることとなりますが、読み取り指定よりも読み書き指定の方が優先のため読み書き可能となります

AppleShare ネットワーク共有の場合は以下のようになります。

user1 読み取り

user2 読み取り

user3 読み書き

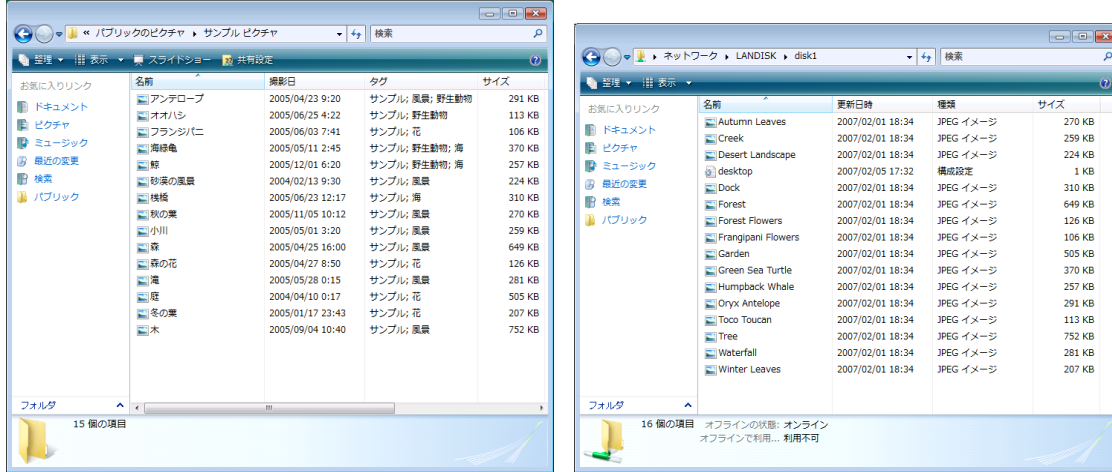
※user2 は、グループ指定によって、読み取りと読み書きの両方の指定がされていることとなりますが、読み書き指定よりも読み取り指定の方が優先のため読み取りのみとなります。

例 4 共有フォルダーの読み取り専用チェックをつけた場合

詳細アクセス権の設定なし、および、詳細アクセス権設定でユーザー、グループに対してどのような設定を実施しても、共有フォルダーの読み取り専用チェックをつけると、許可されたユーザーによるアクセスは読み取りとなります。

ご注意

- Windows 7/Vista の「ファイルのバックアップ」機能について
付属の「ファイルのバックアップ」機能で、バックアップの保存先として本製品の共有フォルダーを指定することはできません。
- Windows 7/Vista 上の表示と共有フォルダー上の表示の違いに関する注意
標準インストールされるサンプルピクチャーフォルダーのファイルは、Windows 7/Vista 上では画面例(左)のように表示されています。画面例左のサンプルピクチャーを共有フォルダー上にコピーすると、画面例(右)のように全く名前が異なって表示されます。



実際のファイル名は、LAN DISK 共有フォルダーで表示されるアルファベット文字のファイル名で正しいようですが、Windows 7/Vista 上のサンプルピクチャーのフォルダーはファイルの表示設定が、実ファイル名表示しない設定がデフォルト設定になっています。このように名前=ファイル名ではないフォルダー表示設定が可能ですので、注意してください。

- 本製品に保存できるファイルやフォルダー名は、OS により制限があります。以下をご確認ください。
【文字制限一覧】 (24-121 ページ)

ネットワーク上での本製品の表示

本製品や本製品に接続した増設ハードディスクへのファイルの読み書き（アクセス）は、ネットワーク上から行います。ネットワーク上から本製品に作成した、または作成されている共有フォルダーを通して、ネットワーク上の複数台のパソコンでファイルを共有することができます。

共有フォルダー名	説明
disk1	本製品出荷時にすでに作成されている内蔵ハードディスクの共有フォルダーです。アクセス権限は詳細アクセス権無効として作成されているため、すべてのユーザーからアクセスできます。
esata1	本製品の [eSATA ポート] に接続した eSATA ハードディスクです。 FAT、NTFS、専用形式の場合は、接続するだけでこの共有フォルダーが表示されます。
usb1,usb2	本製品の[USB ポート 1][USB ポート 2]に接続した USB ハードディスクです。 FAT、NTFS、専用形式の場合は、接続すれば、この共有フォルダーが表示されます。 ※usb1 ボリュームを共有モード（FAT/NTFS/専用）に設定時に、USB ハードディスクを [USB ポート 1] に接続した場合は、[usb1] と表示されます。
プリンタと FAX (プリンタ)	削除することはできません。

ご注意

増設ハードディスクの使い方については、以下をご覧ください。
【ハードディスクやプリンターの増設】 (11-60 ページ)

ごみ箱機能について

ごみ箱機能が有効となっている共有フォルダーからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、いったん[TrashBox]フォルダーに保管されます。ごみ箱機能は、初期設定で無効となっています。

設定は [共有管理] → [共有フォルダ設定] 画面で行います。新しく [ごみ箱機能] を有効/無効にする共有フォルダーを作成したり、すでに作成済みの共有フォルダーに [ごみ箱機能] を有効/無効に設定することもできます。

ご注意

- 新規で [ごみ箱機能] を有効にする共有フォルダーを作成する場合は、以下をご覧ください。
【共有フォルダーを作成する】 (7-39 ページ)
- すでに作成済みの共有フォルダーに [ごみ箱機能] を有効・無効にする場合は、以下をご覧ください。
【共有フォルダーの設定を変更する】 (7-43 ページ)
- [TrashBox]フォルダーからファイルを戻す手順は、以下をご覧ください。
【[TrashBox]フォルダーからファイルを戻す】 (本ページ)
- Windows (Microsoft ネットワーク共有ユーザー) でのみ利用できます。
- [TrashBox]フォルダー内のファイルは自動的には消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに [TrashBox]フォルダー内にファイルがたまり、ディスクの空き領域が減っていくことがあります。定期的に[TrashBox]フォルダー内のファイルを削除されることをおすすめします。
- [TrashBox]フォルダー内のファイルを削除すると、該当ファイルはハードディスクから完全に消去されますのでご注意ください。
- [TrashBox]フォルダーは、ファイルを消去してはじめて表示されます。
- ご利用のアプリケーションによっては、その動作中にファイル作成→削除を繰り返すものがあります。
知らない内に[TrashBox]フォルダーにファイルが大量に存在している場合がありますので、定期的に[TrashBox]フォルダー内を確認することをおすすめします。

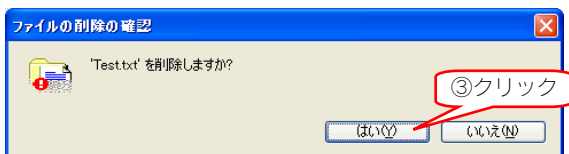
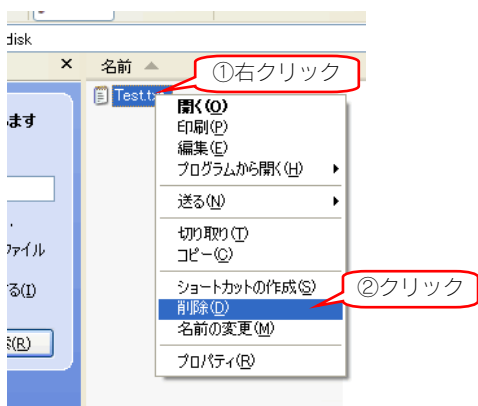
[TrashBox]フォルダーからファイルを戻す

ごみ箱機能を設定した[disk1]フォルダーからファイル (Test.txt) を削除後、[TrashBox]フォルダーから[disk1]フォルダーにファイル (Test.txt) を戻す手順について説明します。

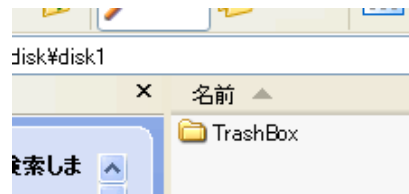
※画面は Windows XP を例にしています。

1 ネットワーク上から本製品の [disk1] 共有フォルダーにアクセスします。

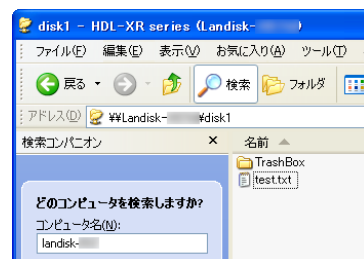
2 ファイルを削除します。



3 [disk1] フォルダーからファイルが削除されると、[TrashBox]フォルダーが作成されます。(表示されていない場合は [F5] キーを押して更新してください。)
[TrashBox]フォルダーをダブルクリックして、ファイルを移動 (またはコピー) します。



4 [TrashBox]フォルダー内の削除したファイルを [disk1] フォルダーに移動 (またはコピー) します。
[disk1] フォルダーにファイルを戻すことができます。



以上で完了です。

ユーザーを登録する

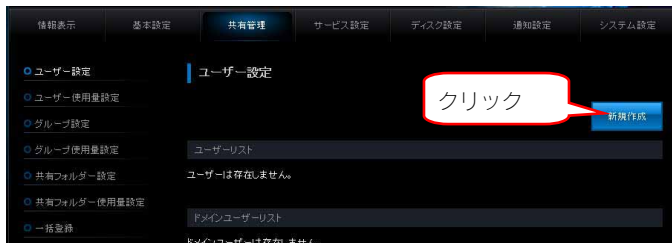
特定のユーザーのみがアクセスできる共有フォルダーを作成する場合は、そのユーザーのネットワークにログオン時の[ユーザー名]と[パスワード]を確認しておく必要があります。(確認した[ユーザー名]と[パスワード]を、後で設定画面に登録します。)

作成する共有フォルダーにアクセスするユーザーのネットワークにログオン時の[ユーザー名]と[パスワード]を確認しメモします。

- 1 [詳細設定]から、[共有管理]→[ユーザー設定]をクリックします。



- 2 [新規作成]ボタンをクリックします。



- 3 はじめにメモした[ユーザー名]、[パスワード]、[パスワード(確認)]を入力し、[確認する]ボタンをクリックします。

ご注意

- ユーザーは本製品に 300 人まで登録することができます。
- [ユーザー名][パスワード]を設定できる文字には、以下の制限があります。

[【文字制限一覧】 \(24-121 ページ\)](#)

ユーザー名	メモしたユーザー名を入力します。
パスワード	メモしたパスワードを入力します。
パスワード (確認)	確認のため再度パスワードを入力します。
フルネーム	追加するユーザーのフルネームなどの情報を入力できます。
コメント	追加するユーザーに関するコメントなどの情報を入力できます。
プライマリグループ	追加するユーザーによる共有フォルダー使用量をプライマリグループに指定したグループの使用量としてもカウントするようになります。プライマリグループを指定して、追加するユーザーは、プライマリグループに指定したグループのメンバーに追加されます。
使用量制限値	使用量制限値には、追加するユーザーが共有フォルダーの上で使用できる容量を、0.1GB (ギガバイト) 単位で、指定することができます。使用量制限機能の詳細は、 【使用量制限】 (8-49 ページ) をご覧ください。

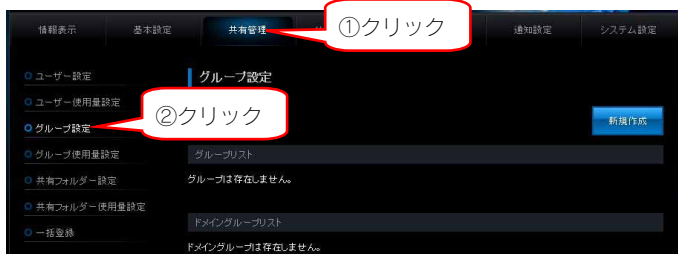
- 4 ユーザー追加結果の画面が表示されます。ユーザーが追加されていることをご確認ください。

これで、ユーザーが本製品に登録されました。

グループを登録する

複数のユーザーに対して同一のアクセス権設定を行う場合は、あらかじめグループを作成し、グループに対するアクセス権を設定することで、グループに属するすべてのユーザーに同一の権限を設定することができます。

1 [詳細設定]から、[共有管理]→[グループ設定]をクリックします。



2 [新規作成]ボタンをクリックします。



3 [グループ名]を入力後、[ユーザー登録設定]でグループに追加するユーザーを追加し、[確認する]ボタンをクリックします。



グループ名	作成するグループ名を入力します。
使用量制限値	使用量制限値には、追加するグループが共有フォルダー上で使用できる容量を、0.1GB(ギガバイト)単位で、指定することができます。使用量制限機能の詳細は、【 使用量制限 】(8-49 ページ)をご覧ください。
ユーザー登録設定	作成するグループに所属するユーザーの登録を行います。

4 グループ追加結果の画面が表示されます。グループが追加されていることをご確認ください。

これで、グループが本製品に登録されました。

ご注意

- グループは本製品に 100 組まで登録することができます。
- 1 グループに登録可能なユーザー数は 300 までとなります。
- グループ名で使用できる文字には、制限があります。以下をご覧ください。

[【文字制限一覧】](#) (24-121 ページ)

共有フォルダーを作成する

1 [詳細設定]から、[共有管理]→[共有フォルダー設定]をクリックします。



2 [新規追加]ボタンをクリックします。



3 作成する共有フォルダーを設定し、[確認する]ボタンをクリックします。詳しくは次ページをご覧ください。



4 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。



これで、共有フォルダーが作成されました。

▼ [新しい共有フォルダーの作成] 画面

項目	設定する内容		
共有フォルダー名	共有フォルダーの名前を入力します。 この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク] や [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。【文字制限一覧】（24-121 ページ）を参照してください。		
コメント	Windows 用です。 ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダーのコメントとして表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。【文字制限一覧】（24-121 ページ）を参照してください。		
基本設定	Microsoft ネットワーク共有	Windows からこのフォルダーにアクセスする場合にチェックします。 NT ドメイン・Active Directory ログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク共有] のみにチェックしてください。	
		ごみ箱	Windows（Microsoft ネットワーク共有ユーザー）でのみ利用できます。 作成する共有フォルダーについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。 ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダーからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、いったん[TrashBox]フォルダーに保管されます。 [TrashBox]フォルダー内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに[TrashBox]フォルダー内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。 定期的に[TrashBox]フォルダー内のファイルを削除されることをおすすめします。
		隠し共有	隠し共有を設定した共有フォルダーは、¥LANDISK名 で検索してもエクスプローラに表示されません。 ¥LANDISK名¥共有フォルダー名 で検索すると表示され、アクセス可能になります。
		共有フォルダー使用量制限	共有フォルダーに対し、容量制限を設定することができます。
	AppleShare ネットワーク共有	Mac OS からこのフォルダーにアクセスする場合にチェックします。	
	FTP 共有	FTP サービスを利用してこのフォルダーにアクセスする場合にチェックします。 アクセス権はフォルダーの設定に依存します。 FTP 機能では FTP サービスを使ってファイルの読み書きが可能です。ファイル名が日本語の場合は、Shift-JIS もしくは UTF-8 の文字コードに対応する FTP クライアントソフトをご利用ください。	
	読み取り専用	共有フォルダーを読み取り専用を設定します。詳細アクセス権で「読み書き」で設定した場合でも、読み取り専用となります。	
ネットワークバックアップを許可する	ネットワークバックアップを許可する場合に設定します。共有フォルダーをレプリケーション先として指定する場合にも設定する必要があります。		
	アクセスパスワード	バックアップ機能やレプリケーション機能で使用する共有フォルダーにパスワードを設定します。	
詳細アクセス権設定	「読み取り」「読み書き」のアクセス権を設定することができます。		

共有フォルダーを変更する

- 1 [詳細設定]から、[共有管理]→[共有フォルダー設定]をクリックし、設定を変更する共有フォルダーの[変更]ボタンをクリックします。



- 2 設定を変更し、[確認する]ボタンをクリックします。詳しくは、以下をご覧ください。
【新しい共有フォルダーの作成】画面】(7-42 ページ)



- 3 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

これで、共有フォルダーの設定が変更されました。

共有フォルダーを削除する

ご注意

- 共有フォルダーを削除すると、共有フォルダー内のデータも同時に削除されます。必要なデータはあらかじめバックアップしてください。
- 削除しようとしている共有フォルダー内のファイルを編集などを使用している場合、削除後、保存先が見つからないなどのエラーとなります。削除前に、削除する共有フォルダーにアクセスしているユーザーがいなかご確認ください。
- バックアップ元またはバックアップ先に設定した共有フォルダーは削除できません。あらかじめ、バックアップジョブを削除後に再度共有フォルダーの削除を行ってください。

- 1 [詳細設定]から、[共有管理]→[共有フォルダー設定]をクリックします。



- 2 削除する共有フォルダーの[削除]ボタンをクリックします。



- 3 削除する共有フォルダーを確認後、[削除する]ボタンをクリックします。

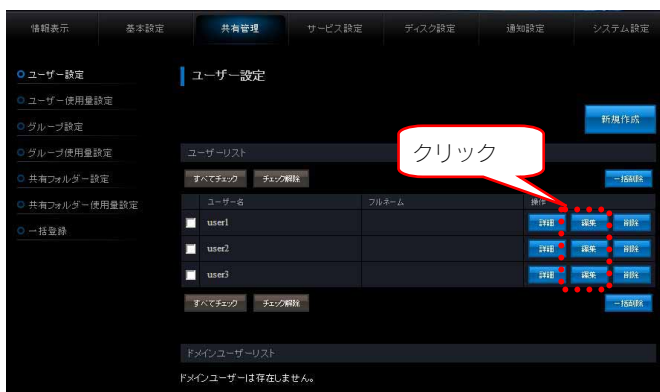
結果画面が表示されたら、共有フォルダーの削除は完了です。

ユーザーを変更する

1 [詳細設定]から、[共有管理]→[ユーザー設定]をクリックします。



2 編集したいユーザーの[編集]ボタンをクリックします。



3 設定を変更し、[確認する]ボタンをクリックします。



4 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

これで、ユーザーの設定が変更されました。

ユーザーを削除する

1 [詳細設定]から、[共有管理]→[ユーザー設定]をクリックします。



2 削除したいユーザーの[削除]ボタンをクリックします。



3 削除するユーザーを確認後、[OK] ボタンをクリックします。

結果画面が表示されたら、ユーザーの削除は完了です。

グループを変更する

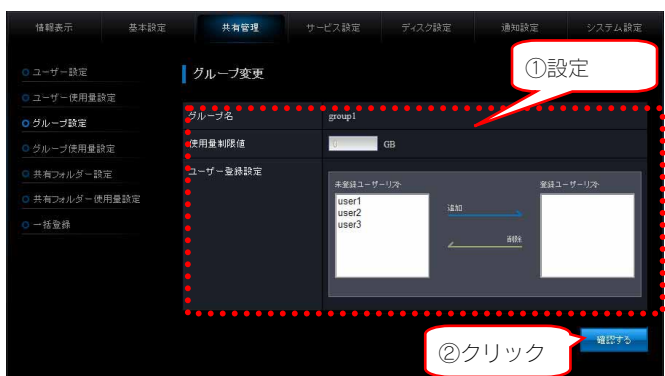
1 [詳細設定]から、[共有管理]→[グループ設定]をクリックします。



2 編集したいグループの[編集]ボタンをクリックします。



3 設定を変更し、[確認する]ボタンをクリックします。

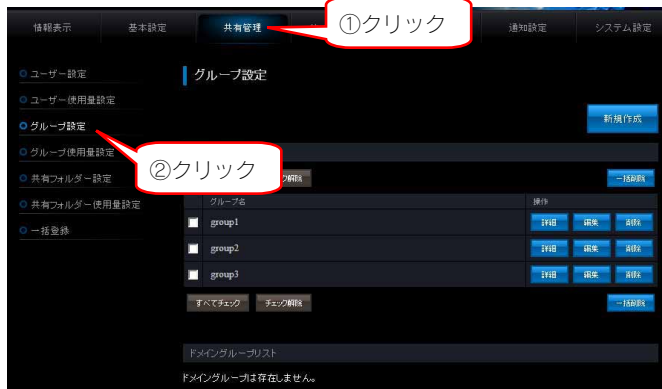


4 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

これで、グループの設定が変更されました。

グループを削除する

1 [詳細設定]から、[共有管理]→[グループ設定]をクリックします。



2 削除したいグループの[削除]ボタンをクリックします。



3 削除するグループを確認後、[OK] ボタンをクリックします。

結果画面が表示されたら、グループの削除は完了です。

管理者が共有フォルダーへアクセスする

ネットワークにログオンする際に、ユーザー名 (admin)、本製品の管理者パスワード (出荷時は未設定) のユーザーでログオンすれば、すべての共有フォルダーにアクセスできます。(Windows のみ)

※管理者は、管理者以外の他のユーザー専用・グループ専用として作成した共有フォルダーにもアクセスできます。

ご注意

- 管理者以外の場合も、本製品の管理者パスワードが分かれば、すべての共有フォルダーにアクセスできるようになりますので、必ず、管理者パスワードを変更してください。【[管理者パスワードを変更する](#)】 (20-101 ページ)
- このアクセスを行う場合は本製品をワークグループモードでご利用ください。ドメインモードではすべてのユーザーにアクセスを許可した共有フォルダー以外は、アクセスできません。

1

設定画面を開く際のパスワードを設定します。
以下をご覧ください。
【[管理者パスワードを変更する](#)】 (20-101 ページ)
※すでに設定済みの場合は設定の必要はありません。

2

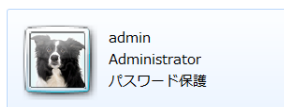
Windows XP/2000 の場合は、Windows XP/2000 に以下の [ユーザー名] [パスワード] のログオンユーザーを作成します。
ユーザー名 : admin
パスワード : 手順 1 で設定したパスワード

Windows 7

[スタート] → [コントロールパネル] → [ユーザーアカウントと家族のための安全設定] → [ユーザーアカウントの追加または削除] で上記ユーザーアカウントを作成します。



ユーザー アカウントと家族のための安全設定
ユーザー アカウントの追加または削除
保護者による制限の設定



Windows Vista

[スタート] → [コントロールパネル] → [ユーザーアカウントと家族のための安全設定] → [ユーザーアカウントの追加または削除] で上記ユーザーアカウントを作成します。



ユーザー アカウントと家族のための安全設定
任意のユーザーへの保護者による制限のセットアップ
ユーザー アカウントの追加または削除



Windows XP

[スタート] → [コントロールパネル] → [ユーザーアカウント] で上記ユーザーアカウントを作成します。

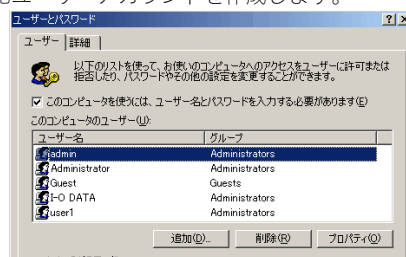


Windows 2000

[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [ユーザーとパスワード] で上記ユーザーアカウントを作成します。



ユーザーとパスワード



3

以下の admin ユーザーでネットワークにログオンします。
ユーザー名 : admin
パスワード : 手順 1 で設定したパスワード

4

共有フォルダーにアクセスします。
アクセス方法は、次をご覧ください。
【[本製品にアクセスする](#)】 (3-16 ページ)

以上で、管理者からの共有フォルダーへのアクセスは終了です。

一括登録をする

ユーザー・グループ・共有フォルダーのリスト (CSV ファイル) を作成し、本製品に読み込ませると、一括登録をすることができます。

CSV ファイルを準備する

CSV ファイルは、各要素をカンマ(,)で区切る書式となります。

ご注意

- CSV ファイルは Shift-JIS 文字コードで保存してください。その他の文字コードでは正常に処理できません。

●ユーザーの一括追加の書式

adduser,ユーザー名,パスワード,制限設定値,プライマリーグループ,フルネーム,コメント

記述例: "adduser","user001","user001","10","group1","ユーザー001","コメント"

▼各項目の詳細

adduser	ユーザーの追加を意味します。
ユーザー名	追加するユーザー名
パスワード	追加するユーザーのパスワード
制限設定値	追加するユーザーの使用量制限設定値。使用量制限を行わない場合は、"0"を記述。
プライマリーグループ	追加するユーザーのプライマリーグループ
フルネーム	追加するユーザーのフルネーム情報
コメント	追加するユーザーのコメント情報

●グループの一括追加の書式

addgroup,グループ名,制限設定値,グループメンバー

記述例: "addgroup","group1","10","user001,user002"

▼各項目の詳細

addgroup	グループの追加を意味します。
グループ名	追加するグループ名
制限設定値	追加するグループの使用量制限設定値。使用量制限を行わない場合は、"0"を記述。
グループメンバー	追加するグループに属するユーザー名。 複数指定時は、,(カンマ)区切りで記述し、グループメンバー全体を" (ダブルコーテーション) で囲む必要があります。

●共有フォルダーの一括追加の書式

addshare,共有名,コメント,RO ユーザー,RO グループ,RW ユーザー,RW グループ,読取専用,バックアップ有効,パスワード,WIN,ごみ箱,隠し,制限設定値,MAC,FTP

記述例: "addshare","AllShare","全員","","","","","","0","0","","1","0","0","","1","0","0","","1","1"

▼各項目の詳細

addshare	共有フォルダーの追加を意味します。
共有名	追加する共有フォルダー名
コメント	追加する共有フォルダーへのコメント
RO ユーザー	追加する共有フォルダー詳細アクセス権で読み取り権限で追加するユーザー名。 複数指定時は、,(カンマ)区切りで記述し、読み取り権限のユーザー全体を" (ダブルコーテーション) で囲む必要があります。
RO グループ	追加する共有フォルダー詳細アクセス権で読み取り権限で追加するグループ名。 複数指定時は、,(カンマ)区切りで記述し、読み取り権限のグループ全体を" (ダブルコーテーション) で囲む必要があります。
RW ユーザー	追加する共有フォルダー詳細アクセス権で読み書き権限で追加するユーザー名。 複数指定時は、,(カンマ)区切りで記述し、読み書き権限のユーザー全体を" (ダブルコーテーション) で囲む必要があります。
RW グループ	追加する共有フォルダー詳細アクセス権で読み書き権限で追加するグループ名。 複数指定時は、,(カンマ)区切りで記述し、読み書き権限のグループ全体を" (ダブルコーテーション) で囲む必要があります。
読取専用	追加する共有フォルダーの読み取り専用オプションを有効にする場合は"1"を記述。
バックアップ有効	追加する共有フォルダーのネットワークバックアップオプションを有効にする場合は"1"を記述。
パスワード	追加する共有フォルダーのネットワークバックアップ用アクセスパスワード
WIN	追加する共有フォルダーの Microsoft ネットワーク共有を有効にする場合は、"1"を記述。
ごみ箱	追加する共有フォルダーのごみ箱機能を有効にする場合は、"1"を記述。
隠し	追加する共有フォルダーの隠し共有機能を有効にする場合は、"1"を記述。
制限設定値	追加する共有フォルダーの使用量制限設定値を設定します。 フォルダー使用量制限機能を無効の場合は、""を記述。 フォルダー使用量制限を有効で、制限を行わない場合は、"0"を記述 フォルダー使用量制限を有効に設定する場合は、MAC,FTP を"1"に設定することはできません。
MAC	追加する共有フォルダーの AppleShare ネットワーク共有を有効にする場合は、"1"を記述。
FTP	追加する共有フォルダーの FTP 共有を有効にする場合は"1"を記述。

※詳細アクセス権を設定しない共有フォルダーを作成するには、RO ユーザー、RO グループ、RW ユーザー、RW グループすべてを""で指定します。

●CSV ファイルの記述例

次の設定を行う場合は、以下のような CSV ファイルになります。

▼一括設定内容

ユーザー追加	User1 を追加	Group1 をプライマリーグループに設定
	User2 を追加	Group1 をプライマリーグループに設定
	User3 を追加	特記事項なし
グループ追加	Group1 を追加	グループのメンバーとして User1,User2 を設定
	Group2 を追加	グループのメンバーとして User3 を設定
共有フォルダー追加	AllShare を追加	<ul style="list-style-type: none"> すべてのユーザーがアクセス可能な共有を作成 UrwGro を追加 User1,User3 に読み書き権限、Group1 に読み取り権限を設定した共有を作成

▼上記一括設定内容の CSV ファイル

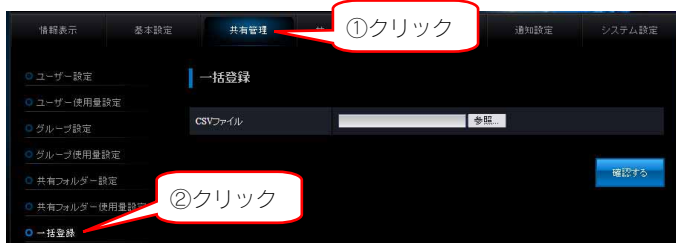
```
"adduser","User1","password1","","","Group1","コメント"
"adduser","User2","password2","","","Group1","コメント"
"adduser","User3","password3","","",""

"addgroup","Group1","","","User1,User2"
"addgroup","Group2","","","User3"

"addshare","AllShare","全員","","","","","0","0","","1","0","0","","1","1"
"addshare","UrwGro","混在","","","Group1","User1,User3","","0","0","","1","0","0","","1","1"
```

一括登録をする

1 [詳細設定]から、[共有管理]→[一括登録]をクリックします。



2 [参照]ボタンをクリックして、CSV ファイルを選択し、[確認する]ボタンをクリックします。



3 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

結果画面が表示されたら、一括追加は完了です。
 詳細な結果は「詳細設定」から、[情報表示]→[ログ情報]を確認してください。

使用量制限

使用量制限について（クォータ機能）

本製品に作成した共有フォルダーを使用するユーザー、グループ、共有フォルダーごとに使用量の制限を設定することができます。使用量制限を設定することで、特定のユーザー、グループ、共有フォルダーが容量を使いすぎることを制限することができます。また、〔通知設定〕→〔イベント通知設定〕→〔使用量制限警告〕を設定すると、特定のユーザー、グループ、共有フォルダーの使用率が設定した値を超えるとメールにて通知することができます。

＜使用量制限により計算される使用量について＞

本製品に作成した共有フォルダーの設定により、コピーされたファイルの使用量は以下のように加算されます。

- ①共有フォルダー使用量制限が有効な共有フォルダーの場合
どのユーザーがファイルを保存しても、共有フォルダー使用量として加算します。
ユーザー使用量、およびグループ使用量には加算されません。
- ②共有フォルダー使用量制限が無効、詳細アクセス権設定が無効な共有フォルダーの場合
どのユーザーがファイルを保存してもユーザー"ゲスト"の使用量として加算します。
- ③共有フォルダー使用量制限が無効、詳細アクセス権設定が有効な共有フォルダーの場合
ファイルを保存したユーザーの使用量、およびファイルを保存したユーザーに設定したプライマリーグループの使用量として加算します。
ユーザーが複数のグループに所属している場合は、そのユーザーの使用量とそのユーザーのプライマリーグループに指定したグループの使用量が加算されます。
プライマリーグループが未設定のユーザーによる書き込みは、どのグループの使用量にも加算されません。
ユーザー"admin"による共有フォルダーへの書き込みは使用量制限は設定できません。

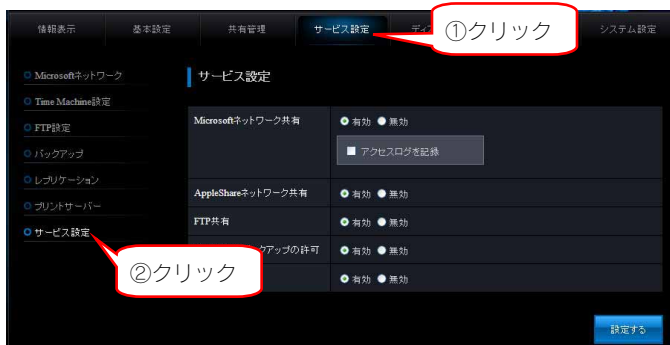
ご注意

- 「サービス設定」の使用量制限の有効/無効に設定により、ユーザー使用量設定、グループ使用量設定、および、共有フォルダー使用量設定が同時に有効/無効となります。
- 各 OS やアプリケーションによって、それぞれのデータ容量の計算方法の違いにより、「制限設定値」に設定した値に近い容量を使用した際、設定したデータ容量に満たない場合にもファイルの書き込みが出来なくなる場合があります。
- 「使用量制限」を「有効」に設定する際や「制限設定値」を設定する際、登録されているユーザー数・グループ数・ファイル数により、設定に時間がかかる場合があります。
- ユーザー使用量設定、グループ使用量設定、および、共有フォルダ使用量設定は、共有フォルダ「usb1」「usb2」および「esata1」共有に対しては無効です。
- フォルダー使用量制限を設定した共有フォルダーは、詳細アクセス権の設定を行っても、共有フォルダーにアクセスしたユーザーの使用量、およびプライマリーグループの使用量は加算されません。
- フォルダー使用量制限を設定した共有フォルダーは、Microsoft ネットワーク共有サービスからのみアクセス可能です。AppleShare ファイル共有サービス、および FTP ファイル共有サービスからはアクセスできません。

使用量制限を有効にする

使用量制限を設定するには、「使用量制限」を有効にする必要があります。

1 [詳細設定]から、[サービス設定]→[サービス設定]をクリックします。



2 使用量制限の[有効]を選択し、[設定する]ボタンをクリックします。



3 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。
→数秒後、完了画面が表示されます。

ユーザーごとに使用量制限を設定する

- 1 [詳細設定]から、[共有管理]→[ユーザー使用量設定]をクリックします。



- 2 各ユーザーの使用量制限値の欄に数値を入力し、[確認する]ボタンをクリックします。
※[一括入力]ボタンをクリックすると、すべてのユーザーに同じ設定値を一括で入力することができます。

ご注意

- 制限設定値は半角数値のみ小数点1位まで設定できます。
- 制限設定値に「0」を設定した場合、そのユーザーは使用量制限が、無制限設定になります。

- 3 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。
→数秒後、完了画面が表示されます。

グループごとに使用量制限を設定する

- 1 [詳細設定]から、[共有管理]→[グループ使用量設定]をクリックします。



ご注意

- 制限設定値は半角数値のみ小数点1位まで設定できます。
- 制限設定値に「0」を設定した場合、そのグループは使用量制限が、無制限設定になります。
- グループ使用量は、使用量制限を指定したグループを、プライマリグループに設定しているユーザーの書き込みのみ、使用量として加算します。
グループ使用量機能を利用するには、あらかじめ使用量制限を設定するグループに所属するユーザーのプライマリグループを、そのグループに設定しておく必要があります。

- 3 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。
→数秒後、完了画面が表示されます。

- 2 各グループの使用量制限値の欄に数値を入力し、[確認する]ボタンをクリックします。
※[一括入力]ボタンをクリックすると、すべてのグループに同じ設定値を一括で入力することができます。

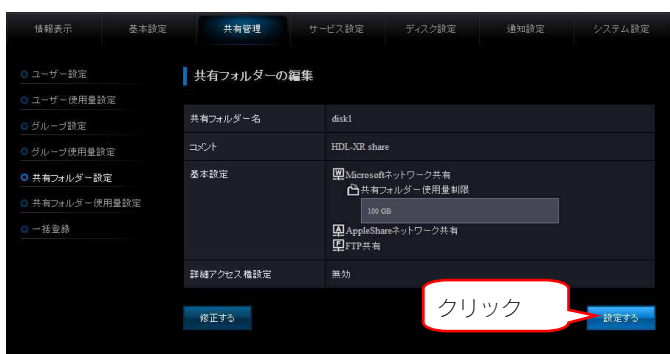
- 1 [詳細設定]から、[共有管理]→[共有フォルダー設定]をクリックし、設定する共有フォルダーの[変更]ボタンをクリックします。



- 2 共有フォルダー使用量制限にチェックをつけ、制限設定値を設定し、[確認する]ボタンをクリックします。
制限設定値は半角数値のみ、小数点 1 位まで設定できます。



- 3 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。
→数秒後、完了画面が表示されます。



以上で設定は完了です。

ご注意

- 共有フォルダー使用量制限を有効に設定した場合、これまで共有フォルダー上に保存されていたファイルの使用量は、ユーザー使用量、グループ使用量から差し引かれ、共有フォルダー使用量として加算されます。
- フォルダー使用量制限を設定した共有フォルダーは、Microsoft ネットワーク共有サービスからのみアクセス可能です。AppleShare ファイル共有サービス、および FTP ファイル共有サービスからはアクセスできません。

共有フォルダーごとに使用量制限を設定する

- 1 [詳細設定]から、[共有管理]→[共有フォルダー使用量設定]をクリックします。



- 2 各共有フォルダーの使用量制限値の欄に数値を入力し、[確認する]ボタンをクリックします。
※[一括入力]ボタンをクリックすると、すべての共有フォルダーに同じ設定値を一括で入力することができます。



ご注意

- 制限設定値は半角数値のみ小数点1位まで設定できます。
- 制限設定値に「0」を設定した場合、その共有フォルダーは使用量制限が、無制限設定になります。

- 3 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。
→数秒後、完了画面が表示されます。



以上で設定は完了です。

ハードディスクをチェックする

ハードディスクのチェック方法

ハードディスクのチェックを定期的に行うことで、ディスクのエラー発生を早期に発見し、対処することができます。チェックには、アクティブリペアーでのチェック、チェックディスクでのチェックの2つの方法があります。

アクティブリペアーを行う場合

[アクティブリペアー]では、内蔵ハードディスクまたはミラーリングしているディスク（内蔵ハードディスク+eSATAハードディスク）の一部に不良セクターが発見された場合、他の正常なディスクからデータを読み込んで、異常のあるディスクに書き込むことにより、ディスク不良によるデータ損失を未然に防止する機能です。[アクティブリペアー]でのチェックには、以下の特徴があります。

- ・内蔵あるいはミラーリングしているディスクに何らかのリードエラーが発生している場合、検出あるいは修復を行うことができます。
- ・アクティブリペアー中、設定画面その他の動作が遅くなる場合があります。
- ・アクティブリペアー実行中は、外部からの操作等を行っていない状態でも、対象ドライブのアクセスランプがアクセス中の青点滅状態になります。
- ・アクティブリペアー結果をメール送信できます。
- ・アクティブリペアーは、バックグラウンドで処理を行うため、アクティブリペアー中に本製品の他の操作を行うことができます。ただし、アクティブリペアー中に[電源]ボタンで本製品の電源を切った場合、処理が中断されます。
- ・アクティブリペアー実行中にスケジュールシャットダウン時刻になってもアクティブリペアーが完了するまでスケジュールシャットダウンが開始されません。
- ・アクティブリペアー実行中に、スケジュールバックアップ開始時刻になった場合、スケジュールバックアップは開始されますが、アクティブリペアーとバックアップの所要時間が長くなります。アクティブリペアー時間とスケジュールバックアップが同時実行されないように設定することをおすすめします。
- ・アクティブリペアーには、RAID6 構成のHDL-XR2.0の場合、ネットワークからのアクセスおよびバックアップの処理がない状態で約10時間20分かかります。※あくまで目安の時間です。
- ・スケジュールを設定して指定した時間にアクティブリペアーを実行することができます。
- ・本製品は、アクティブリペアーのスケジュール実行を有効に設定しており、毎月最初の土曜日の午前0時00分よりアクティブリペアーが自動的に開始されます。
- ・アクティブリペアーのスケジュール実行時刻に本製品の電源がOFFの場合、アクティブリペアーのスケジュール実行は行われませんので、スケジュール実行時刻には本製品を起動しておいてください。

ご注意

- [アクティブリペアー]はRAID 5、RAID 6、RAID 5+スペアー、RAID 1+スペアー、暗号化RAID 5、暗号化RAID 6のいずれかのモードでRAIDの状態が正常な以下のハードディスクのみチェック可能です。（RAID 0モードのハードディスクの不良セクタの修復は行えません。）
 - ・内蔵ハードディスク
 - ・ミラーリングしているディスク（内蔵ハードディスク+eSATAハードディスク）
- RAID崩壊モードの場合、アクティブリペアーは実行できません。

チェックディスクを行う場合

[チェックディスク]でのチェックには、以下の特徴があります。

- ・チェックディスクは、ボリュームを構成しているファイルシステムに論理的な障害が発生していないか検査し、修復を行います。
- ・チェックディスク中に電源を切らないでください。完了するまでお待ちください。
- ・チェックディスク中は、本製品の他の操作を行うことができません。
- ・購入初期の正常なHDL-XR2.0の場合は約1分で完了します。非常に時間が掛かる場合があります。
- ・専用フォーマットの増設ハードディスクのチェックディスクは、フォーマット直後でも5分以上かかります。容量や転送速度、ご使用の状態により、非常に時間が掛かる場合があります。

ご注意

[チェックディスク]は以下のボリュームに対して実行できます。

- ・内蔵ボリューム
- ・eSATAボリューム（専用フォーマットのeSATAハードディスク接続時）
- ・USBボリューム1（専用フォーマットのUSBハードディスク接続時）
- ・USBボリューム2（専用フォーマットのUSBハードディスク接続時）

FAT形式やNTFS形式の増設ハードディスクをチェックするときは、パソコンに増設ハードディスクを接続してチェックディスクを行ってください。方法は、各OSのヘルプ等をご確認ください。

アクティブリペアーでチェックする

- 1 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[アクティブリペアー設定]をクリックします。



- 2 [今すぐアクティブリペアーを実行する]ボタンをクリックします。



ご注意

- アクティブリペアー中にも本製品の他の操作を行うことができます。アクティブリペアーは、バックグラウンドで処理を行うため、アクティブリペアー中に本製品の他の操作を行うことができますが、設定画面その他の動作が遅くなる場合があります。また、アクティブリペアー中に[電源]ボタンで本製品の電源を切った場合、処理が中断されます。
- アクティブリペアーには、RAID6 構成の HDL-XR2.0 の場合、ネットワークからのアクセスおよびバックアップの処理がない状態で約 10 時間 20 分かかります。
※あくまで目安の時間です。

- 3 内容を確認し、[実行する] ボタンをクリックします。

これで、アクティブリペアーが実行されました。結果はログ情報やメール通知されますので、参照してください。メール通知を行うには、[通知設定]→[メール基本設定]および[通知設定]→[イベント通知設定]のディスクエラー警告のメール通知を有効に設定する必要があります。設定方法については、[【通知機能】\(19-96 ページ\)](#)をご覧ください。

チェックディスクでチェックする

- 1 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム操作]をクリックします。



- 2 [チェックディスク]を選択し、[実行]ボタンをクリックします。
→ファイルシステムの論理的なチェックと自動修復を行います。



ご注意

- チェックディスクを中断することはできません。チェックディスク中に電源を切るなどして中断しないでください。システムが破損する恐れがあります。
- FAT/NTFS でフォーマットされているハードディスクは選択できません。（直接パソコンに接続し、Windows 上でエラーチェックを行ってください。）

- 3 内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

ご注意

- 購入初期の正常な HDL-XR2.0 の場合は約 1 分で完了します。ご使用の状況によりチェックディスクの所要時間は大きく変化します。

以上でハードディスクのチェックは終了です。

Active Directory・NT ドメインログオン

Active Directory ログオンとは

Active Directory が構築された Windows ネットワークに LAN DISK が参加できる機能です。

Active Directory 管理のユーザー情報、グループ情報を利用して LAN DISK 上の共有フォルダーにアクセス権限の設定が行えます。

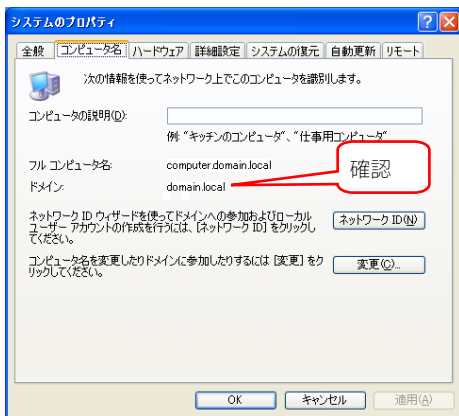
LAN DISK へユーザー登録を行わずにすむので、ユーザー情報が一元管理できるほか、Active Directory 管理下のユーザーが一度認証すれば同じ Active Directory 内の機器へ認証無しにアクセスできる一元認証機能が利用可能になります。

ご注意

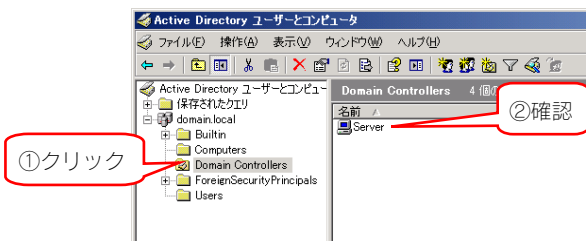
- NT ドメイン・Active Directory ログオン機能は、ドメインユーザー数 1000 人、およびグループ数 1000 グループの環境で動作確認を行っております。それ以上の規模のドメインでは、本製品の応答が著しく遅くなる場合があります。
- Mac OS の場合は、利用できません。
- Windows Server 2008 の場合は、NT ドメインは利用できません。
- アクセス権を設定した共有フォルダーにおいて、登録したユーザー、グループ、ドメインユーザー、ドメイングループは、ワークグループ、NT ドメイン、Active Directory への参加方法を切り替えることで、利用できなくなることがあります。
ワークグループモードからドメインモード(NT ドメイン、Active Directory)へ切り替えると、アクセス権を設定した共有フォルダーにおいて、本製品に登録したユーザー、グループでは利用できなくなります。また、ドメインモードからワークグループモードへ切り替えると、ドメインユーザー、ドメイングループでは利用できなくなります。
そのため、各参加方法の切り替えを行う際は、あらかじめ共有フォルダーのアクセス権を無効(全てのユーザーでアクセスできるよう)にしておくか、切り替え前にデータのバックアップを行うようにしてください。

1 ドメインコントローラーとなっているパソコンの時刻を確認してください。
ドメインコントローラーの時刻と本製品の日付と時刻の設定が、5分以上離れていると、ログオンに失敗します。
※本製品の時刻を設定する場合は、[基本設定]→[日付と時刻の設定]で設定してください。

2 参加するドメインコントローラーの「ドメイン名(フルDNS名)」、「ドメイン名(NetBIOS名)」を確認します。
「ドメイン名(フルDNS名)」、「ドメイン名(NetBIOS名)」はすでに Active Directory に参加しているパソコンから確認できます。(以下は Windows XP の例)
①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]を開きます。
②[コンピュータ名]タブをクリックします。
③[ドメイン]に表示されている文字列を確認します。
この文字列が「ドメイン名(フルDNS名)」になります。ここで「ドメイン名(フルDNS名)」が[domain.local]の場合は「ドメイン名(NetBIOS名)」は「DOMAIN」となります。



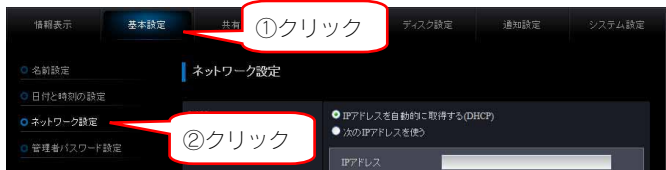
3 参加するドメインコントローラーの「ドメインコントローラーの名前」を確認します。
「ドメインコントローラー」の名前は、ドメインコントローラーから確認します。
(以下は Windows 2003 Server の例)
①[スタート]→[管理ツール]→[Active Directory ユーザーとコンピュータ]を開きます。
②左のツリー表示より、[Domain Controller]をクリックし、右側に表示されるものが「ドメインコントローラーの名前」になります。



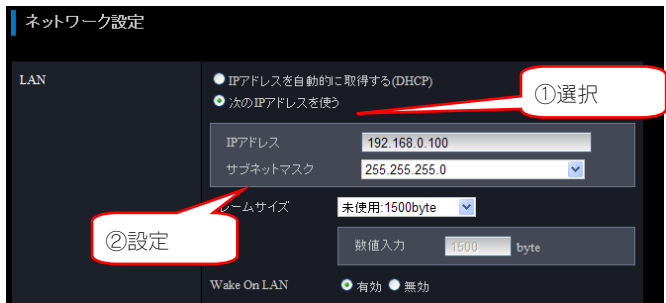
4 Administrator パスワードを変更します。
※Active Directory の仕様により、Administrator パスワードが1度も変更されていない場合、ログオンは失敗します。

5 本製品の LAN ポートに Active Directory の構成されたネットワークへの LAN ケーブルを接続してください。

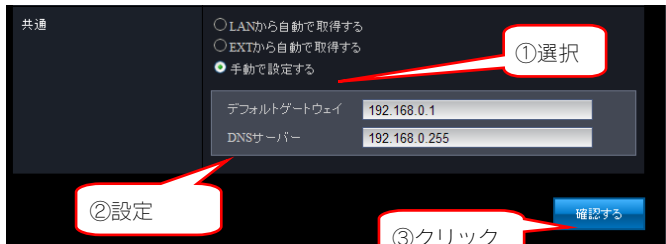
6 Web ブラウザーから設定画面を開き、[詳細設定]から、[基本設定]→[ネットワーク設定]をクリックします。[詳細設定]から、[基本設定]→[ネットワーク設定]をクリックします。



7 [LAN]の設定項目で、画面にしたがった IP アドレスおよびサブネットマスクを設定します。IP アドレスおよびサブネットマスクには、ドメインコントローラーにアクセス可能な適切な値を設定してください。



8 ①[共通]の設定項目で、[手動で設定する]を選択します。
②デフォルトゲートウェイには、ドメインコントローラーにアクセス可能な適切な値を設定してください。
「DNS サーバー」には、ドメインコントローラーの IP アドレスを入力します。Active Directory の名前解決が行える DNS サーバーがドメインコントローラーと別のサーバーにて構築されている場合は、その DNS サーバーの IP アドレスを入力します。
③ [確認する] ボタンをクリックします。



9 設定内容を確認し、「設定する」ボタンをクリックします。

10 [詳細設定]から、[サービス設定]→[Microsoft ネットワーク]をクリックします。

11 参加方法の設定で、[ActiveDirectory]を選択し、各項目を入力します。

- ①[ドメイン名(NetBIOS 名)]を入力します。
手順2でメモした[ドメイン名(NetBIOS 名)] を入力します。
- ②[ドメイン名(フルDNS 名)] を入力します。
手順2でメモした[ドメイン名(フルDNS 名)]を入力します。
- ③[ドメインコントローラーの名前] を入力します。
手順3でメモした[ドメインコントローラーの名前]を入力します。
- ④[管理者ユーザー名]に Active Directory の Administrator 権限を持ったユーザー名を入力します。
- ⑤[管理者パスワード]に[管理者ユーザー名]で指定したユーザーのパスワードを入力します。
- ⑥WINS サーバーがネットワーク内にある場合は、その WINS サーバーの IP アドレスを[WINS サーバーアドレス]に入力します。
- ⑦[確認する]ボタンをクリックします。



12 内容を確認し、[設定する]ボタンを押します。
しばらくすると、結果画面が表示されます。

以上で設定は完了です。

ご注意

- ドメインコントローラーへの名前解決が行える DNS サーバーがドメインコントローラーと別のサーバーにて構築されている場合は、その DNS サーバーアドレスを入力します。
- ワークグループ、NT ドメイン、Active Directory の参加方法を切り替えるとそれまで使用していたアクセス権が設定されている共有（ユーザー共有、グループ共有）が利用できなくなります。あらかじめデータをバックアップした後に各参加方法へ切り替えるか、共有のアクセス権を「全てのユーザー」に変更してください。全てのユーザーがアクセスできるよう設定されていた共有フォルダーは Active Directory ログオン後もそのままご利用いただけます。
- Active Directory の仕様により、Administrator パスワードが 1 度も変更されていない場合、ログオンは失敗します。Administrator パスワードを変更してから設定を行ってください。
- ドメインコントローラーの時刻設定と LAN DISK の時刻設定が 5 分以上離れているとログオンは失敗します。両者の時刻設定を合わせてから設定を行ってください。

NT ドメインにログオンする

ここでは、本製品で NT ドメインログオン機能を使用する手順について説明します。

NT ドメインログオン機能を利用する場合は、前もってサーバー（ドメインコントローラー）へ本製品の登録が必要です。

ここでは、Windows Server 2003 の例を示します。

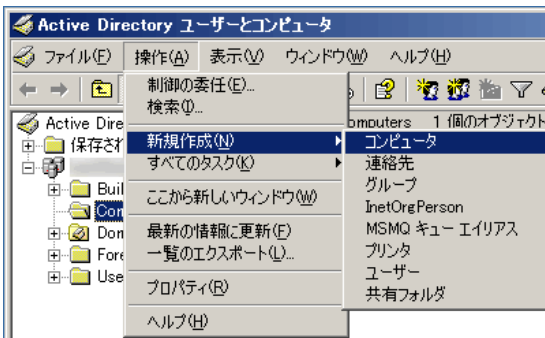
Windows Server 2003 に本製品を登録後、本製品のドメインを設定します。

1 サーバー（ドメインコントローラー）の画面より、[スタート]→[プログラム]→[管理ツール]→ [Active Directory ユーザーとコンピュータ]をクリックします。

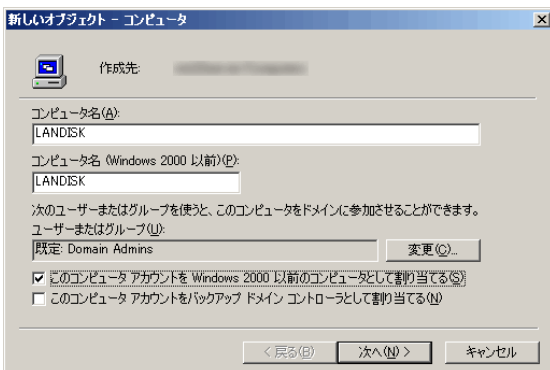
2 表示された画面で[Computers]をクリックします。



3 [操作]→[新規作成]→[コンピュータ]をクリックします。



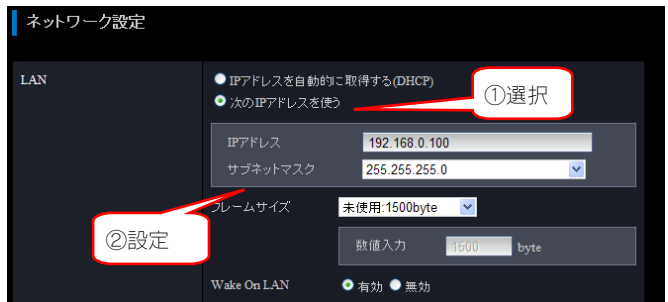
4 サーバーに本製品を登録します。
 ① [コンピュータ名] に本製品の名前を入力します。
 ② [このコンピュータアカウントを Windows 2000 以前のコンピュータとして割り当てる]にチェックを付けます。
 ③ [次へ]ボタンをクリックします。



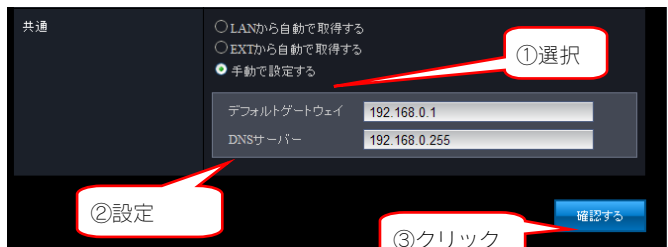
5 [詳細設定]から、[基本設定]→[ネットワーク設定]をクリックします。



6 [LAN]の設定項目で、画面にしたがい IP アドレスおよびサブネットマスクを設定します。IP アドレスおよびサブネットマスクには、ドメインコントローラーにアクセス可能な適切な値を設定してください。



7 ①[共通]の設定項目で、[手動で設定する]を選択します。
 ②[デフォルトゲートウェイ]には、ドメインコントローラーにアクセス可能な適切な値を設定してください。
 [DNS サーバー]には、ドメインコントローラーの IP アドレスを入力します。ドメインコントローラーへの名前解決が行える DNS サーバーがドメインコントローラーと別のサーバーにて構築されている場合は、その DNS サーバーの IP アドレスを入力します。
 ③ [確認する] ボタンをクリックします。



8 設定内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

9 [詳細設定]から、[サービス設定]→[Microsoft ネットワーク]をクリックします。

10

参加方法の設定で、「NT ドメイン」を選択し、各項目を入力します。

- ①[NT ドメイン]を選択します。
- ②[ドメイン名]を入力します。
- ③[ドメインコントローラーの名前]を入力します。
- ④WINS サーバーがネットワーク内にある場合は、その WINS サーバーの IP アドレスを[WINS サーバーアドレス]に入力します。
- ⑤[確認する]ボタンをクリックします。



ご注意

- ドメインユーザー名、ドメイングループ名に本製品で使用できない文字が含まれている場合は、そのドメインユーザー/ドメイングループは、共有の作成時表示されません。詳しくは、【文字制限一覧】（24-121 ページ）をご確認ください。
- 画面の注意文をご理解の上、設定してください。
- NT ドメイン機能をご使用になる場合は、Active Directory は「混在モード」の必要があります。ネイティブモードの場合は本製品の「Active Directory 機能」をご使用ください。
- サーバーに本製品の名前と同じコンピューターがすでに登録されていた場合は、登録されているコンピューターをいったん削除し、再度手順 1 から設定を行ってください。

ハードディスクやプリンターの増設

ご注意

●増設できる機器については、以下をご覧ください。

【増設できる USB 機器】 (24-116 ページ)

【増設できる eSATA 機器】 (24-116 ページ)

USB ポート 1 (前面) の設定

出荷時の [USB ポート 1] の動作モードは、[クイックコピー] に設定されています。

その場合、増設するハードディスクを [USB ポート 1] に接続してもそのままでは共有ディスクとして使用できません。

USB ポート 1 で増設ハードディスクを使用できるようにするためには、動作モードを [共有ディスク (FAT/NTFS/専用)] に変更する必要があります。以下は、[USB ポート 1] の動作モードを [共有ディスク (FAT/NTFS/専用)] に変更する手順です。

クイックコピーとは？

本製品前面の [FUNC.] ボタンの機能です。

クイックコピーでは、USB メモリーやデジカメを [USB ポート 1] に接続した後、前面の [FUNC.] ボタンを押せば、自動的に USB メモリーやデジカメのデータをあらかじめ指定されている本製品の共有フォルダー内にコピーすることができます。

クイックコピー機能は、本製品前面の [USB ポート 1] でのみ機能します。また、USB ポート 1 の動作モードが [クイックコピー] となっている場合のみ機能します。

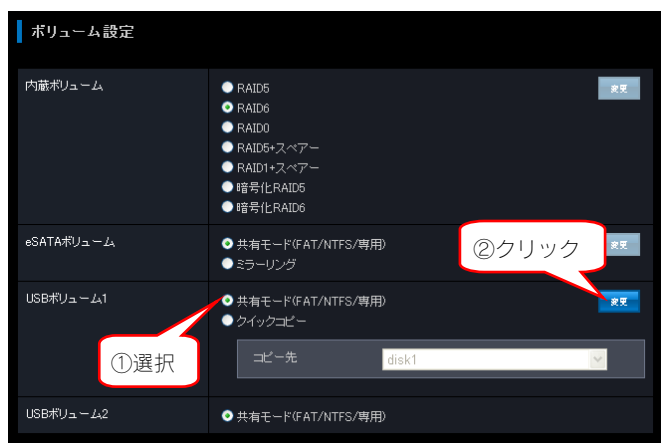
1

[詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム設定] をクリックします。



2

[USB ボリューム 1] の [共有モード (FAT/NTFS/専用)] を選択し、[変更] ボタンをクリックします。



3

[設定する] ボタンをクリックします。
→結果画面が表示されます。

これで、USB ポート 1 で増設ハードディスクを使用できるようになりました。

ご注意

- 接続するハードディスクの容量やフォーマット形式の違いについては、以下をご覧ください。
【増設ディスクに関するご注意】 (24-117 ページ)
- 本製品の USB ポート (1、2) や eSATA ポートには、対応の機器以外の機器は接続しないでください。
(USB ハブや SATA ポートマルチプライヤーも接続できません。)
本製品に増設できる機器については、以下をご覧ください。
【増設できる USB 機器】 (24-116 ページ) 【増設できる eSATA 機器】 (24-116 ページ)
- バスパワーで動作するハードディスクは使用できません。必ずセルフパワーで接続してご利用ください。
- FAT/NTFS 形式の増設ハードディスクは、そのまま接続すると使用できます。本製品に接続後、本製品で FAT32/専用形式にフォーマットすることもできます。NTFS でフォーマットする場合は、Windows パソコンに直接つないでフォーマットしてください。
- NTFS でフォーマットされたハードディスクは、読み込みのみ可能です。
- [USB ポート 1] の出荷時の動作モードは、[クイックコピー] 用となっています。
- 増設ハードディスクと本製品でミラーリングを行う場合は、[eSATA ポート] を使用する必要があります。
- FAT/NTFS/専用以外の増設ハードディスク (未フォーマット、あるいは、Mac OS でフォーマットしたハードディスクなど) を本製品に接続すると、[STATUS] ランプが赤く点滅し、ブザーが鳴ります。Windows パソコンでフォーマットするか、本製品に接続後、フォーマットを行ってください。ただし、増設ハードディスク内のデータはすべて消去されます。

ハードディスクを接続する

- 1 本製品の電源が入っていることを確認します。

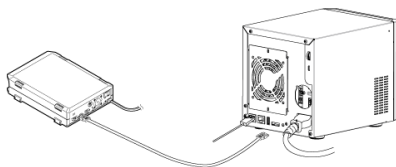
ご注意

- 本製品の電源が入っている状態でハードディスクを接続できます。
- 増設ハードディスクの電源を入れてから、本製品に接続してください。

- 2 増設ハードディスクの電源を ON にします。
増設ハードディスクの電源の入れ方については、増設ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

電源連動機能ハードディスクの場合は、電源ボタン (スイッチ) を [AUTO] または [ON] にします。本製品に接続するまで増設ハードディスクの電源は入りませんが、問題ありません。
※電源連動機能については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

- 3 本製品の USB ポートまたは eSATA ポートに増設用ハードディスクを接続します。



ご注意

- 本製品の [STATUS] ランプが点滅中は、増設ハードディスクを接続しないでください。
本製品の電源が入っている状態で接続できますが、[STATUS] ランプが点滅中 (設定画面操作中) や、本製品にアクセス中 ([ACCESS] ランプが点滅中) に増設ハードディスクを接続しないでください。
本製品にすでに別の増設ハードディスクを接続している場合にも、そのハードディスクのランプをご確認ください。
- ブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS] ランプが赤く点滅した場合は、ハードディスクが FAT/NTFS/専用形式ではありません。

ハードディスクの接続を確認する

- 1 [詳細設定] から、[情報表示] → [ボリューム情報] をクリックします。



- 2 接続しているハードディスクの接続状況が表示されます。確認したいハードディスクをクリックすれば、各ハードディスクの詳細情報が表示されます。

ご注意

- eSATA ハードディスクを接続しても認識されない場合は、以下をご覧ください。
【困ったときには】 の (26-189 ページ)

増設ハードディスクにアクセスする

1 ネットワーク上から、本製品の共有フォルダーを表示させます。
【本製品にアクセスする】 (3-16 ページ)

2 USB 接続ハードディスクの場合は、一覧に共有フォルダー [usb x] が表示されます。
eSATA 接続ハードディスクの場合は、一覧に共有フォルダー [esata1] が表示されます。
これが増設ハードディスクです。
[usb x] および [esata1] をダブルクリックします。
※ x には増設ハードディスクを接続した本製品の [USB ポート]番号が表示されます。

ハードディスクの接続先	ネットワーク上での表示
内蔵ハードディスク	→ disk1
USB ポート 1 接続	→ usb1
USB ポート 2 接続	→ usb2
eSATA ポート接続	→ esata1

3 正常にウィンドウが表示されましたら、増設ハードディスクのデータを使用できます。

ご注意

- NTFS フォーマットの増設ハードディスクは、読み込み専用です。ネットワーク上から NTFS フォーマットのハードディスクのデータを読み込むことはできますが、書き込むことはできません。
- ハードディスクを複数パーティションに分割していた場合は、先頭のパーティションのみしか表示されません。
- Mac OS から NTFS フォーマットの増設ハードディスクや読み取り専用の共有にアクセスすることはできません。
- Mac OS でお使いになる場合、本製品では、AFP over TCP/IP による接続のみをサポート対象とします。

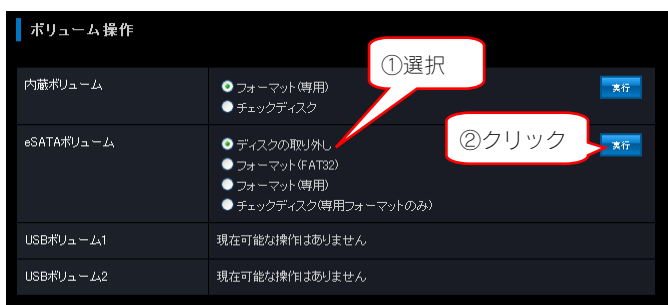
ご注意

- ファイルコピー中に、USB ポートに接続した機器の接続や取り外しをしたり、本製品やハードディスクの電源を切らないでください。コピーの処理が正常に行われません。
- 増設ハードディスクをバックアップ機能のバックアップ先に指定されている場合、増設ハードディスクの取り外し処理を行うと、バックアップできません。
- 取り外し時は、必ず [ディスクの取り外し] 操作を行ってください。
本製品動作中に以下の手順を行わずに、USB ケーブルや eSATA ケーブルを取り外すと、データの破損や本製品や増設ハードディスクの故障の原因になります。
何らかの理由で、増設ハードディスクにアクセスが行われている最中に、USB ケーブルや eSATA ケーブルを取り外すとデータが破損するばかりか、本製品や増設ハードディスクの故障の原因になります。
- 本製品をシャットダウンし、本製品の電源を切った後に取り外すこともできます。
- Windows と Mac OS で共有して利用していた場合
Windows パソコンに直接接続してハードディスク内を見ると、見覚えの無いファイル、フォルダーが見える場合があります。これは、Mac OS で、フォルダーを作成したりファイルをコピーした際は、作成したファイル（フォルダー）の他に、別のファイル（フォルダー）が作成されるためです。
このファイル（フォルダー）には、Mac OS ユーザー用の必要な情報が書き込まれていますので、削除しないでください。

1 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム操作]をクリックします。



2 取り外すボリューム欄の [ディスクの取り外し] を選択後、[実行] ボタンをクリックします。



3 取り外すハードディスクを確認後、[設定する]ボタンをクリックします。
→結果の画面が表示されます。

4 取り外し手順を行った増設ハードディスクの USB ケーブルまたは eSATA ケーブルを本製品から取り外します。

ご注意

本製品の電源が入っている状態で、本製品から取り外すことができます。

5 増設ハードディスクの電源を切ります。
電源連動機能ハードディスクの場合は、USB ケーブルおよび eSATA ケーブルを取り外した時点で、電源が切れます。
※増設ハードディスクの電源の切り方については、増設ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。
※電源連動機能については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

以上で作業は完了です。

ショートカットで取り外す

1 [詳細設定]から、[ショートカット]をクリックし、取り外しを行うボリュームをクリックします。



2 取り外すハードディスクを確認後、[デバイスを取り外す]ボタンをクリックします。
→結果の画面が表示されます。

3 取り外し処理を行った増設ハードディスクのケーブルを本製品から取り外します。

ご注意

eSATA ミラーリングモードでのミラーディスクの取り外しはショートカットからできません。[詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム操作]にて取り外してください。

増設ハードディスクをフォーマットする

ご注意

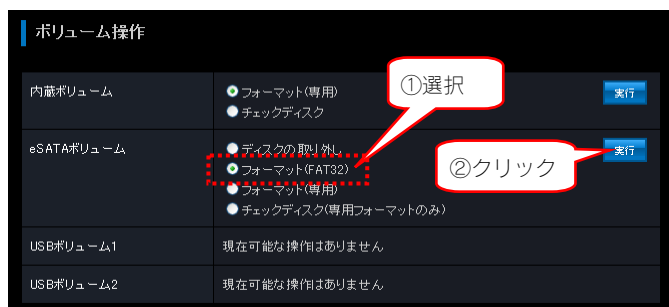
- フォーマットするとデータはすべて消去されます。
増設ハードディスク内に必要なデータがある場合は、事前にパソコンなどにバックアップしておいてください。
- フォーマット中は電源を切らないでください。完了するまでお待ちください。
- FAT32形式にできるのは、増設ハードディスクのみです。内蔵ハードディスクは、本製品専用フォーマットです。FAT32形式にすることはできません。
- 本製品でNTFS形式にすることはできません。増設ハードディスクをNTFS形式にする場合は、Windowsパソコンに直接接続してフォーマットしてください。詳しくは、ハードディスクの取扱説明書を参照してください。
- 2TBより大きい容量のハードディスクを、本製品でFAT32フォーマットした場合、2TBのパーティションでフォーマットを行います。すべての領域を使用するには、専用形式でフォーマットを行ってください。
- 本製品に接続可能なハードディスクのフォーマット形式については、以下をご覧ください。
【増設ディスクに関するご注意】 (24-117 ページ)

FAT32でフォーマットする

- 1 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム操作]をクリックします。



- 2 フォーマットするボリューム欄の[Fォーマット(FAT32)]を選択後、[実行]ボタンをクリックします。



- 3 記載内容を確認後、[設定する]ボタンをクリックします。
→結果の画面が表示されるまでお待ちください。

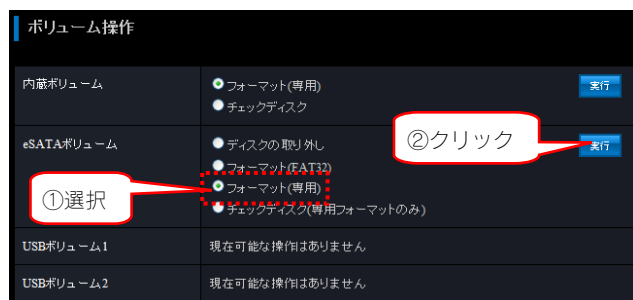
以上で作業は完了です。

本製品専用形式でフォーマットする

- 1 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム操作]をクリックします。



- 2 フォーマットするボリューム欄の[Fォーマット(専用)]を選択後、[実行]ボタンをクリックします。



- 3 記載内容を確認後、[設定する]ボタンをクリックします。
→結果の画面が表示されるまでお待ちください。

以上で作業は完了です。

ご注意

- プリンターの電源は、本製品の電源の ON/OFF に関係なく、プリンターの電源を ON/OFF することができます。
(本製品は、プリンターのホットプラグに対応しています。)ただし、プリンターの電源を ON にした後、印刷可能となるまでにしばらく時間がかかる場合があります。
- 本製品に接続したプリンターは、本製品の電源が入っている状態でも取り外すことができます。プリンターを使用していないことを確認後、本製品から USB ケーブルを取り外してください。
- Windows パソコンのみ共有プリンターとして使用できます。Mac OS では使用できません。
- 本製品でプリンターを使用するすべてのパソコンにプリンタードライバーをインストールする必要があります。各パソコンにプリンターに添付されている CD-ROM などをご利用の上、あらかじめプリンタードライバーのインストールを行ってください。(詳細はプリンターの取扱説明書を参照してください。)
- プリンターの双方向機能には対応しておりません。
- 複合機 (プリンター機能以外にスキャナー機能やリーダーライター機能などを有するもの)をお使いの場合、プリンター機能にのみ対応します。
- Microsoft Windows Printing System(WPS)専用プリンター、プリンターメーカーが独自に採用しているプリンティングシステムのプリンターでは、その仕様上プリントサーバー機能はご利用いただけません。
- 本製品にプリンターは 1 台のみ接続できます。プリンターを 2 台以上接続することはできません。
- 本製品の内蔵ハードディスクに空き容量が必要です。本製品を通して印刷時、プリントデータを本製品のハードディスクにスプールするため、スプールデータ用の空き容量が必要になります。(本製品の空き容量に関しては、設定画面の【ボリューム情報】をご確認ください。)印刷できなかった場合は、不要なデータを削除して空き容量を増やしてください。

プリンタードライバーをインストールする

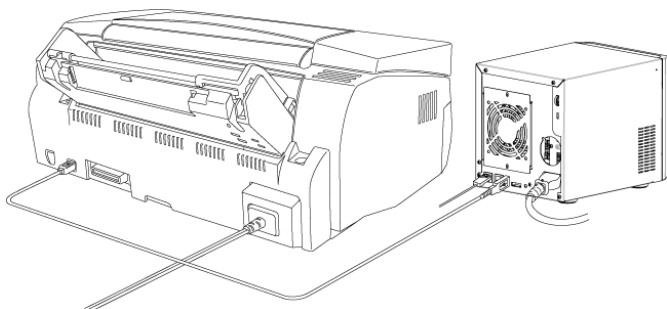
お使いのパソコンに、使用するプリンターのドライバーをインストールします。
プリンターの取扱説明書をご覧になり、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。

ご注意

プリンタードライバーのインストールがうまくできない場合は、以下をご覧ください。
【困ったときには】の (26-184 ページ)

プリンターを接続する

- 1 本製品の電源が入っていることを確認します。
本製品の電源が入っている状態で接続できます。
- 2 プリンターの電源を入れ、プリンターが起動することを確認します。
プリンターの電源を入れてから本製品に接続します。
- 3 本製品の USB ポート 2 にプリンターを接続します。



プリンターの接続を確認する

- 1 [詳細設定]から、[情報表示]→[ログ情報]をクリックします。
- 2 プリンターを接続した時間に、以下のログが記録されていることを確認してください。
プリントサーバー : プリンターが接続されました

ご注意

何も表示されていない場合は、プリンターの情報を読み取るのに時間がかかる場合があります。
プリンターが正常に起動していることを確認後、しばらくしてから、再度、[ログ情報]画面を開いてみてください。

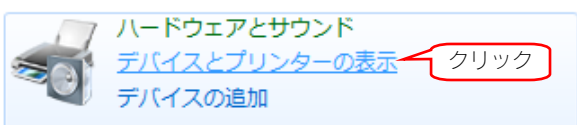
以上で本製品への接続の確認は終了です。

Windows 7

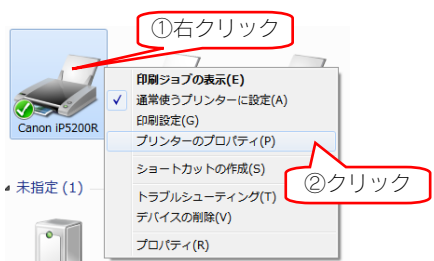
1 お使いのパソコンに、使用するプリンターのドライバーをインストールしていない場合は、インストールします。プリンターの取扱説明書をご覧になり、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。

2 本製品にプリンターが接続されていることを確認します。取り外していた場合は、接続してください。

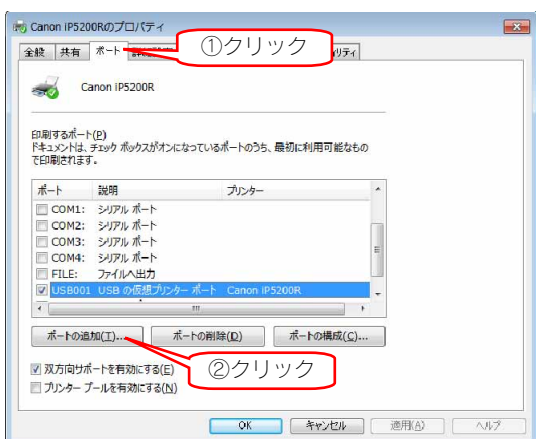
3 [スタート]→[コントロールパネル]→[ハードウェアとサウンド]→[デバイスとプリンターの表示]を順にクリックします。



4 インストールしたプリンターアイコンを右クリックし、表示されたメニューの[プリンターのプロパティ]をクリックします。



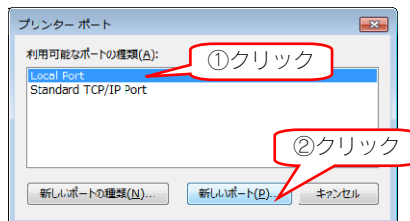
5 [ポート]タブをクリック後、[ポートの追加] ボタンをクリックします。



ご注意

[ポートの追加]ボタンが無効になっている場合があります。この場合は[全般]タブをクリックし、[プロパティの変更]ボタンが表示されていればクリックします。画面の表示にしたがって、プロパティの変更を許可してください。これで[ポートの追加]ボタンが有効になる場合があります。

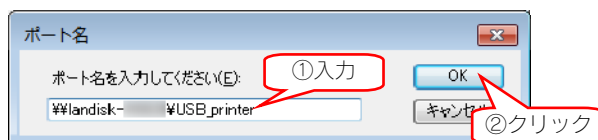
6 [Local Port]をクリック後、[新しいポート] ボタンをクリックします。



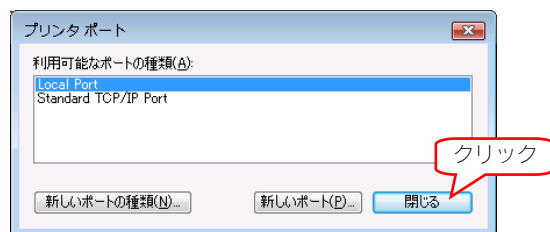
7 以下のように[ポート名]を入力後、[OK] ボタンをクリックします。

¥¥LAN_DISKの名前¥¥USB_printer

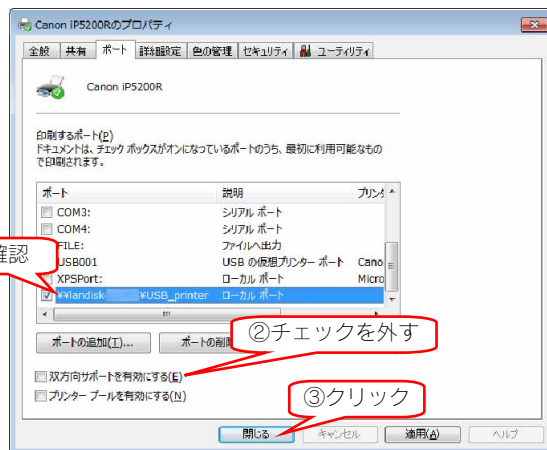
本製品に設定した[LAN_DISK の名前]が、"landisk"の場合は、 ¥¥landisk¥¥USB_printer となります。



8 [閉じる] ボタンをクリックします。



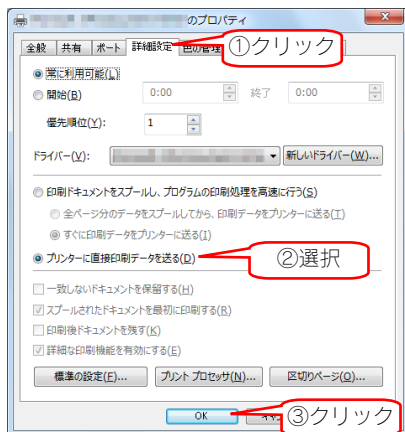
9 正しく設定されると以下の画面となります。表示を確認後、[双方向サポートを有効にする]のチェックを外した後、[閉じる] ボタンをクリックします。
※本製品はプリンターの双方向機能には対応しておりません。チェックは外してください。(グレー表示となっている場合は設定の必要はありません。)



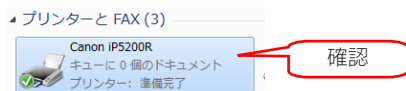
ご注意

エラー画面が表示された場合は、正しく入力されていないか、本製品の [LAN DISK の名前] が異なっている可能性があります。入力および [LAN DISK の名前] を再度ご確認ください。本製品の [LAN DISK の名前] を指定してもエラーが出る場合は、本製品の IP アドレスを入力してご確認ください。
※IP アドレスを指定する場合は、本製品の IP アドレスを [基本設定] → [ネットワーク設定] で [次の IP アドレスを使う] にて固定にすることをおすすめします。

- 10 [詳細設定] タブで「プリンターに直接印刷データを送る」のラジオボタンを選択し、[OK] ボタンをクリックします。



- 11 [スタート] → [コントロールパネル] → [ハードウェアとサウンド] → [デバイスとプリンター] をクリックし、プリンターの状態が「準備完了」になっていることを確認します。



ご注意

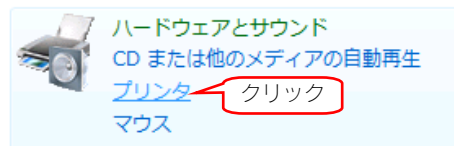
プリンターの状態が [オフライン] になっている場合は、アイコンを右クリック後、[プリンターをオンラインで使用する] をクリックしてください。

これで、設定は完了です。

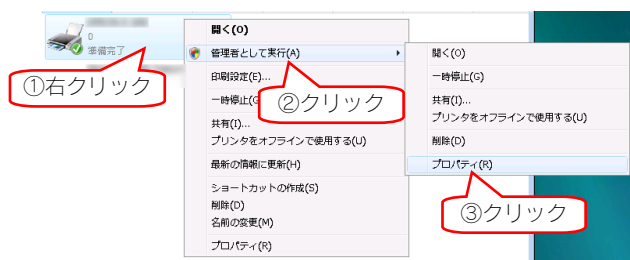
本製品を利用して実際に印刷できるかお試しください。

Windows Vista

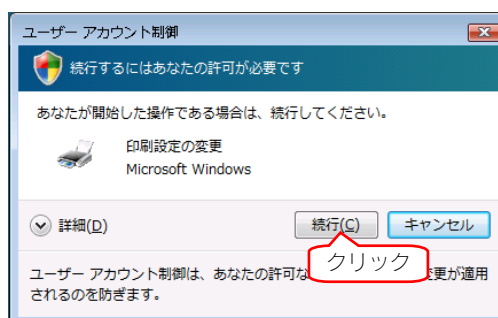
- 1 お使いのパソコンに、使用するプリンターのドライバーをインストールしていない場合は、インストールします。プリンターの取扱説明書をご覧になり、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。
- 2 本製品にプリンターが接続されていることを確認します。取り外していた場合は、接続してください。
- 3 [スタート] → [コントロールパネル] → [ハードウェアとサウンド] → [プリンタ] を順にクリックします。



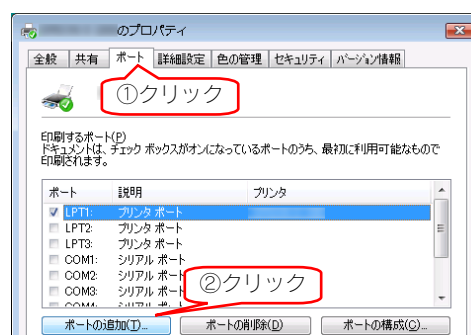
- 4 インストールしたプリンターアイコンを右クリックし、表示されたメニューの [管理者として実行] → [プロパティ] をクリックします。



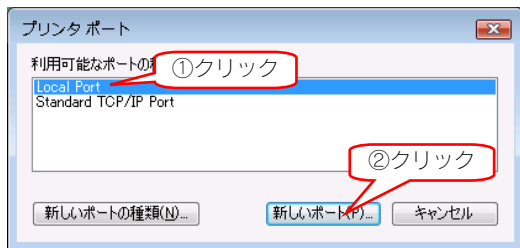
- 5 ユーザーアカウント制御の画面が表示されますので、[続行] をクリックしてください。



- 6 [ポート] タブをクリック後、[ポートの追加] ボタンをクリックします。



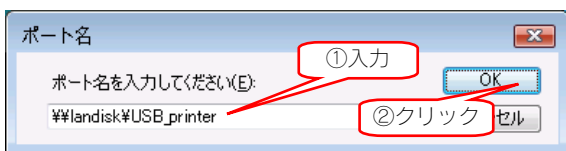
7 [Local Port]をクリック後、[新しいポート] ボタンをクリックします。



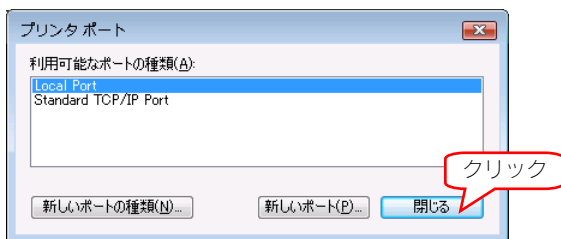
8 以下のように[ポート名]を入力後、[OK] ボタンをクリックします。

¥¥LAN_DISKの名前¥¥USB_printer

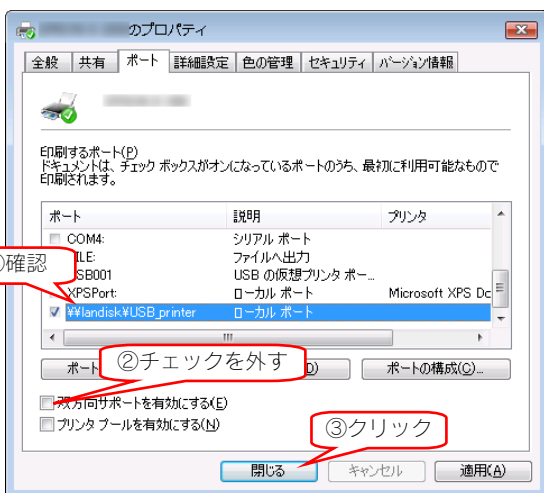
本製品に設定した[LAN_DISK の名前]が、"landisk"の場合は、¥¥landisk¥¥USB_printer となります。



9 [閉じる] ボタンをクリックします。



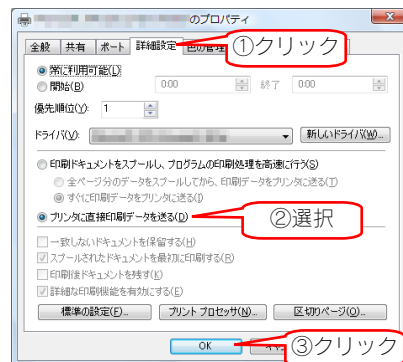
10 正しく設定されると以下の画面となります。表示を確認後、[双方向サポートを有効にする]のチェックを外した後、[閉じる] ボタンをクリックします。
※本製品はプリンターの双方向機能には対応しておりません。チェックは外してください。(グレー表示となっている場合は設定の必要はありません。)



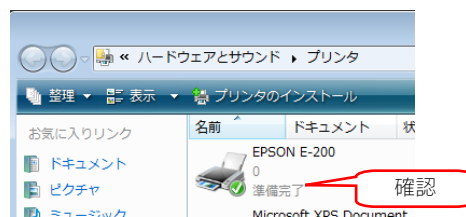
ご注意

エラー画面が表示された場合は、正しく入力されていないか、本製品の [LAN_DISK の名前] が異なっている可能性があります。入力および [LAN_DISK の名前] を再度ご確認ください。本製品の [LAN_DISK の名前] を指定してもエラーが出る場合は、本製品の IP アドレスを入力してご確認ください。
※IP アドレスを指定する場合は、本製品の IP アドレスを [基本設定] → [ネットワーク設定] で [次の IP アドレスを使う] にて固定にすることをおすすめします。

11 [詳細設定] タブで「プリンタに直接印刷データを送る」のラジオボタンを選択し、[OK] ボタンをクリックします。



12 [スタート] → [コントロールパネル] → [ハードウェアとサウンド] → [プリンタ] をクリックし、プリンタの状態が「準備完了」になっていることを確認します。

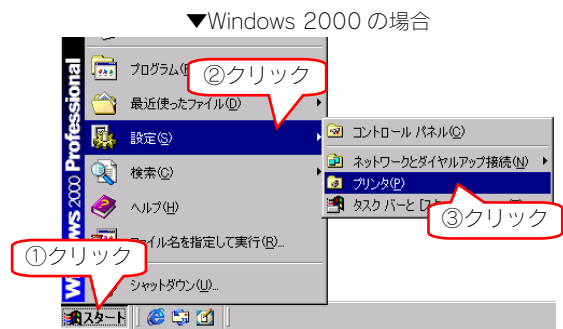
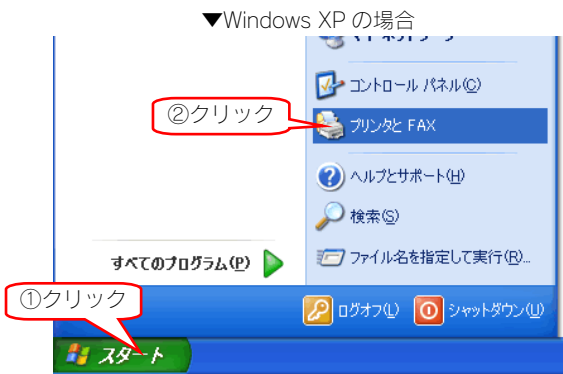


ご注意

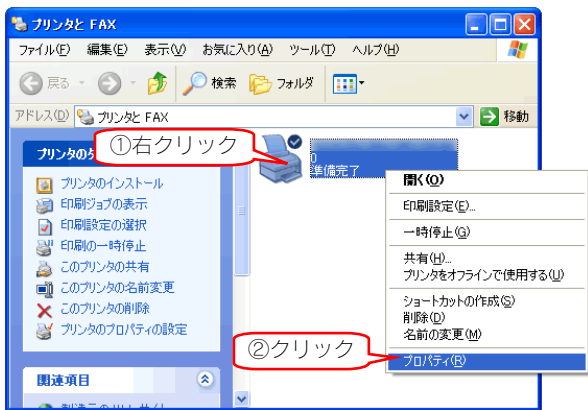
プリンターの状態が [オフライン] になっている場合は、アイコンを右クリック後、[プリンタをオンラインで使用する] をクリックしてください。

これで、設定は完了です。
本製品を利用して実際に印刷できるかお試しください。

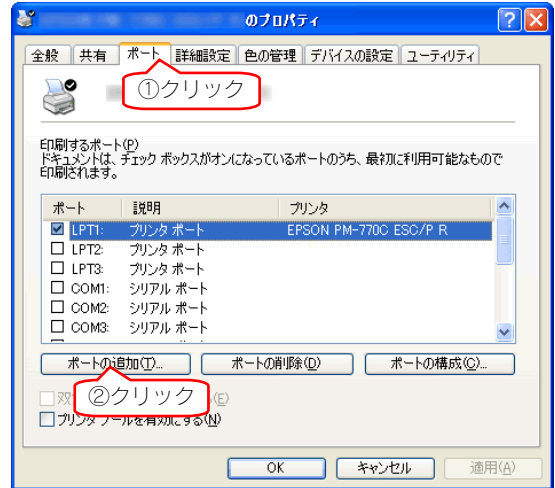
- 1 お使いのパソコンに、使用するプリンターのプリンタドライバをインストールしていない場合は、インストールします。
プリンターの取扱説明書をご覧になり、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。
- 2 本製品にプリンターが接続されていることを確認します。
取り外していた場合は、接続してください。
- 3 [スタート]→ [プリンタと FAX] を順にクリックします。
(Windows 2000 の場合は、[スタート] → [設定] → [プリンタ] を順にクリック)



- 4 インストールしたプリンタアイコンを右クリックし、表示されたメニューの [プロパティ] をクリックします。



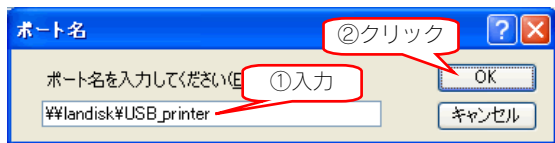
- 5 [ポート]タブをクリック後、 [ポートの追加] ボタンをクリックします。



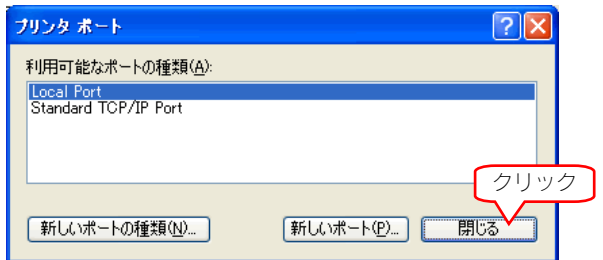
- 6 [Local Port]をクリック後、 [新しいポート] ボタンをクリックします。



- 7 以下のように[ポート名]を入力後、 [OK] ボタンをクリックします。
¥¥LAN_DISKの名前¥¥USB_printer
本製品に設定した[LAN_DISK の名前]が、"landisk"の場合は、 ¥¥landisk¥¥USB_printer となります。

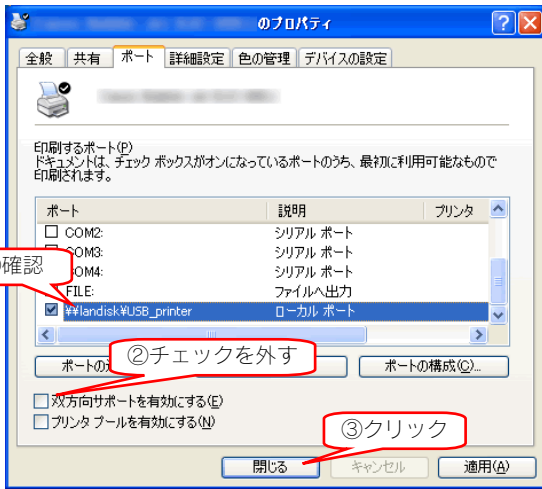


- 8 [閉じる] ボタンをクリックします。



9

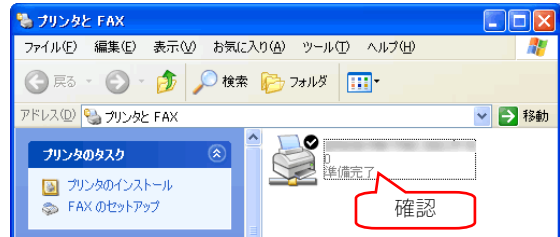
正しく設定されると以下の画面となります。
表示を確認後、「[双方向サポートを有効にする]」のチェックを外した後、「[閉じる]」ボタンをクリックします。
※本製品はプリンターの双方向機能には対応していません。チェックは外してください。（グレー表示となっている場合は設定の必要はありません。）



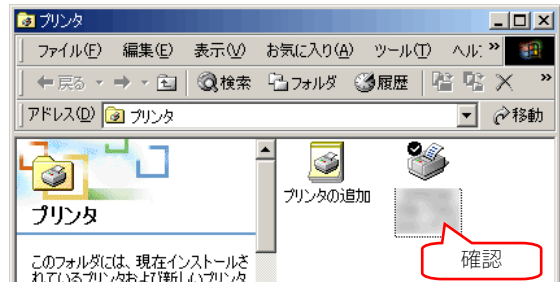
11

プリンターの状態が「[準備完了]」となっていることを確認します。
※Windows 2000 の場合は、アイコンがアクティブになっていることを確認します。

▼Windows XP の場合

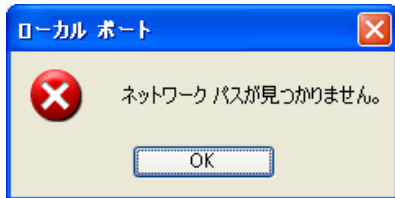


▼Windows 2000 の場合



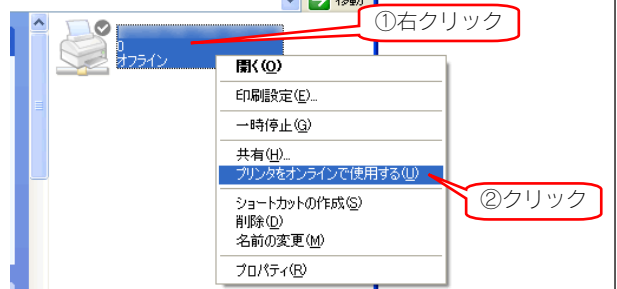
ご注意

以下のエラー画面が表示された場合は、正しく入力されていないか、本製品の [LAN DISK の名前] が異なっている可能性があります。
入力および [LAN DISK の名前] を再度ご確認ください。
本製品の [LAN DISK の名前] を指定してもエラーが出る場合は、本製品の IP アドレスを入力してご確認ください。
本製品の IP アドレスを「基本設定」-「ネットワーク設定」で「次の IP アドレスを使う」にて固定にすることをおすすめします。



ご注意

プリンターの状態が「[オフライン]」になっている場合は、アイコンを右クリック後、「[プリンタをオンラインで使用する]」をクリックしてください。

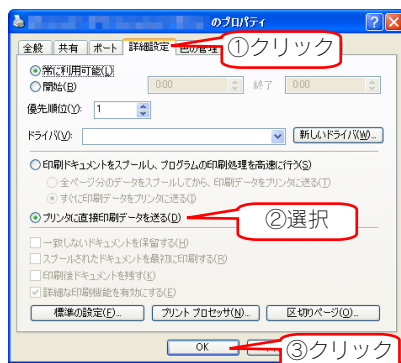


これで、設定は完了です。

本製品を利用して実際に印刷できるかお試しください。

10

[詳細設定]タブで「プリンタに直接印刷データを送る」のラジオボタンを選択し、[OK]ボタンをクリックします。



ご注意

印刷ができない場合は、以下をご覧ください。

【困ったときには】の (26-185 ページ)

バックアップ

バックアップについて

万一に備えて定期的にデータはバックアップすることをおすすめします。本製品では、以下のバックアップを行うことができます。

クイックコピー	本製品前面の [FUNC.] ボタンの機能です。 クイックコピーでは、USB メモリーやデジカメを [USB ポート 1] に接続した後、前面の [FUNC.] ボタンを押せば、自動的に USB メモリーやデジカメのデータをあらかじめ指定されている本製品の共有フォルダー内にコピーすることができます。 クイックコピー機能は、本製品前面の [USB ポート 1] でのみ機能します。また、USB ポート 1 の動作モードが [クイックコピー] となっている場合のみ機能します。
バックアップ	本製品、またはネットワーク上の HDL-XR シリーズに作成された共有フォルダーに保存されたデータを、指定した共有フォルダーへバックアップすることができます。 ・ユーザー、グループの情報や、各共有フォルダーのアクセス権設定などは保存することができません。 ・バックアップ JOB は 5 個まで登録できます。

ご注意

- [クイックコピー] および [バックアップ] はデータのみのバックアップです。
本製品のシステムも含めてバックアップを行う場合は、ミラーリングを構築後、ミラーリングしたディスクを保管するという方法にてバックアップすることができます。【ミラーリング】(14-82 ページ)
- 複数の[バックアップ]を同時に実行することはできません。
バックアップ実行中に異なるバックアップジョブを実行した場合は、現在実行中のバックアップジョブが終了してから実行されます。
- バックアップ中、ファイル共有などが遅くなる場合があります。
- バックアップ元には[この装置上]および[ネットワーク上]の共有フォルダーを 300 個まで指定できます。
- ネットワーク経由のバックアップは、ネットワーク上の HDL-XR シリーズのみバックアップ元に指定できます。また、バックアップ元に指定するネットワーク上の HDL-XR シリーズの共有フォルダーは、[サービス設定]の[ネットワークバックアップの許可]を有効、かつ、[共有フォルダー設定]の[ネットワークバックアップを許可する]を有効に設定する必要があります。
- バックアップ元ディスクとバックアップ先ディスクは別々にすることをおすすめします。万一、ディスクが故障した場合でもどちらかのデータを取り出すことができます。
- バックアップ中はバックアップ元、先の共有フォルダーへアクセスしないでください。データ不整合、バックアップ失敗の原因となります。
- バックアップ中は設定画面の操作や、本製品のボタン操作などは行わないでください。
- 増設ハードディスクにバックアップする場合は、事前に増設ハードディスクを接続しておいてください。
- バックアップ先に増設ハードディスクを指定する場合は、増設ハードディスクが専用フォーマットでフォーマットされている必要があります。
- ネットワーク経由のバックアップは、同一 LAN 内の HDL-XR シリーズのみ指定できます。ルーターを越えた(別セグメントの) HDL-XR シリーズを指定することはできません。
- バックアップでは、ネットワークを介して通信するため、その時のネットワーク上のパソコンやトラフィックなどの通信状態により、正常に完了しないことがあります。正常にバックアップされたかは、毎回ご確認ください。
- バックアップ先は、本製品(あるいは本製品に接続した専用フォーマットの増設ハードディスク)のみです。本製品のバックアップでは、本製品(および本製品に接続した専用フォーマットの増設ハードディスク)のデータを、他の LAN DISK やパソコンへバックアップすることはできません。
- バックアップ先に指定する共有フォルダーは読み取り専用を設定され、バックアップ以外からの書き込みができなくなります。
- バックアップ元には同一の共有フォルダーを複数登録できません。

USB ポート 1 (前面)の設定について

以下は、[USB ポート 1] の動作モードを [クイックコピー] に変更する手順です。

※ [USB ポート 1] の動作モードを出荷時から変更していない場合は、以下の手順を行う必要はありません。

※ [クイックコピー] に設定すると、USB ポート 1 のネットワークへの公開は行われなくなります。

1 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム設定]をクリックします。



2 [USB ボリューム 1]の[クイックコピー]を選択し、[コピー先]を選択し、[変更] ボタンをクリックします。



コピー先	[コピー先]で表示される共有フォルダ名
内蔵ボリューム	disk1
eSATA ボリューム	esata1
USB ボリューム 2	usb2

ご注意

- コピー先に [usb1] (USB ボリューム 1) は選択できません。

3 [設定する]ボタンをクリックします。
→結果画面が表示されます。

これで、USB ポート 1 をクイックコピー用として使用できるようになりました。

使用できるデジカメや USB メモリー

使用できるデジカメや USB メモリーは以下のものです。

- ・ USB マスストレージクラスの転送に対応し、かつ、そのモードに設定されているデジカメ
- ・ FAT または NTFS 形式のデジカメ、または USB メモリー

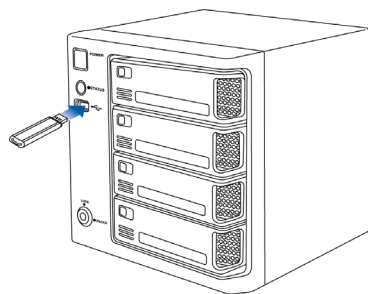
最新の対応機器については、弊社製品ホームページ(<http://www.iodata.jp/support/product/hdl-xr/>)をご覧ください。

ご注意

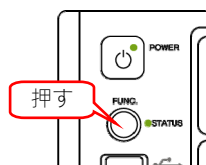
- クイックコピーは本製品の[USB ポート 1]でのみご利用になれます。他の USB ポートにデジカメや USB メモリーを接続してもご利用いただけません。
- コピー先のディスクに空き容量が十分あることをご確認ください。
- [USB ポート 1] で増設ハードディスクを使用するために [USB ポート 1] の設定を変更した場合は、クイックコピーの設定に戻す必要があります。
- すでに [USB ポート 1] に USB 機器を接続している場合は、その USB 機器の取り外し処理を行う必要があります。
【増設ハードディスクを取り外す】 (11-63 ページ) 参照
- コピー先が FAT32 形式の場合、ファイルシステムの制限のため、ファイルサイズが 4G バイト以上のファイルはコピーできません。
- コピー先に NTFS 形式の増設ハードディスクを選択してもコピーすることはできません。NTFS 形式のハードディスクに書き込みはできません。

デジカメや USB メモリーのデータをコピーする

- 1 本製品前面の USB ポート 1 にデジカメや USB メモリーを接続します。
[STATUS] ランプが点滅し、しばらくすると点灯します。



- 2 本製品前面の [FUNC.] ボタンを"ピッ"と音がするまで押します。
コピーを開始します。コピー中は、[STATUS] ランプが点滅します。"ピッピッピッ"と音が鳴り、点滅が点灯に変わったらコピー完了です。



以上でコピーは完了です。コピー完了後は、そのままデジカメや USB メモリーを取り外すことができます。

データのコピー先について

データは、コピー先に指定された共有フォルダー(出荷時は [disk1])の下に、自動で作成される[Quickcopy]フォルダー内にコピーされます。

さらにその下に「実行時の[日付]フォルダー」を作成し、そのフォルダーにファイルがコピーされます。

複数の USB メモリーなどをコピーする場合でも、「実行時の[日付]フォルダー」で区別されますので、上書きされることはありません。

ご注意

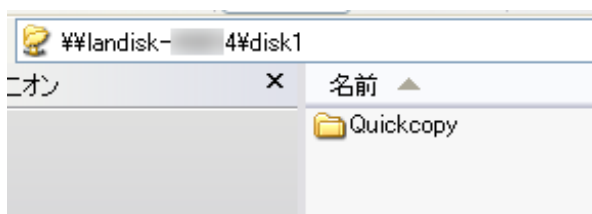
- ブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS]ランプが赤点滅し、エラーになる場合は、[FUNC.] ボタンを押して [STATUS]ランプが緑点灯に変わることを確認します。
その後以下をご覧ください。
【困ったときには】 (26-163 ページ)

コピーしたデータを確認する

1 ネットワーク上から、本製品の共有フォルダーを表示させます。
【本製品にアクセスする】(3-16 ページ)

2 [disk1]フォルダーをダブルクリックします。

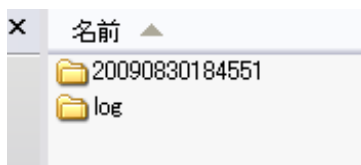
3 [Quickcopy]フォルダーが作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



[Quickcopy]フォルダーについて

[FUNC.] ボタンでコピーする手順を行った場合に自動で作成されるフォルダーです。

4 「実行時の[日付]フォルダー」が作成されていることを確認後、ダブルクリックします。
→コピーしたファイルやフォルダーが表示されます。



実行時の[日付]フォルダーについて

[FUNC.]ボタンでコピーする手順を行った場合に、[Quickcopy]フォルダーの下に、デジカメ・USBメモリーのデータコピーを開始した年月日・時刻をもとにして、自動で作成されるフォルダーです。

上記画面例（[20090830184551]）は、2009年08月30日18時45分51秒にコピーを開始したときに作成した例です。

logフォルダーについて

logフォルダーはバックアップのシステムに必要な情報が入っています。削除しないでください。

以上で確認は終了です。

バックアップを設定する

1 [詳細設定]から、[サービス設定]→[バックアップ]をクリックします。



2 [変更] ボタンをクリックします。



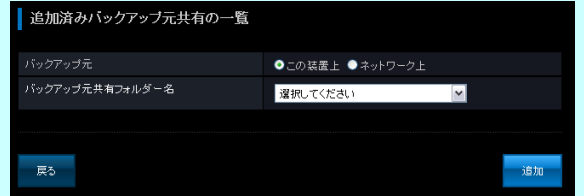
3 バックアップ内容を設定します。



ジョブ名	任意の名前を入力します。	
保存する履歴数	保存する履歴数を設定します。	
スケジュール	設定したスケジュールでバックアップを行う場合に[有効]をチェックします。	
	曜日指定	バックアップする曜日を指定します。 ※複数の指定が可能です。
	時刻指定	バックアップする時刻を指定します。 24時間制で指定します。 例)午後9時の場合、[21]時[00]分
オプション	ごみ箱もバックアップする	ごみ箱もバックアップする場合にチェックします。
	バックアップ後にシャットダウン	バックアップ後に本製品の電源を切る場合にチェックします。
バックアップ元	バックアップ元を選択します。手順4にお進みください。	
バックアップ先	バックアップ先を選択します。	

4 バックアップ元の[詳細]ボタンをクリックします。バックアップ元を選択します。

●バックアップ元に「この装置上」を選択した場合



バックアップ元共有フォルダーを選択し、[追加]ボタンをクリックします。

●バックアップ元に「ネットワーク上」を選択した場合



以下の項目を設定し、[追加]ボタンをクリックします。複数のバックアップ元を指定する場合は、上記の手順をくりかえします。

バックアップ元指定が終わったら、[戻る]ボタンをクリックします。

バックアップ元ホスト名	ネットワーク上の HDL-XR シリーズの LAN DISK の名前、もしくは IP アドレスを入力します。
バックアップ元共有フォルダー名	ネットワーク上の HDL-XR シリーズのバックアップ元とする共有フォルダー名を指定します。
アクセスパスワード	ネットワーク上の HDL-XR シリーズのバックアップ元とする共有フォルダーにアクセスパスワードを設定した場合は指定します。

ご注意

- バックアップ元には1ジョブにつき300まで本装置上、および、ネットワーク上のHDL-XRシリーズの共有フォルダーを指定することができます。共有モード(FAT/NTFS/専用)の外付けハードディスクの共有も選択できます。
- ネットワーク上のHDL-XRシリーズの共有フォルダーをバックアップ元に指定する場合、バックアップ元に指定するネットワーク上のHDL-XRシリーズは、[サービス設定]の[ネットワークバックアップの許可]が有効、かつ、バックアップ元とする共有フォルダーの[共有フォルダー設定]の[ネットワークバックアップを許可]が有効に設定する必要があります。
- バックアップ先には1ジョブにつき1つの内蔵ボリューム上または専用フォーマットの外付けハードディスクの共有のみ指定できます。
- バックアップ先にはFAT32/NTFS フォーマットした外付けハードディスクの共有を指定することはできません。
- バックアップ先に指定する共有フォルダーは読み取り専用を設定され、バックアップ以外からのファイルの削除、書き込みができません。ファイルの削除、書き込みを行うためには、必要なデータをバックアップした後、バックアップ設定を解除する必要があります。
- スケジュール設定を行う場合は、他のスケジュール設定と重ならないようご注意ください。

5

[確認する] ボタンをクリックすると、確認画面が表示されますので、内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

これでバックアップ設定は完了です。

バックアップする

ご注意

事前にバックアップ設定を行っておいてください。

今すぐバックアップする場合

[詳細設定]から、[サービス設定]→[バックアップ]をクリックし、[今すぐ実行]ボタンをクリックします。



バックアップ中は、[STATUS]ランプが緑点滅になります。バックアップが完了すると本製品のブザーが「ピッピッピッ」と鳴り、[STATUS]ランプが緑点灯に変わります。

スケジュールバックアップを有効にした場合

設定した日時/時刻に自動でバックアップを開始します。バックアップ中は、[STATUS]ランプが緑点滅になります。バックアップが完了すると本製品のブザーが「ピッピッピッ」と鳴り、[STATUS]ランプが緑点灯に変わります。

ご注意

- ブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS]ランプが赤点滅し、エラーになる場合は、[FUNC.] ボタンを押して [STATUS]ランプが緑点灯に変わることを確認します。その後以下をご覧ください。
【困ったときには】の(26-188ページ)
- バックアップにかかる時間については、以下をご覧ください。
【困ったときには】の(26-188ページ)

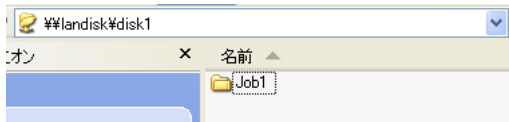
バックアップしたデータを確認する

以下は、Windows XP での確認例です。

- 1 ネットワーク上から、本製品の共有フォルダーを表示させます。
【本製品にアクセスする】(3-16 ページ) をご覧ください。

- 2 バックアップ先に設定した共有フォルダーをダブルクリックします。

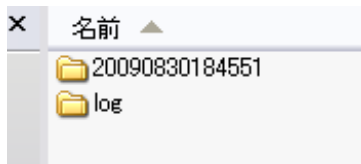
- 3 「実行したジョブのフォルダー」が作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



「実行したジョブのフォルダー」について

数字が実行したバックアップジョブの番号になります。
1 番目のバックアップジョブを実行した場合は[Job1]、
5 番目のバックアップジョブを実行した場合は[Job5]のように作成されます。

- 4 「実行時の[日付]フォルダー」が作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



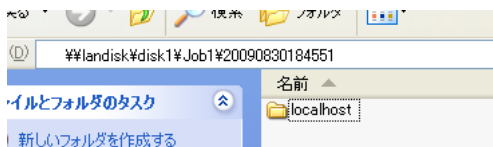
[日付]フォルダーについて

バックアップを開始した年月日・時刻をもとにして、自動で作成されるフォルダーです。
上記画面例（ [20090830184551] ）は、2009年08月30日18時45分51秒にバックアップを開始したときに作成した例です。

log フォルダーについて

log フォルダーはバックアップのシステムに必要な情報が入っています。削除しないでください。

- 5 「バックアップ元[ホスト名]フォルダー」が作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



「バックアップ元「ホスト名」フォルダー」について

バックアップ元で選択されたホスト名になります。
この装置上を選択した場合は「localhost」となります。

- 6 「バックアップ元ホストの「共有名」フォルダー」が作成されていることを確認後、ダブルクリックします。
→コピーしたファイルやフォルダーが表示されます。



「バックアップ元ホストの「共有名」フォルダー」について

バックアップ元で選択された共有名になります。

以上で確認は終了です。

ご注意

- バックアップデータを見せないようにしたい場合は、以下をご覧ください。

【困ったときには】の(26-188 ページ)

バックアップログを確認する

- 1 バックアップを実行後、[詳細設定]から、[情報表示]→[ログ表示]をクリックします。
[ログ] 欄にバックアップ実行時のバックアップのログが表示されます。
- ログの内容については、【[ログ一覧](#)】(24-126 ページ) をご覧ください。



ご注意

- ログ情報は、以下のような状況のときに削除されます。
 - ・ ログのサイズが一定のサイズを超えた場合
 - ・ 本製品をシャットダウンした場合
- ※上記のタイミングでログ情報をメール送信することができません。
- ※設定については、【[通知機能](#)】(19-96 ページ) をご覧ください。

弊社製 EasySaver 4 LE を使う

EasySaver 4 LE の最新版は弊社ホームページ「サポートライブラリ」からダウンロードできます。

<サポートライブラリ> <http://www.iodata.jp/lib/>

弊社製 EasySaver 4 LE を使用して、パソコンのデータを本製品にバックアップしたり、逆に本製品のデータをパソコンにバックアップしたりすることができます。詳細は、EasySaver 4 LE の取扱説明書を参照してください。

ご注意

- EasySaver 4 LE を使用してバックアップする場合、バックアップ元 (先) に使用する本製品、あるいは、増設ハードディスクを事前にネットワークドライブに割り当てておく必要があります。
【(Windows) ネットワークドライブの割り当て方法がわからない】(26-195 ページ)
- 増設ハードディスクをバックアップで使用する場合は、事前に増設ハードディスクを接続しておいてください。
【ハードディスクやプリンターの増設】(11-60 ページ)

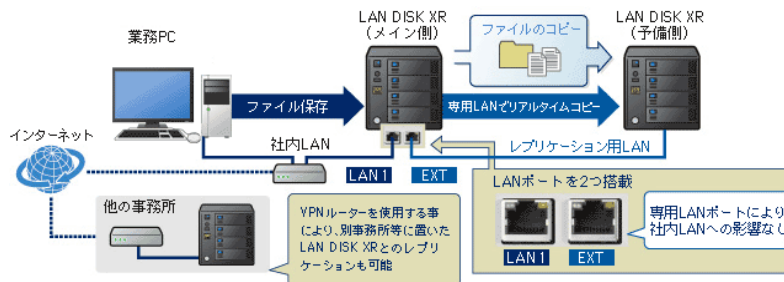
レプリケーション

レプリケーションについて

レプリケーション元に設定したメイン機の共有フォルダーと、レプリケーション先に指定した予備機の共有フォルダーをリアルタイムで同期し、同じ状態に保ちます。

※LAN 環境により遅延が発生します。

遠隔地へのレプリケーションにより、メイン機側での災害・事故によるデータ損失のリスク低減ができます。



ご注意

- レプリケーション機能はレプリケーション元（メイン機）1 台、レプリケーション先（予備機）1 台の 2 台でのみご利用できます。
- 予備機に使用できる機器は HDL-XR シリーズのみです。
- 予備機の、[詳細設定]の[サービス設定]→[サービス設定]で、[ネットワークバックアップの許可]を「有効」にする必要があります。（出荷時設定は「有効」）
- レプリケーション機能でコピーされるのは、「レプリケーション元共有フォルダー」に指定した共有フォルダー上に保存された、ファイル・フォルダーのデータのみです。アクセス権はコピーされません。
- 予備機をメイン機に接続する前に、予備機の設定を行っておいください。
- VPN 経由でレプリケーションを行う場合は、十分なスループットを確保できる光回線をご使用ください。
- レプリケーション元共有フォルダーとして指定可能な共有フォルダーは 1 つになります。また、指定共有フォルダー内のファイル数の制限はありませんが、フォルダ数は 20000 個までになります。制限を越えた場合はレプリケーションが無効になります。
- 本製品の EXT ポートを使用する場合、EXT ポートを接続したネットワーク上のパソコンから Magical Finder を使用して本製品を検索できません。本製品の設定画面を開くには、Web ブラウザーに直接本製品の IP アドレスを入力して開いてください。
- レプリケーション先に設定された共有フォルダーのデータは、レプリケーション実施後に消去されます。

レプリケーションを設定する

ここでは、以下のような構成の設定例について説明します。

あらかじめメイン機、予備機のネットワーク設定を以下のように設定しておいてください。

メイン機（レプリケーション元）	
レプリケーション元共有フォルダー	disk1
LAN ポート*	ネットワークへ接続 ・ IP アドレスを自動的に取得する
EXT ポート*	予備機の LAN ポートへ接続 ・ 次の IP アドレスを使う 192.168.100.12 255.255.255.0

※LAN ポートと EXT ポートの IP アドレスのセグメントは一致しないように設定してください。

予備機（レプリケーション先）	
レプリケーション先共有フォルダー	dest_share
LAN ポート	メイン機の EXT ポートへ接続 ・ 次の IP アドレスを使う 192.168.100.10 255.255.255.0
EXT ポート	未使用 ・ 無効にする

①レプリケーション先（予備機）の本製品を設定する

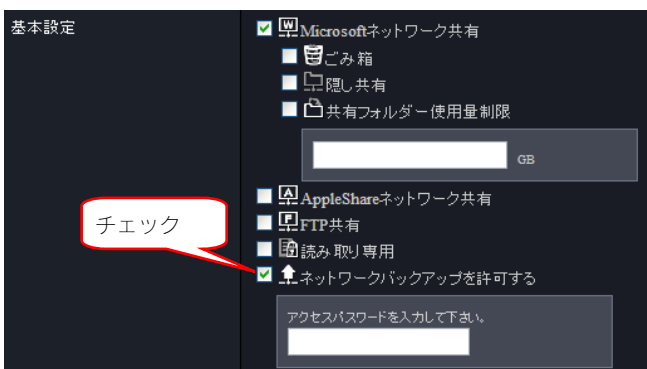
- レプリケーション先の本製品の[詳細設定]から、「サービス設定」→「サービス設定」をクリックし「ネットワークバックアップの許可」が「有効」となっていることを確認してください。
- レプリケーション先の本製品の[詳細設定]から、「共有管理」→[共有フォルダー設定]をクリックします。



- レプリケーション先にする共有フォルダーの[変更]ボタンをクリックします。レプリケーション先にする共有フォルダーは、新規作成してもかまいません。



- [ネットワークバックアップを許可する]にチェックをつけ、[設定する] ボタンをクリックします。必要に応じてアクセスパスワードも設定します。



- 設定内容を確認し、[設定する] ボタンをクリックします。

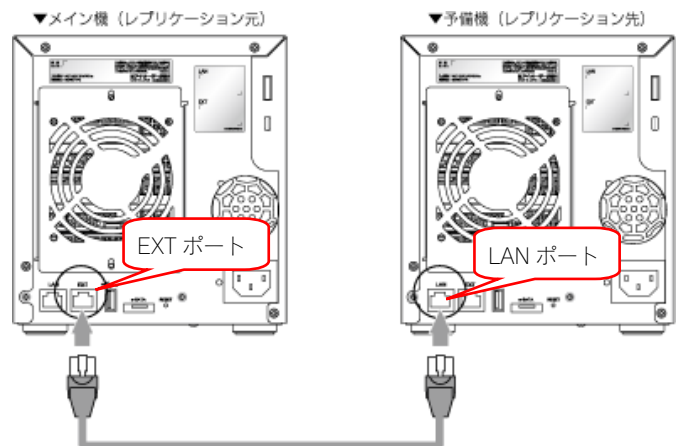
- レプリケーション先の本製品の[詳細設定]から、「基本設定」→「ネットワーク設定」をクリックし、前ページの設定例の LAN、EXT ポート設定となっていることを確認してください。
- レプリケーション先の本製品の[詳細設定]画面の上部に表示された本製品のステータスに表示された「名前」と「IP アドレス」をメモしてください。レプリケーション元の本製品の設定、「レプリケーション元ホスト名」の入力値として使用します。

ご注意

- ①の設定後、予備機の[詳細設定]の[基本設定]→[ネットワーク設定]で、メイン機と通信できるように設定しておく必要があります。設定例では、予備機の LAN のポートの設定を、接続するメイン機の EXT ポートと通信できるように設定します。

②予備機を接続する

- メイン機、予備機ともに、いったん電源を OFF にします。
- メイン機背面の[EXT]ポートと予備機背面の[LAN]ポートを LAN ケーブルで接続します。



- メイン機、予備機ともに電源を入れます。起動が完了するまでお待ちください。

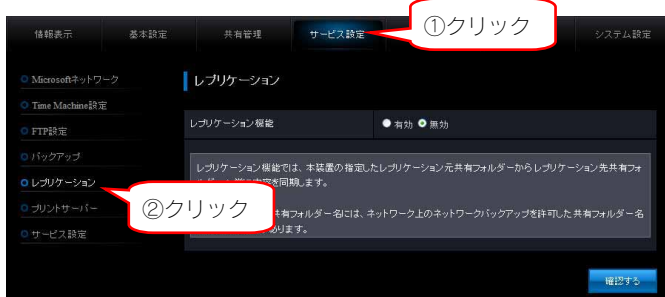
③レプリケーション元（メイン機）の本製品を設定する

ご注意

- 設定の前に、メイン機の[詳細設定]の[基本設定]→[ネットワーク設定]で、予備機と通信できるように設定しておく必要があります。
設定例では、メイン機のEXTのポートの設定を、予備機のLANポートと通信できるように設定します。
- メイン機のLANポートとEXTポートのセグメントが異なるIPアドレスを設定してください。セグメントが同じになっていると正しくレプリケーションができません。

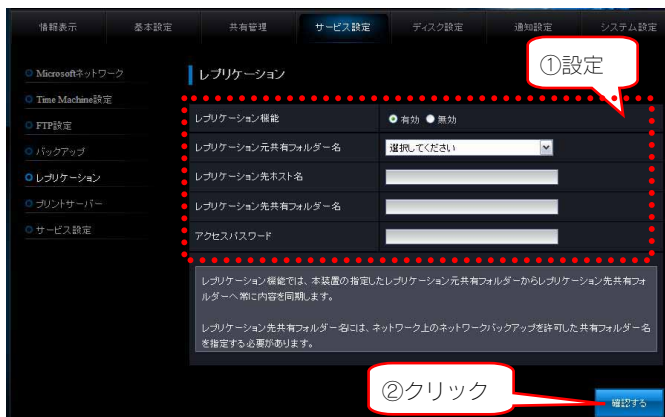
1 レプリケーション元の本製品の[詳細設定]から、「基本設定」→「ネットワーク設定」をクリックし、13-79ページの設定例のLAN、EXTポート設定となっていることを確認してください。

2 レプリケーション元の本製品の[詳細設定]から、[サービス設定]→[レプリケーション]をクリックします。

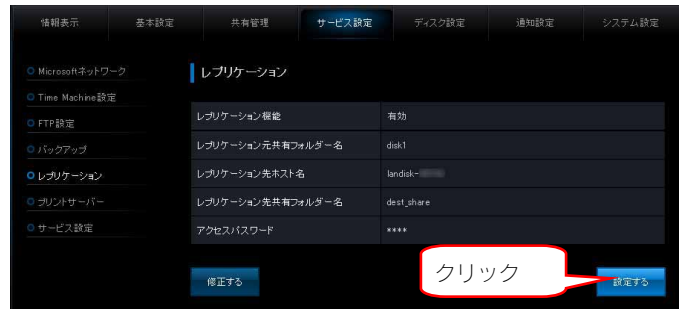


3 以下の項目を設定し、[確認する]ボタンをクリックします。

レプリケーション機能	有効を選択します。
レプリケーション元共有フォルダー名	13-79 ページ設定例の「レプリケーション元共有フォルダー名」を選択してください。
レプリケーション先ホスト名	【①レプリケーション先（予備機）の本製品の設定する】手順7でメモした「名前」もしくは「IPアドレス」を入力します。
レプリケーション先共有フォルダー名	13-79 ページ設定例の「レプリケーション先共有フォルダー」を入力します。
アクセスパスワード	【①レプリケーション先（予備機）の本製品の設定する】手順4で設定したアクセスパスワードを入力します。アクセスパスワードを未設定の場合は何も入力しないでください。



4 設定内容を確認し、「設定する」ボタンをクリックします。



ご注意

- レプリケーションの設定に失敗した場合は、【レプリケーション設定時に「レプリケーション先に接続できませんでした。」と表示された】(24-178 ページ)をご覧ください。

5 レプリケーションの状態を確認します。レプリケーション元の本製品の[詳細設定]から、「情報表示」→「ログ情報」をクリックしてください。下記のログが設定後の時間に確認できればレプリケーションは開始されています。

レプリケーション：初期同期を開始しました。

ログの内容については、【ログ一覧】(24-126 ページ)をご覧ください。

以上でレプリケーション設定は完了です。

ミラーリング

ミラーリングに使用できる増設ハードディスク

本製品本体と eSATA ハードディスクでミラーリングを構築することができます。

ミラーリングとして増設できるハードディスク（ミラーディスク）は、以下のハードディスクです。

※最新の対応機器については、弊社ホームページ（<http://www.iodata.jp/support/product/hdl-xr/>）をご覧ください。

ミラーリングで使用できる動作確認済みのハードディスク	以下の弊社製ハードディスクが対応しています。 ・ RHD-UX シリーズ				
ミラーリングで接続する本製品のポート	背面の [eSATA ポート] に接続する必要があります。 本製品の [USB ポート 1 または 2] に接続してもミラーリングを構築することはできません。 すでに [eSATA ポート] に、ミラーリングを構築する以外の増設ハードディスクを接続している場合は、一度取り外す必要があります。 【増設ハードディスクを取り外す】 (11-63 ページ)				
ミラーリングに必要な増設ハードディスクの容量	HDL-XR2.0 とミラーリングを行う場合 <table border="1"><tr><td>RAID6 および暗号化 RAID6</td><td>約 1 TB</td></tr><tr><td>RAID5 および暗号化 RAID5</td><td>約 1.5TB</td></tr></table>	RAID6 および暗号化 RAID6	約 1 TB	RAID5 および暗号化 RAID5	約 1.5TB
RAID6 および暗号化 RAID6	約 1 TB				
RAID5 および暗号化 RAID5	約 1.5TB				

ご注意

- ミラーリングを構築するには、内蔵ボリュームが次のミラーリング可能な RAID モードである必要があります。
RAID6、RAID5、暗号化 RAID6、暗号化 RAID5
- HDL-XR/2D シリーズでは、eSATA ミラーリング機能をご利用いただけません。

ミラーリングする

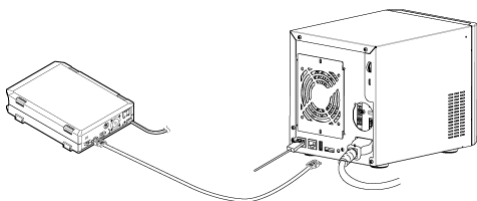
1 本製品の電源が入っていることを確認します。

ご注意

- 本製品の電源が入っている状態で接続できます。
- eSATA ミラーリングを行うには、内蔵ボリュームが次のミラーリング可能な RAID モードである必要があります。
RAID6、RAID5、暗号化 RAID6、暗号化 RAID5

2 eSATAハードディスクの電源ケーブルを電源コンセントに接続します。

3 本製品の [eSATA ポート] に eSATA ハードディスクを接続します。
※接続する eSATA ハードディスクに電源連動機能がある場合は、本製品に接続してはじめて電源が入ります。eSATA ハードディスクの電源連動機能については、eSATAハードディスクの取扱説明書をご覧ください。



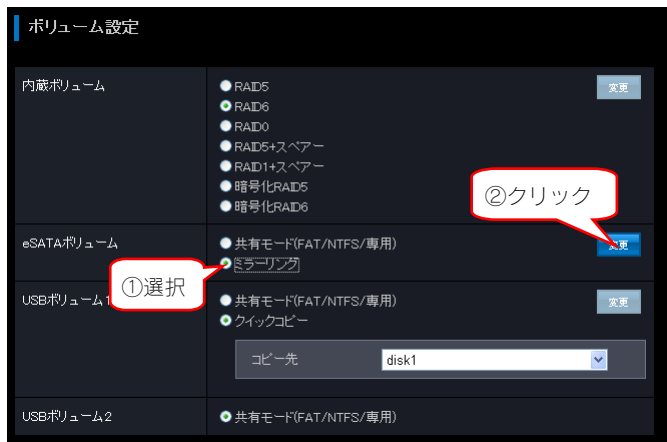
ご注意

- 本製品のランプが点滅中は、増設ハードディスクを接続しないでください。
本製品の電源が入っている状態で接続できますが、[STATUS]ランプが点滅中（設定画面操作中）や、本製品にアクセス中（[ACCESS]ランプが点滅中）に増設ハードディスクを接続しないでください。
本製品にすでに別の増設ハードディスクを接続している場合にも、そのハードディスクのランプをご確認ください。

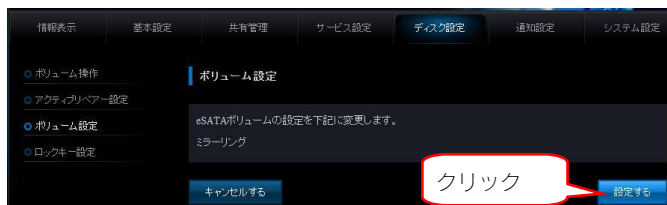
4 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム設定]をクリックします。



5 [eSATA ボリューム]の[ミラーリング]を選択し、[変更]ボタンをクリックします。



6 [設定する]ボタンをクリックします。



7 本製品の [STATUS] ランプが点灯し、結果画面が表示されたら、ミラーリング設定完了です。
続けてミラーリング再構築が行われます。
再構築が完了すれば、システムの復旧はすべて完了です。
構築中は、[STATUS] ランプが緑点灯、4つの [ACCESS] ランプはすべて青点滅します。
※動作モードと構築状況は、[情報表示]の [ボリューム情報] 画面の[eSATA ボリューム]の[動作モード]、[状態]で確認することができます。[再構築中]の表示が、[正常動作]の表示となれば、構築終了です。
※再確認するには、[情報表示] → [ボリューム情報] をクリックしてください。一度開いた [ボリューム情報] 画面の情報は、再度 [ボリューム情報] 画面を開かないと更新されません。

以上でミラーリングの設定は完了です。
ミラーリング可能な容量で空の eSATA ハードディスクが接続されている場合はミラーリングが開始されます。
ミラーリングが開始されない場合は eSATA ハードディスクの容量や中身を確認の上、ボリューム操作からミラーリングを開始してください。

ご注意

- ミラーリングの途中で本製品の電源を切るとミラーリングは完了しません。ミラーリングが完了したことを確認してから本製品の電源を切ってください。

ご注意

[STATUS]ランプが赤点灯になりブザーがピーピーピーと鳴った場合は、eSATAハードディスクにデータが入っている状態です。

この場合は待機中の状態となり自動的にミラーリングを開始しません。必要に応じてバックアップをして、下記の手順でミラーリングを再開させてください。

①[詳細設定]→[ディスク設定]→[ボリューム操作]をクリックします。

②[内蔵ボリューム]の[内蔵からeSATAへミラーリング開始]をチェックし、[実行]ボタンをクリックします。



ミラーディスクを保管する

本製品とeSATAハードディスクでミラーリング運用中にeSATAハードディスクを「ミラーディスクの取り外し」機能で取り外すことができます。

ミラーディスクの保管について

取り外したeSATAハードディスクは、取り外した時点のミラーリング上に作成した「共有データ」、「登録ユーザー」、「グループ情報」、「ネットワーク設定」などすべての設定情報が記録されたミラーディスクとして保管できます。

本製品に接続するeSATAハードディスクを定期的に変換することで、ミラーリングを行いながら、ミラーリングしたディスク上に作成した共有データ、すべての設定情報を一定期間バックアップとして保管するといった運用も可能になります。

1

[詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム操作]をクリックします。



2

[eSATAボリューム]で[ディスクの取り外し]を選択後、[実行]ボタンをクリックします。



3

本製品の電源が切れること（[POWER]ランプが赤点灯すること）を確認し、eSATAハードディスクを取り外します。

ご注意

● [ミラーディスクの取り外し]を行った後、別のeSATAハードディスクを接続すると、ミラーリングを開始します。ただし、eSATAハードディスクがFAT/NTFSフォーマットでデータがある場合は、そのままではミラーリングを開始しません。

eSATAハードディスクを接続後、[詳細設定]→[ディスク設定]→[ボリューム操作]で内蔵ボリュームの設定を「内蔵からeSATAへミラーリング開始」にチェックし「実行」をクリックしてください。

以上でミラーディスクの保管は完了です。

ミラーディスクから復旧する

本製品のシステムを、[ミラーディスクの取り外し]を行った eSATA ハードディスクのシステムに戻す（復旧する）ことができます。

ご注意

ミラーリングの再構築にはディスク容量および処理中の本製品の使用状況にもよりますが、目安として RAID6 構成の HDL-XR2.0 において約 16 時間要します。再構築中はミラーリングによるデータ保護が有効ではありませんのでご注意ください。

1

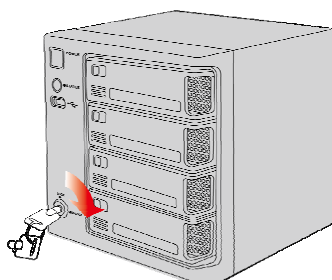
本製品の電源が切れていることを確認します。
（[POWER] ランプが赤点灯していることを確認します。）

ご注意

本製品の電源が入っている場合は、[電源] ボタンを押して、電源を切ります。

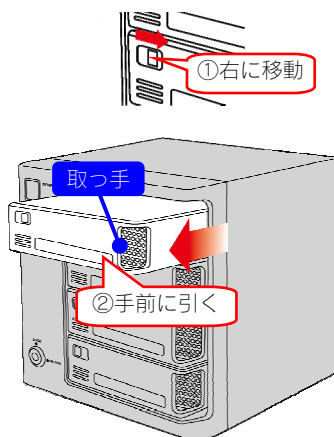
2

前面の[カートリッジ固定 LOCK]を開錠（[UNLOCK]）します。
添付のロックキーを[カートリッジ固定 LOCK]に挿し、時計回りにまわして、[UNLOCK]にします。



3

カートリッジ4台すべて取り外します。
※どのカートリッジから取り外しても構いません。
①カートリッジの「スライドスイッチ」を右に移動（[UNLOCK]）します。
②カートリッジの「取っ手」を手前に引いてカートリッジを取り出します。

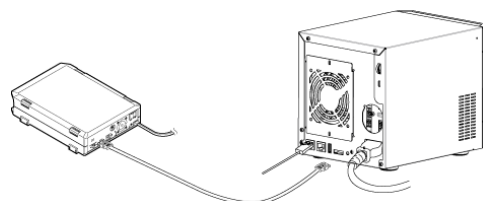


4

[ミラーディスクの取り外し]を行った eSATA ハードディスクの電源ケーブルを電源コンセントに接続します。

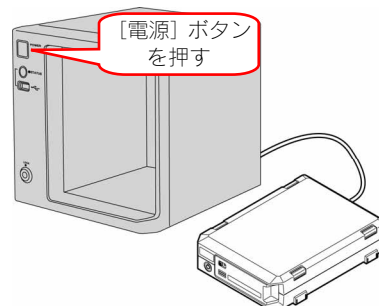
5

本製品の [eSATA ポート] に eSATA ハードディスクを接続します。
※接続する eSATA ハードディスクに電源連動機能がある場合は、本製品に接続してはじめて電源が入ります。eSATA ハードディスクの電源連動機能については、eSATA ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。



6

本製品の[電源]ボタンを押します。
[STATUS]ランプが緑点滅になります。
このあと、[STATUS]ランプが赤点滅に変わり、ブザーが1秒間隔で鳴り続けます。
これは内蔵 HDD が接続されていないため、ミラーリングが「異常」状態で起動したためですが、問題ありません。



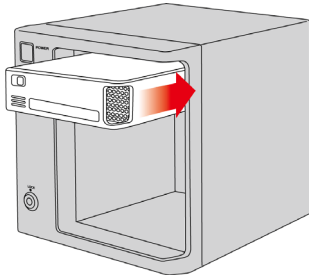
ご注意

ブザーを止めるには、前面の[FUNC.]ボタンを押してください。ブザーが約 1 秒間隔で鳴る(約 1 秒間に 1 回鳴る)場合は、eSATA ハードディスクから起動できていますが、ブザーが約 0.5 秒間隔で鳴る(約 1 秒間で 2 回鳴る)場合は、eSATA ハードディスクから起動できていない可能性があります。

[FUNC.] ボタンを押して、いったんブザーを止めた後、以下をご覧ください。

【[ミラーディスクの取り外し]を行った eSATA ハードディスクから起動できない】 (26-168 ページ)

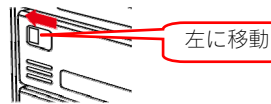
- 7 カートリッジを1台ずつ順に取り付けます。
カートリッジをスロットの奥まで挿入します。



ご注意

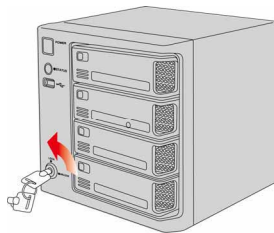
同時に複数台取り付けないでください。
各カートリッジの接続が正常に認識されたかどうかは、カートリッジの[ACCESS]ランプを確認してください。[ACCESS]ランプが青点灯になったら、次のカートリッジを取り付けるようにしてください。[ACCESS]ランプが青点灯になっていない状態で、別のカートリッジを取り付けると、正しく構築できない場合があります。

- 8 取り付けたカートリッジの [スライドスイッチ] を左側 ([LOCK]) に移動させます。
[ACCESS] ランプが青点灯になるまでお待ちください。



- 9 2台目以降のカートリッジも同様に取り付け、4台ともすべて取り付けます。

- 10 すべてのカートリッジを取り付けた後、添付のロックキーを [カートリッジ固定 LOCK] に挿し、反時計回りにまわして、[LOCK] にします。



- 11 すべてのカートリッジの [ACCESS] ランプが青点灯となっていることを確認した後、Web ブラウザーから本製品の設定画面を開きます。

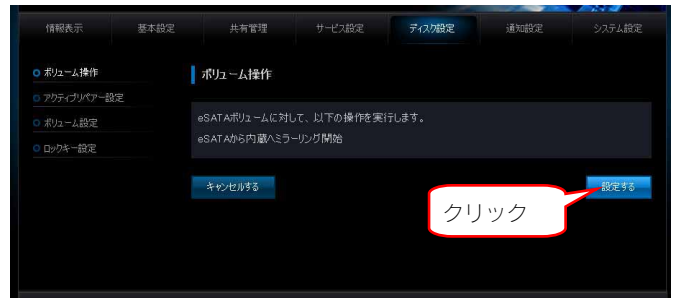
- 12 [詳細設定] から、[ディスク設定] → [ボリューム操作] をクリックします。



- 13 [eSATA ボリューム] → [eSATA から内蔵へミラーリング開始] を選択後、[実行] ボタンをクリックします。



- 14 [設定する] ボタンをクリックします。



- 15 本製品の [STATUS] ランプが点灯し、結果画面が表示されたら、ミラーリング設定完了です。
続けてミラーリング再構築が行われます。
再構築が完了すれば、システムの復旧はすべて完了です。
構築中は、[STATUS] ランプが緑点灯、4つの [ACCESS] ランプはすべて青点滅します。
構築状況は、[情報表示] の [ボリューム情報] 画面の [eSATA ボリューム] の [状態] 情報で確認することができます。
[再構築中] の表示が、[正常動作] の表示となれば、構築終了です。
※再確認するには、[情報表示] → [ボリューム情報] をクリックしてください。一度開いた [ボリューム情報] 画面の情報は、再度 [ボリューム情報] 画面を開かないと更新されません。

以上の操作で、eSATA ハードディスクからシステムが復旧されます。

Time Machine

Time Machine 設定をする

本製品の特定の共有フォルダーを、Mac OS X 10.5 以降で使用できる Time Machine 機能のバックアップディスクとして使用できるようにします。

ご注意

- Time Machine 設定で登録できる Mac は、1 台のみです。
- Time Machine 設定を行うと、設定した保存先共有フォルダーに次のファイル・フォルダーが自動的に作成されます。
 .com.apple.timemachine.supported (Macintosh のコンピューター名)_(Macintosh の MAC アドレス).sparsebundle
 これらのファイル・フォルダーは Time Machine を動作させるために必要ですので、削除しないでください。
- Time Machine 設定を無効にして使用しなくなった場合は、上記のファイル・フォルダーは削除しても構いません。

本製品の設定をする

- 1 [詳細設定]から、[サービス設定]→[Time Machine 設定]をクリックします。



- 2 [Time Machine 機能] の [有効] を選択し、バックアップ先として指定したい共有フォルダーなどを設定し、[確認する]ボタンをクリックします。



- 3 設定を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です

Mac OS 側の設定をする

- 1 [システム環境設定]→[Time Machine]を開きます。

- 2 スイッチを[入]にします。

- 3 保存先ディスクを選択する画面が開きますので、本製品の保存先共有フォルダーを指定します。

以上で、設定は完了です

Time Machine 機能	有効に設定します。
保存先共有フォルダー	保存先共有フォルダーを指定します。
Macintosh のコンピューター名	Macintosh のコンピューター名を入力します。 コンピューター名は、Mac OS の[システム環境設定]→[共有]を開き、「コンピューター名」で確認できます。
Macintosh の MAC アドレス	Macintosh の MAC アドレスを入力します。 MAC アドレスは、以下の方法で確認できます。 ①Mac OS の[システム環境設定]→[ネットワーク]を開きます。 ②左のネットワークインターフェース一覧から、[Ethernet]を選択し、[詳細...]ボタンをクリックします。 ③[Ethernet]タブをクリックして表示される [Ethernet ID]で確認できます。

UPS 装置を接続する

UPS 装置の接続する

UPS 装置を接続する

ご注意

- 最新の対応機器については、弊社製品ホームページ (<http://www.iodata.jp/support/product/hdl-xr/>)をご覧ください。
- UPS 装置を電源コンセントに、本製品を UPS 装置のコンセントに、正しく接続してください。
- 本製品の電源が入っている場合に UPS の接続・取り外しを行う場合は、30 秒以上間隔をあけてください。

1 UPS 装置の電源を入れ、UPS 装置が起動することを確認します。

2 本製品の USB ポートに UPS 装置を接続します。
本製品の電源が入っていても接続できます。

以上で接続は完了です。

次に正しく接続されているかを確認します。

UPS 装置の接続を確認する

1 [詳細設定]から、[情報表示]→[システム情報]をクリックし、「UPS 接続状態」で「正常」と表示されることを確認します。

ご注意

- 「UPS 接続状態」で「未接続」と表示される場合
→UPS 装置が本製品の USB ポートに接続されていないと考えられます。
- 「UPS 接続状態」で「バッテリー動作」と表示される場合
→停電状態で、UPS 装置のバッテリーによる動作状態と考えられます。

UPS 警告機能を有効にする

本製品と UPS 装置の接続状態を監視し、以下の状態を [STATUS] ランプやブザーでお知らせします。

- ・システム起動時に、UPS 装置が接続されていない状態を検知
- ・システム稼動中に、UPS 接続ケーブルが抜けたことを検知

1 [詳細設定]から、[システム設定]→[UPS 設定]をクリックします。



2 [UPS 警告機能]の[有効]を選択し、[確認する]ボタンをクリックします。



3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

便利な使いかた

- [通知設定] → [イベント通知設定] → [UPS 警告]を設定すると、UPS 警告メールを送信したり、1 時間に 1 回、定期的な再警告を行うことができます。
- 「AC 電源復旧時の自動起動」を「自動起動する」に設定しておくと、停電から復旧した際に本製品を自動起動させることができます。

ご注意

- 停電時、「停電後の経過時間」にて設定された時間よりも早く、UPS 装置のバッテリー残容量が約 30%以下となった場合もシャットダウンします。
- 本製品は停電時のシャットダウンの際、UPS 装置にシャットダウン信号を送ってシャットダウンします。UPS 装置はシャットダウン信号を受信後、数分後に電源出力コンセントの出力を停止しますので次をお守りください。
 - ・停電中には本機器の電源を手動では投入しないでください。
 - ・停電から復帰した場合でも、UPS がシャットダウン処理中の場合もあります。本機器の電源を投入するときは、UPS がシャットダウン処理から復帰しているをご確認ください。
- 停電から復旧して 10 分経過しても本製品が自動起動しない場合は、電源ボタンを押して起動してください。

ネットワークシャットダウン機能を有効にする

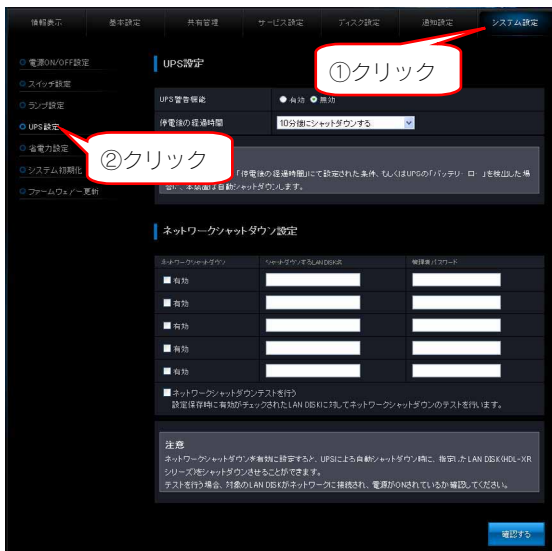
UPS 装置を接続すると、停電時に本製品を自動的にシャットダウンすることができます。
 ひとつの UPS 装置に複数の HDL-XR シリーズの電源を接続して使用する場合、ネットワークシャットダウン機能を設定することにより、UPS 接続ケーブルを接続していない HDL-XR シリーズも停電時のシャットダウンを同時に行うことができます。

下記の例では、HDL-XR①に[UPS 監視ケーブル(USB)]を接続し、UPS を監視しています。
 停電時には、HDL-XR①からのシャットダウンコマンドを受けて、HDL-XR②、③もシャットダウンを実行します。

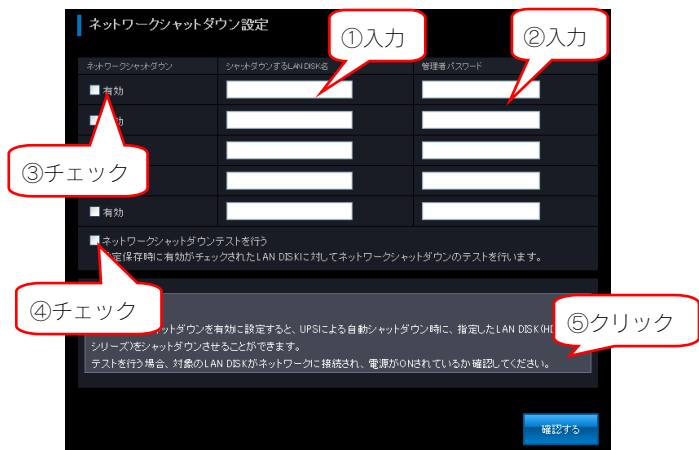


- ご注意**
- ネットワークシャットダウン設定および、ネットワークシャットダウン先の HDL-XR シリーズは、ファームウェアバージョンが 1.01 以降である必要があります。
 - 停電時、HUB などのネットワーク機器が正しく動作しないなどの要因で、ネットワークシャットダウン設定を行った HDL-XR シリーズから、ネットワークシャットダウン先の HDL-XR シリーズへのネットワークアクセスができない場合、ネットワークシャットダウンは実行できません。ネットワークシャットダウンを行う場合、ネットワーク経路上のすべてのネットワーク機器について、UPS による電源保護する必要があります。

1 [詳細設定]から、[システム設定]→[UPS 設定]をクリックします。



2 [ネットワークシャットダウン設定]で次の設定をします。
 ①停電時にシャットダウンする[LAN DISK 名] (または IP アドレス) を入力します。
 ②[管理者パスワード]を入力します。
 ③[有効]にチェックをつけます。
 ④設定が正しいかどうかテストするために、ネットワークシャットダウンを実行する場合は、[ネットワークシャットダウンテストを行う]にチェックをつけます。
 ⑤[確認する]ボタンをクリックします。



3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

- ご注意**
- ネットワークシャットダウンテストを行うと、指定した LAN DISK は実際にシャットダウンを行います。ネットワークシャットダウンテストを行う場合は、対象の LAN DISK がネットワークに接続され、電源が ON になっていることを確認してください。

FTP 共有

本製品での FTP 共有機能

FTP 共有サービスにより、「FTP 共有」オプションを有効に設定した共有フォルダーに、FTP クライアントよりアクセスすることができます。FTP 共有サービスを利用して本製品にアクセスする際の権限は、共有フォルダーに設定したアクセス権設定により以下ようになります。

本製品の FTP 共有サービスに、「anonymous」ユーザーでアクセスする場合	<ul style="list-style-type: none">・共有フォルダーの詳細アクセス権設定を無効にした共有フォルダーにアクセスできます。・共有フォルダーの読み取り専用オプションをチェックしている場合は、ダウンロードのみ可能です。・共有フォルダーの読み取り専用オプションを未チェックの場合は、ダウンロード/アップロードが可能です。
本製品の FTP 共有サービスに、本製品に登録したユーザーでアクセスする場合	<ul style="list-style-type: none">・本製品に登録したユーザー名とパスワードで FTP 共有に接続できます。・登録したユーザー名、もしくは、登録したユーザーが含まれるグループ名に設定したアクセス権にしたがってアクセスできます。 読み取り → ダウンロードのみ可能 読み書き → ダウンロード/アップロードが可能 ただし、共有フォルダーの読み取り専用オプションをチェックしている場合は、上記の設定にかかわらず、ダウンロードのみ可能です。

FTP 共有を有効にする

1 [詳細設定]から、[サービス設定]→[サービス設定]をクリックします。



2 [FTP 共有]の[有効]を選択し、[設定する]をクリックします。



3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

4 [詳細設定]から、[サービス設定]→[FTP 設定]をクリックします。



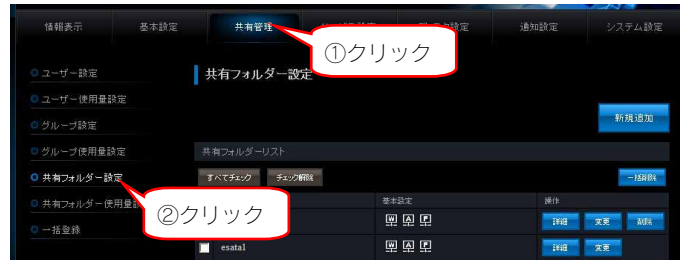
5 各項目を設定し、[確認する]をクリックします。



ポート番号	ネットワーク環境に応じて変更してください。通常は変更する必要はありません。
エンコード	接続する FTP クライアントによっては、ファイル名が文字化けする場合があります。使用するクライアントに合わせてエンコードを選択してください。

6 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

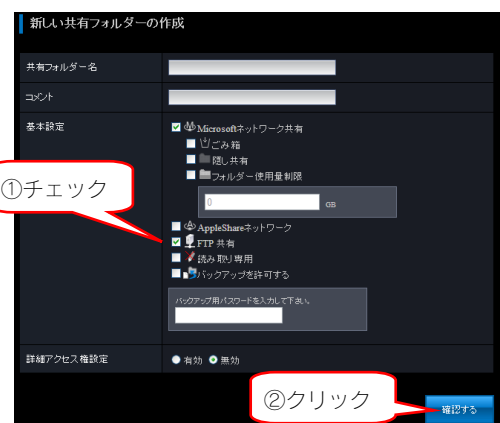
7 [共有管理]→[共有フォルダ設定]をクリックします。



8 許可する共有フォルダの[変更]ボタンをクリックします。



9 [FTP 共有]にチェックをつけ、[確認する]ボタンをクリックします。



ご注意
[Microsoft ネットワーク共有]の[共有フォルダ使用量制限]を有効にしている場合は[FTP 共有]を有効にできません。

10 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

FTP クライアントからのご利用について

詳細アクセス権を設定している場合

作成した FTP 用の共有フォルダーに保存されているファイルを FTP 経由でダウンロードできます。アクセス許可設定したユーザー/グループに限りアクセスできます。FTP クライアントから接続するには、下記のユーザー名、パスワードでログオンしてください。

ユーザー名 : 設定したユーザー名

パスワード : 設定したパスワード

アップロードしたファイルの使用量は、ログオンしたユーザーおよび、ユーザーのプライマリグループに加算されます。

【使用量制限】(8-49 ページ)

詳細アクセス権を設定していない場合

作成した FTP 用の共有フォルダーはネットワーク経由で誰でもデータをダウンロード/アップロードできるようになります。FTP クライアントから接続するには、下記のユーザー名、パスワードでログオンしてください。

ユーザー名 : anonymous もしくは ftp

パスワード : 任意

anonymous もしくは ftp ユーザーでファイルをアップロードした場合のファイルの使用量はゲストユーザーに加算されません。

公開フォルダーについて

- ログイン直後はフォルダーの最上位階層(/)が見えます。このフォルダーや sataraid1 フォルダーには、フォルダーを作成したりファイルを保存することはできません。
- 内蔵ボリューム上に作成した共有フォルダーは、以下のフォルダーに公開されます。
/sataraid1/作成した共有名
- eSATA ポートに接続した eSATA ハードディスクは、FTP で公開すると、以下のようにアクセスできます。
/esata1
- USB ポート 1 に接続した USB ハードディスクは、FTP で公開すると、以下のようにアクセスできます。
/usb1
- USB ポート 2 に接続した USB ハードディスクは、FTP で公開すると、以下のようにアクセスできます。
/usb2

```

/ ---+--- sataraid1 ---+--- 作成した共有名 1
|
| :                               +--- 作成した共有名 2
| :                               +--- ...
| :
| :
+-- esata1
|
| :
+-- usb1
|
| :
+-- usb2

```

FTP クライアントソフトについて

本製品に FTP でアクセスするには、FTP クライアントソフトが必要となりますので、別途ご用意ください。なお、Windows 標準の FTP 機能を使用する場合は、右をご覧ください。

ご注意

- ご使用になる FTP クライアントソフトのサポートする文字コードにあわせて、[サービス設定]→[FTP 設定]のエンコードを選択してください。

日本語ファイル名を取り扱う場合は、Shift-JIS もしくは UTF-8 の文字コードに対応した FTP クライアントソフトをご利用ください。

Windows 標準の FTP 機能を使用する場合

※Windows 標準の FTP 機能の詳細な操作方法や不明点は、各パソコンメーカーへお問い合わせください。

ここでは、Windows の FTP コマンドによるアクセスの例を説明します。

- 1 あらかじめ本製品の「FTP 設定」のエンコードを「Shift-JIS」に変更しておいてください。
- 2 [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。
- 3 コマンドプロンプトのカレントディレクトリを FTP でアップロードするファイルを保存したフォルダー、または FTP でダウンロードしたファイルを保存するフォルダーに移動します。
C:¥FTP フォルダーにカレントディレクトリを移動する場合
> cd c:¥ftp
- 4 コマンドプロンプトに以下のように入力します
>ftp xxx.xxx.xxx.xxx
※「xxx.xxx.xxx.xxx」の部分は、同一 LAN 内から接続する場合は本製品の IP アドレスを入力します。
- 5 ユーザー名、パスワードを入力します。
アクセスする共有フォルダーへのアクセス権を持ったユーザー名とパスワードを入力してください。
※詳細アクセス権設定していない共有フォルダーへのアクセスには以下のユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名 : anonymous もしくは ftp
パスワード : 任意
- 6 FTP によるアクセスを行います。
以下は内蔵ボリューム上の共有フォルダー「disk1」に対する操作例です。
 - ファイルのアップロード
ftp > cd /sataraid1/disk1
ftp > put アップロードするファイル名
 - ファイルのダウンロード
ftp > cd /sataraid1/disk1
ftp > get ダウンロードするファイル名
 - FTP アクセスを終了
ftp > bye

ご注意

- エクスプローラまたは、Internet Explorer のアドレスバーで ftp://xxx.xxx.xxx.xxx/ (xxx.xxx.xxx.xxx の部分は、本製品の IP アドレス) や ftp://LAN DISK の名前/ でアクセスした場合、全角文字が文字化けした状態で表示される場合があります。これらの FTP クライアントをご利用になる場合は、共有フォルダー名・フォルダー名・ファイル名は、半角英数文字のみご使用ください。
- FTP 共有機能を使用すると、フォルダーやファイル名が文字化けしてしまう場合は、以下をご覧ください。

[【困ったときには】の \(26-193 ページ\)](#)

Microsoft ネットワーク共有サービスアクセスログ

本製品に対してどのような操作を行ったかを記録することができます。

ファイルの参照・作成・編集などのアクセス記録がリアルタイムに記録されます。

また、管理者宛にメールでログを一括転送するように設定できますので、監査記録として利用することができます。

アクセスログを有効にする

- 1 [詳細設定]から、[サービス設定]→[サービス設定]をクリックします。



- 2 Microsoft ネットワーク共有の[アクセスログを記録]にチェックをつけ、[設定する]ボタンをクリックします。



- 3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

アクセスログを確認する

- 1 [詳細設定]から、[情報表示]→[アクセスログ]をクリックします。



- 2 ログが表示されます。

ご注意

- アクセスログをメール送信する場合は、[通知設定]→[イベント通知]設定の「ログ転送」の「メール通知」にチェックを付けてメールアドレスを設定してください。アクセスログも送信されるようになります。

【通知機能】 (19-96ページ)

アクセスログのリファレンス

① 2009/10/08 09:18:58 ② user1 ③ (xxx.xxx.xxx.xxx): ④ connect ⑤ ok: ⑥ disk1 ⑦ test.txt

No	内容
①	日時が表示されます。
②	操作を行ったユーザー名が表示されます。 ※ゲストユーザーは「nobody」と表示されます。
③	クライアントパソコンの IP アドレスが表示されます。
④	クライアントパソコンから行われた操作が表示されます。表示される操作は下記です。 connect - クライアント PC が共有フォルダーに接続した際に表示されます。 disconnect - クライアント PC が共有フォルダーの接続を解除した際に表示されます。 open_read - 対象ファイルを読み込みモードで開いたときに表示されます。 open_write - 対象ファイルを書き込みモードで開いたときに表示されます。 close - ファイルが閉じられた際に表示されます。 mkdir - フォルダー作成時に表示されます。 rmdir - フォルダー削除時に表示されます。 rename - ファイル/フォルダーの名前が変更されたときに表示されます。 unlink - ファイル削除時に表示されます。
⑤	操作結果が表示されます。 ok-操作成功 fail(xxxx)-操作失敗
⑥	操作対象共有フォルダー名が表示されます。
⑦	操作対象が表示されます。

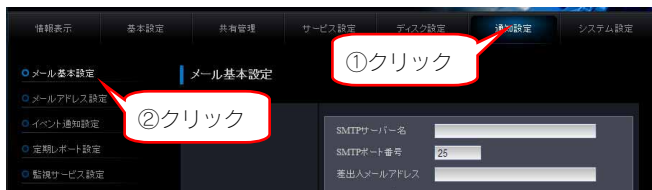
通知機能

メール基本設定

各種情報をメール送信するための設定を行います。

本製品でメール通知機能を利用するには、メール基本設定が正しく設定されていることが必要です。必ずテストメールを送信し、メール基本設定が正しく行われていることを確認してください。

1 [詳細設定]から、[通知設定]→[メール基本設定]をクリックします。



2 必要項目の設定を行い、[確認する]ボタンをクリックします。



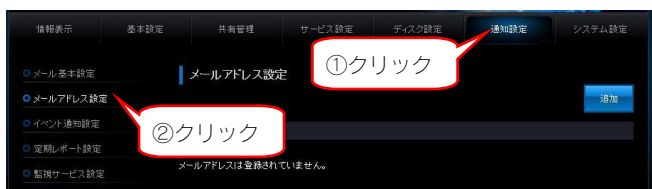
SMTP サーバー名	メール送信に利用する SMTP サーバーを設定します。プロバイダーや会社から指定されたサーバー名を入力してください。
SMTP ポート番号	メール送信に利用する TCP ポート番号を指定します。(初期値: 25) ご利用のプロバイダがセキュリティ上の理由で 25 番ポートでのメール送信を遮断している場合は、適切な番号に変更してください。
差出人メールアドレス	送信するメールアドレスの差出人を設定することができます。送信メールサーバーが差出人チェックを実行している場合や、どこから送られてきているのかを明確にしたい場合などに設定します。
メールエンコード	送信するメールのエンコードを選択します。受信するメーラーの設定に合わせてください。
認証方式	メール送信時の認証方式を選択できます。指定する SMTP サーバーがサポートしている認証方式を設定してください。
メール通知テスト	テストメールを送信します。送信先のメールアドレスを入力します。

3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

メールアドレス設定

メール通知設定に登録する個々のメールアドレスに対して、基本設定で設定したメールエンコードとは異なるエンコード送信したい場合は、メールアドレス設定にて指定することができます。

1 [詳細設定]から、[通知設定]→[メールアドレス設定]をクリックします。



2 [追加]ボタンをクリックします。



3 追加するメールアドレスを入力し、[確認する]ボタンをクリックします。



4 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

イベント通知設定

通知を行いたいイベントを設定します。

メール通知イベントについては【メール通知一覧】(24-130ページ)を確認してください。

また、本製品でメール通知機能を利用するには、メール基本設定が正しく設定されていることが必要です。必ずテストメールを送信し、メール基本設定が正しく行われていることを確認してください。

1 [詳細設定]から、[通知設定]→[イベント通知設定]をクリックします。



2 イベントごとに、通知方法と通知先メールアドレスの設定を行います。

定期警告	チェックをつけると、該当の項目のエラーが発生している場合、1時間ごとにブザー、[STATUS]ランプ、メールによる再通知を行います。エラーを解決すると警告は止まります。エラー内容は、【メール通知一覧】(24-130ページ)を確認してください。
メール通知	チェックをつけると、エラー発生時および定期警告時に、メールを指定した宛先に送信します。



ご注意

- [ボリューム使用量警告]と[使用量制限警告]は「定期警告」を有効にしないと「メール通知」を有効にできません。

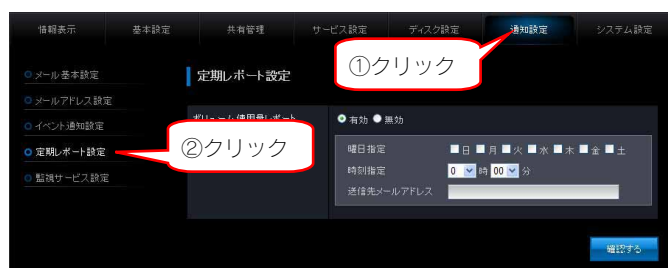
3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

定期レポート設定

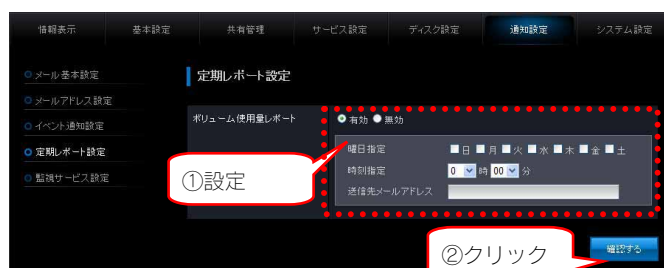
「ボリューム使用量レポート」を有効に設定すると、指定曜日の指定時刻に、内蔵ボリューム使用量のレポートメールを送信します。使用量制限機能が有効な場合は、ユーザー、グループ、および共有フォルダー別の使用量のレポートもします。

また、本製品でメール通知機能を利用するには、メール基本設定が正しく設定されていることが必要です。必ずテストメールを送信し、メール基本設定が正しく行われていることを確認してください。

1 [詳細設定]から、[通知設定]→[定期レポート設定]をクリックします。



2 レポート送信したい「曜日」「時刻」「送信先」を設定し、[確認する]をクリックします。



3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

監視サービス設定

ISS 監視サービスにご登録いただいた場合に設定が必要になります。

詳細は次のホームページをご覧ください。

<http://www.iodata.jp/support/service/iss/>

ISS 監視サービスご利用の際は、次の設定を行ってください。

- ・メール基本設定のメール送信時認証設定の設定
(認証方式は指定する SMTP サーバーがサポートしている認証方式である必要があります。)
- ・イベント通知設定の全ての項目の「メール通知」設定

また、本製品でメール通知機能を利用するには、メール基本設定が正しく設定されている必要があります。

必ずテストメールを送信し、メール基本設定が正しく行われていることを確認してください。

ご登録いただいた際に発行される「サービス有効化コード」が本製品に設定できない、ご登録内容が変更できないなど、監視サービス設定で問題がある場合はサポートセンターへお問合せください。

サポートセンターへのお問合せ先は以下のホームページをご覧ください。

<http://www.iodata.jp/support/after/>

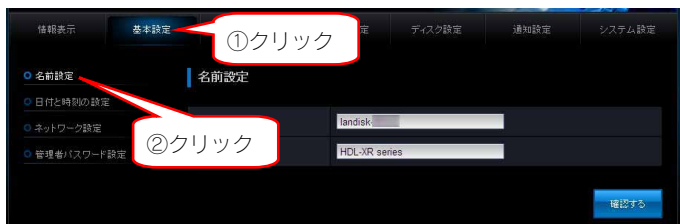
ご注意

- 監視サービス設定を有効する場合、本製品の省電力設定は有効に設定しないでください。

システム管理

LAN DISK の名前を変更する

1 [詳細設定]から、[基本設定]→[名前設定]をクリックします。



2 [LAN DISK の名前]を入力して、[確認する]ボタンをクリックします。



3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

日付と時刻を設定する

1 [詳細設定]から、[基本設定]→[日付と時刻の設定]をクリックします。



2 [日付と時刻]を入力して、[確認する]ボタンをクリックします。
※サーバーと同期する場合は、[同期する]にチェックをつけます。
※[PC の時刻を設定]ボタンをクリックするとパソコンに設定されている時刻が自動的に入力されます。

3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。
※インターネット環境下に接続されている場合は、サーバーと同期するを有効にした場合、設定と同時に同期を開始します。

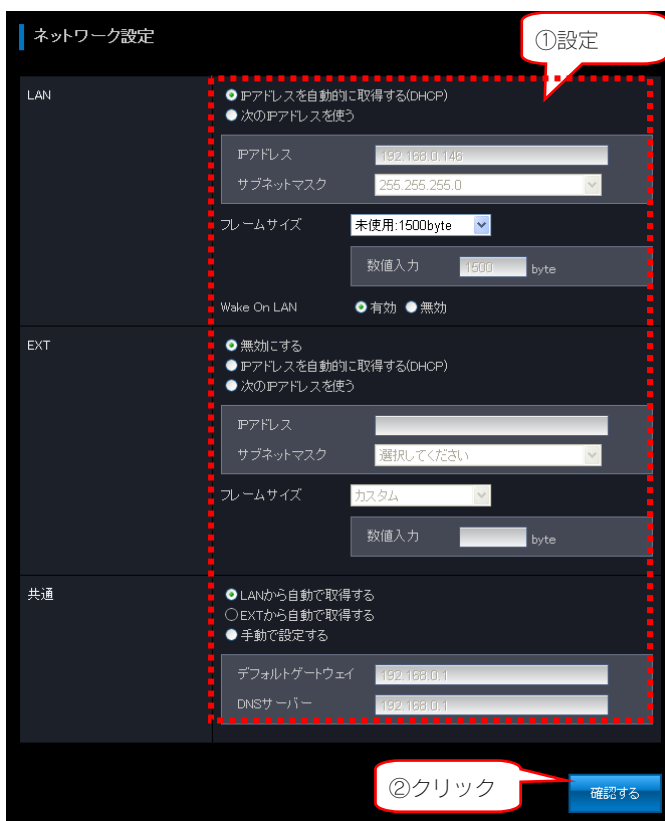
以上で、設定は完了です。



1 [詳細設定]から、[基本設定]→[ネットワーク設定]をクリックします。



2 各項目を設定し、[確認する]ボタンをクリックします。



3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

管理者パスワードを変更する

管理者は本製品の全設定や、すべての共有（全員共有、ユーザー共有、グループ共有）にアクセスできる権限を持っています。

※すべての共有にアクセスできるのはWindowsパソコンからのみです。他の人にパスワードが漏れないようしっかり管理し、定期的にパスワードを変更するようにしましょう。

※管理者パスワードは以下の場合に使用します。

- ・本製品の設定画面を開く場合
- ・「Magical Finder」からIP設定画面を開く場合
- ・管理者として共有フォルダーにアクセスする際のパスワード

ご注意

- パスワードは忘れないようしっかり管理してください。
設定したパスワードを忘れた場合、LAN DISK 稼動時に本製品背面の[RESET]ボタンを押すことにより、管理者パスワードとネットワーク設定が出荷時設定に戻ります。
【出荷時設定に戻す】（21-105 ページ）参照
- 出荷時、パスワードは設定されていません。

1

[詳細設定]から、[基本設定]→[管理者パスワード設定]をクリックします。



2

[パスワード]と[パスワード(確認)]に同じ新パスワードを入力して、[設定する]ボタンをクリックします。



以上で、設定は完了です。

シャットダウン/再起動する

1

[詳細設定]から、[システム設定]→[電源 ON/OFF 設定]をクリックします。



2

電源を切る場合は、[シャットダウン実行]ボタンをクリックします。
本製品を再起動する場合は、[再起動実行]ボタンをクリックします。



以上で、設定は完了です。

起動スケジュールを設定する

- 1 [詳細設定]から、[システム設定]→[電源 ON/OFF 設定]をクリックします。



- 2 各曜日の起動時間と終了時間を設定し、[確認する]ボタンをクリックします。



- 3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

ご注意

- 起動スケジュール設定を使用する場合は、電源コンセントに常に接続した状態（電源を切った場合は [POWER] ランプが赤点灯の状態：スタンバイ状態）にしておいてください。電源コンセントから電源ケーブルを取り外した状態では、起動スケジュール機能は動作しません。
- 起動スケジュールによる終了（シャットダウン）に関して、指定した終了時間にアクティブリペアー、バックアップ、リビルドが行われている場合、処理が完了するまで終了しません。
- LAN DISK 本体の時刻を正しく設定してください。

各スイッチを設定する

- 1 [詳細設定]から、[システム設定]→[スイッチ設定]をクリックします。



- 2 [リセットボタン]、[FUNC.ボタン]の[有効]/[無効]にチェックをつけ、[確認する]ボタンをクリックします。



- 3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

ご注意

- リセットボタンを無効に設定した場合、リセットボタンによるネットワーク設定の初期化、および管理者パスワードのリセット機能が無効になります。設定した管理者パスワードを忘れた場合、本製品の設定画面を開くことができなくなります。管理者パスワードは厳重に管理してください。

ランプの明るさを設定する

- 1 [詳細設定]から、[システム設定]→[ランプ設定]をクリックします。



- 2 [ランプの明るさ]の[明]/[中]/[暗]にチェックをつけ、[確認する]ボタンをクリックします。



- 3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

省電力機能を使う

省電力設定にすることにより、一定時間アクセスがなければ内蔵ハードディスクの回転を停止します。これにより電力消費を抑えることができます。また、本製品の省電力機能に対応しているドライブを増設ハードディスクとして使用することにより増設ハードディスクも同時に省電力モードに設定することができます。

- 1 [詳細設定]から、[システム設定]→[省電力設定]をクリックします。



- 2 各項目を設定し、[確認]ボタンをクリックします。



時間選択	停止までの時間を変更できます。 「10分後」「15分後」「20分後」「30分後」「1時間後」「なし」から選択できます。
各ボリューム	有効/無効：ボリューム毎に有効/無効を設定できます。

- 3 内容を確認し、[設定する]ボタンをクリックします。

以上で、設定は完了です。

ご注意

- eSATAポート、USBポートに接続した増設ディスクは、省電力機能に対応している場合のみ有効となります。
- 最新の対応機器については、弊社製品ホームページ (<http://www.iodata.jp/support/product/hdl-xr/>)をご覧ください。
- 設定時間内にハードディスクにアクセスしなくても、本製品のシステムがハードディスクにアクセスした場合は、ハードディスクは停止しません。
- ハードディスク停止中にアクセスしなくても、本製品システムからのアクセスによってディスクがスピンアップする場合があります。
- 冷却ファンは停止しません。
- 本製品をDHCPクライアントモードでご使用の場合、IPアドレスを更新する際に、内蔵ディスクがスピンアップします。また、ネットワークの通信中やシステム処理のためにディスクアクセスすることがあります。DHCPサーバーのリース時間を長く設定すると、アドレス更新によるスピンアップ間隔も長くできます。
- 監視サービス設定を有効する場合、本製品の省電力設定は有効に設定しないでください。
- 定期的に本製品にアクセスするソフトウェア（例：弊社製LANDISK Admin, SightOnなど）をお使いいただく場合、本製品の省電力設定を行っても、ハードディスク停止をしない場合があります。

ファームウェアを更新する

ファームウェアは弊社ホームページ(<http://www.iodata.jp/lib>)よりダウンロードできます。

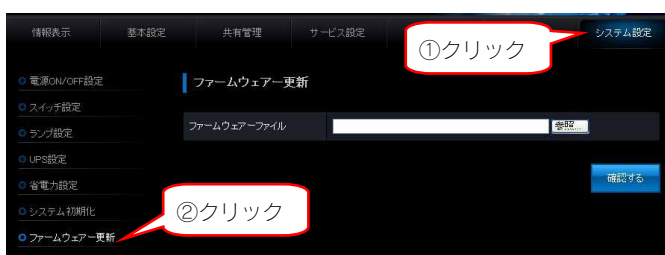
ファームウェアの更新（アップデート）には、新しい機能の追加のほかにも装置の修正など、重要な更新が含まれます。

定期的に弊社ホームページ (<http://www.iodata.jp/lib>) を確認し、最新のファームウェアで本製品をご利用ください。

ご注意

- ファームウェアを更新する際は、パソコンのファイアウォールの設定を解除してください。解除されていないと、正常に更新できない場合があります。
- ファームウェアの更新中は本製品の電源を切らないでください。更新中に電源を切ると、本製品を破損する恐れがあります。
- 完全にファームウェアを更新するために、本製品にアクセスしているユーザーがいないことを確認するか、パソコンと本製品を1対1で接続して実行してください。
- ファームウェアバージョンを以前のバージョンに戻すことはできません。
- ファームウェアのアップデートをしても設定やデータは消えませんが、万が一を考え大事なデータのバックアップは必ずお取りください。

- 1 [詳細設定]から、[システム設定]→[ファームウェア更新]をクリックします。



- 2 [参照]ボタンをクリックして、ダウンロードしたファームウェアのファイル名(update.tgz)を設定し、[確認する]ボタンをクリックします。



- 3 内容を確認し、[更新する]ボタンをクリックします。本製品の[STATUS]ランプが点滅を開始します。更新後、本製品が再起動します。
※ファームウェアのファイルサイズおよび本製品の状態により変化しますが、2~3分程度かかります。

以上で、ファームウェアの更新は完了です。

ご注意

- ファームウェアを更新後、設定画面が変更される場合がありますので、Web ブラウザーのキャッシュのクリアを行ってください。
Internet Explorer の場合は、Web ブラウザー画面上で、キーボードの[Ctrl]キーを押しながら、[F5]キーを押します。
Safari の場合は、Safari を起動し、メニューより[Safari]→[キャッシュを空にする]をクリックし、表示されるダイアログからキャッシュを空にします。

システムログを確認する

- 1 [詳細設定]から、[情報表示]→[ログ情報]をクリックします。



- 2 [ログ] 欄にシステムログが表示されます。上から新しい順に 100 件のログを表示します。

日付	ログを記録した日付を表示します。
時間	ログを記録した時間を表示します。
メッセージ	ログの内容を表示します。 [カテゴリー名]:[内容]

ご注意

- ログ情報は、以下のような状況のときに古いログから削除されます。
 - ・ログのサイズが一定のサイズを超えた場合
 - ・本製品をシャットダウンした場合
- ※システムログをメール送信する設定については、以下をご覧ください。
 - 【通知機能】 (19-96 ページ)
- ※システムログの一覧は、以下をご覧ください。
 - 【ログ一覧】 (24-126 ページ)

出荷時設定に戻す

IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す

本製品背面の [RESET] ボタンで初期化します。

万一本製品に設定した IP アドレスを忘れた場合や本製品設定時の管理者パスワードを忘れてしまった場合に行います。

初期化される項目は下記の3つのみです。

IP アドレス	LAN ポートの IP アドレスを [自動に取得する (DHCP)] に戻ります。 IP アドレスを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。
管理者パスワード	[未設定] に戻ります。 管理者パスワードを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。
フレームサイズ	[未使用: 1500byte] に戻ります。

ご注意

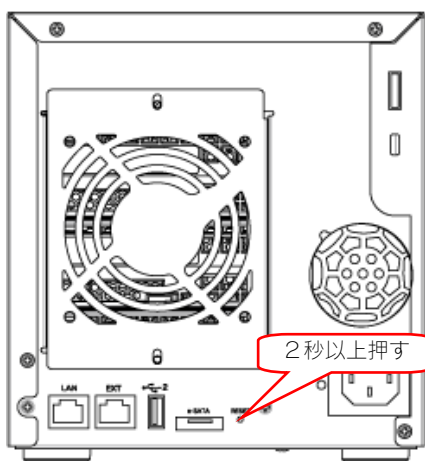
- 上記以外のすべての設定情報は変更されません。
- ハードディスク内のデータは残ります。(消去されません。)
- 初期化処理中は、本製品の電源を切らないでください。
- ネットワークに接続したまま行うことができます。

- 1 本製品の電源が入っていること ([POWER] ランプが緑点灯していること) を確認します。
電源が入っていない場合は、電源を入れます。

ご注意

- 初期化は、本製品の電源が入っている状態で行います。
- [ACCESS] ランプが点滅中には、初期化しないでください。

- 2 背面の [RESET] ボタンを先の細いもので約 2 秒以上、[STATUS] ランプが点滅し、「ピッ」と音が鳴るまで押しません。



- 3 [STATUS] ランプが緑色点灯 (DHCP サーバーがある場合)、または、赤色点灯 (DHCP サーバーがない場合) すれば、初期化完了です。

IP アドレスと管理者パスワードが初期値となりますので、再度設定をやり直してください。

本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す

設定画面の[システム初期化]で本製品のすべての設定を初期化し、内蔵ハードディスクをフォーマットします。

※HDL-XR2.0の場合で約6分かかります。(時間は本製品の容量によって変化します。)

初期化される項目は下記のとおりです。

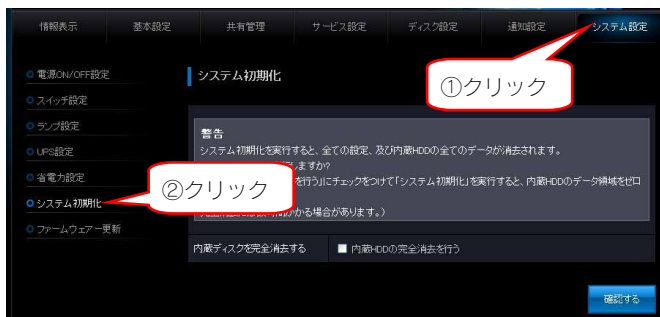
- ・すべての装置設定
- ・内蔵ハードディスクの全データ

ご注意

- 事前にハードディスク内のデータをバックアップしてください。(増設ハードディスクのデータも事前にバックアップしてください。)
- 増設ハードディスクのデータは消去されませんが、取り外しておくことをおすすめします。
- 内蔵ハードディスクの4つのカートリッジはすべて接続しておく必要があります。
- [システム初期化]を行うと、以前の RAID モードに関係なく、RAID6 になります。
- 動作モードもすべて初期設定に戻ります。
eSATA ハードディスクを [ミラーリングモード] でご利用の場合、先に [ミラーディスクの保管] を行ってください。

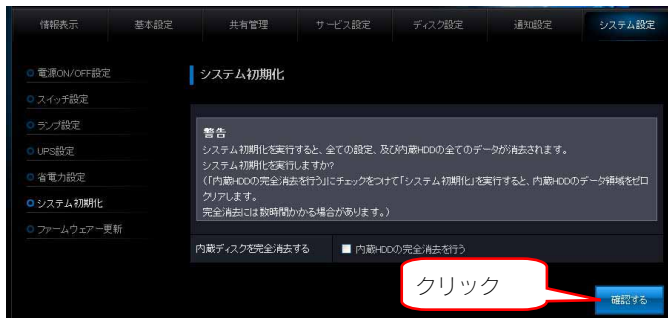
1

[詳細設定]から、[システム設定]→[システム初期化]をクリックします。



2

警告内容を確認し、[確認する]ボタンをクリックします。

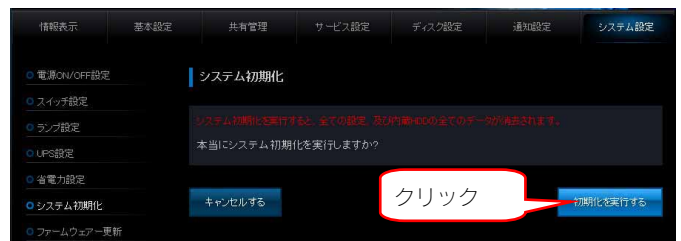


ご注意

- [内蔵 HDD の完全消去を行う]をチェックした場合、ボリューム全体に 0 を書き込んだ後、内蔵ハードディスクをフォーマットします。
0 書き処理により、ファイル断片から情報が漏れることを防ぐことができます。
本製品を廃棄や譲渡される場合におすすめします。

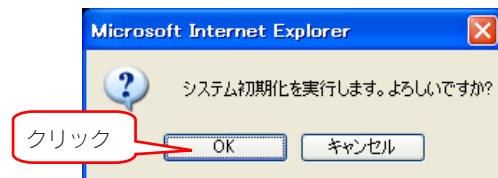
3

警告内容を確認し、[初期化を実行する]ボタンをクリックします。



4

[OK] ボタンをクリックします。
→結果画面が表示されます。



ご注意

- 結果画面が表示された後、自動的に本製品が再起動しますが、再起動後もシステム初期化処理を続行しています。[STATUS]ランプが緑点灯または赤点灯状態になるまでそのまましばらくお待ちください。
- システム初期化処理中に電源を切ったり、カートリッジを取り外したりすると、本製品が正常に起動しなくなります。[STATUS]ランプが緑点灯または赤点灯状態になるまで、何も操作しないでください。

すべての設定が初期値となりますので、再度設定をやり直してください。

RAID が崩壊したときには

本製品使用中に、以下の「RAID 崩壊モードの状態」の場合、内蔵ボリュームに異常が発生し、RAID が崩壊した状態(RAID 崩壊モード)となっています。

RAID が崩壊した状態になった場合、内蔵ボリュームに保存されたデータの一部またはすべては失われている可能性があります。

▼RAID 崩壊モードの状態		
ランプやブザー	状態	補足
[STATUS] ランプ	赤点滅	
[ACCESS] ランプ	赤点灯または赤点滅	赤点滅：故障したカートリッジ。交換が必要です。 赤点灯：使用可能なカートリッジ。 消灯：UNLOCKのカートリッジ。使用可能なカートリッジの接続が必要です。
ブザー	「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている	前面の [FUNC.] ボタンを押すとブザーは停止します

RAID 崩壊モードとなった場合、以下のいずれかの対処を行ってください。

※ブザーは、全面の「FUNC.」ボタンを押せば止まります。

- ・ 対処1 システムを再起動する。
- ・ 対処2 RAID を強制復帰する
- ・ 対処3 保管したミラーディスクから復旧する
- ・ 対処4 RAID を再設定（再フォーマット）する

対処1 システムを再起動する。

本製品の電源ボタンを押し、いったん完全に電源 OFF の状態にしたのち、再び電源を ON にします。本製品の起動に成功すると、一部データが破損した状態で、内蔵ボリュームに保存されたデータに再度アクセスできる場合があります、この場合でも取り出したデータについては保障されません。できるだけデータのバックアップを行った後、システムの初期化（内蔵 HDD の完全消去を行うを有効）を行うことをおすすめします。

上記手順でシステムを再起動しても再び RAID 崩壊モードの状態で起動する場合は、別の対処をご検討ください。

対処2 RAID を強制復帰する

設定画面から、RAID が崩壊したディスク内容を使用して、強制復帰を試みることができます。手順については、以下をご覧ください。

[【RAID 強制復帰】 \(22-108 ページ\)](#)

対処3 保管したミラーディスクから復旧する

以前に eSATA ハードディスクに「ミラーディスクの保管」を行い、システムのバックアップがある場合には、その eSATA ハードディスクからシステムを復旧することができます。手順については、以下をご覧ください。

[【ミラーディスクから復旧する】 \(14-85 ページ\)](#)

対処4 RAID を再設定（再フォーマット）する

設定画面の [ボリューム操作] → [RAID 再設定（再フォーマット）] で RAID を再設定することができます。

ただし、[RAID 再設定（再フォーマット）] では、ユーザー、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリュームを再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム上の共有フォルダーの設定、および共有フォルダー内のデータは失われます。手順については以下をご覧ください。

RAID を再設定(再フォーマット)するには、内蔵 HDD が 4 台すべて接続されている必要があります。故障した HDD がある場合は、HDD の交換を行った上で、RAID の再設定(再フォーマット)を行ってください。

[【RAID 再設定】 \(22-109 ページ\)](#)

ご注意

- 内蔵ボリューム上に保存されたデータの一部または全てはすでに失われています。RAID 強制復帰を実行すると、崩壊した内蔵ボリュームの RAID の復帰処理を試みます。成功した場合は、一部データが破損した状態で、内蔵ボリュームに保存されたデータに再度アクセスできる場合があります。この場合でも取り出したデータについては保障されません。失敗した場合は、データ復旧業者に依頼してもデータを回復できなくなる場合があります。データ復旧を行う場合は、できる限り RAID 強制復帰を実行を行わず、データ復旧業者へご依頼ください。

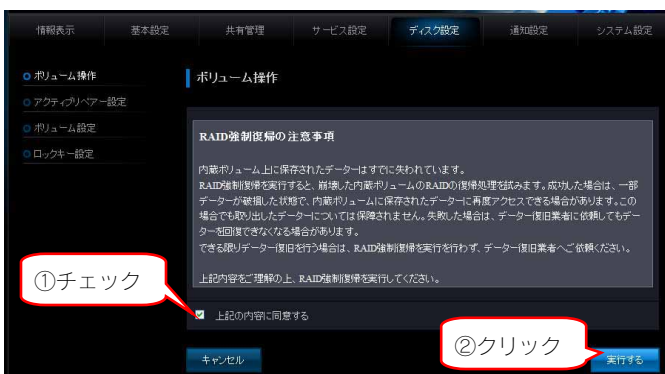
- 1 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム操作]をクリックします。



- 2 [内蔵ボリューム]の[RAID 強制復帰]を選択して、[実行]ボタンをクリックします。



- 3 注意事項を同意頂ける場合には、[上記の内容に同意する]にチェックを入れ、[実行する]をクリックします。RAID 強制復帰を開始します。しばらくお待ちください。



- 4 完了画面が表示されます。正常に強制復帰できた場合は、復旧したボリュームをご確認ください。※強制復帰できた場合でも共有フォルダーにアクセスできない場合があります。強制復帰できなかった場合、データを取り出すことはできません。

以上で完了です。

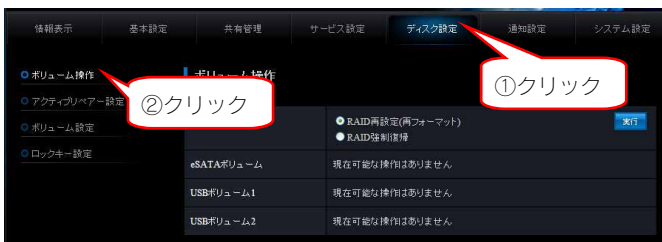
RAID 再設定

ここでは、RAID の強制復帰に失敗した場合など、正常な RAID ボリュームを構成できなくなった場合に、RAID を再設定(再フォーマット)を行う手順について説明します。

ご注意

- 本操作を行うと、ユーザー、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリュームを再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム上に作成した共有フォルダーや、共有フォルダー内のデータはすべて失われます。

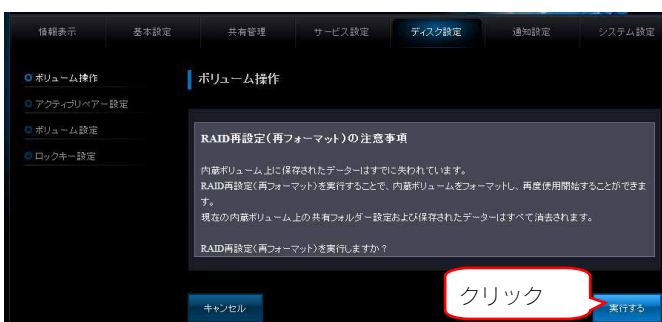
- 1 [詳細設定]から、[ディスク設定]→[ボリューム操作]をクリックします。



- 2 [内蔵ボリューム]の[RAID 再設定(再フォーマット)]を選択して、[実行]ボタンをクリックします。



- 3 注意事項を確認後、[実行する]をクリックします。RAID 再設定を開始します。しばらくお待ちください。



- 4 完了画面が表示されます。内蔵ボリューム上の共有フォルダーは削除されていますので、再度設定を行ってください。

以上で完了です。

ランプ表示別の対応

ランプやブザーによって、現在の状態や操作が正常か、あるいは、エラーが発生しているかを知ることができます。

※エラー状況によってはブザーが鳴り続けます。ブザーを止める場合は、前面の [FUNC.] ボタンを押してください。

[POWER]ランプ	消灯	電源コンセント未接続
	赤点灯	電源コンセント接続済、システム OFF
	緑点灯	システム ON
[STATUS]ランプ	緑点灯	正常状態
	緑点滅	システム処理中
	赤点灯	注意すべき問題が発生、[FUNC.]ボタンを押すにより緑点灯に変更可能
	赤点滅	エラーが発生、ディスクの故障の場合は、ディスク交換を行うまで赤点滅
[ACCESS]ランプ	青点灯(高速点滅)	正常状態(アクセス中)
	赤点灯	起動停止/RAID 崩壊時にディスクが接続されているスロット
	赤点滅	該当スロットのディスクが故障
	消灯	該当スロットが未接続

状態・操作		STATUS	ACCESS	ブザー	対応など
システム起動中		緑点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	—	—
システム起動直後	正常	緑点灯	[ACCESS]ランプ表に従う	「ビー」と鳴る	—
	DHCP 失敗	赤点灯	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	DHCP サーバーを設置する、固定 IP 設定などネットワーク設定を再検討してください。
	起動停止	赤点滅	赤点灯：接続されたスロット 消灯：未接続のスロット	「ピーピーピー…」と鳴りつづける	システムを起動可能なディスクが接続されていません。
	RAID 構成異常	赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、…」と鳴りつづける	RAID の構成ディスクに問題が発生しています。
	RAID 崩壊	赤点滅	赤点灯：接続されたスロット 赤点滅：故障したスロット 消灯：未接続のスロット	「ピーポーピーポー…」と鳴りつづける	RAID が崩壊している。【補足 RAID 崩壊】をご覧ください。
	UPS エラー	赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ドレミドレミ…」と鳴りつづける	UPS 警告が有効で UPS が接続されていない、または、停電状態です。
	使用量警告	赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピピピピピ…」と鳴りつづける	使用量警告が有効で、使用量警告対象ユーザー、グループ、共有フォルダーが存在する。
使用中	RAID 構成異常	赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、…」と鳴りつづける	RAID の構成ディスクに問題が発生しています。
	RAID 崩壊	赤点滅	赤点灯：接続されたスロット 赤点滅：故障したスロット 消灯：未接続のスロット	「ピーポーピーポー…」と鳴りつづける	RAID が崩壊している。【補足 RAID 崩壊】をご覧ください。
	UPS エラー	赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ドレミドレミ…」と鳴りつづける	UPS 警告が有効で UPS が接続されていない、または、停電状態です。
定期警告	RAID 構成異常	赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、…」と鳴りつづける	RAID の構成ディスクに問題が発生しています。
	RAID 崩壊	赤点滅	赤点灯：接続されたスロット 赤点滅：故障したスロット 消灯：未接続のスロット	「ピーポーピーポー…」と鳴りつづける	RAID が崩壊している。【補足 RAID 崩壊】をご覧ください。
	UPS エラー	赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ドレミドレミ…」と鳴りつづける	UPS 警告が有効で UPS が接続されていない、または、停電状態です。
	使用量警告	赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピピピピピ…」と鳴りつづける	使用量警告が有効で、使用量警告対象ユーザー、グループ、共有フォルダーが存在しています。
内蔵カートリッジ取り外し操作	取り外し成功	赤点滅	アンロックしたスロットは、消灯。その他は[ACCESS]ランプ表に従う	「ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、…」と鳴りつづける	正常終了しました。 取り外した結果、RAID 構成異常となります。
	取り外し不可	赤点灯または赤点滅	アンロックしたスロットは青点灯。その他は[ACCESS]ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	システム使用中のため取り外し処理が実行できない状態になります。 このままスライドスイッチをロックの位置へ戻してください。
内蔵カートリッジ取り付け操作	取り付け成功	緑点灯または赤点滅	ロックしたスロットは青点灯。その他は[ACCESS]ランプ表に従う	「ビー」と鳴る	正常終了しました。
	取り付け失敗	赤点滅	ロックしたスロットは赤点滅。その他は[ACCESS]ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	接続したカートリッジは故障または容量不足のため、内蔵 RAID に使用できません。

状態・操作		STATUS	ACCESS	ブザー	対応など
ミラーリングモード時に eSATA ハードディスクの接続時	接続成功	緑点灯または赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピー」と鳴る	正常終了しました。
	接続失敗	赤点灯または赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	接続したディスクは、FAT/NTFS によるフォーマットがされており、データがコピーされていることを確認したため組み込みを停止しました。
	接続失敗	赤点灯または赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	接続したディスクは、エラーまたは容量不足のため、内蔵 RAID に使用できません。
共有モード (FAT/NTFS/専用) 時に外付け eSATA, USB1, USB2 を接続	接続成功	緑点灯または赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピー」と鳴る	正常終了しました。
	接続失敗	赤点灯または赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	使用できないディスクを接続した。ボリューム情報を確認してください。
クイックコピーモード時に USB 1 に USB ディスクを接続	接続成功	緑点灯または赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピー」と鳴る	正常終了しました。
	接続失敗	赤点灯または赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	クイックコピーできないディスクを接続しました。
クイックコピーを実行時	成功	緑点灯	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピッピッピッ」と鳴る	正常終了しました。
	失敗	赤点灯	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	クイックコピーに失敗しました。ログを確認してください。
ボリューム設定変更を実行	成功	緑点灯または赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピー」と鳴る	正常終了しました。
	失敗	赤点灯または赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	設定変更失敗しました。画面表示およびログを確認してください。
ボリューム操作を実行	成功	緑点灯または赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピー」と鳴る	正常終了しました。
	失敗	赤点灯または赤点滅	[ACCESS]ランプ表に従う	「ピーピーピー」と鳴る	設定変更失敗しました。画面表示およびログを確認してください。

補足 RAID 崩壊

[STATUS] ランプが赤点滅し、接続されたスロットの [ACCESS] ランプが赤点灯、かつ、ブザーが「ピーポーピーポー…」と鳴り続けている場合は、何らかの理由により、本製品の RAID が崩壊している状態です。

[FUNC.] ボタンを押して、いったんブザーを止め、以下を参照して、対処してください。

【RAID が崩壊したときには】 (22-107 ページ)

補足 構成異常

一度構成異常となりブザーを止めた後でも、内蔵カートリッジの取り外し操作など RAID 構成に関する処理を行った場合、再度「ピッ、ピッ、ピッ、…」とブザーが鳴り続ける場合があります。

補足 [STATUS] ランプが赤点灯・赤点滅した場合

ブザーが鳴っている場合には [FUNC.] ボタンを押して、いったんブザーを止め、「お知らせ」を確認してください。

補足 再構築の完了

再構築が完了すると「ピ、ポ、パ、ポ」とブザーが鳴ります。

内蔵ボリュームの再構築中に eSATA ミラーリングを開始するなどの操作を行った場合、それぞれの再構築が完了する度にブザーが鳴ります。

製品仕様

仕様

製品名		LAN DISK XR				
製品型番		HDL-XR2.0	HDL-XR4.0	HDL-XR6.0	HDL-XR8.0	HDL-XR1.0/2D
内蔵 HDD	容量	2.0TB	4.0TB	6.0TB	8.0TB	1.0TB
LAN	転送規格	IEEE 802.3ab、IEEE802.3u、IEEE802.3 (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)				
	最大転送速度	1000/100/10Mbps				
	コネクタ	RJ45×2				
	アクセス方法	CSMA/CD				
	MDI/MDI-X	自動切替				
	適合ケーブル	UTP カテゴリー6以上、100m 以下				
eSATA ホスト	転送規格	SATA I / SATA II (NCQ 対応)				
	最大転送速度	3.0Gbps (SATA II) / 1.5Gbps (SATA I)				
	コネクタ	eSATA コネクタ×1				
USB ホスト	転送規格	USB 2.0(1.1 含む)				
	最大転送速度	480Mbps				
	コネクタ	USB A コネクタ×2				
電源仕様	定格電圧	AC 100V、50/60Hz				
	消費電力	60W(TYP)				
環境仕様	省エネ法区分	i	i	i	i	i
	エネルギー消費効率 ※1	0.030W/GB	0.015W/G	0.010W/GB	0.0075W/GB	0.060W/GB
	グリーン購入法	適合				
動作環境	使用温湿度	5~40℃、10~85%(結露無きこと)				
物理仕様	外形寸法	170(W)×230(D)×183(H)mm (脚を含む)				
	質量	約 7kg				約 5.5kg

※1 省エネ法に基づくエネルギー消費効率は、最大構成における待機中の消費電力を、物理的な最大記憶容量で除したものです。

動作環境

本製品は、「LAN インターフェイスを搭載し、TCP/IP が正常に動作する機器」であれば対応しています。

LAN 環境

本製品は、LAN で接続します。

パソコンが LAN コネクタを搭載していない場合は、LAN アダプターが必要です。(別売の弊社製 ETG2-PCI など)

複数のパソコンを接続するには、ハブ (ハブ機能付きルーター含む)が必要です。(別売の弊社製 ETG4-SH8N など)

無線 LAN 接続をする場合は、無線アクセスポイントと無線 LAN アダプターを接続したパソコンが必要です。

LAN アダプター

本製品に接続するパソコンの LAN アダプターの設定をご確認ください。

(LAN アダプター：LAN ボード、USB LAN アダプター、LAN PC カードなど)

※LAN アダプター使用時は、パソコンに取り付け、必要なソフトウェアをインストールしておいてください。

(詳しくは、各 LAN アダプターの取扱説明書をご覧ください。)

サポート対象機種・OS

LAN インターフェイスを使用できる下記の機種

機種	OS
DOS/V マシン	・ Windows® 7 ・ Windows Vista® ・ Windows® Server 2008 /R2 ※1※3 ・ Windows® Server 2003 SP1/R2 ※2※3 ・ Windows® 2000 Server ・ Windows® XP ・ Windows® 2000 Professional
Apple Macintosh シリーズ	・ Mac OS X (10.4 以降)

※1 Standard/Enterprise のみ対応しています。Server Core モードには対応していません。

※2 Standard(32bit 版) /Enterprise (32bit 版) のみ対応しています。

※3 本製品上に作成した共有フォルダーへのアクセス、および NT ドメインログオン・Active Directory ログオン機能のみ対応し、Web ブラウザーによる設定画面操作、プリントサーバー機能等はサポート対象外です。

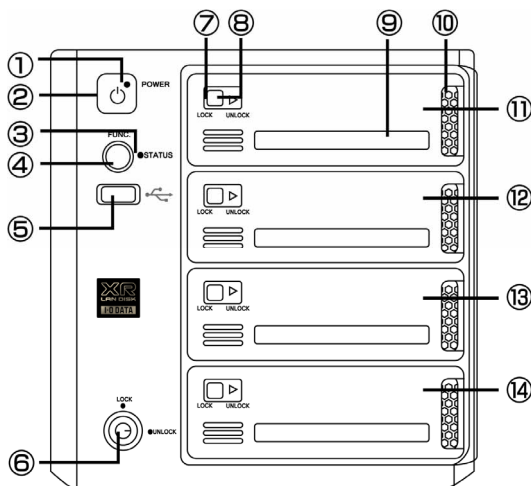
設定に必要なソフトウェア

本製品を設定するには、以下のバージョンのいずれかの Web ブラウザーが必要です。お持ちでない場合は、別途ご用意ください。

- ・ Windows 版 Internet Explorer バージョン 6.0 以上
- ・ Mac OS X 版 Safari バージョン 3.0 以上

各部の名称・機能

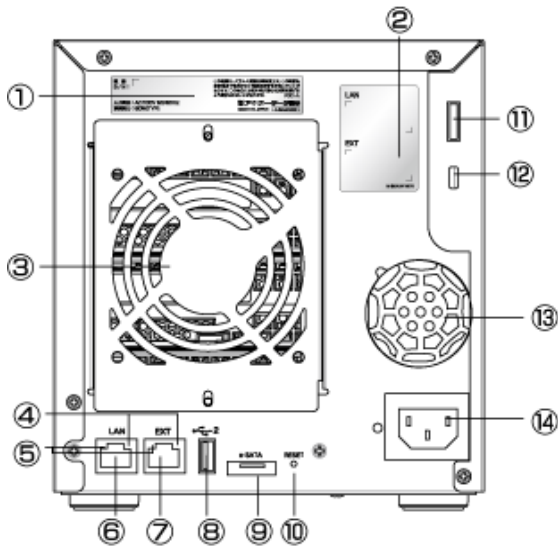
▼前面



No	名称	機能・状態	
①	[POWER] ランプ	赤点灯	電源ケーブルが電源コンセントに接続されている状態 (スタンバイ状態)
		緑点灯	電源が入っている状態
②	[電源] ボタン	本製品の電源を入/切します。	
③	[STATUS] ランプ	緑点灯	正常に起動完了した状態
		緑点滅	システム処理中
		赤点滅	ディスクエラー、使用量警告、使用量制限警告、UPS に関するエラー状態 (エラーに対処するまで点滅し続けます。エラー内容は設定画面の「お知らせ」で確認してください。)
		赤点灯	上記 (赤点滅) 以外のエラー状態 ([FUNC.] ボタンを押すか、設定画面の「お知らせ」を確認すると緑点灯/点滅に変わります。)

④	[FUNC.] ボタン	クイックコピーの開始や定期警告などのブザー音を止めたりします。	
⑤	USB ポート 1	USB 機器を接続します。 ※接続できる USB 機器については、【増設できる USB 機器】 (24-116 ページ) をご覧ください。 ※[USB ポート 1] にバスパワーハードディスクは接続できません。必ずセルフパワーにてご利用ください。 ※パソコンの USB ポートとの接続はできません。 ※暗号化 RAID モード使用時の USB ロックキーとする USB メモリーは[USB ポート 1] にのみ接続できます。	
⑥	カートリッジ 固定 LOCK	UNLOCK	カートリッジのスライドスイッチを操作できるようにします。
		LOCK	カートリッジのスライドスイッチを操作できないようにします。
⑦	スライドスイッチ	UNLOCK	カートリッジを装置から取り外したい時にスライドさせます。
		LOCK	カートリッジを装置に固定させたい時にスライドさせます。
⑧	[ACCESS] ランプ	青点灯	本製品内蔵ハードディスクへアクセスがない状態
		青点滅	本製品内蔵ハードディスクへアクセス中
		赤点滅	ハードディスクに復旧困難なエラー (セクターエラーなど) が発生している状態
		消灯	取り外し処理が完了した状態
⑨	シール貼付溝	添付の [インデックスシール] を貼る場所です。	
⑩	取っ手	カートリッジを取り外す時に使用する取っ手です。 ※吸気口となっていますので、ふさがらないでください。	
⑪	カートリッジ 1 ・ スロット 1	カートリッジを挿入する場所です。 カートリッジを挿入する場所です。 ※HDL-XR/2D シリーズの場合は空のカートリッジが挿入されてます。	
⑫	カートリッジ 2 ・ スロット 2		
⑬	カートリッジ 3 ・ スロット 3		
⑭	カートリッジ 4 ・ スロット 4		

▼背面



No	名称	機能・状態
①	シリアル番号(S/N)	12桁の英数字です。
②	MAC アドレス	[00A0B0] で始まる 12 桁の英数字です。
③	メイン FAN	装置全体を冷却します。 ※ふさがないようにください。
④	[ACT/LINK] ランプ (アクト/リンク)	黄点灯 LAN リンク時
		黄点滅 データ送受信中
		消灯 LAN 未接続
⑤	[1000/100/10]ランプ	橙点灯 1000BASE-T で接続中
		緑点灯 100BASE-TX で接続中
		消灯 LAN 未接続または 10BASE-T で接続中
⑥	LAN ポート	本製品添付の LAN ケーブルを接続します。 ※Auto-MDI/MDI-X ですので、ストレートおよびクロスケーブルのどちらのケーブルでも接続できます。
⑦	EXT ポート	レプリケーション機能をご利用になる場合や、異なるネットワークに接続する場合に使用します。 ※Wake On LAN 機能には対応していません。 ※Auto MDI/MDI-X ですので、ストレートおよびクロスケーブルのどちらのケーブルでも接続できます。 ※[EXT ポート]に接続されたネットワーク側から、Magical Finder をご利用いただくことはできません。
⑧	USB ポート 2	USB 機器を接続します。 ※ [USB ポート 2] にバスパワーハードディスクは接続できません。必ずセルフパワーにてご利用ください。 ※プリンターを接続する場合は、 [USB ポート 2] に接続してください。 ※パソコンに接続するためのポートではありません。 ※UPS を接続する場合は、 [USB ポート 2] に接続してください。
⑨	eSATA ポート	eSATA 機器を接続します。 ※パソコンに接続するためのポートではありません。
⑩	[RESET] ボタン	本製品の [IP アドレス] [管理者パスワード] [フレームサイズ] 設定を初期化します。(ハードディスク内のデータは残ります。) 本製品の電源を入れたまま 2 秒以上押しと初期化されます。 ※すべての設定を初期化する場合は、【本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す】(21-106 ページ) の項をご覧ください。ただし、同時に、内蔵ハードディスクをフォーマットしますので、データはすべて消去されます。
⑪	セキュリティワイヤー 取付穴	セキュリティワイヤーを取り付けることができます。 市販のセキュリティワイヤーご利用時には、この穴にワイヤーを通してください。
⑫	ケンジントンスロット	盗難防止用のロックケーブルを取り付けることができます。 ※ケンジントンスロットについて ケンジントンロックに合うように作られたセキュリティスロットのことです。ロックケーブルを固定された安全な机やラックなどに巻き付け、スロットに差し込みカギをかけることで盗難を防ぎます。 詳しくは、Kensington マイクロサーバーのホームページをご覧ください。 http://www.nanayojapan.co.jp/products/security/
⑬	電源 FAN	電源ユニットを冷却します。 ※ふさがないようにください。
⑭	電源コネクタ	添付の「電源ケーブル」を接続します。

増設できる USB 機器

ご注意

- 最新の対応機器については、弊社製品ホームページ(<http://www.iodata.jp/support/product/hdl-xr/>)をご覧ください。
- USB 機器を増設する前に、次の注意もご確認ください。【[使用上のご注意](#)】 (1-7 ページ)
- 本製品の USB ポートに、以下の対応機器以外の機器は接続しないでください。(USB ハブも接続できません。)
- 本製品の USB ポートに、LAN DISK シリーズを接続することはできません。

増設できる USB ハードディスク

本製品の USB ポートで 使用できる動作確認済みの ハードディスク	・RHD-UX シリーズ ^{※3} ・HDH-USR2 シリーズ ・HDC2-U シリーズ ^{※1} ・HDPG-SU シリーズ ^{※2} ・HDPN-U シリーズ ^{※2} ・RHD2-U シリーズ ^{※1、※3}	・HDCN-U シリーズ ・HDPG-SUX シリーズ ^{※2} ・HDCN-UA シリーズ ・USB2-iVDR シリーズ ・HDCN-UE シリーズ ・HDP-US シリーズ ^{※2}	・HDPS-U シリーズ ^{※2} ・HDCS-U シリーズ ・HDCR-U シリーズ ・HDC-UX シリーズ ・HDH-UEH シリーズ ・RHD4-UXR シリーズ ^{※3}
	<p>※1 ミラーリングモード、ストライピングモードのみ対応です。</p> <p>※2 AC アダプターによる電源供給が必要です。</p> <p>※3 HDL-XR シリーズの省電力機能に対応しておりません。設定画面にて[省電力設定]を[なし]にしてお使いください。</p>		
対応フォーマット	<p>本製品に接続可能なハードディスクのフォーマット形式については、以下をご覧ください。 【ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い】 (24-117 ページ)</p> <p>※他の LAN DISK で使用していたハードディスクは、本製品が対応するフォーマット形式に再フォーマットしてからご利用ください。</p>		

※バスパワーモードのハードディスクは、本製品には接続できません。必ずセルフパワーモードでご利用ください。

※プリンターの双方向機能には対応しておりません。

※デジカメは USB マスストレージクラスの転送に対応している必要があります。

※USB ハブを接続して、USB 機器を使用することはできません。

※対応機器以外には省電力設定を有効にしないでください。

※弊社 iSPIS 対応ハードディスクを本製品でご利用いただく場合、iSPIS 機能は使用できません。

増設できる UPS

対応 UPS	<p>・APC 社製 UPS SUA500JB SUA750JB SUA1000JB SUA1500JB SUA2200JB SUA3000JB SUA750RMJ1UB SUA1500RMJ2UB</p> <p>・OMRON 社製 UPS BY50FW BY75SW BN50S BN75S BY35S BY50S</p>
--------	--

増設できる eSATA 機器

ご注意

- 最新の対応機器については、弊社製品ホームページ(<http://www.iodata.jp/support/product/hdl-xr/>)をご覧ください。
- eSATA 機器を増設する前に、次の注意もご確認ください。【[使用上のご注意](#)】 (1-7 ページ)
- 本製品の eSATA ポートに、ポートマルチプライヤー (Port Multiplier) は接続できません。
- 本製品の eSATA ポートには、以下の対応機器以外の機器は接続しないでください。
- eSATA ミラーリング機能を使用する場合、本製品の内蔵ボリュームの全容量以上の容量を持つ eSATA ハードディスクが必要です。

動作確認済み eSATA ハードディスク	<p>以下の弊社製ハードディスクに対応しています。</p> <p>RHD-UX シリーズ、HDC-UX シリーズ、RHD4-UXR シリーズ[※]</p> <p>※ HDL-XR シリーズでは電源連動機能をお使いいただけません。 「電源連動モード切替スイッチ」を「ON」に設定してお使いください。</p>
対応フォーマット	<p>本製品に接続可能なハードディスクのフォーマット形式については、以下をご覧ください。 【ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い】 (23-117 ページ)</p>

増設ディスクに関するご注意

本製品で共有モードに設定してあるポートに、フォーマット済みのディスクを接続した場合、ディスク全体を共有フォルダーとして使用することができます。

ポートに対する共有フォルダー名とポートの初期状態は以下のようになります。

ポート名	共有フォルダー名	ポートの初期状態
USB ポート 1	usb1	クイックコピー ※使用するためには設定が必要です。
USB ポート 2	usb2	共有
eSATA ポート	esata1	共有

※ 共有フォルダーの設定については、以下をご覧ください。

[【共有フォルダー】 \(7-35 ページ\)](#)

※ ポートの設定については、以下をご覧ください。

[【USB ポート 1 \(前面\)の設定について】 \(12-72 ページ\)](#)

対応フォーマット以外のフォーマットを共有モードで使用することはできません。

(本製品ミラーリング機能を使用して作成されたミラーディスクを含みます)

使用可能なフォーマット形式と読み書き制限については以下をご覧ください。

対応フォーマット形式	FAT ^{※1}	NTFS ^{※2}	専用
本製品に接続して使用	読み書き可	読み込みのみ可	読み書き可
本製品のバックアップ機能で使用	読み込みのみ可	読み込みのみ可	読み書き可
パソコンに接続して使用 ^{※3}	読み書き可	読み書き可	読み込みのみ可 ^{※4}

※1 FAT 形式のフォーマットでは、2TB 以上の容量を使用することはできません。

本製品で 2TB より大きい容量のハードディスクを FAT 形式でフォーマットする場合は、2TB のパーティションを作成してフォーマットされます。

※2 NTFS 形式のフォーマットでは、2TB 以上の容量を使用することはできません。

本製品で NTFS 形式のフォーマットをすることはできません。ご利用のパソコンでフォーマットしてお使いください。

※3 2TB より大きい容量のハードディスクは Windows 7 または Windows Vista でのみご利用になれます。

※4 添付の「LAN DISK Backup Reader」を使用する必要があります。

出荷時設定一覧

項目	初期値		
システムバージョン	1.00 (出荷時期による)		
MAC アドレス	LAN ポート : 00:A0:B0:xx:xx:xx (製品ごとに異なる) EXT ポート : 00:A0:B0:xx:xx:xx (製品ごとに異なる)		
◆基本設定			
名前設定	LAN DISK の名前	landisk-xxxxx(製品の LAN ポートの MAC アドレス下 6 桁が表示される)	
	LAN DISK の説明	HDL-XR series	
日付と時刻の設定	サーバーと同期	同期する	
	利用するタイムサーバー	ntp.nict.jp	
	同期するタイミング	起動時	
ネットワーク設定	TCP/IP 設定 (LAN)	IP アドレスを自動取得する (DHCP)	
		自動取得失敗時	
		IP アドレス	192.168.0.200 (AutoIP 自動割当 169.254.xxx.xxx)
		サブネットマスク	255.255.255.0 (AutoIP アドレスは 255.255.0.0)
	フレームサイズ	未使用 (1500byte)	
	Wake On LAN	有効	
	TCP/IP 設定 (EXT)	無効	
共通設定	設定方法	LAN から自動で取得する	
	デフォルトゲートウェイ	なし	
	DNS サーバーアドレス	なし	
管理者パスワード設定	パスワード	なし	
◆共有管理			
ユーザー管理	登録済みユーザー	なし	
ユーザー使用量管理	使用量制限	無効	
グループ管理	作成済みグループ	なし	
グループ使用量管理	使用量制限	無効	
共有フォルダー管理	作成済み共有	disk1	
		場所	内蔵ボリューム
		コメント	HDL-XR RAID share
		詳細アクセス権	無効 (すべてのユーザーは読み書き可能)
		有効サービス	Microsoft ネットワーク共有 AppleShare ネットワーク共有 FTP 共有
		esata1	
		場所	eSATA ボリューム
		コメント	HDL-XR esata1 share
		詳細アクセス権	無効 (すべてのユーザーは読み書き可能)
		有効サービス	Microsoft ネットワーク共有 AppleShare ネットワーク共有 FTP 共有
		usb1	
		場所	USB ボリューム 1
	コメント	HDL-XR usb1 share	
	詳細アクセス権	無効 (すべてのユーザーは読み書き可能)	
	有効サービス	Microsoft ネットワーク共有 AppleShare ネットワーク共有 FTP 共有	
	usb2		
	場所	USB ボリューム 2	
	コメント	HDL-XR usb2 share	
	詳細アクセス権	無効 (すべてのユーザーは読み書き可能)	
	有効サービス	Microsoft ネットワーク共有 AppleShare ネットワーク共有 FTP 共有	
共有フォルダー使用量管理	使用量制限	無効	

◆サービス設定			
Microsoft ネットワーク設定	参加方法	ワークグループ	
	ワークグループ名	WORKGROUP	
	WINS サーバーアドレス	なし	
TimeMachine 設定	TimeMachine 設定	無効	
FTP 設定	ポート番号	21	
	エンコード	UTF-8	
バックアップ	Backup Job 1~5	無効	
レプリケーション	レプリケーション機能	無効	
プリントサーバー	プリントサーバー	USB プリンタ接続時に有効	
サービス設定	Microsoft ネットワーク共有	有効	
	アクセスログを記録	無効	
	AppleShare ネットワーク共有	有効	
	FTP 共有	有効	
	ネットワークバックアップの許可	有効	
	使用量制限	無効	
◆ディスク設定			
ボリューム設定	内蔵ボリューム	RAID6 ※HDL-XR/2D シリーズの場合は RAID1 (2 台)	
	eSATA ボリューム	共有モード (FAT/NTFS/専用)	
	USB ボリューム 1	クイックコピー コピー先 : disk1	
	USB ボリューム 2	共有モード (FAT/NTFS/専用)	
アクティブリペアー	スケジュール実行機能	使用する	
		曜日指定 (毎月最初)	土曜日
		開始時刻	0 時 00 分開始
◆通知設定			
メール基本設定	メール基本設定	SMTP サーバー名	なし
		SMTP ポート番号	25
		差出人メールアドレス	なし
		メールエンコード	ISO-2022-JP
	メール送信時認証設定	認証方式	認証なし
メール通知テスト	送信先メールアドレス	なし	
メールアドレス設定	なし		
イベント通知設定	システム	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
	バックアップ	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
	温度 FAN エラー	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
	ログ転送	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
	ディスクエラー警告	定期警告	無効
		メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
	ボリューム使用量警告	定期警告	無効
		メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
		使用率	90%以上
	使用量制限警告	定期警告	無効
メール通知		無効	
送信先メールアドレス		なし	
使用率		90%以上	
UPS 警告	定期警告	無効	
	メール通知	無効	
	送信先メールアドレス	なし	
定期レポート設定	ボリューム使用量レポート	無効	
監視サービス設定	監視サービス	無効	

◆システム設定			
電源 ON/OFF 設定	AC 電源復旧時の自動起動		無効
	スケジュール 設定	起動設定	無効
		起動時刻設定	なし
		終了設定	無効
		終了時刻設定	なし
スイッチ設定	リセットボタン		有効
	FUNC.ボタン		有効
ランプ設定	ランプの明るさ		明
UPS 設定	UPS 警告機能		無効
	シャットダウン条件	停電後の経過時間	10 分後にシャットダウン
省電力設定	時間選択		なし
	内蔵ボリューム		無効
	eSATA ボリューム		無効
	USB ボリューム 1		無効
	USB ボリューム 2		無効

各設定項目の文字制限

各項目には、以下の使用文字の制限があります。(パスワードに空白文字を使用しないでください。)

項目名	文字数		使用できる文字		使用できない文字
	最小	最大	半角	全角	
LAN DISK の名前	1	15	表 2	×	・ハイフンから始まる文字列 ・数字のみの文字列
LAN DISK の説明	0	半角 48 全角 48	表 4	○	
ユーザー名	1	20	表 2	×	・ハイフンから始まる文字列 ・数値のみの文字列 ・大文字小文字のみが異なるユーザー名
ユーザーフルネーム	0	半角 48 全角 48	表 4	○	
ユーザーコメント	0	半角 48 全角 48	表 4	○	
ユーザーパスワード	0	20	表 1	×	
グループ名	1	20	表 2	×	・ハイフンから始まる文字列 ・数値のみの文字列 ・大文字小文字のみが異なるグループ名
共有フォルダー	1	半角 27 全角 9	表 4	○	ドル記号で終わる文字列
共有フォルダーコメント	0	半角 48 全角 48	表 4	○	
アクセスパスワード	0	20	表 1	×	
ワークグループ名	1	15	表 2	×	LAN DISK の名前と同じ文字列
NT ドメイン名	1	15	表 2	×	LAN DISK の名前と同じ文字列
NT ドメインコントローラー名	1	15	表 2	×	LAN DISK の名前と同じ文字列
ドメイン名 (NetBIOS 名)	1	15	表 2	×	LAN DISK の名前と同じ文字列
ドメイン名 (フル DNS 名)	1	155	表 3	×	ピリオドで区切られた各フィールドは 63 文字以内
ドメイン管理者ユーザー名	1	20	表 3	×	
ドメイン管理者パスワード	0	20	表 1	×	
ドメインコントローラーの名前	1	155	表 3	×	ピリオドで区切られた各フィールドは 63 文字以内

[表：使用できる半角文字] ※グレーの文字は使用できません。

▼表 1

	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+A	+B	+C	+D	+E	+F
0x00	[NUL]	[SOH]	[STX]	[ETX]	[EOT]	[ENO]	[ACK]	[BEL]	[BS]	[HT]	[LF]	[VT]	[FF]	[CR]	[SO]	[SI]
0x10	[DLE]	[DC1]	[DC2]	[DC3]	[DC4]	[NAK]	[SYN]	[ETB]	[CAN]	[EM]	[SUB]	[ESC]	[FS]	[GS]	[RS]	[US]
0x20	[SPC]	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
0x30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	>	=	?
0x40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
0x50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
0x60	~	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
0x70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	[DEL]

▼表 2

	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+A	+B	+C	+D	+E	+F
0x00	[NUL]	[SOH]	[STX]	[ETX]	[EOT]	[ENO]	[ACK]	[BEL]	[BS]	[HT]	[LF]	[VT]	[FF]	[CR]	[SO]	[SI]
0x10	[DLE]	[DC1]	[DC2]	[DC3]	[DC4]	[NAK]	[SYN]	[ETB]	[CAN]	[EM]	[SUB]	[ESC]	[FS]	[GS]	[RS]	[US]
0x20	[SPC]	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
0x30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	>	=	?
0x40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
0x50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
0x60	~	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
0x70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	[DEL]

▼表 3

	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+A	+B	+C	+D	+E	+F
0x00	[NUL]	[SOH]	[STX]	[ETX]	[EOT]	[ENO]	[ACK]	[BEL]	[BS]	[HT]	[LF]	[VT]	[FF]	[CR]	[SO]	[SI]
0x10	[DLE]	[DC1]	[DC2]	[DC3]	[DC4]	[NAK]	[SYN]	[ETB]	[CAN]	[EM]	[SUB]	[ESC]	[FS]	[GS]	[RS]	[US]
0x20	[SPC]	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
0x30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	>	=	?
0x40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
0x50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
0x60	~	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
0x70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	[DEL]

▼表 4

	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+A	+B	+C	+D	+E	+F
0x00	[NUL]	[SOH]	[STX]	[ETX]	[EOT]	[ENO]	[ACK]	[BEL]	[BS]	[HT]	[LF]	[VT]	[FF]	[CR]	[SO]	[SI]
0x10	[DLE]	[DC1]	[DC2]	[DC3]	[DC4]	[NAK]	[SYN]	[ETB]	[CAN]	[EM]	[SUB]	[ESC]	[FS]	[GS]	[RS]	[US]
0x20	[SPC]	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
0x30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	>	=	?
0x40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
0x50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
0x60	~	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
0x70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	[DEL]

共有フォルダー使用時の文字制限

共有フォルダーに保存できるファイル名、フォルダー名には以下の制限があります。

- ・ 半角 255 文字（全角 85 文字）までとなります。
※使用する文字種によっては上記の数値よりも少なくなる場合があります。
- ・ 使用できる名前は、クライアント OS により制限されます。
- ・ ftp で Shift-JIS を使用する場合は、[【FTP 共有使用時のトラブル】（26-193 ページ）](#) もご覧ください。

種別	内容	表示条件と対処方法
エラー※1	使用量制限の警告使用率 xx%を超えました。	使用量制限の使用率警告値 xx%を超えた場合に表示されます。 [対処] ユーザー、グループ、共有フォルダーの使用量制限設定を確認し、使用率の高いユーザー、グループ、共有フォルダーの、使用していないファイルや、不要なファイルをバックアップの上、削除を行ってください。
	使用量制限情報を取得できません。	使用量制限に関する情報が取得できなかった場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の[情報表示]-[ボリューム情報]を確認し、内蔵ボリュームが崩壊状態の場合、【RAID が崩壊したときには】(22-107 ページ) を参照し、対処を行ってください。 また、RAID モードの変更中、内蔵ボリュームのフォーマット中、チェックディスク中に、このお知らせが表示される場合があります。この場合は、処理が完了後、1 時間以内に自動的にクリアされますので対処は必要ありません。
	内蔵ボリュームの使用率が xx%を超えました。	内蔵ボリュームの使用率が xx%を超えた場合に表示されます。 [対処] ユーザー、グループ、共有フォルダーの使用量制限設定を確認し、使用率の高いユーザー、グループ、共有フォルダーの、使用していないファイルや、不要なファイルをバックアップの上、削除を行ってください。
	内蔵ボリュームの使用率を取得できません。	内蔵ボリュームの使用率が取得できなかった場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の[情報表示]-[ボリューム情報]を確認し、内蔵ボリュームが崩壊状態の場合、【RAID が崩壊したときには】(22-107 ページ) を参照し、対処を行ってください。 また、RAID モードの変更中、内蔵ボリュームのフォーマット中、チェックディスク中に、このお知らせが表示される場合があります。この場合は、処理が完了後、1 時間以内に自動的にクリアされますので対処は必要ありません。
	RAID が崩壊しました。	RAID が崩壊した場合に表示されます。 [対処] 【RAID が崩壊したときには】(22-107 ページ) を参照し、対処を行ってください。
	RAID の構成異常が発生しました。	RAID が構成異常となった場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の[情報表示]-[ボリューム情報]を確認し、内蔵ボリュームの構成ディスクがすべて接続されていることを確認してください。「接続」以外の状態の構成ディスクは交換が必要です。
	RAID が異常状態になりました。	RAID が異常状態となった場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の[情報表示]-[ボリューム情報]を確認し、内蔵ボリュームが崩壊状態の場合、内蔵ボリュームの構成ディスクがすべて接続されていることを確認し、詳細設定画面の[ディスク]-[ボリューム操作]より「eSATA より内蔵ボリュームへミラーリング開始」を行ってください。
	内蔵ボリュームのマウントに失敗しました。	内蔵ボリュームのマウントに失敗した場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の[ディスク]-[ボリューム操作]より「チェックディスク」を行ってください。「チェックディスク」を行っても状況が改善しない場合は、「フォーマット」を行ってください。ただし、フォーマットを行うと、内蔵ボリューム上に作成した共有フォルダーおよび、共有フォルダーに保存したファイルはすべて消去されます。
	セキュリティロックモードで起動しました。	USB ロックキーの接続が確認できないため「セキュリティロックモード」で起動した場合に表示されます。 [対処] 正しい USB ロックキーを接続してください。本製品は正しい USB ロックキーの接続を確認すると、「セキュリティロックモード」を解除し、本製品の共有フォルダーにアクセスできるようになります。
	UPS が接続されていません。	UPS が接続されていないことを検出した場合に表示されます。 [対処] UPS の監視ケーブルを本製品の USB ポートにしっかり接続されていることを確認してください。 UPS の警告が不要な場合は、詳細設定画面の[システム]-[UPS 設定]より UPS 警告を「無効」に設定してください。
	停電により、バッテリー動作を開始しました。	UPS が停電によりバッテリー動作に切り替わったことを検出した場合に表示されます。 [対処] 現在停電状態になっています。電力供給状態、およびブレーカー等の確認等を行ってください。
停電後、指定した経過時間を超えました。	UPS が停電状態から指定時間経過したことを検出した場合に表示されます。 [対処] 現在停電状態になっています。電力供給状態、およびブレーカー等の確認等を行ってください。	
UPS のバッテリー残量が 30%以下であることを検出しました。	UPS が停電状態でバッテリー残量 30%以下を検出した場合に表示されます。 [対処] 現在停電状態になっています。電力供給状態、およびブレーカー等の確認等を行ってください。	
注意※2	LAN - DHCP 失敗 - アドレス : xxx.xxx.xxx.xxx	DHCP サーバーから IP アドレスの取得に失敗した場合に表示されます。 [対処] 本製品の LAN ポートを接続したネットワークに DHCP サーバーが存在することを確認してください。DHCP サーバーが接続されていない場合は、詳細設定画面の[基本設定]-[ネットワーク設定]の「LAN」より次の「IP アドレスを使う」を選択し、手動で IP アドレスを設定してください。
	EXT - DHCP 失敗 - アドレス : xxx.xxx.xxx.xxx	DHCP サーバーから IP アドレスの取得に失敗した場合に表示されます。 [対処] 本製品の EXT ポートを接続したネットワークに DHCP サーバーが存在することを確認してください。DHCP サーバーが接続されていない場合は、詳細設定画面の[基本設定]-[ネットワーク設定]の「EXT」より次の「IP アドレスを使う」を選択し、手動で IP アドレスを設定してください。
	バックアップに失敗しました。	バックアップの開始に失敗した場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の[サービス設定]-[バックアップ]の各プロファイルを確認し、バックアップ元、バックアップ先の指定が正しく行われていること、存在することを確認してください。

種別	内容	表示条件と対処方法
注意※2	xxxx が一部失敗しています。	バックアップ中、一部項目が正常にバックアップできなかった場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の[サービス設定]-[バックアップ]のプロファイル名「xxxx」を確認し、バックアップ元、バックアップ先の指定が正しく行われていること、存在することを確認してください。
	クイックコピーに失敗しました。	クイックコピーに失敗した場合に表示されます。 [対処] コピー元の USB ディスクが読み取り可能なフォーマットであること (FAT/NTFS) を確認してください。 コピー先の共有フォルダーが存在することを確認してください。
	レプリケーション元共有フォルダー内のフォルダー数が多すぎます。 フォルダー数を減らしてからレプリケーション設定をやり直してください。	監視対象フォルダー数の最大値 20000 フォルダーを超えた場合に表示されます。 [対処] レプリケーション元共有フォルダーに指定している共有フォルダー内のフォルダー数を減らしてからレプリケーション設定をやり直してください。
	xxxx の接続に失敗しました。	外付けボリューム xxxx の接続に失敗した場合に表示されます。 [対処] 外付けボリュームが使用できない形式の場合があります。 パソコンに接続してフォーマット後、再度接続してみてください。
	xxxx の取り外しに失敗しました。	外付けボリューム xxxx の取り外しに失敗した場合に表示されます。 [対処] しばらく待ってから再度取り外し処理を行ってみてください。
	xxxx が故障しました。交換してください。	外付けボリューム xxxx の故障を検出した場合に表示されます。 [対処] eSATA ポートに接続した eSATA ディスクに問題が発生しました。新しい eSATA ディスクに交換してください。
	セキュリティロックモードの解除に失敗しました。	「セキュリティロックモード」の解除に失敗した場合に表示されます。 [対処] 正しい USB ロックキーを接続してください。暗号化ボリュームを設定時に作成した UPS ロックキーを接続する必要があります。
	アクティブリペアーの開始に失敗しました。	アクティブリペアーの開始に失敗した場合に表示されます。 [対処] 詳細設定画面の[情報表示]-[ボリューム情報]を確認し、内蔵ボリュームが崩壊状態の場合、【RAID が崩壊したときには】(22-107 ページ) を参照し、対処を行ってください。
	アクティブリペアーの停止に失敗しました。	アクティブリペアーの停止に失敗した場合に表示されます。 [対処] しばらく待ってから再度試行してみてください。
	修復できないエラーが発生しました。(xxx)何度か実行しても正常終了しない場合 データをバックアップ後、システム初期化を「内蔵 HDD の完全消去を行う」オプションを付けて実行してください。	ボリューム xxxx のディスクエラーを修復できなかった場合に表示されます。 [対処] 何度か実行しても正常終了しない場合、データをバックアップ後、システム初期化を「内蔵 HDD の完全消去を行う」オプションを付けて実行してください。
	xxxx メール の送信に失敗しました。	イベント xxxx のイベント通知メールの送信に失敗した場合に表示されます。 [対処] メール送信に失敗しています。メール基本設定を再度確認し、テストメールの送信が成功することを確認してください。
	メールの送信に失敗しました。	定期レポートメールの送信に失敗した場合に表示されます。 [対処] メール送信に失敗しています。メール基本設定を再度確認し、テストメールの送信が成功することを確認してください。
	ログ情報転送メールの送信に失敗しました。	ログ情報のメール転送に失敗した場合に表示されます。 [対処] メール送信に失敗しています。メール基本設定を再度確認し、テストメールの送信が成功することを確認してください。
	アクセスログ転送メールの送信に失敗しました。	アクセスログのメール転送に失敗した場合に表示されます。 [対処] メール送信に失敗しています。メール基本設定を再度確認し、テストメールの送信が成功することを確認してください。
	ネットワークシャットダウン要求の送信に失敗しました。(認証エラー)	ネットワークシャットダウンテスト実行時、指定した LAN DISK の管理者パスワードが異なる場合に表示されます。 [対処] UPS 設定のネットワークシャットダウン設定で、[管理者パスワード]を正しく設定してください。
	ネットワークシャットダウン要求の送信に失敗しました。(通信エラー)	ネットワークシャットダウンテスト実行時、指定した LAN DISK にアクセスできない場合に表示されます。 [対処] UPS 設定のネットワークシャットダウン設定で、[LAN DISK の名前]を正しく設定してください。
	ネットワークシャットダウン要求の送信に失敗しました。(IP アドレス変換エラー)	ネットワークシャットダウンテスト実行時、指定した LAN DISK にアクセスできない場合に表示されます。 [対処] UPS 設定のネットワークシャットダウン設定で、[LAN DISK の名前]を正しく設定してください。 [LAN DISK の名前]を正しく設定しても解決しない場合は、ネットワークシャットダウンする LAN DISK のネットワーク設定で IP アドレスを固定で設定し、ネットワークシャットダウン設定で、LAN DISK 名の代わりに IP アドレスを指定してください。
	サービス有効化コードは期限切れです。	監視サービスのサービス有効化コードのサービス期間を終了していることを検出した場合に表示されます。 [対処] システムの日付時刻設定を確認し、正しい日付時刻が設定されていることを確認してください。 サービス期間が終了している場合は、ISS サービスへお問い合わせください。
新しいファームウェアが公開されています。	最新ファームウェアが公開されていることを検出した場合に表示されます。 [対処] 以下のホームページを確認し、最新ファームウェアをダウンロードの上、【ファームウェアを更新する】(20-104 ページ) の手順にしたがってファームウェアアップデートを行ってください。 http://www.iodata.jp/support/product/hdl-xr/	

種別	内容	表示条件と対処方法
注意※2	装置温度が異常です。	装置温度が50℃に達したことを検出した場合に表示されます。 [対処] 装置の設置環境を見直し、装置温度が上昇しない環境に設置してください。
	FAN が停止しました。FAN の状態を確認してください。	FAN が停止を検出した場合に表示されます。 [対処] 本製品の電源を投入後、背面のFANの回転が確認できない場合は、FANの交換が必要です。

※1 エラーについて

エラーの内容がお知らせに表示される場合、本製品に重大なエラーが発生しています。

お知らせ画面のクリアボタンをクリックするか、エラーの原因を解消するまで、本製品の [STATUS] ランプは赤点滅しています。対処方法を確認し、エラーの原因に対処してください。

※2 注意について

注意の内容がお知らせに表示される場合、本製品に注意すべき問題が発生しています。

注意の内容は一度お知らせ画面を確認すると自動的に消去されます。

何度もお知らせに表示される場合は、対処方法を確認し、問題の原因に対処してください。

カテゴリー	メッセージ	説明
すべて	システムは処理中です。もう一度操作をやり直してください。	システムが処理中です。もう一度操作を行ってみてください。
すべて	システムが処理中です。	システムが処理中です。しばらく待ってからもう一度操作を行ってみてください。
すべて	設定を変更しました。	設定の変更が正常に終了。
すべて	設定変更に失敗しました。	設定の変更に失敗した。
名前設定	名前を変更しました。	LANDISK の名前設定が正常に終了。
日付と時刻	NTP サーバーと時刻を同期しました。	NTP サーバーと時刻を同期した(起動時/指定時刻)。
日付と時刻	NTP サーバーと時刻を同期できませんでした。	NTP サーバーとの時刻の同期に失敗した。
ネットワーク	LAN - DHCP 成功 - アドレス : xxx.xxx.xxx.xxx 更新間隔: dddd 秒	DHCP サーバー(LAN 側)から IP アドレス XXX.XXX.XXX.XXX (リース時間 dddd 秒) の取得に成功した。
ネットワーク	EXT - DHCP 成功 - アドレス : xxx.xxx.xxx.xxx 更新間隔: dddd 秒	DHCP サーバー(EXT 側)から IP アドレス XXX.XXX.XXX.XXX (リース時間 dddd 秒) の取得に成功した。
ネットワーク	LAN - DHCP 失敗 - アドレス : xxx.xxx.xxx.xxx	DHCP サーバーから IP アドレスの取得に失敗した。
ネットワーク	EXT - DHCP 失敗 - アドレス : xxx.xxx.xxx.xxx	DHCP サーバーから IP アドレスの取得に失敗した。
パスワード	xxxxx のパスワードを変更しました。	ユーザーxxxxx のパスワード変更が正常に終了。
パスワード	管理者のパスワードを変更しました。	管理者のパスワード変更が正常に終了。
ユーザー管理	xxxxx を追加しました。	ユーザーxxxxx の追加に成功。
ユーザー管理	xxxxx を削除しました。	ユーザーxxxxx の削除に成功。
ユーザー管理	xxxxx の情報を変更しました。	ユーザーxxxxx の情報変更成功。
ユーザー管理	一括削除しました。	ユーザーを複数選択し一括削除に成功。
ユーザー管理	追加に失敗しました。	ユーザーxxxxx 追加に失敗した。
ユーザー管理	削除に失敗しました。	ユーザーxxxxx 削除に失敗した。
ユーザー管理	xxxxx は存在しません。	指定されたユーザーxxxxx は存在しない。
ユーザー管理	作成可能な最大数を超過しています。	最大ユーザー数を超過して作成を試みた。
グループ管理	xxxxx を追加しました。	グループxxxxx の追加に成功。
グループ管理	xxxxx を削除しました。	グループxxxxx の削除に成功。
グループ管理	xxxxx の情報を変更しました。	グループxxxxx の情報変更成功。
グループ管理	一括削除しました。	グループxxxxx を複数選択し一括削除に成功。
グループ管理	追加に失敗しました。	グループ追加に失敗した。
グループ管理	削除に失敗しました。	グループ削除に失敗した。
グループ管理	xxxxx は存在しません。	指定されたグループxxxxx は存在しない。
グループ管理	作成可能な最大数を超過しています。	最大グループ数を超過して作成を試みた。
共有管理	xxxxx を追加しました。	共有xxxxx の追加に成功。
共有管理	xxxxx を削除しました。	共有xxxxx の削除に成功。
共有管理	xxxxx の情報を変更しました。	共有xxxxx の情報変更成功。
共有管理	一括削除しました。	共有を複数選択し一括削除に成功。
共有管理	追加に失敗しました。	共有の追加に失敗した。
共有管理	削除に失敗しました。	共有の削除に失敗した。
共有管理	ごみ箱の作成に失敗しました。	ごみ箱の作成に失敗した。
共有管理	ごみ箱の削除に失敗しました。	ごみ箱の削除に失敗した。
共有管理	xxxxx は存在しません。	指定された共有xxxxx は存在しない。
共有管理	作成可能な最大数を超過しています。	最大共有数を超過して作成を試みた。
使用量制限	各使用量制限の使用率は正常値です。	ユーザー、グループ、共有フォルダーの使用量制限で使用率が正常(指定値未満)。
使用量制限	使用量制限の警告使用率 xx% を超えました。	使用量制限の使用率警告値 xx% を超えた。
使用量制限	使用量制限情報を取得できません。	使用量制限に関する情報が取得できなかった。
ボリューム使用量	内蔵ボリュームの使用率は正常値です。	内蔵ボリュームの使用率が正常(指定値未満)。
ボリューム使用量	内蔵ボリュームの使用率が xx% を超えました。	内蔵ボリュームの使用率が xx% を超えた。
ボリューム使用量	内蔵ボリュームの使用率を取得できません。	内蔵ボリュームの使用率が取得できなかった。
一括登録	開始しました。	一括登録を開始。
一括登録	完了しました。	一括登録が完了。
一括登録	aaaaa:bbbb の設定が不正です	一括登録で aaaaa の処理で、bbbb に禁則文字や禁則設定の指定のため、登録をスキップした。
バックアップ	設定を削除しました。	バックアップの設定削除が正常に終了。
バックアップ	開始しました。	バックアップを開始。
バックアップ	xxxxx を開始しました。	プロファイルxxxxx のバックアップを開始。
バックアップ	完了しました。	バックアップが完了。
バックアップ	xxxxx が完了しました。	プロファイルxxxxx のバックアップが完了。
バックアップ	実行を開始しました。	バックアップの実行を開始。
バックアップ	バックアップ元: xxxxx を開始しました。	バックアップ元 xxxxx のバックアップを開始。
バックアップ	バックアップ元: xxxxx が完了しました。	バックアップ元 xxxxx のバックアップが完了。
バックアップ	バックアップに失敗しました。	バックアップに失敗した。
バックアップ	シャットダウンに失敗しました。	バックアップ後のシャットダウンに失敗した。
バックアップ	バックアップ元: xxxxx が失敗しました。	特定の項目のバックアップに失敗した。
バックアップ	xxxxx が一部失敗しています。	バックアップ中、一部項目が正常にバックアップできなかった。
バックアップ	バックアップ先が専用フォーマットではありません。	バックアップ先が専用フォーマットでフォーマットされていない。
バックアップ	xxxxx は読み取り専用である必要があります。	指定されている共有が読み取り専用でない。

バックアップ	xxxx のボリュームが異常です。	指定されている共有のボリュームが異常。
バックアップ	xxxx のボリュームがバックアップ可能な状態ではありません。	指定されている共有のボリュームが使用可能な状態でない。
バックアップ	xxxx のボリュームは専用フォーマットである必要があります。	指定されている共有のボリュームが専用フォーマットでない。
バックアップ	xxxx への接続に失敗しました。	xxxx への接続に失敗した。
クイックコピー	開始しました。	クイックコピーを開始。
クイックコピー	完了しました。	クイックコピーが完了。
クイックコピー	実行を開始しました。	クイックコピーの実行を開始。
クイックコピー	クイックコピーに失敗しました。	クイックコピーに失敗した。
クイックコピー	xxxx の設定が不正です。	指定されている共有 xxxx が不正。
クイックコピー	xxxx は読み取り専用である必要があります。	指定されている共有 xxxx が読み取り専用でない。
クイックコピー	xxxx のボリュームが異常です。	指定されている共有 xxxx のボリュームが異常。
クイックコピー	xxxx のボリュームがバックアップ可能な状態ではありません。	指定されている共有 xxxx のボリュームが使用可能な状態でない。
クイックコピー	xxxx のボリュームは専用フォーマットである必要があります。	指定されている共有 xxxx のボリュームが専用フォーマットでない。
レプリケーション	初期同期を開始しました。	レプリケーションの初期同期処理を開始した。
レプリケーション	初期同期を完了しました。	レプリケーションの初期同期処理が完了し、監視動作を開始した。
レプリケーション	このレプリケーション先はサポート外です。	疎通テストでプロトコル不適合。
レプリケーション	レプリケーション先に接続できませんでした。	疎通テストで非サポートのアクションを行った。
レプリケーション	レプリケーション先を認証できませんでした。	疎通テストで接続プロトコルエラー。
レプリケーション	接続テストが中断されました。	疎通テストが何らかの理由で中断された。
レプリケーション	接続テストがタイムアウトしました。	疎通テストで接続タイムアウトエラー。
レプリケーション	初期同期が失敗しました。再試行します。	初期同期動作が失敗した。初期同期を再試行する。
レプリケーション	内部エラーが発生しました。初期同期を再試行します。	監視イベントの過多を検出した。初期同期を再試行する。
レプリケーション	同期が失敗しました。初期同期を再試行します。	監視中に同期処理が失敗した。初期同期を再試行する。
レプリケーション	レプリケーション元共有フォルダー内のフォルダー数が多すぎます。フォルダー数を減らしてからレプリケーション設定をやり直してください。	監視対象フォルダー数の限界を超えた。
プリントサーバー	バッファをクリアしました。	プリントバッファのクリアが正常に終了。
プリントサーバー	プリンターが接続されました。	プリンターが接続された。
プリントサーバー	プリンターが取り外されました。	プリンターの取り外しが正常に終了。
プリントサーバー	バッファのクリアに失敗しました。	プリンタバッファのクリアに失敗した。
プリントサーバー	プリンターの接続に失敗しました。	プリンターの接続に失敗した。
プリントサーバー	プリンターの取り外しに失敗しました。	プリンターの取り外しに失敗した。
ボリューム	取り外しが完了しました。	外付けボリュームの取り外しが正常終了。
ボリューム	フォーマットを開始しました。	ボリュームのフォーマットを開始。
ボリューム	フォーマットが完了しました。	ボリュームのフォーマットが正常終了。
ボリューム	フォーマットに失敗しました。	ボリュームのフォーマットに失敗した。
ボリューム	使用中のためフォーマットできません。使用されていないことを確認してから、再度操作を行ってください。	ボリュームが使用中のためにフォーマットに失敗した。
ボリューム	容量が小さすぎるためフォーマットできません。	ボリュームの容量が小さすぎるためにフォーマットに失敗した。
ボリューム	チェックディスクを開始しました。	ボリュームのチェックディスクを開始。
ボリューム	チェックディスクが完了しました。	ボリュームのチェックディスクが正常終了。
ボリューム	チェックディスクでエラーが発生しました。	ボリュームのチェックディスクに失敗した。
ボリューム	使用中のためチェックできません。使用されていないことを確認してから、再度操作を行ってください。	ボリュームが使用中のためにチェックディスクを行うことができなかった。
ボリューム	モード変更が完了しました。	ボリューム(接続するポート)のモード変更が正常終了。
ボリューム	xxxx が接続されました。	外付けボリューム xxxx の接続が正常終了。
ボリューム	xxxx が取り外されました。	外付けボリューム xxxx の取り外し処理が正常終了。
ボリューム	使用中のため取り外しできません。使用されていないことを確認してから、再度操作を行ってください。	ボリュームが使用中のために取り外しに失敗した。
ボリューム	取り外しに失敗しました。	ボリュームの取り外しに失敗した。
ボリューム	使用中のためモードを変更できません。使用されていないことを確認してから、再度操作を行ってください。	RAID デバイスが使用中のために操作を行うことができなかった。
ボリューム	モード変更に失敗しました。	RAID ボリュームのモード変更に失敗した。
ボリューム	xxxx の接続に失敗しました。	外付けボリューム xxxx の接続に失敗した。
ボリューム	xxxx の取り外しに失敗しました。	外付けボリューム xxxx の取り外しに失敗した。
ボリューム	xxxx が故障しました。交換してください。	外付けボリューム xxxx の故障を検出した。
ボリューム	xxxx は容量不足です。	外付けボリューム xxxx の容量が RAID に組み込むには小さ過ぎる。
ボリューム	xxxx は故障しています。	外付けボリューム xxxx は S.M.A.R.T.エラーかエラーカウント値が 100 を超えている
ボリューム	xxxx は未フォーマットです。	外付けボリューム xxxx は未フォーマット。
ボリューム	xxxx のマウントに失敗しました。	外付けボリューム xxxx はフォーマット済と認識したがマウントに失敗した。
ボリューム	xxxx にはデータが入っています。	外付けボリューム xxxx にはデータが存在するため、RAID に組み込まない。
ボリューム	RAID の再設定に失敗しました。	RAID の再設定に失敗した。
ボリューム	RAID の強制復帰に失敗しました。	RAID の強制復帰に失敗した。
ボリューム	ロックキー用 USB メモリーが接続されていません。	ロックキーとして利用する USB メモリーが接続されていない。
ボリューム	ロックキー用 USB メモリーの容量が小さすぎます。	ロックキーとして利用する USB メモリーの容量が小さ過ぎる。
ディスク	xxxx が接続されました。	接続されたディスクの認識と関連処理が正常終了。
ディスク	xxxx が取り外されました。	ディスクの取り外し処理が正常終了。
ディスク	xxxx の接続に失敗しました。	内蔵ディスク xxxx の接続に失敗した。
ディスク	xxxx の取り外しに失敗しました。	内蔵ディスク xxxx の取り外しに失敗した。
ディスク	xxxx が故障しました。交換してください。	内蔵ディスク xxxx の故障を検出した。

ディスク	xxxxxは未フォーマットです。	内蔵ディスクxxxxxはフォーマットされていない。
ディスク	xxxxxのマウントに失敗しました。	内蔵ディスクxxxxxのマウント処理に失敗した。
ディスク	xxxxxにはデータが入っています。	内蔵ディスクxxxxxにファイル/フォルダが記録されている。
ディスク	xxxxxの取り外しはできません。	RAIDを維持できなくなるため、スイッチ操作による内蔵ディスクxxxxxの取り外しができなかった。
ディスク	xxxxxは容量不足です。	内蔵ディスクxxxxxの容量がRAIDに組み込むには小さ過ぎる。
ディスク	xxxxxは故障しています。	内蔵ディスクxxxxxはS.M.A.R.T.エラーかエラーカウント値が100を超えている。
RAID	モード変更が完了しました。	RAIDモードの設定が正常に終了。
RAID	xxxxx-再構築を開始しました。	ボリュームxxxxxのRAIDの再構築が開始された。
RAID	xxxxx-再構築進捗 dd%	ボリュームxxxxxのRAIDの再構築が進行中。
RAID	xxxxx-再構築を完了しました。	ボリュームxxxxxのRAIDの再構築が正常に終了した。
RAID	RAIDが正常状態に復帰しました。	RAIDシステムが崩壊や構成異常状態から正常動作となった。
RAID	RAIDの再設定を開始しました。	内蔵ボリュームがRAID崩壊時にRAIDの再設定(再フォーマット)を開始した。
RAID	RAIDの再設定が完了しました。	内蔵ボリュームがRAID崩壊時にRAIDの再設定(再フォーマット)が完了した。
RAID	RAIDの強制復帰を開始しました。	内蔵ボリュームがRAID崩壊時にRAID強制復帰を開始した。
RAID	RAIDの強制復帰が完了しました。	内蔵ボリュームがRAID崩壊時にRAID強制復帰が完了した。
RAID	ミラーディスクの取り外しを開始しました。	ミラーディスクの取り外しを開始した。この後シャットダウンする。
RAID	シャットダウンが完了したら、ミラーディスクを取り外してください。	シャットダウンが完了したら、ミラーディスクを取り外す。
RAID	ミラーリングを開始しました。	内蔵ボリュームとeSATAとのミラーリングを開始した。(リビルドはこれから)
RAID	RAIDが崩壊しました。	RAIDが崩壊した。
RAID	RAIDの構成異常が発生しました。	RAIDが構成異常となった。(アグレード)
RAID	RAIDが異常状態になりました。	RAIDが異常状態となった。(eSATAミラー側で動作、内蔵崩壊状態)
RAID	内蔵ボリュームのマウントに失敗しました。	内蔵ボリュームのマウントに失敗した。
ロックキー	削除が完了しました。	ロックキーの削除が正常に終了。
ロックキー	コピーが完了しました。	ロックキーのコピーが正常に終了。
ロックキー	セキュリティロックモードを解除しました。	「セキュリティロックモード」を解除した。
ロックキー	削除に失敗しました。	ロックキーの削除に失敗した。
ロックキー	コピーに失敗しました。	ロックキーのコピーに失敗した。
ロックキー	鍵ファイルが見つかりません。	ロックキーファイルが存在しない。
ロックキー	セキュリティロックモードで起動しました。	ロックキーがないため「セキュリティロックモード」で起動した。
ロックキー	セキュリティロックモードの解除に失敗しました。	「セキュリティロックモード」の解除に失敗した。
アクティブリペアー	開始しました。	アクティブリペアーを開始。
アクティブリペアー	停止しました。	アクティブリペアーを停止。
アクティブリペアー	完了しました。	アクティブリペアーを完了。
アクティブリペアー	アクティブリペアーの開始に失敗しました。	アクティブリペアーの開始に失敗した。
アクティブリペアー	アクティブリペアーの停止に失敗しました。	アクティブリペアーの停止に失敗した。
アクティブリペアー	修復できないエラーが発生しました。(xxxxx)何度か実行しても正常終了しない場合データをバックアップ後、システム初期化を「内蔵HDDの完全消去を行う」オプションを付けて実行してください。	ボリュームxxxxxのディスクエラーを修復できなかった。
メール	テストメールを送信しました。	テストメールの送信が正常に終了。
メール	テストメールの送信に失敗しました。	テストメールの送信に失敗した。
イベント通知	xxxxxメールを送信しました。	イベントxxxxxのイベント通知メールの送信が正常に終了。
イベント通知	xxxxxメールの送信に失敗しました。	イベントxxxxxのイベント通知メールの送信に失敗した。
定期レポート	メールを送信しました。	定期レポートメールの送信が正常に終了。
定期レポート	メールの送信に失敗しました。	定期レポートメールの送信に失敗した。
監視サービス	サービス有効化コードは期限切れです。	監視サービスのサービス有効化コードのサービス期間が終了。
電源	シャットダウンを開始しました。	シャットダウンを開始。
電源	再起動を開始しました。	再起動を開始。
UPS	UPSが取り外されました。	UPSの警告機能無効な状態でUPSが取り外された。
UPS	停電復旧により、通常動作に復帰しました。	UPSが停電復旧により、通常動作に切り替わったことを検出した。
UPS	UPSが接続されていることを確認しました。	UPSが接続されていることを検出した。
UPS	状態取得に失敗しました。	UPSの状態取得に失敗した。
UPS	UPSが接続されていません。	UPSが接続されていないことを検出した。
UPS	停電により、バッテリー動作を開始しました。	UPSが停電によりバッテリー動作に切り替わったことを検出した。
UPS	停電後、指定した経過時間を超えました。	UPSが停電状態から指定時間経過したことを検出した。
UPS	UPSのバッテリーローを検出しました。	UPSが停電状態でバッテリーローを検出した。
UPS	ネットワークシャットダウン要求を送信しました。 - xxxxxxxxxx	xxxxxxxに対して、ネットワークシャットダウン要求を送信した。
UPS	ネットワークシャットダウン要求を受信したため、シャットダウンを開始します。	ネットワークシャットダウン要求を受信したため、シャットダウンを開始した。
UPS	ネットワークシャットダウン要求の送信に失敗しました。(認証エラー)	認証エラーによりネットワークシャットダウン要求の送信に失敗した。
UPS	ネットワークシャットダウン要求の送信に失敗しました。(通信エラー)	通信エラーによりネットワークシャットダウン要求の送信に失敗した。
UPS	ネットワークシャットダウン要求の送信に失敗しました。(IPアドレス変換エラー)	IPアドレスへの変換エラーによりネットワークシャットダウン要求の送信に失敗した。
ファームウェア	アップデートを開始しました。	ファームウェアの更新を開始。
ファームウェア	ファームウェアアップデートに成功しました。 : x.xx	ファームウェアアップデートに成功した。
ファームウェア	新しいファームウェアが公開されています。	最新ファームウェアが公開されていることを検出した。
ファームウェア	現在のファームウェア(x.xx)と同じまたは古いバージョンです。	現在と同じまたは古いバージョンでアップデートしようとした。(ファームウェアバージョン)
ファームウェア	不正なファームウェアファイルです。	本装置用のファームウェアではないファイルを検出した。

ファームウェア	ファームウェアアップデートに失敗しました。	ファームウェアアップデートに失敗した。
システム	システムを起動しました。	システムの起動が完了した。
システム	システムを終了しました。	システムのシャットダウンが開始された。
システム	再起動を開始しました。	システムの再起動が開始された。
システム	シャットダウンに失敗しました。	シャットダウンに失敗した。
システム	再起動に失敗しました。	再起動に失敗した。
システム	管理者ログインしました。 : xxx.xxx.xxx.xxx	WEB 設定画面へログインした。(接続 PC の IP アドレス)
システム	管理者ログアウトしました。 : xxx.xxx.xxx.xxx	WEB 設定画面からログアウトした。(接続 PC の IP アドレス)
システム	管理者ログインに失敗しました。 : xxx.xxx.xxx.xxx	WEB 設定画面へのログインに失敗した。(接続 PC の IP アドレス)
システム	装置温度が異常です。	装置温度が 50℃ に達した。
システム	FAN が停止しました。FAN の状態を確認してください。	FAN が停止を検出した。
初期化	初期化を完了しました。	システム初期化を完了した。
初期化	初期化に失敗しました。	システム初期化中にエラーが発生した。
ログ転送	ログ情報をメール転送しました。	ログ情報をメール転送。
ログ転送	アクセスログをメール転送しました。	アクセスログをメール転送。
ログ転送	ログ情報転送メールの送信に失敗しました。	ログ情報のメール転送に失敗した。
ツール	設定取得を開始しました。	LAN DISK Restore で設定保存が開始された。
ツール	設定取得を完了しました。	LAN DISK Restore での設定保存が完了した。
ツール	設定を開始しました。	LAN DISK Restore で設定復元が開始された。
ツール	設定を完了しました。	LAN DISK Restore での設定復元が完了した。
ツール	要求処理中に他の要求がありました。この要求はキャンセルされます。	すでにリクエストを処理している最中に別のリクエストを受信した。
ツール	設定中にエラーが発生しました。	設定中にエラーが発生しました。
ツール	設定保存中にエラーが発生しました。	設定保存中にエラーが発生した。
ツール	eSATA ポリウムが接続されているため設定を行えません。	eSATA ポリウムが接続されているため設定が行えない
ツール	現在の内蔵ポリウムの動作モードではミラーリングモードに変更できません。	現在の RAID モードではミラーリングに設定を変更できない。
ツール	xxxxx はミラーリングモードでは設定できないモードです。	ミラーリングモードでは指定された RAID モード xxxxx は設定できない。
ツール	aaaaa-bbbbb に ccccc は不正です。	設定項目 aaaaa の bbbbb に対して ccccc は不正な値である。

- Microsoft ネットワーク共有サービスアクセスログ
[\[アクセスログのリファレンス\]](#) (18-95 ページ) をご覧ください。

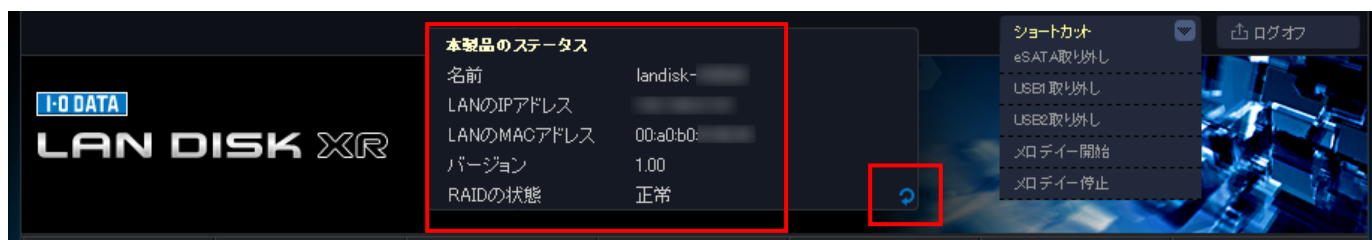
メール通知一覧

メール通知設定		送信タイミング	通知内容 (メール Subject)	通知内容 (メール body)	補足
イベント通知設定	システム	イベント発生時	[LAN DISK の名前] システム	システムを起動しました。	システムの起動が完了時にメール通知されます。
		イベント発生時	[LAN DISK の名前] システム	システムを終了しました。	システムのシャットダウン開始時にメール通知されます。
		イベント発生時	[LAN DISK の名前] システム	再起動を開始しました。	システムの再起動が開始時にメール通知されます。
		システム起動 5 分後と 1 日 1 回	[LAN DISK の名前] システム	新しいファームウェアが公開されています。	最新ファームウェアが公開されていることを検出時にメール通知されます。
バックアップ	イベント発生時	[LAN DISK の名前] バックアップ	xxxx を開始しました。	プロファイルのバックアップを開始時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] バックアップ	xxxx が完了しました。	プロファイルのバックアップが完了時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] バックアップ	xxxx が一部失敗しています。	バックアップ中、一部項目が正常にバックアップできなかった時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] バックアップ	バックアップに失敗しました。	バックアップに失敗した時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] レプリケーション	レプリケーション元共有フォルダー内のフォルダー数が多すぎます。フォルダー数を減らしてからレプリケーション設定をやり直してください。	監視対象フォルダー数の限界を超えた時にメール通知されます。	
温度 FAN 警告	システム起動 5 分後以降のイベント発生時	[LAN DISK の名前] 温度 FAN 警告	装置温度が異常です。装置の設置環境を見直してください。システムを強制終了します。	装置温度が 50℃ に達した時にメール通知されます。	
	システム起動 5 分後以降のイベント発生時	[LAN DISK の名前] 温度 FAN 警告	FAN が停止しました。FAN の状態を確認してください。装置が高温となり障害の原因となりますので、システムを強制終了します。	FAN が停止した時にメール通知されます。	
ログ転送	ログローテート時 システムシャットダウン時	[LAN DISK の名前] ログ情報 転送	本文なし、 添付ファイルに CSV 形式ログ情報が添付ファイルとして添付		
	ログローテート時 システムシャットダウン時	[LAN DISK の名前] アクセス ログ転送	本文なし、 添付ファイルに CSV 形式アクセスログが添付ファイルとして添付		
ディスクエラー警告	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ディスク エラー警告	xxxx の接続に失敗しました。	外付けボリュームの接続に失敗時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ディスク エラー警告	xxxx の取り外しに失敗しました。	外付けボリュームの取り外しに失敗時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ディスク エラー警告	xxxx が故障しました。交換してください。	外付けボリューム故障を検出時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ディスク エラー警告	xxxx の接続に失敗しました。	内蔵ディスクの接続に失敗時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ディスク エラー警告	xxxx の取り外しに失敗しました。	内蔵ディスクの取り外しに失敗時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ディスク エラー警告	xxxx が故障しました。交換してください。	内蔵ディスクの故障を検出時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] RAID	xxxx-再構築を開始しました。	表示されたボリュームの RAID の再構築が開始時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] RAID	xxxx-再構築を完了しました。	表示されたボリュームの RAID の再構築が正常に終了時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] RAID	RAID が正常状態に復帰しました。	RAID システムが崩壊や構成異常状態から正常動作となった時にメール通知されます。	
	イベント発生時と起動時と 定期警告時	[LAN DISK の名前] ディスク エラー警告	内蔵ボリュームのマウントに失敗しました。	内蔵ボリュームのマウントに失敗時にメール通知されます。	
	イベント発生時と起動時と 定期警告時	[LAN DISK の名前] ディスク エラー警告	RAID が崩壊しました。	RAID が崩壊時にメール通知されます。	
	イベント発生時と起動時と 定期警告時	[LAN DISK の名前] ディスク エラー警告	RAID の構成異常が発生しました。	RAID の構成異常検出時にメール通知されます。	
	イベント発生時と起動時と 定期警告時	[LAN DISK の名前] ディスク エラー警告	RAID が異常状態になりました。	RAID の異常状態検出時にメール通知されます。	
	ロックキー接続時	[LAN DISK の名前] ロックキ ー	セキュリティロックモードを解除しました。	「セキュリティロックモード」を解除時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] ロックキ ー	セキュリティロックモードで起動しました。	ロックキーがないため「セキュリティロックモード」で起動時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] アクティ ブリアー	開始しました。	アクティブリアーを開始時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] アクティ ブリアー	停止しました。	アクティブリアーを停止時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] アクティ ブリアー	完了しました。	アクティブリアーを完了時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] アクティ ブリアー	アクティブリアーの開始に失敗しました。	アクティブリアーの開始に失敗時にメール通知されます。	
	イベント発生時	[LAN DISK の名前] アクティ ブリアー	アクティブリアーの停止に失敗しました。	アクティブリアーの停止に失敗時にメール通知されます。	

		イベント発生時	[LAN DISK の名前] アクティブリペアー	修復できないエラーが発生しました。(xxxx)何度か実行しても正常終了しない場合データをバックアップ後、システム初期化を「内蔵 HDD の完全消去を行う」オプションを付けて実行してください。	ディスクエラーの修復失敗時にメール通知されます。
UPS 警告		イベント発生時	[LAN DISK の名前] UPS 警告	停電復旧により、通常動作に復帰しました。	UPS が停電復旧により、通常動作に切り替わったことを検出時にメール通知されます。
		イベント発生時と起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] UPS 警告	UPS が接続されていません。	UPS が接続されていないことを検出時にメール通知されます。
		イベント発生時と起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] UPS 警告	停電により、バッテリー動作を開始しました。	UPS が停電によりバッテリー動作に切り替わったことを検出時にメール通知されます。
		イベント発生時と起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] UPS 警告	停電後、指定した経過時間を超過しました。	UPS が停電状態から指定時間経過したことを検出時にメール通知されます。
		イベント発生時と起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] UPS 警告	UPS のバッテリーローを検出しました。	UPS が停電状態でバッテリーローを検出時にメール通知されます。
		イベント発生時	[LAN DISK の名前] UPS 警告	ネットワークシャットダウン要求を受信したため、シャットダウンを開始します。	ネットワークシャットダウン要求を受信時にメール通知されます。
ボリューム使用量警告		起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] ボリューム使用量警告	ボリューム使用量警告 内蔵ボリュームの使用率が x%以上になりました。 全容量 :xxxGB (xxxxxxxx byte) 使用量 :xxxGB (xxxxxxxx byte) xx.x%	内蔵ボリュームの使用率が指定値を超えるとメール通知されます。
		起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] ボリューム使用量警告	内蔵ボリュームの使用率を取得できません。お知らせを確認してください。(4005-221)	内蔵ボリュームの使用率の取得に失敗時にメール通知されます。
使用量制限警告		起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] 使用量制限警告	使用量制限警告 下記ユーザーの使用率が 90%以上になりました。 xxxx: 制限設定値 :xx.xGB 使用量 :xx.xGB (xx.x%)	定期警告時に使用量制限容量に対する使用率が指定値を超えたユーザー、グループ、共有フォルダーの情報がメール通知されます。 警告使用率を超えたユーザー別制限設定値と使用量 警告使用率を超えたグループ別設定値と使用量 警告使用率を超えた共有フォルダー別設定値と使用量 ※NT ドメイン、ActiveDirectory に参加している場合は、警告使用率を超えたドメインユーザー、ドメイングループの設定値と使用量も記載されます。
		起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] 使用量制限警告	使用量制限情報を取得できません。お知らせを確認してください。(905-218)	使用量制限情報を取得に失敗するとメール通知されます。
定期レポート設定	ボリューム使用量レポート	起動時と定期警告時	[LAN DISK の名前] 定期レポート	ボリューム使用量レポート 内蔵ボリューム: 全容量 :xxxGB (xxxxxxxx byte) 使用量 :xxxGB (xxxxxxxx byte) xx.x % ユーザー: xxxx: 制限設定値 : xx GB 使用量 : xx GB (xx.x %) xxxx: 制限設定値 : xx GB 使用量 : xx GB (xx.x %) グループ: xxxx: 制限設定値 : xx GB 使用量 : xx GB (xx.x %) フォルダー: xxxx: 制限設定値 : xx GB 使用量 : xx GB (xx.x %) xxxx: 制限設定値 : xx GB 使用量 : xx GB (xx.x %)	指定曜日時間に下記の情報がメール通知されます。 内蔵ボリューム使用量 ユーザー別使用量 グループ別使用量 共有フォルダー別使用量 ※NT ドメイン、ActiveDirectory に参加している場合は、ドメインユーザー、ドメイングループの使用量も記載されます。 ボリューム使用量の情報は常に記載されますが、ユーザー別、グループ別、共有フォルダー別の使用量は、サービスの使用量制限設定が有効、かつ、使用量制限設定が設定された項目のみ記載されます。

設定画面のリファレンス

本製品のステータス

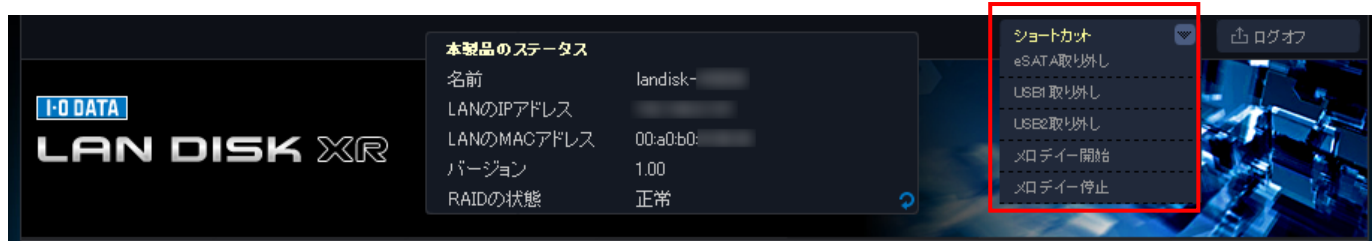


名前	本製品に設定している名前を表示します。
LAN の IP アドレス	本製品の LAN ポートに設定している IP アドレスを表示します。
LAN の MAC アドレス	本製品の LAN ポートの MAC アドレスを表示します。
バージョン	本製品システムのバージョンを表示します。
RAID の状態	本製品の RAID の状態を表示します。 詳細な状態は、[情報表示] → [ボリューム情報] で確認できます。

本製品のステータスの右下にある、円形の矢印をクリックすると、本製品のステータスの表示を更新することができます。

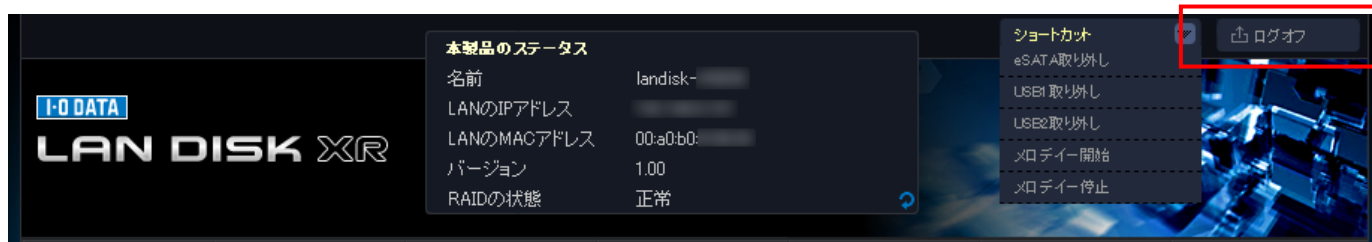
ショートカット

ショートカット メニューは選択するだけで簡単に本機の操作ができます。



eSATA 取り外し	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、eSATA ポートに接続した eSATA ハードディスクを取り外せる状態にします。 ディスクを取り外す時は、この操作「デバイスの取り外し」を実行した後にデバイスを外してください。
USB1 取り外し	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、USB ポート 1 に接続した USB ディスクを取り外せる状態にします。 ディスクを取り外す時は、この操作「デバイスの取り外し」を実行した後にデバイスを外してください。
USB2 取り外し	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、USB ポート 2 に接続した USB ディスクを取り外せる状態にします。 ディスクを取り外す時は、この操作「デバイスの取り外し」を実行した後にデバイスを外してください。
メロディー開始	メロディー機能では、ランプとメロディー音で本製品の設置場所や現在設定画面を開いている本製品を確認することができます。 ネットワーク内に複数台の本製品を設置した場合などにご利用ください。 [STATUS] ランプと各内蔵 HDD の [ACCESS] ランプが点滅し、メロディー音が鳴ります。
メロディー停止	メロディー音を停止し、[STATUS] ランプと各内蔵 HDD の [ACCESS] ランプは現在の状態表示に戻ります。

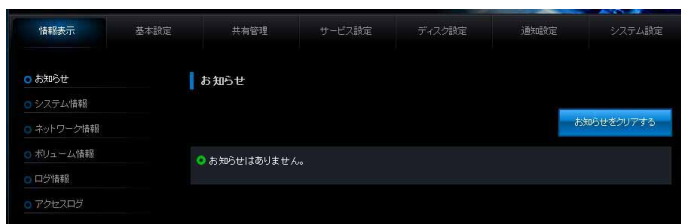
ログオフ



設定画面からログオフして、トップページに戻ります。再度、詳細設定画面にて操作設定するには再ログインが必要となります。

お知らせ

本製品に関するお知らせが表示されます。ブザーや[STATUS]ランプで、本装置がエラーや注意を示す時に確認してください。
表示させるメッセージは全て「情報表示」→「ログ情報」にも記録されますので、発生時刻など、詳細はログ情報をご確認ください。
お知らせで表示される内容は以下の3種類があります。



エラー	<p>赤色マークで表示される内容は、本製品に重大なエラーが発生しています。 【お知らせ一覧】(24-123 ページ) を参照し、対処を行ってください。 エラーの原因を解消するまでメッセージは表示されます。 発生時刻については、ログ情報とあわせてご確認ください。 エラーのお知らせが表示されている場合、本製品の「STATUS」ランプが赤点滅しています。</p>
注意	<p>黄色マークで表示される内容は、本製品に注意が必要な問題が発生しています。 【お知らせ一覧】(24-123 ページ) を参照し、対処を行ってください。 注意のお知らせは、お知らせ画面を再度表示させると表示されません。 発生時刻については、ログ情報とあわせてご確認ください。</p>
正常	<p>緑色マークで「お知らせはありません。」と表示されている場合は、お知らせ画面を表示した時点では、お知らせする内容はあります。</p>
[お知らせをクリアする]ボタン	<p>すべてのお知らせ情報をクリアします。 [イベント通知設定]→[定期警告]にチェックしておく、エラーの原因を解消していない場合は、[お知らせをクリアする]ボタンでお知らせをクリアしても、1時間に1回再度お知らせにエラーが表示されます。</p>

▼HDL-XR シリーズの場合

情報表示	基本設定	共有管理	サービス設定	ディスク設定	通知設定	システム設定
システム情報						
プロダクト名	HDL-XR2 0					
システムバージョン	1.00					
現在時刻	2009年10月15日 11時44分11秒					
タイムサーバーとの時刻同期	同期する					
有効な共有サービス	<input checked="" type="checkbox"/> Microsoft ネットワーク共有 <input checked="" type="checkbox"/> アクセスログを記録 <input checked="" type="checkbox"/> AppleShare ネットワーク共有 <input checked="" type="checkbox"/> FTP 共有 <input checked="" type="checkbox"/> ネットワークバックアップの許可 <input checked="" type="checkbox"/> 使用量制限					
内蔵ボリュームの動作モード	RAID0					
クイックコピー	有効					
バックアップスケジュール	無効					
ディスク省電力	なし					
ランプの明るさ	明					
起動スケジュール	無効					
筐体内温度	38 °C					
メインFAN回転数	1265 rpm					
UPS接続状態	未接続					
UPSバッテリー残量	-					
UPS警告機能	無効					

▼HDL-XR/2D シリーズの場合

情報表示	基本設定	共有管理	サービス設定	ディスク設定	通知設定	システム設定
システム情報						
プロダクト名	HDL-XR1 0/20					
システムバージョン	1.01 (2009/12/04_19:29)					
現在時刻	2009年12月9日 17時27分3秒					
タイムサーバーとの時刻同期	同期する					
有効な共有サービス	<input checked="" type="checkbox"/> Microsoft ネットワーク共有 <input checked="" type="checkbox"/> アクセスログを記録 <input checked="" type="checkbox"/> AppleShare ネットワーク共有 <input checked="" type="checkbox"/> FTP 共有 <input checked="" type="checkbox"/> ネットワークバックアップの許可					
内蔵ボリュームの動作モード	RAID0					
クイックコピー	有効					
バックアップスケジュール	無効					
ディスク省電力	なし					
ランプの明るさ	明					
起動スケジュール	無効					
筐体内温度	37 °C					
メインFAN回転数	1205 rpm					
UPS接続状態	未接続					
UPSバッテリー残量	-					
UPS警告機能	無効					

プロダクト名	製品型番です。	
システムバージョン	本製品システムのバージョンです。	
現在時刻	本製品に設定されている時刻です。	
タイムサーバーとの時刻同期	本製品の時刻をタイムサーバーから取得するかどうかについて表示します。取得する場合、タイムサーバーの設定状況と設定するタイミングも表示します。 例) タイムサーバー : ntp.nict.jp 設定は、[基本設定] → [日付と時刻の設定] (25-139 ページ) をご覧ください。	
有効な共有サービス	現在本製品が提供しているサービスを表示します。設定は、[サービス設定] → [サービス設定] (25-149 ページ) をご覧ください。	
	Microsoft ネットワーク共有	Windows パソコンがファイル共有に使用するサービスです。
	アクセスログを記録	Microsoft ネットワーク共有アクセス時にログを記録します。
	AppleShare ネットワーク共有	Mac OS パソコンがファイル共有に使用するサービスです。
	FTP 共有	FTP によるファイル転送に使用するサービスです。
	ネットワークバックアップの許可	ネットワーク越しのデータをバックアップ、レプリケーションを使用する場合に必要なサービスです。
使用量制限	ユーザー・グループ・フォルダーの使用量制限を使用する場合に必要なサービスです。	
内蔵ボリュームの動作モード	現在の内蔵ボリュームがどのようなモードで動作しているのかを表示します。設定は、[ディスク設定] → [ボリューム設定] (25-151 ページ) をご覧ください。	
クイックコピー	USB ポート 1 に接続された USB 機器から共有へ一括コピーを実行するモードです。 このモードに設定した場合、USB ポート 1 に接続された USB 機器はコピー元として認識され、[FUNC.]ボタンを長押しすると、あらかじめ設定された共有へコピーします。 クイックコピーモードを解除して一般共有ポートとして利用したり、クイックコピーのコピー先共有を変更したい場合には、[ディスク設定] → [ボリューム設定] (25-151 ページ) をご覧ください。	
バックアップスケジュール	バックアップスケジュールの設定状況を表示します。設定は、[サービス設定] → [バックアップ] (25-147 ページ) をご覧ください。	
ディスク省電力	一定時間ディスクアクセスがない場合に内蔵ドライブ、外付けドライブを省電力モードにして消費電力を抑える機能を提供します。時間が表示されている場合は、最後のディスクアクセスからその時間経過すると消費電力を抑えるモードに入ります。次回ディスクアクセスが発生すると、自動的に通常モードに戻ります。外付けドライブにおいては対応する装置以外、省電力モードは利用できません。 最新の対応機器については、弊社製品ホームページ(http://www.iodata.jp/support/product/hdl-xr/)をご覧ください。 設定は、[システム設定] → [省電力設定] (25-157 ページ) をご覧ください。	
ランプの明るさ	本製品前面の [STATUS] ランプ、および、4台のカートリッジの [ACCESS] ランプの明るさを表示します。明るさは「明」「中」「暗」の3段階から選択できます。 設定は、[システム設定] → [ランプ設定] (25-156 ページ) をご覧ください。	
起動スケジュール	本製品を指定時刻に起動、終了する機能を利用しているかどうかを表示します。設定は、[システム設定] → [電源 ON/OFF 設定] (25-156 ページ) をご覧ください。	
筐体内温度	現在の装置内の温度を表示します。	
メイン FAN 回転数	メイン FAN の現在の回転数を表示します	
UPS 接続状態	UPS 装置の接続状態を表示します。	
UPS バッテリー残量	接続されているバッテリーの残容量を表示します。	
UPS 警告機能	UPS 監視の有効/無効を表示します。	



LAN DISK の名前		本製品に設定している名前です。 この名前は、Windows ネットワークに接続しているクライアントから本製品を指定する場合などに利用します。 設定は、[基本設定] → [名前設定] (25-139 ページ) をご覧ください。
コンピューターの説明		本製品に設定している説明文です。Windows ネットワークのプロパティ内にある [コンピューターの説明] 同様に、ネットワークで本製品を詳細表示したときのコメントです。 設定は、[基本設定] → [名前設定] (25-139 ページ) をご覧ください。
LAN (EXT)	DHCP クライアント	本製品の LAN(EXT)ポートの IP アドレスを自動取得する DHCP 機能が有効か無効かを表示します。 有効: IP アドレスをルーターなどの DHCP サーバーから自動取得します。 無効: IP アドレスを手動設定したとおりに設定します。 設定は、[基本設定] → [ネットワーク設定] (25-139 ページ) をご覧ください。
	IP アドレス	本製品に設定している IP アドレスです。 DHCP クライアント機能が有効の場合は、DHCP サーバーから自動取得したアドレスが表示されます。 (LAN ポートの DHCP 取得失敗時) 192.168.0.200 (AutoIP169.254.xxx.xxx は表示しません) (EXT ポートの DHCP 取得失敗時) 192.168.10.200
	サブネットマスク	本製品に設定しているサブネットマスクです。IP アドレスとの組み合わせにより、通信できるネットワークが決まります。DHCP クライアント機能を有効にしている場合は、DHCP サーバーから取得したサブネットマスク値が表示されます。 (DHCP 取得失敗時) 255.255.255.0 (AutoIP のサブネットマスクは表示しません。)
	ジャンボフレーム	本製品が通信する際に送り出す 1 回分のデータの最大値を指定します。 ネットワーク上すべての製品が 1000BASE-T でジャンボフレームに対応している場合のみご利用いただけます。 ネットワーク上のすべての機器が同一の値でないと通信できません。設定値が正しいかどうかご確認ください。
	MAC アドレス	本製品の MAC アドレスです。 このアドレスは出荷時点で本製品に書き込まれており、変更はできません。
	リンク状態	現在のリンクスピードを表示しています。
	Wake On LAN (LAN のみ)	Wake On LAN の有効/無効を表示します。 設定は、[基本設定] → [ネットワーク設定] (25-139 ページ) をご覧ください。
共通	設定方法	デフォルトゲートウェイと DNS サーバーアドレスの情報取得方法を表示します。 設定は、[基本設定] → [ネットワーク設定] (25-139 ページ) をご覧ください。
	デフォルトゲートウェイ	本製品に設定しているデフォルトゲートウェイです。
	DNS サーバーアドレス	本製品に設定している DNS サーバーアドレスです。
ワークグループ設定時	ワークグループ	本製品に設定しているワークグループ名です。 設定は、[サービス設定] → [Microsoft ネットワーク] (25-146 ページ) をご覧ください。
NT ドメイン設定時	ドメイン名	本製品で設定している(項目名)です。 設定は、[サービス設定] → [Microsoft ネットワーク] (25-146 ページ) をご覧ください。
	ドメインコントローラーの名前	本製品で設定している(項目名)です。 設定は、[サービス設定] → [Microsoft ネットワーク] (25-146 ページ) をご覧ください。

ActiveDirectory 設定時	ドメイン名 (NetBIOS 名)	本製品で設定している(項目名)です。 設定は、[サービス設定] → [Microsoft ネットワーク] (25-146 ページ) をご覧ください。
	ドメイン名 (フル DNS 名)	本製品で設定している(項目名)です。 設定は、[サービス設定] → [Microsoft ネットワーク] (25-146 ページ) をご覧ください。
	ドメインコ ントローラ ーの名前	本製品で設定している(項目名)です。 設定は、[サービス設定] → [Microsoft ネットワーク] (25-146 ページ) をご覧ください。
WINS サーバーアドレス		本製品に設定している WINS サーバーアドレスです。この設定により、ルーターで区切られたネットワークにおいても名前による Windows ネットワーク共有サービスが受けられます。通常、ご家庭でご利用になられる場合は設定の必要はありません。 設定は、[サービス設定] → [Microsoft ネットワーク] (25-146 ページ) をご覧ください。

ボリューム情報

▼HDL-XR シリーズの場合



▼HDL-XR/2D シリーズの場合



動作モード	ボリュームの動作モードを表示します。 設定は、[ディスク設定] → [ボリューム設定] (25-151 ページ) をご覧ください。	
状態	ボリュームの動作状態を表示します。状態により複数表示される場合があります。	
	正常動作	ボリュームは正常に動作しています。
	再構築中	RAID の再構築を行っています。
	セキュリティロック中	暗号化された RAID ボリュームの解除キーを待っている状態です。
	構成異常	RAID の構成ディスクの一部が外されています。
	RAID 崩壊	崩壊モードで起動した、または、動作中に RAID が崩壊しています。
	未接続	ディスクが接続されていないか、取り外し処理を行ったか、あるいは正常に認識されていない状態です。 ケーブルの抜き差しが可能な状態です。
	未フォーマット	対象ボリュームが未フォーマット状態です。
	容量不足	ディスクが接続されており、正常に認識されていますが、RAID に組み込めない状態です。接続したディスクの容量がミラーリングするために必要な容量より小さい場合に表示されます。 適切な容量のディスクと交換してください。
	取り外し済	ボリュームは取り外し処理済です。
	マウント失敗	ボリュームのマウントに失敗しています。
	異常	eSATA ミラー使用時に、内蔵ボリュームが構成できなかった状態です。
	待機中	ミラーに追加したボリュームにデータが入っているため、手動でのミラーリング開始操作を待っている状態です。
	ロックキー	暗号化された RAID ボリュームの解除キーが接続されています。

ボリューム情報	全容量	ボリューム全体の容量を表示します。 1Kbyte=1000byte で算出しています		
	使用容量	現在使用している容量を表示します。		
	フォーマット形式	このボリュームのフォーマット形式を表示します。		
構成ディスク	ボリュームを構成するディスクの一覧を次の形式で表示します。 (ディスク番号 ディスク状態 ディスク名 ディスク容量)			
	ディスク状態	接続済	本製品で正常に認識されています。	
		未接続	本製品で認識されていません。カートリッジの交換、またはケーブルの抜き差しが可能な状態です。	
		待機中	本製品で認識されていますが、RAID に組み込めない状態です。	
		スペア	本製品で、スペアとして認識されています。	
		容量不足	内蔵 RAID に組み込むために必要なディスク容量より小さいディスクが接続されている場合に表示されます。適切な容量のディスクに交換する必要があります。	
		故障	読み書きエラーや S.M.A.R.T. 診断でエラーとなったディスクです。新しいディスクに交換する必要があります。	
	ディスク名	ディスクのモデルナンバーを表示します。		
ディスク容量	ディスク容量を表示します。 1Kbyte=1000byte で算出しています。			

ログ情報

本製品のログ情報を表示します。上から新しい順に 100 件のログを表示しています。ログの内容については、以下をご覧ください。

[【ログ一覧】 \(24-126 ページ\)](#)

日付	時刻	メッセージ
2009/08/28	13:10:20	ネットワーク LAN - DHCP失敗 - アドレス : 192.168.0.200(411-130)
2009/08/28	13:10:19	ネットワーク LAN - DHCP失敗 - アドレス : 169.254.180.251(411-130)
2009/08/28	12:55:23	システム: システムを起動しました。
2009/08/28	12:55:18	日付と時刻: NTP サーバーと時刻を同期できませんでした。(305-240)
2009/08/28	12:55:05	RAID: RAIDが正常状態に復帰しました。
2009/08/28	12:54:10	ネットワーク LAN - DHCP失敗 - アドレス : 192.168.0.200(411-130)
2009/08/28	12:54:09	ネットワーク EXT - DHCP失敗 - アドレス : 192.168.10.200(411-130)
2009/08/28	12:54:07	ネットワーク LAN - DHCP失敗 - アドレス : 169.254.180.251(411-130)
2009/08/28	12:54:02	RAID: RAIDの構成異常が発生しました。(2310-8113)

[ダウンロード]ボタン	すべてのログ情報を、CSV形式でダウンロードすることができます。 ダウンロードしたファイルはExcelなどCSVファイルを開くことのできるソフトウェアで確認することができます。
前のページへ	現在表示しているログの以前の100件を表示します。
次のページへ	現在表示しているログの次の100件を表示します。

アクセスログ

本製品の共有フォルダ（Microsoft ネットワーク共有のみ）に対するクライアントからのアクセス内容を表示します。上から新しい順に 100 件のログを表示しています。

ログの内容については、以下をご覧ください。

[【アクセスログのリファレンス】](#)（18-95 ページ）



[ダウンロード]ボタン	すべてのログ情報を、CSV形式でダウンロードすることができます。 ダウンロードしたファイルはExcelなどCSVファイルを開くことのできるソフトウェアで確認することができます。
前のページへ	現在表示しているログの以前の100件を表示します。
次のページへ	現在表示しているログの次の100件を表示します。

基本設定

名前設定

LAN DISK の名前 ネットワーク上で表示される本製品の名前を設定します。ネットワーク上に同じ名前が存在しないよう設定します。

LAN DISK の説明 Windows ネットワーク上で表示される本製品の説明を設定します。（入力しなくてもかまいません。）

日付と時刻の設定

日付と時刻 日付と時刻を設定します。
[PCの時刻を設定]ボタンをクリックすると、パソコンに設定されている時刻を設定します。

サーバーと同期 タイムサーバーを利用して時刻設定する場合に、[同期する]を選択します。
※サーバーと同期するを有効にした場合、設定と同時に同期を開始します。

ネットワーク設定

LAN LAN ポートの設定をします。

IP アドレスを自動的に取得する (DHCP) 本製品の IP アドレスを DHCP サーバーから自動で取得する場合に選択します。

LAN	次の IP アドレスを使う	本製品の IP アドレスを手動で設定する場合には選択します。	
		IP アドレス	IP アドレスを入力します。
		サブネットマスク	サブネットマスクを入力します。
	フレームサイズ	フレームサイズを設定できます。[カスタム]を選択すると、数値を入力できます。	
	Wake On LAN	有効	Wake On LAN を有効にする場合に選択します。
無効		Wake On LAN を無効にする場合に選択します。	

EXT	EXT ポートの設定をします。		
	無効にする	このポートを無効にします。	
	IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)	本製品の IP アドレスを DHCP サーバーから自動で取得する場合には選択します。	
	次の IP アドレスを使う	本製品の IP アドレスを手動で設定する場合には選択します。	
		IP アドレス	IP アドレスを入力します。
サブネットマスク		サブネットマスクを入力します。	
フレームサイズ	フレームサイズを設定できます。[カスタム]を選択すると、数値を入力できます。		

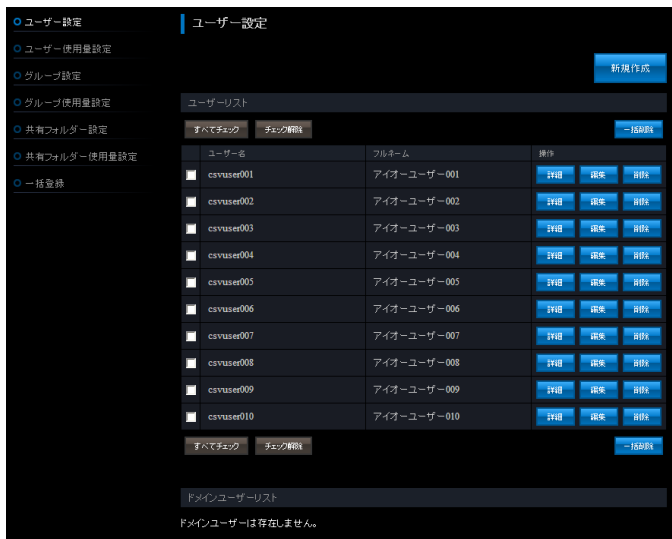
共通	デフォルトゲートウェイと DNS サーバーの設定をします。		
	LAN から自動で取得する	LAN ポートから自動で取得する場合に設定します。	
	EXT から自動で取得する	EXT ポートから自動で取得する場合に設定します。	
	手動で設定する	デフォルトゲートウェイと DNS サーバーを手動で設定する場合には選択します。	
		デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを入力します。
DNS サーバー		DNS サーバーを入力します。	

管理者パスワード設定

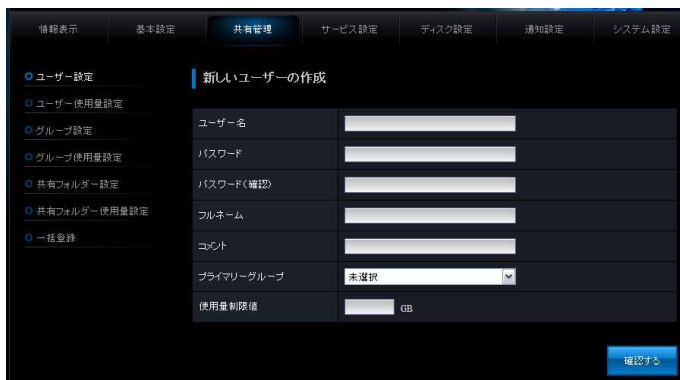


パスワード	管理者パスワードを入力します。
パスワード (確認)	確認のため再度管理者パスワードを入力します。

ユーザー設定

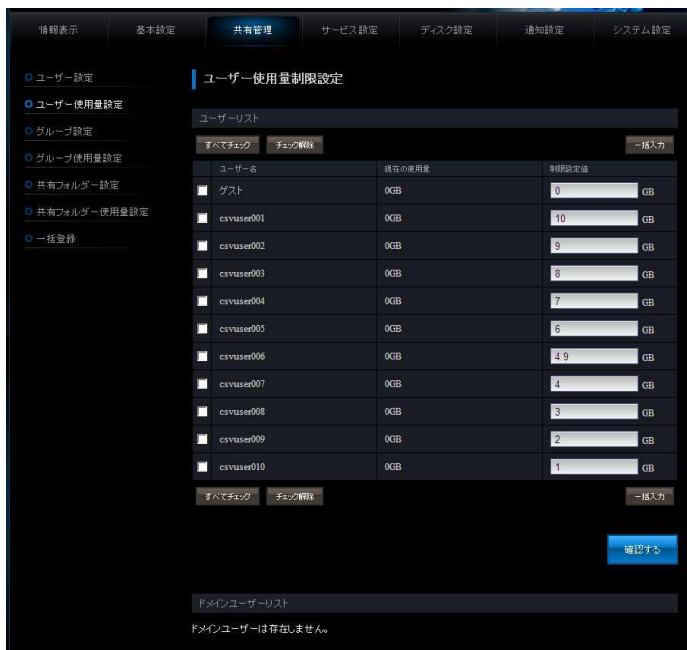


[新規作成]ボタン	新しいユーザーを作成します。
ユーザーリスト	ユーザーのリストを表示します。
[すべてチェック]ボタン	すべてにチェックをつけます。
[チェック解除]ボタン	すべてのチェックを解除します。
[一括削除]ボタン	チェックのついたユーザーを一括で削除します。
[詳細]ボタン	ユーザーの詳細を表示します。
[編集]ボタン	ユーザーの編集を行います。
[削除]ボタン	ユーザーの削除を行います。
ドメインユーザーリスト	ドメインユーザーのリストを表示します。



ユーザー名	ユーザー名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
パスワード(確認)	確認のため再度パスワードを入力します。
フルネーム	フルネームを入力します。
コメント	コメントを入力します。
プライマリグループ	設定するユーザーが複数のグループにまたがっている場合、ファイルの追加・削除などでこのグループの使用量が変化します。
使用量制限値	使用量制限値を入力します。 ※サービス設定の使用量制限が無効の場合は設定できません。

ユーザー使用量設定



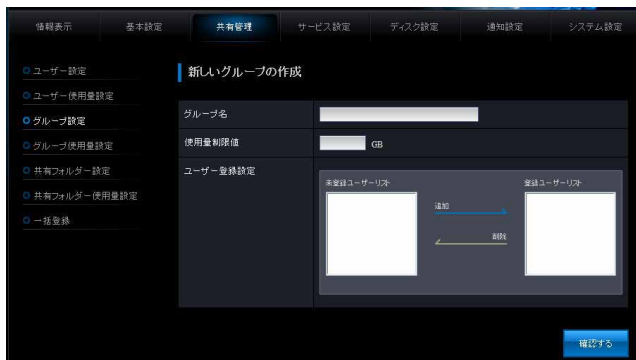
※サービス設定の使用量制限が無効の場合は表示されません。

ユーザーリスト	ユーザーのリストを表示します。
[すべてチェック]ボタン	すべてにチェックをつけます。
[チェック解除]ボタン	すべてのチェックを解除します。
[一括入力]ボタン	チェックのついたユーザーの制限設定値を一括して入力します。
現在の使用量	現在の使用量を表示します。
制限設定値	制限設定値を入力します。
ドメインユーザーリスト	ドメインユーザーのリストを表示します。

グループ設定



[新規作成]ボタン	新しいグループを作成します。
グループリスト	グループリストを表示します。
[すべてチェック]ボタン	すべてにチェックをつけます。
[チェック解除]ボタン	すべてのチェックを解除します。
[一括削除]ボタン	チェックのついたグループを一括で削除します。
[詳細]ボタン	グループの詳細を表示します。
[編集]ボタン	グループの編集を行います。
[削除]ボタン	グループの削除を行います。
ドメイングループリスト	ドメイングループのリストを表示します。



グループ名	グループ名を入力します。
使用量制限値	使用量制限値を入力します。 ※サービス設定の使用量制限が無効の場合は設定できません。
ユーザー登録設定	ユーザーリストへの追加/削除を行います。 「未登録ユーザーリスト」を選択して「追加」をクリックすると、「登録ユーザーリスト」に移動されます。 「登録ユーザーリスト」を選択して「削除」をクリックすると、「未登録ユーザーリスト」に移動されます。

グループ使用量設定



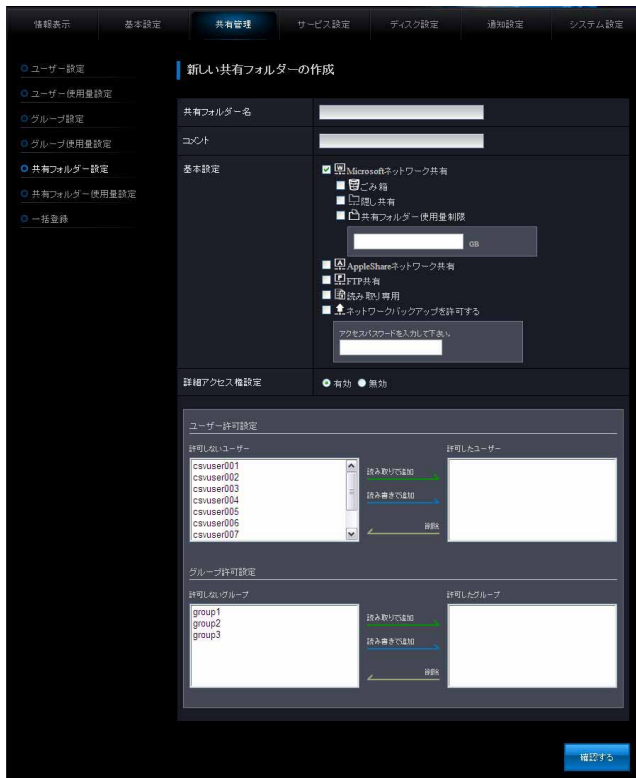
※サービス設定の使用量制限が無効の場合は表示されません。

グループリスト	グループのリストを表示します。
[すべてチェック]ボタン	すべてにチェックをつけます。
[チェック解除]ボタン	すべてのチェックを解除します。
[一括入力]ボタン	チェックのついたグループの制限設定値を一括して入力します。
現在の使用量	現在の使用量を表示します。
制限設定値	制限設定値を入力します。
ドメイングループリスト	ドメイングループのリストを表示します。

共有フォルダー設定

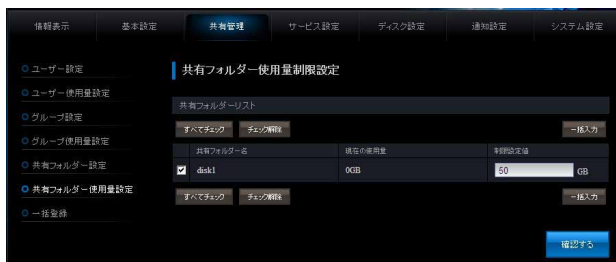


[新規作成]ボタン	新しい共有フォルダーの作成を行います。
共有フォルダーリスト	共有フォルダーリストを表示します。
[すべてチェック]ボタン	すべてにチェックをつけます。
[チェック解除]ボタン	すべてのチェックを解除します。
[一括削除]ボタン	チェックのついた共有フォルダーを一括で削除します。
基本設定	有効なサービスをアイコンで表示します。
[詳細]ボタン	共有フォルダーの詳細を表示します。
[変更]ボタン	共有フォルダーの変更を行います。
[削除]ボタン	共有フォルダーの削除を行います。



共有フォルダー名	共有フォルダー名を入力します。		
コメント	コメントを入力します。		
基本設定	Microsoft ネットワーク共有	Microsoft ネットワーク共有を有効にする場合にチェックをつけます。	
		ごみ箱	ごみ箱機能を有効にする場合にチェックをつけます。
		隠し共有	隠し共有機能を有効にする場合にチェックをつけます。
		共有フォルダー使用量制限	共有フォルダー使用量制限を有効にする場合にチェックをつけて容量を入力します。 ※サービス設定の使用量制限が無効の場合は設定できません。
	AppleShare ネットワーク共有	AppleShare ネットワーク共有を有効にする場合にチェックをつけます。 ※フォルダー使用量制限が有効な場合は有効にできません。	
	FTP 共有	FTP 共有機能を有効にする場合にチェックをつけます。 ※フォルダー使用量制限が有効な場合は有効にできません。	
詳細アクセス権設定	読み取り専用	読み取り専用機能を有効にする場合にチェックをつけます。	
	ネットワークバックアップを許可する	ネットワークバックアップを許可する場合にチェックをつけてアクセスパスワードを入力します。	
ユーザー許可設定	有効	詳細アクセス権を有効にする場合に選択します。	
グループ許可設定	無効	詳細アクセス権を無効にする場合に選択します。	
	ユーザー許可設定	許可したユーザーリストへの追加/削除を行います。 「許可しないユーザー」を選択して、「読み取りで追加」をクリックすると読み取り専用で、「読み書きで追加」をクリックすると読み書き可能で、「許可したユーザー」に移動されます。 「許可したユーザー」を選択して「削除」をクリックすると、「許可しないユーザー」に移動されます。	
グループ許可設定	許可したグループリストへの追加/削除を行います。 「許可しないグループ」を選択して、「読み取りで追加」をクリックすると読み取り専用で、「読み書きで追加」をクリックすると読み書き可能で、「許可したグループ」に移動されます。 「許可したグループ」を選択して「削除」をクリックすると、「許可しないグループ」に移動されます。		

共有フォルダー使用量設定



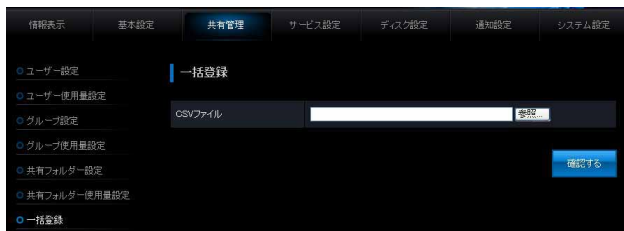
※サービス設定の使用量制限が無効の場合は表示されません。

共有フォルダーリスト	共有フォルダーのリストを表示します。
[すべてチェック]ボタン	すべてにチェックをつけます。
[チェック解除]ボタン	すべてのチェックを解除します。
[一括入力]ボタン	チェックのついた共有フォルダーの制限設定値を一括して入力します。
現在の使用量	現在の使用量を表示します。
制限設定値	制限設定値を入力します。 ※サービス設定の使用量制限が無効の場合は設定できません。

一括登録

一括登録については以下をご覧ください。

[【一括登録をする】\(7-47 ページ\)](#)



CSV ファイル	ユーザー、グループ、共有フォルダーを一括登録するための CSV ファイルを指定します。
[参照]ボタン	CSV ファイルを選択します。

Microsoft ネットワーク



参加方法の設定	ワークグループ	ワークグループを使用する場合に選択します。
	NT ドメイン	NT ドメインを使用する場合に選択します。
	ActiveDirectory	ActiveDirectory を使用する場合に選択します。

ワークグループ	
ワークグループ名	ワークグループ名を入力します。
WINS サーバーアドレス	WINS サーバーアドレスを入力します。

NT ドメイン	
ドメイン名	ドメイン名を入力します。
ドメインコントローラーの名前	ドメインコントローラーの名前を入力します。
WINS サーバーアドレス	WINS サーバーアドレスを入力します。

ActiveDirectory	
ドメイン名 (NetBIOS 名)	ドメイン名 (NetBIOS 名) を入力します。
ドメイン名 (フル DNS 名)	ドメイン名 (フル DNS 名) を入力します。
ドメインコントローラーの名前	ドメインコントローラーの名前を入力します。
管理者ユーザー名	ドメインコントローラーの管理者ユーザー名を入力します。
管理者パスワード	ドメインコントローラーの管理者パスワードを入力します。
WINS サーバーアドレス	WINS サーバーアドレスを入力します。

Time Machine 設定



Time Machine 機能	有効	Time Machine 機能を有効にする場合に選択します。	
		保存先共有フォルダー	保存先共有フォルダーを選択します。
		Macintosh のコンピューター名	Macintosh のコンピューター名を入力します。
		Macintosh の MAC アドレス	Macintosh の MAC アドレスを入力します。
	無効	Time Machine 機能を無効にする場合に選択します。	



ポート番号	ネットワーク環境に応じて変更してください。通常は変更する必要はありません。
エンコード	接続する FTP クライアントによっては、ファイル名が文字化けする場合があります。使用するクライアントに合わせてエンコードを選択してください。

バックアップ



No.	バックアップ設定の管理番号です。No.1 の場合は Job1 として管理されます。
ジョブ名	バックアップ設定に付けられている名前が表示されます。
スケジュール	バックアップ設定のスケジュールが表示されます。
[今すぐ実行]ボタン	バックアップ設定を実行します。
[詳細]ボタン	バックアップ設定の詳細を表示します。
[変更]ボタン	バックアップ設定を変更します。
[削除]ボタン	バックアップ設定を削除します。

バックアップの変更



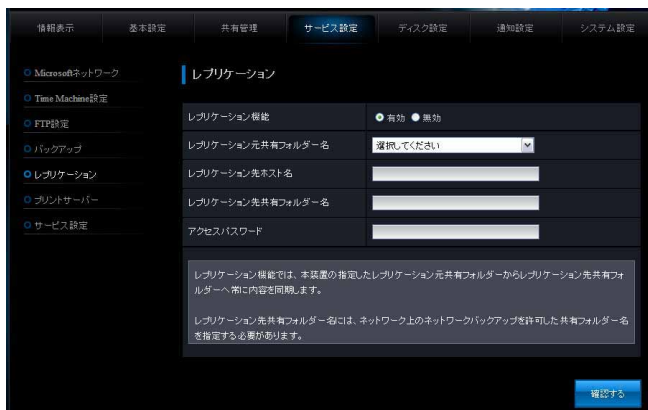
ジョブ名	バックアップ設定に名前を付けることができます。どのような名前を入力してもバックアップに影響はありません。わかりやすい名前を入力してください。		
保存する履歴数	保存する履歴数を選択します。選択された履歴数より多くのバックアップが取られた場合、古いものから削除されます。		
スケジュール	有効	スケジュールを有効にする場合に選択します。	
		曜日指定	開始時刻になったら実行する曜日にチェックします。
	開始時刻	開始時刻を選択します。	
無効	スケジュールを無効にする場合に選択します。		
オプション	ごみ箱もバックアップする	ごみ箱内のデータもバックアップする場合にチェックします。	
	バックアップ後にシャットダウン	バックアップ完了後にシャットダウンする場合にチェックします。	
バックアップ元	[詳細]ボタンをクリックし、バックアップ元のフォルダーを選択します。下の【バックアップ元の選択】をご覧ください。		
バックアップ先	バックアップ先を選択します。		

バックアップ元の選択



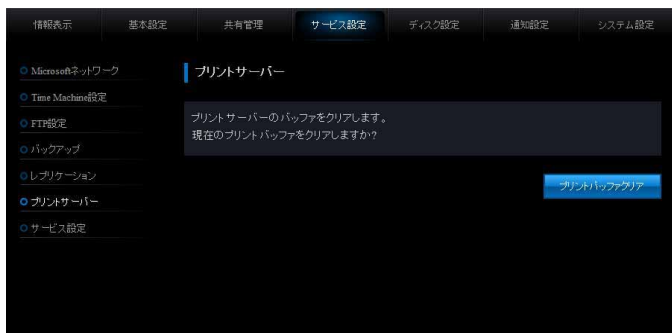
バックアップ元	この装置上	この装置上の共有を指定する場合に選択します。	
		バックアップ元共有フォルダー名	バックアップ元共有フォルダー名を選択します。
	ネットワーク上	ネットワーク上の共有を指定する場合に選択します。	
		バックアップ元ホスト名	ネットワーク上の HDL-XR シリーズの LAN DISK の名前、もしくは IP アドレスを入力します。
		バックアップ元共有フォルダー名	ネットワーク上の HDL-XR シリーズのバックアップ元とする共有フォルダー名を指定します。
アクセスパスワード	ネットワーク上の HDL-XR シリーズのバックアップ元とする共有フォルダーにアクセスパスワードを設定した場合は指定します。		
[追加]ボタン	選択されたバックアップ元共有が追加されます。 ※1つのバックアップ設定につき、この装置上・ネットワーク上の共有を合計で最大300個まで追加可能です。		
バックアップ元共有の一覧	現在指定されているバックアップ元共有の一覧が表示されます。		
[すべてチェック]ボタン	すべてにチェックをつけます。		
[チェック解除]ボタン	すべてのチェックを解除します。		
[一括削除]ボタン	チェックのついたバックアップ元共有を本設定から一括して削除します。		
LAN DISK 名	共有の存在する LAN DISK の名前です。アイコンがこの装置上/ネットワーク上に対応しています。		
共有名	バックアップ元共有フォルダー名が表示されます。		
[削除]ボタン	バックアップ元共有を本設定から削除します。		

レプリケーション



レプリケーション機能	レプリケーション機能の有効/無効を設定します。
レプリケーション元共有フォルダー名	レプリケーション元の共有フォルダー名を選択します。
レプリケーション先ホスト名	レプリケーション先とする HDL-XR シリーズの LAN DISK の名前、もしくは IP アドレスを入力します。
レプリケーション先共有フォルダー名	レプリケーション先とする HDL-XR シリーズの共有フォルダー名を入力します。
アクセスパスワード	上記レプリケーション先共有フォルダーに設定したアクセスパスワードと同じものを入力します。

プリントサーバー



プリントバッファクリア	接続されている場合はプリントバッファのクリアができます。
-------------	------------------------------

ご注意

- プリントバッファのクリアを実行した場合は、プリンター本体でのリセット操作を行ってください。

サービス設定



Microsoft ネットワーク共有	Microsoft ネットワーク共有の有効/無効を設定します。 アクセスログを記録	アクセスログの設定をします。
AppleShare ネットワーク共有	AppleShare ネットワーク共有の有効/無効を設定します。	
FTP 共有	FTP 共有の有効/無効を設定します。	
ネットワークバックアップの許可	ネットワークバックアップの許可を有効/無効に設定します。	
使用量制限	使用量制限の有効/無効を設定します。	

ボリューム操作



内蔵ボリューム	内蔵ボリュームに関する操作です。	
	フォーマット (専用)	内蔵ボリュームをフォーマットします。 現在の内蔵ボリューム上の共有フォルダ設定および保存されたデータはすべて消去され、「disk1」共有を新規に作成します。 必要なデータは、あらかじめバックアップを取っておいてください。
	チェックディスク	専用フォーマット形式のボリュームに論理的なエラーが発生していないか調査します。 もしエラーがあった場合には、ファイル構造を修復します。
	RAID 再設定 (再フォーマット)	RAID 障害が発生し、内蔵ボリューム上に保存されたデータが失われてしまった場合にのみ表示されます。 RAID 再設定 (再フォーマット) を実行することで、内蔵ボリュームをフォーマットし、再度使用開始することができます。 現在の内蔵ボリューム上の共有フォルダ設定および保存されたデータはすべて消去されます。
	RAID 強制復帰	RAID 障害が発生し、内蔵ボリューム上に保存されたデータが失われてしまった場合にのみ表示されます。 RAID 強制復帰を実行すると、崩壊した内蔵ボリュームの RAID の復帰処理を試みます。成功した場合は、一部データが破損した状態で、内蔵ボリュームに保存されたデータに再度アクセスできる場合があります。この場合でも取り出したデータについては保障されません。失敗した場合は、データ復旧業者に依頼してもデータを回復できなくなる場合があります。 できる限りデータ復旧を行う場合は、RAID 強制復帰を実行を行わず、データ復旧業者へご依頼ください。
	内蔵から eSATA ヘミラーリング開始	eSATA ミラーリング有効時に、eSATA ポートに待機中の eSATA ハードディスクを接続している場合にのみ表示されます。実行するとミラーリングが開始されます。
	現在可能な操作はありません。	eSATA ミラーリング有効時に、eSATA ハードディスクのみで動作している時表示されます。
eSATA ボリューム	eSATA ボリュームに関する操作です。	
	ディスクの取り外し	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、eSATA ポートに接続した eSATA ハードディスクを取り外せる状態にします。 ディスクを取り外す時は、この「ディスクの取り外し」を実行した後にケーブルを外してください。
	フォーマット (FAT32)	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、eSATA ポートに接続した eSATA ハードディスクを FAT32 形式でフォーマットします。
	フォーマット (専用)	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、eSATA ポートに接続した eSATA ハードディスクを専用形式でフォーマットします。
	チェックディスク (専用フォーマットのみ)	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、専用フォーマット形式のボリュームに論理的なエラーが発生していないか調査します。 もしエラーがあった場合には、ファイル構造の修復を試みます。
	現在可能な操作はありません。	eSATA ポートに eSATA ハードディスクを接続していない時、またはミラーリング中に表示されます。
	ミラーディスクの取り外し	eSATA ポートがミラーリングに設定されており、ミラーリングが完了している場合にのみ表示されます。 ミラーリング構成している eSATA ハードディスクを保管できる状態にします。この機能を実行すると本体の電源が自動的に切れますので、その後に eSATA ハードディスクを取り外して保管してください。手順については、以下をご覧ください。 【ミラーディスクを保管する】 (14-84 ページ)
	eSATA から内蔵へミラーリング開始	ミラーディスクのみを接続して起動した場合にのみ表示されます。 このミラーディスクから内蔵ボリュームにすべてのデータをコピーし、ミラーリング状態を復旧します。手順については、以下をご覧ください 【ミラーディスクから復旧する】 (14-85 ページ)

USB ボリューム 1、2	USB ボリューム 1、2 に関する操作です。	
	ディスクの取り外し	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、USB ポート 1,2 に接続した USB ディスクを取り外せる状態にします。ディスクを取り外す時は、この「ディスクの取り外し」を実行した後にケーブルを外してください。
	フォーマット (FAT32)	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、USB ポート 1,2 に接続した USB ディスクを FAT32 形式でフォーマットします。
	フォーマット (専用)	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、USB ポート 1,2 に接続した USB ディスクを専用形式でフォーマットします。
	チェックディスク (専用フォーマットのみ)	共有モード (FAT/NTFS/専用) 設定時に、専用フォーマット形式のボリュームに論理的なエラーが発生していないか調査します。エラーがあった場合には、ファイル構造の修復を試みます。
	現在可能な操作はありません。	USB ポート 1 が「クイックコピー」に設定されている、すでに取り外し可能状態である、または、接続されていない場合に表示されます。

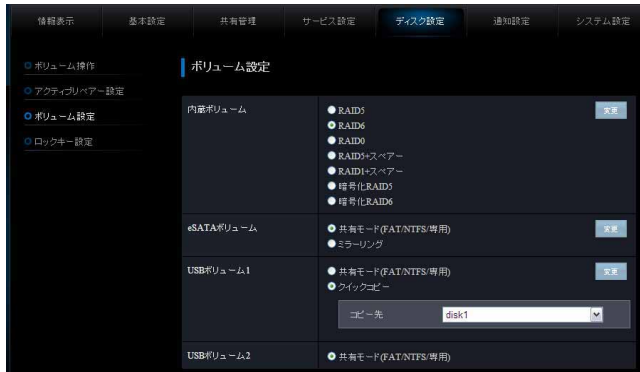
アクティブリペアー設定



アクティブリペアー機能	[今すぐアクティブリペアーを実行する]ボタンをクリックすると、アクティブリペアーを実行します。アクティブリペアー実行中は[アクティブリペアーを停止する]ボタンになり、クリックするとアクティブリペアーを停止します。
アクティブリペアー実行機能	アクティブリペアーをスケジュール実行する場合は[使用する]を選択し、曜日、時刻を設定します。

ボリューム設定

▼HDL-XR シリーズの場合



内蔵ボリューム	内蔵ボリュームに関する設定です。	
	RAID5	RAID5 に設定する場合に選択します。
	RAID6	RAID6 に設定する場合に選択します。
	RAID0	RAID0 に設定する場合に選択します。
	RAID5+スペアー	RAID5+スペアーに設定する場合に選択します。
	RAID1+スペアー	RAID1+スペアーに設定する場合に選択します。
	暗号化 RAID5	暗号化 RAID5 に設定する場合に選択します。
	暗号化 RAID6	暗号化 RAID6 に設定する場合に選択します。
eSATA ボリューム	eSATA ボリュームに関する設定です。	
	共有モード(FAT/NTFS/専用)	共有モードで使用する場合に選択します。
	ミラーリング	ミラーリングモードで使用する場合に選択します。
USB ボリューム 1	USB ボリューム 1 に関する設定です。	
	共有モード(FAT/NTFS/専用)	共有モードで使用する場合に選択します。
	クイックコピー	クイックコピーで使用する場合に選択します。
USB ボリューム 2	コピー先	コピー先を選択します。
	USB ボリューム 2 に関する設定です。	
	共有モード(FAT/NTFS/専用)	共有モードで使用する場合に選択します。

▼HDL-XR/2D シリーズの場合



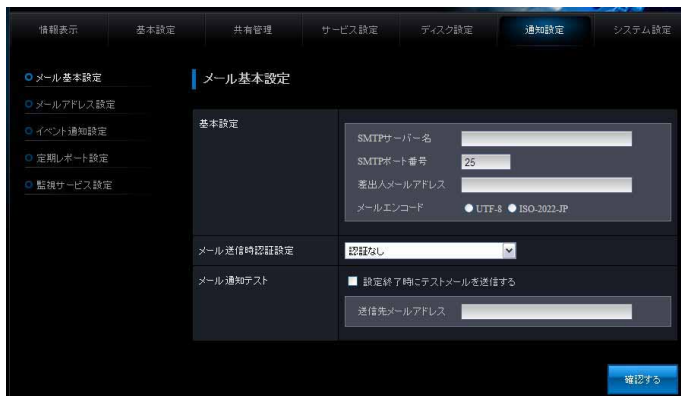
内蔵ボリューム	内蔵ボリュームに関する設定です。	
	RAID0 (2台)	RAID0 に設定する場合に選択します。
	RAID1 (2台)	RAID1 に設定する場合に選択します。
eSATA ボリューム	eSATA ボリュームに関する設定です。	
	共有モード (FAT/NTFS/専用)	共有モードで使用する場合に選択します。
	ミラーリング	ミラーリングモードで使用する場合に選択します。
USB ボリューム 1	USB ボリューム 1 に関する設定です。	
	共有モード (FAT/NTFS/専用)	共有モードで使用する場合に選択します。
	クイックコピー	クイックコピーで使用する場合に選択します。
		コピー先
USB ボリューム 2	USB ボリューム 2 に関する設定です。	
	共有モード (FAT/NTFS/専用)	共有モードで使用する場合に選択します。

ロックキー設定



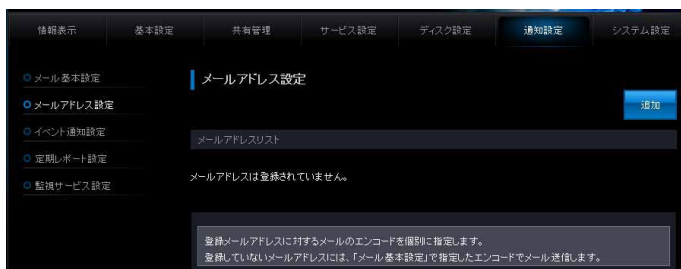
ロックキーの削除	暗号化ボリューム用の USB ロックキーを削除します。
ロックキーのコピー	暗号化ボリューム用の USB ロックキーをコピーします。 USB ロックキーが接続されていない場合は表示されません。

メール基本設定



基本設定	SMTP サーバー名	SMTP サーバー名を入力します。
	SMTP ポート番号	SMTP ポート番号を入力します。
	差出人メールアドレス	差出人メールアドレスを入力します。
	メールエンコード	メールエンコードを選択します。
メール送信時認証設定	メール送信時認証を選択します。	
メール通知テスト	テストメールを送信する場合に、チェックをつけ、[送信先メールアドレス]を記入します。	

メールアドレス設定



メールアドレスリスト	登録されたメールアドレスのリストを表示します。
[追加]ボタン	メールアドレスを追加する場合にクリックします。 以下をご覧ください。



送信先メールアドレス	送信先メールアドレスを入力します。
メールエンコード	メールエンコードを選択します。

イベント通知設定

メール通知をイベントごとに設定できます。

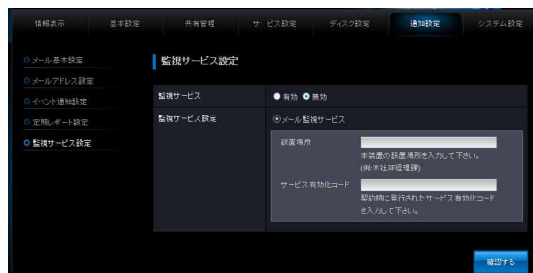
システム	システムのイベントをメール通知することができます。
バックアップ	バックアップのイベントをメール通知することができます。
温度 FAN エラー	装置温度や FAN の異常をメール通知することができます。
ログ転送	システムログをメールで転送することができます。
ディスクエラー警告	ディスクや RAID のエラーをメール通知することができます。 「定期警告」にチェックすると、1 時間に 1 回定期警告することができます。
ボリューム使用量警告	内蔵ボリュームの使用率が指定値を超えていることを検出するとメール通知することができます。 「定期警告」にチェックすると、1 時間に 1 回定期警告することができます。
使用量制限警告	ユーザー、グループ、共有フォルダの使用量制限値に対する使用率が指定値を超えていることを検出するとメール通知することができます。 「定期警告」にチェックすると、1 時間に 1 回定期警告することができます。
UPS 警告	UPS の警告をメール通知することができます。 「定期警告」にチェックすると、1 時間に 1 回定期警告することができます。

定期レポート設定

ボリューム使用量レポート	[有効]にチェックをつけると、ボリューム使用量のレポートを定期的に送信します。
--------------	---

監視サービス設定

監視サービス設定の詳細は、[【監視サービス設定】](#)（19-98 ページ）をご確認ください。



監視サービス	ISS 監視サービスをご登録になる場合は[有効]にチェックしてください。	
監視サービス設定	設置場所	監視サービスご利用時に設置場所の目安となる情報を入力してください。
	サービス有効化コード	監視サービス登録時及び登録完了メールに記載されるサービス有効化コードを入力してください。

システム設定

電源 ON/OFF 設定



今すぐシャットダウン	[シャットダウン実行]ボタンをクリックすると、本製品をシャットダウンします。
今すぐ再起動	[再起動実行]ボタンをクリックすると、本製品を再起動します。
AC電源復旧時の自動起動	停電から復旧したときに、本装置を自動起動するかどうかを設定できます。 UPSと併用すると停電時自動シャットダウンし、停電から復旧した時に自動起動させることができます。
スケジュール設定	起動とシャットダウンのスケジュールを設定できます。 「一括入力」ボタンをクリックすると、チェックボックスで選択されている項目に一括して時刻を指定できます。

スイッチ設定



リセットボタン	リセットボタンの有効・無効を設定します。
FUNC.ボタン	FUNC.ボタンの有効・無効を設定します。

ランプ設定



ランプの明るさ	本製品の [STATUS] ランプと [ACCESS] ランプの明るさを設定します。
---------	--



UPS 警告機能	有効に設定すると、UPS の接続が確認できない時や停電状態を検出した場合に、ブザー音と [STATUS] ランプ (赤点滅)でお知らせします。
停電後の経過時間	停電を検出後指定時間が経過するか、UPS のバッテリー残容量が約30%以下になると、本装置のシャットダウンを開始します。
ネットワークシャットダウン設定	UPS による自動シャットダウン時に、指定した HDL-XR シリーズをシャットダウンすることができます。
ネットワークシャットダウン	チェックをつけると、ネットワークシャットダウン機能が有効になります。
シャットダウンする LAN DISK 名	シャットダウンさせたい LAN DISK 名を入力します。
管理者パスワード	対象 LAN DISK の管理者パスワードを入力します。
ネットワークシャットダウンテストを行う	チェックをつけると、設定保存時に有効がチェックされた LAN DISK に対してネットワークシャットダウンのテストを行います。

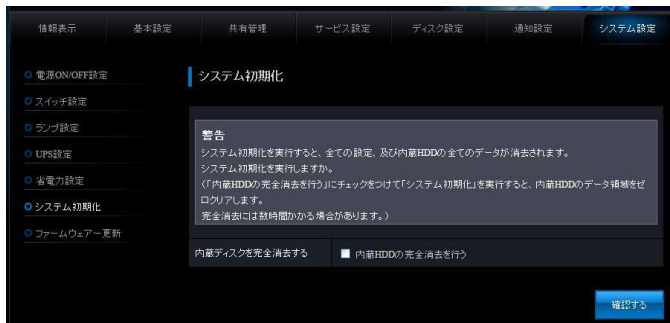
省電力設定



時間設定	時間設定をすると以下の設定ができます。
内蔵ボリューム	内蔵ボリュームの省電力機能の有効/無効を設定します。
eSATA ボリューム	eSATA ボリュームの省電力機能の有効/無効を設定します。
USB ボリューム 1	USB ボリューム 1 の省電力機能の有効/無効を設定します。
USB ボリューム 2	USB ボリューム 2 の省電力機能の有効/無効を設定します。

システム初期化

システム初期化を実行します。



内蔵 HDD の完全消去を行う

内蔵 HDD の完全消去を行う場合にチェックをつけます。

ファームウェア更新

ファームウェアの更新を行います。



困ったときには

アイ・オー・データホームページをご覧ください

<http://www.iodata.jp/support/>

製品型番（HDL-XR）などで検索してください。

サポートページには、最新の情報や過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

本製品起動時のトラブル

本製品の電源を入れると、[STATUS] ランプが赤点灯し、ブザーがピーピーピーと鳴った	26-163 ページ
本製品の電源を入れると、[STATUS] ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと鳴り続ける	26-163 ページ
どうしても起動停止状態となるため、本製品を起動できない	26-163 ページ
使用中に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている	26-163 ページ
起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」と鳴り続けている	26-164 ページ
起動時、または起動中に [ACCESS] ランプが消灯しているカートリッジがある	26-164 ページ

セットアップ時のトラブル

Mac OS と Windows が混在している環境の場合どのパソコンで設定したらよいですか？	26-165 ページ
現在のネットワーク環境に DHCP サーバーがあるかわからない	26-165 ページ
[Magical Finder]で本製品が検索されない	26-167 ページ
DHCP サーバーがあるのにシステム起動後、[STATUS] ランプが赤点灯、または赤点滅している	26-167 ページ
[ミラーディスクの取り外し]を行った eSATA ハードディスクから起動できない	26-168 ページ
(Mac OS) パソコンに直接接続した後、本製品の設定画面が表示されない	26-168 ページ
パソコンと LAN DISK を直接接続し、LAN DISK を起動すると、[STATUS] ランプが赤く点灯する	26-170 ページ
[LAN DISK の名前]を変更したい	26-170 ページ
ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない	26-170 ページ
ファイアウォールソフトで、LAN DISK に対してアクセスを許可させたい場合、どのポート番号で設定すればよいかわからない	26-170 ページ
パソコンの IP アドレスがわからない	26-170 ページ

本製品へアクセス時のトラブル

「landisk-xxxxxx」のアイコンを開いたり、共有フォルダーを開こうとすると、「アクセス権限が無い」とエラーが表示されたり、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示される	26-171 ページ
Mac OS から書き込んだファイルを Windows から削除すると、本製品の共有へ Mac OS からファイル保存ができなくなる	26-171 ページ
本製品にネットワーク経由で接続するパソコンの台数に制限はありますか？	26-171 ページ
LAN DISK にアクセスできないパソコンがある (他のパソコンからは既に LAN DISK にアクセスできている場合)	26-172 ページ

Windows の場合

[コンピューターの検索]で[landisk-xxxxxx]が見つからない	26-172 ページ
Windows 上から本製品を参照した場合に、見覚えのないフォルダーやファイルがある	26-174 ページ
ユーザー権限共有フォルダーにログオンしようとする、エラーメッセージが出てきてログオンができない	26-174 ページ
LAN DISK の検索を行うと「プリンタと FAX」（「プリンタ」）のアイコンが出ますが削除はできますか？	26-174 ページ

Mac OS の場合

[landisk-xxxxxx]が見つからない、もしくは、接続できない	26-174 ページ
-------------------------------------	------------

設定画面に関するトラブル

(Windows) ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない	26-175 ページ
(Mac OS) ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない	26-175 ページ
設定画面で一部表示されない項目がある	26-176 ページ
空き容量が実際より少なく見える	26-176 ページ
設定画面で文字が入力できない	26-177 ページ
設定画面上から入力できる文字制限について	26-177 ページ
パスワード認証に失敗し設定画面を表示できない	26-177 ページ
設定画面にログオンするためのパスワードがわからない	26-177 ページ
以下のメッセージが表示された 「現在システムは処理中です。 しばらく待ってから操作してください。」	26-177 ページ
設定画面上のハードディスク使用領域が、ドライブのプロパティと異なる	26-178 ページ
設定画面の動作が遅い	26-178 ページ
レプリケーション設定時に「レプリケーション先に接続できませんでした。」と表示された	26-178 ページ
レプリケーション設定が無効に戻っている	26-178 ページ

本製品の IP アドレスについて

本製品に設定した IP アドレスを忘れた 本製品に設定されている IP アドレスを調べたい	26-179 ページ
--	------------

ファイルの保存について

本製品に保存したファイルに、「読み込みのみ」「読み書き可能」のような属性設定ができない	26-180 ページ
ファイル名やフォルダー名の制限について	26-180 ページ
ファイルを削除するとごみ箱にいったん入りますか？	26-180 ページ
共有フォルダーにファイルをコピーする際のサイズの制限はありますか？	26-180 ページ

ランプやブザーについて

起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」となり続けている	26-181 ページ
使用中、または、起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」となり続けている	26-181 ページ
パソコンと LAN DISK を直接接続すると、[STATUS] ランプが赤く点灯する	26-181 ページ
ACT/LINK ランプが点灯または点滅していない	26-181 ページ
ランプとブザーの動作について知りたい	26-181 ページ

カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル

カートリッジの取り外し（スライドスイッチを [UNLOCK] した）後に、UNLOCK したカートリッジの [ACCESS] ランプが青点灯している	26-182 ページ
カートリッジの取り付け（スライドスイッチを [LOCK] した）後に、すべての [ACCESS] ランプが速く青点滅を開始している	26-182 ページ
カートリッジの取り付け（スライドスイッチを [LOCK] した）後に、LOCK したカートリッジの [ACCESS] ランプが赤く点滅している	26-182 ページ
HDL-XR/2D シリーズにて起動後に空カートリッジのスライドスイッチを UNLOCK にすると LOCK にもどした時に [ACCESS] ランプが青点滅し続ける	26-182 ページ

eSATA ハードディスクとミラーリング時のトラブル

eSATA ハードディスクを接続すると、[STATUS] ランプが赤く点灯し、ブザーが「ピーピーピー」と鳴った	26-183 ページ
eSATA ハードディスクを接続しても認識されない	26-183 ページ

プリントサーバー使用時のトラブル

プリントサーバー機能を使用する際、プリンタードライバーのインストールがうまくできない	26-184 ページ
印刷時にエラー画面が表示される	26-185 ページ
インク残量を確認するユーティリティソフトが使えない	
プリントサーバー機能を利用して印刷を行ったところ、正常に印刷ができない	26-185 ページ

クイックコピー機能について

コピー後にデータを参照したい	26-187 ページ
コピーにかかる時間について	26-187 ページ
ログにクイックコピーのエラーが表示された	26-187 ページ
クイックコピーを実行するとブザーが鳴り、エラーとなる	
コピーデータを見せないようにできますか？	26-187 ページ

バックアップについて

バックアップ後にデータを参照したい	26-188 ページ
バックアップにかかる時間について	26-188 ページ
スケジュール設定でバックアップした場合、更新されたデータのみバックアップされますか？	26-188 ページ
バックアップログメールが送信されない	26-188 ページ
バックアップログでエラーのログが表示された	26-188 ページ
バックアップを実行すると、ブザーが鳴り、エラーとなる	
バックアップデータを見せないようにできますか？	26-188 ページ

内蔵・増設ハードディスクについて

[USB ポート 1]に増設ハードディスクを接続しても利用できない	26-189 ページ
増設ハードディスクを接続するとブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS] ランプが赤く点灯したままとなる	26-189 ページ
eSATA ハードディスクを [eSATA ポート] に接続しても認識されない	26-189 ページ
増設ハードディスクのパソコンでのフォーマット方法について	26-189 ページ
ハードディスクの不良でカートリッジ交換が必要な場合は？	26-189 ページ
本製品に接続可能なハードディスクについて	26-190 ページ
デフラグ機能はありますか？	26-190 ページ
省電力機能が働かない	26-190 ページ

タイムサーバー使用時のトラブル

タイムサーバーとの同期が行われない	26-191 ページ
-------------------	------------

NT ドメイン・ActiveDirectory 使用時のトラブル

NT ドメインへの参加ができない	26-192 ページ
ドメインモードに切り替えると共有にアクセスできなくなった	26-192 ページ
Active Directory への参加ができない	26-192 ページ

FTP 共有使用時のトラブル

FTP 共有機能を使用すると、フォルダーやファイル名が文字化けしてしまう	26-193 ページ
--------------------------------------	------------

メール送信でのトラブル

メール送信テストでエラーとなる	26-194 ページ
-----------------	------------

パソコンのネットワーク設定について

パソコンの IP アドレスがわからない	26-195 ページ
Windows パソコンの [ワークグループ名] がわからない	26-195 ページ
(Windows) ネットワークドライブの割り当て方法がわからない	26-195 ページ
(Windows) [ローカルエリア接続] アイコンに×マークが付いている	26-195 ページ
パソコンに固定の IP アドレスを設定するには	26-195 ページ

本製品起動時のトラブル

本製品の電源を入ると、[STATUS] ランプが赤点灯し、ブザーがピーピーピーと鳴った

原因	DHCP サーバーから本製品の IP アドレスを取得できていない。 ※本製品の IP アドレスの設定が、自動取得(出荷時設定)に設定されている場合で、接続したネットワークに DHCP サーバーが見つからない場合は、[STATUS] ランプが点滅します。
対処	接続したネットワーク内の DHCP サーバーが正常に起動していることをご確認ください。 ※DHCP サーバーから正常に IP アドレスなどの割り当てが受けられない場合、本製品は自動的に、以下の IP アドレスが設定されます。 LAN ポートの IP アドレス：192.168.0.200 EXT ポートの IP アドレス：192.168.10.200 また、[LAN] ポートと [EXT] ポートを間違えてケーブルを接続していないか、ケーブルを接続し直してどうかもご確認ください。
原因	DHCP サーバーのない環境で使用している、あるいは、DHCP サーバーと本製品の組み合わせにより IP アドレスが割り当てられない。
対処	本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。 【固定の IP アドレスを設定する場合】 (3-12 ページ)
原因	本製品が取り扱えない USB 機器が USB ポートに接続された。
対処	本製品で取り扱えない USB 機器あるいはフォーマット形式の装置が USB ポートに接続された場合、ブザー音がピーピーピーと鳴り、[STATUS] ランプが赤点灯、または赤点滅になります。 この場合は該当する USB 機器を本製品から取り外してください。

本製品の電源を入ると、[STATUS] ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと鳴り続ける

原因	内蔵ボリュームにエラーが発生した。
対処	【ボリューム情報】 画面で、内蔵ボリュームの状態を確認してください。

どうしても起動停止状態となるため、本製品を起動できない

対処	起動停止状態の対処については、 【起動停止状態を確認する】 (次ページ) を参照してください。 どうしても起動できなくなった場合は、以下をご覧ください。 【RAID 再設定】 (22-109 ページ)
----	--

使用中に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている

原因	RAID 崩壊の状態です。
対処	前面の [FUNC.] ボタンを押してブザーを止めた後、RAID の再構成を行ってください。 詳細は、以下をご覧ください。 【RAID が崩壊したときには】 (22-107 ページ)

起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」と鳴り続けている

原因	起動を停止している状態です。
対処	前面の [FUNC.] ボタンを押してプザーを止めた後、以下の【起動停止状態を確認する】をご覧ください。

起動停止状態を確認する

本製品起動時に、[STATUS] ランプが赤点滅、[ACCESS] ランプが赤点灯し、プザーが「ピー」と鳴り続けている場合は、本製品が何らかの理由で起動停止している状態です。以下の手順で起動停止状態を確認し、原因・対処をご確認ください。

1	パソコンの [IP アドレス] [サブネットマスク] を一時的に以下の値に変更します。 [IP アドレス] . . . 192.168.0.xxx (xxx には 200 を除く 1~254 のいずれかの値) [サブネットマスク] . . . 255.255.255.0
---	--

ご注意	
●	パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない場合は、以下をご覧ください。 【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】 (26-195 ページ)
●	後で元の設定に戻しますので、必ず現在の [IP アドレス] [サブネットマスク] [デフォルトゲートウェイ] [(ルーター) アドレス] などはメモしておいてください。

2	Web ブラウザーを起動して下記を入力し、[Enter]キーを押します。 http://192.168.0.200/
---	---

3	停止画面が表示されますので、以下の対処を行ってください。
---	------------------------------

「起動可能なハードディスクが接続されていません」と表示されている場合	
原因	本製品の各スロット、および eSATA ポートに接続されているディスクで、システムを起動できるディスクが見つからないため、システムが起動できない状態になります。
対処	内蔵ハードディスクから起動する場合は、各スロットのカートリッジのスライドスイッチが [LOCK] 状態となっているかご確認ください。 [ミラーディスクの保管] を行った eSATA ハードディスクから起動する場合は、「[ミラーディスクの保管] を行ったディスク」の確認、[eSATA ポート] の接続、および電源を確認してください。

起動時、または起動中に [ACCESS] ランプが消灯しているカートリッジがある

原因	カートリッジのスライドスイッチが [LOCK] されていない。 ※ [LOCK] したつもりでも [LOCK] されていない場合があります。 スライドスイッチが確実に [LOCK] の位置になっていることを確認してください。
対処	本製品の電源を入れたまま、スライドスイッチを [LOCK] してください。 [ACCESS] ランプが青く点灯、または、青く点滅を開始します。 [LOCK] した後、そのカートリッジの [ACCESS] ランプが赤く点灯、または、赤く点滅した場合には、以下をご覧ください。 【カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル】 (26-182 ページ)

Mac と Windows が混在している環境の場合どのパソコンで設定したらよいですか？

対処	<p>本製品は、本製品と同一ネットワーク内の1台のパソコンからすべての設定を行うことができます。</p> <p>ご利用環境に、Windows と Mac OS のどちらもある場合は、一方のパソコンからすべての設定を行うことができます。</p> <p>添付ソフト「Magical Finder」を使用できますので、本製品の IP アドレスの情報を知らなくても、本製品の設定画面を開いたり、また、直接「Magical Finder」で本製品の IP アドレスの設定等を簡単に行うことができます。</p>
----	---

現在のネットワーク環境に DHCP サーバーがあるかわからない

対処	<p>ご使用のネットワーク環境に、「ブロードバンドルーター」「ルーター機能付きの ADSL モデム」「Windows NT 系のサーバー」などがある場合は、これらの DHCP サーバー機能を使用している可能性があります。</p> <p>以下の【方法1】あるいは【方法2】などの手順で確認できます。</p>
----	--

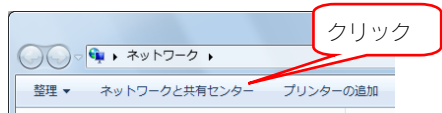
【方法1】パソコンの IP アドレスの設定で確認

すでにネットワーク内にあるインターネットなどに正常にアクセスできるパソコンの IP アドレスの設定で確認できます。
 (IP アドレスの設定が” DHCP サーバーから取得する” 設定になっていて正常に LAN 内で使用できている場合は、ネットワーク内に DHCP サーバーがあります。)

Windows 7/Vista の場合

1 Windows 7 の場合は、[スタート] → [コンピューター] → [ネットワーク] をクリックします。
 Windows Vista の場合は、[スタート] → [ネットワーク] をクリックします。

2 [ネットワークと共有センター] をクリックします。

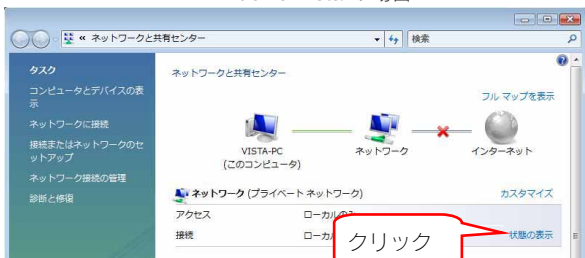


3 Windows 7 の場合は、[ローカル エリア接続] をクリックします。
 Windows Vista の場合は、[状態の表示] をクリックします。

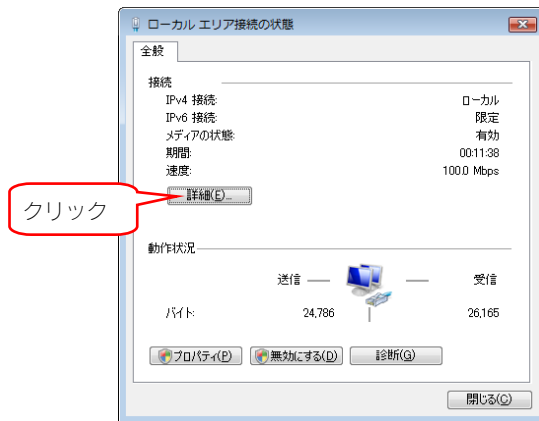
▼Windows 7 の場合



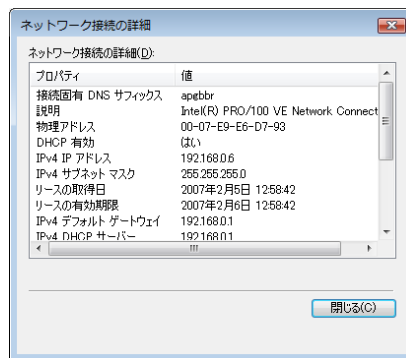
▼Windows Vista の場合



4 [詳細] をクリックします。



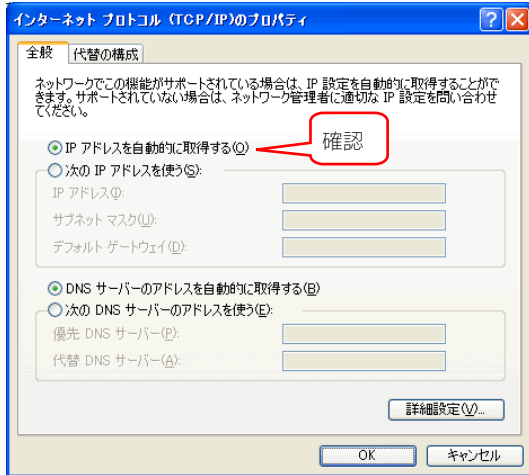
5 [DHCP 有効] 欄に[はい]と表示されていれば、DHCP サーバーがあります。



Windows 7/Vista 以外の場合

- 1 パソコンの IP アドレスを確認できる画面を開きます。
- 2 パソコンの IP アドレスの設定が、[IP アドレスを自動的に取得 (する)] や [DHCP サーバーを参照] となっている場合は、ネットワーク内に DHCP サーバーがあると考えられます。

例) Windows XP で DHCP サーバーを使用している場合

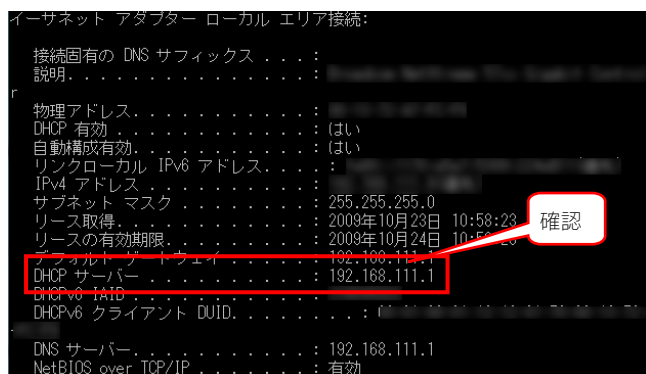


[方法 2] Windows 標準添付のツールを使って確認する (Windows のみ)

Windows 標準添付のツールで DHCP サーバーを利用しているかを確認できます。

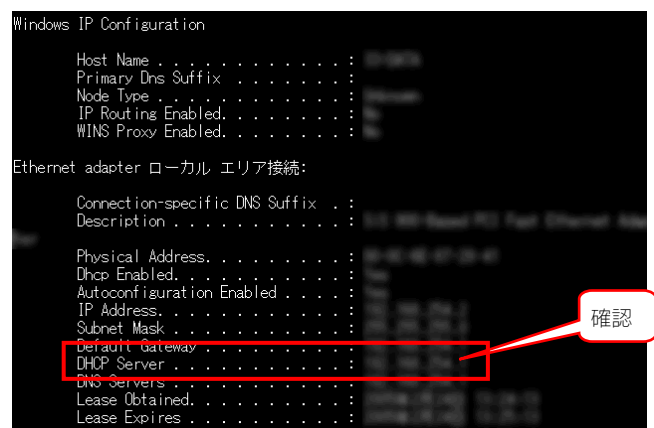
Windows 7/Vista

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。
- 2 ipconfig /all (g と/の間にスペースが入ります。) と入力して、[Enter] キーを押します。
- 3 [DHCP サーバー] 欄にアドレス (DHCP サーバーのアドレス) が表示されていれば、DHCP サーバーがあります。



Windows XP/2000

- 1 [スタート] → [(すべての) プログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。
- 2 ipconfig /all (g と/の間にスペースが入ります。) と入力して、[Enter] キーを押します。
- 3 [DHCP Server] 欄にアドレス (DHCP サーバーのアドレス) が表示されていれば、DHCP サーバーがあります。



[Magical Finder]で本製品が検索されない

原因	接続が正しく行われていない。
対処	本製品の電源が入っているか（[POWER] ランプが緑色に点灯しているか）、LAN ケーブルが、本製品の LAN ポートに接続されているか、（背面の LAN ポート [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 （EXT ポートに接続したネットワークからは、Magical Finder で検索することができません。） 【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】（26-170 ページ） 本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。

原因	本製品が再起動中である。
対処	本製品が起動するまで（[STATUS] ランプが緑色に点灯※するまで）お待ちください。 ※DHCP サーバーの無いネットワークにはじめて接続した場合は、赤く点灯します。

原因	セキュリティー関連のソフトウェアが制限している。														
対処	<p>セキュリティー関連のソフトウェア（ファイアウォールソフト）の動作を一時的に停止していただき、本製品が検索されるかどうかをお試しくささい。</p> <p>また、一時的に停止した場合に検索されるようになった場合には、ファイアウォールソフトの除外設定を行うと、ファイアウォールソフトを動作させたまま、本製品を検索することが可能となります。 （詳しいソフトウェアの操作方法については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください）。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"><参考：WindowsXP Service Pack 2 以降の Windows ファイアウォール機能の除外設定></td> </tr> <tr> <td style="width: 5%;">①</td> <td>あらかじめ「Magical Finder」をパソコンにインストールします。 1)添付の CD-ROM をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「Magical Finder」をクリックし、画面の指示にしたがいインストールを行ってください。</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>一番下の「Windows ファイアウォール」をクリックします。</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>「プログラムおよびサービス」の一覧に Magical Finder が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> </table> <p>以上で Windows XP Service Pack 2 以降のファイアウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。 [スタート]→[すべてのプログラム]→[I-O DATA]-[Magical Finder]をクリックすると、Magical Finder が起動し、本製品が検索されます。 設定変更や設定画面を開く際にご利用ください。</p>	<参考：WindowsXP Service Pack 2 以降の Windows ファイアウォール機能の除外設定>		①	あらかじめ「Magical Finder」をパソコンにインストールします。 1)添付の CD-ROM をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「Magical Finder」をクリックし、画面の指示にしたがいインストールを行ってください。	②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。	③	一番下の「Windows ファイアウォール」をクリックします。	④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。	⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。	⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に Magical Finder が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。
<参考：WindowsXP Service Pack 2 以降の Windows ファイアウォール機能の除外設定>															
①	あらかじめ「Magical Finder」をパソコンにインストールします。 1)添付の CD-ROM をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「Magical Finder」をクリックし、画面の指示にしたがいインストールを行ってください。														
②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。														
③	一番下の「Windows ファイアウォール」をクリックします。														
④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。														
⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。														
⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に Magical Finder が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。														

DHCP サーバーがあるのにシステム起動後、[STATUS] ランプが赤点灯、または赤点滅している

原因	接続が正しく行われていない。
対処	いったん本製品の電源ボタンを押して電源を切り、LAN ケーブルが正しく接続されていることを確認してから、再度電源を入れてください。

原因	DHCP サーバーから本製品の IP アドレスが取得できていない。 ※本製品の IP アドレスを自動取得設定が有効(出荷時設定)に設定されている場合で、接続したネットワークに DHCP サーバーが見つからない場合は、起動完了時に [STATUS] ランプが赤点灯し、ブザーがピーピーピーと鳴ります。
対処	接続したネットワーク内の DHCP サーバーが正常に起動していることをご確認ください。 ※DHCP サーバーから正常に IP アドレスなどの割り当てが受けられない場合、本製品は自動的に、以下の IP アドレスが設定されます。 LAN ポートの IP アドレス：192.168.0.200 EXT ポートの IP アドレス：192.168.10.200

原因	何らかの理由で DHCP サーバーと通信できない、あるいは、DHCP サーバーと本製品の組み合わせにより IP アドレスが割り当てられない。
対処	本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。 【固定の IP アドレスを設定する場合】（3-12 ページ）

原因	本製品で取り扱えない USB 機器が USB ポートに接続している。
対処	本製品で取り扱えない USB 機器あるいはフォーマット形式の装置が USB ポートに接続された場合、 [STATUS] ランプが赤点灯、または赤点滅になります。 この場合は該当する USB 機器を本製品から取り外してください。

原因	内蔵ボリュームにエラーが発生した。
対処	[ボリューム情報] 画面で、内蔵ボリュームの状態を確認してください。

[ミラーディスクの取り外し]を行った eSATA ハードディスクから起動できない

原因	eSATA ハードディスクの電源が入っていない。
対処	eSATA ハードディスクの電源ケーブルをご確認ください。

原因	正しく接続されていない。
対処	eSATA ポートへの接続をご確認ください。

原因	[ミラーディスクの取り外し]を行った eSATA ハードディスクでない。
対処	[ミラーディスクの取り外し]を行った eSATA ハードディスクかをご確認ください。

(Mac OS) パソコンに直接接続した後、本製品の設定画面が表示されない

原因	接続が正しく行われていない。
対処	本製品の電源が入っているか（ [POWER] ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】 (26-181 ページ) 本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。

原因	本製品の IP アドレスとパソコンの IP アドレスの設定があっていない。						
対処	パソコンと本製品を直接接続して設定画面を開くには、以下の設定にする必要があります。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center; vertical-align: top;">①</td> <td> <p>本製品の [STATUS] ランプを確認してください。</p> <p>・赤く点灯している場合</p> <p>本製品の LAN ポートの IP アドレスは 192.168.0.200 に設定されています。</p> <p>本製品の LAN ポートに接続したネットワークにパソコンの LAN ポートが接続されていることを確認してください。次にパソコンの IP アドレスを 192.168.0.xxx に設定します。</p> <p>設定方法は、次の②の手順をご覧ください。</p> <p>・緑色に点灯している場合</p> <p>本製品の IP アドレスは、設定画面で設定した値に設定されています。</p> <p>本製品に設定した IP アドレスにあわせてパソコンの IP アドレスを設定します。</p> <p>設定方法は、次の②の手順をご覧ください。</p> <p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">本製品の IP アドレスが分からない場合は、以下をご覧ください。 【本製品に設定した IP アドレスを忘れた】 (26-179 ページ)</p> </td> </tr> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center; vertical-align: top;">②</td> <td> <p>パソコンの IP アドレスを設定します。</p> <p>本製品の IP アドレスと同じセグメントのアドレスに設定します。</p> <p>例) 本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合・・・パソコンの IP アドレスは 192.168.0.123 などに設定します。</p> <p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない場合は、以下をご覧ください。 【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】 (26-195 ページ)</p> </td> </tr> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center; vertical-align: top;">③</td> <td> <p>IP アドレスを設定できたら、Web ブラウザーを起動し、アドレス欄に以下を入力して開きます。</p> <p>http://192.168.0.200/ ※本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合</p> <p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">本製品の IP アドレスを変更されている場合は、変更した IP アドレスを入力してください。</p> </td> </tr> </table>	①	<p>本製品の [STATUS] ランプを確認してください。</p> <p>・赤く点灯している場合</p> <p>本製品の LAN ポートの IP アドレスは 192.168.0.200 に設定されています。</p> <p>本製品の LAN ポートに接続したネットワークにパソコンの LAN ポートが接続されていることを確認してください。次にパソコンの IP アドレスを 192.168.0.xxx に設定します。</p> <p>設定方法は、次の②の手順をご覧ください。</p> <p>・緑色に点灯している場合</p> <p>本製品の IP アドレスは、設定画面で設定した値に設定されています。</p> <p>本製品に設定した IP アドレスにあわせてパソコンの IP アドレスを設定します。</p> <p>設定方法は、次の②の手順をご覧ください。</p> <p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">本製品の IP アドレスが分からない場合は、以下をご覧ください。 【本製品に設定した IP アドレスを忘れた】 (26-179 ページ)</p>	②	<p>パソコンの IP アドレスを設定します。</p> <p>本製品の IP アドレスと同じセグメントのアドレスに設定します。</p> <p>例) 本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合・・・パソコンの IP アドレスは 192.168.0.123 などに設定します。</p> <p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない場合は、以下をご覧ください。 【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】 (26-195 ページ)</p>	③	<p>IP アドレスを設定できたら、Web ブラウザーを起動し、アドレス欄に以下を入力して開きます。</p> <p>http://192.168.0.200/ ※本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合</p> <p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">本製品の IP アドレスを変更されている場合は、変更した IP アドレスを入力してください。</p>
①	<p>本製品の [STATUS] ランプを確認してください。</p> <p>・赤く点灯している場合</p> <p>本製品の LAN ポートの IP アドレスは 192.168.0.200 に設定されています。</p> <p>本製品の LAN ポートに接続したネットワークにパソコンの LAN ポートが接続されていることを確認してください。次にパソコンの IP アドレスを 192.168.0.xxx に設定します。</p> <p>設定方法は、次の②の手順をご覧ください。</p> <p>・緑色に点灯している場合</p> <p>本製品の IP アドレスは、設定画面で設定した値に設定されています。</p> <p>本製品に設定した IP アドレスにあわせてパソコンの IP アドレスを設定します。</p> <p>設定方法は、次の②の手順をご覧ください。</p> <p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">本製品の IP アドレスが分からない場合は、以下をご覧ください。 【本製品に設定した IP アドレスを忘れた】 (26-179 ページ)</p>						
②	<p>パソコンの IP アドレスを設定します。</p> <p>本製品の IP アドレスと同じセグメントのアドレスに設定します。</p> <p>例) 本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合・・・パソコンの IP アドレスは 192.168.0.123 などに設定します。</p> <p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない場合は、以下をご覧ください。 【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】 (26-195 ページ)</p>						
③	<p>IP アドレスを設定できたら、Web ブラウザーを起動し、アドレス欄に以下を入力して開きます。</p> <p>http://192.168.0.200/ ※本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合</p> <p style="text-align: center; background-color: #ffff00;">本製品の IP アドレスを変更されている場合は、変更した IP アドレスを入力してください。</p>						

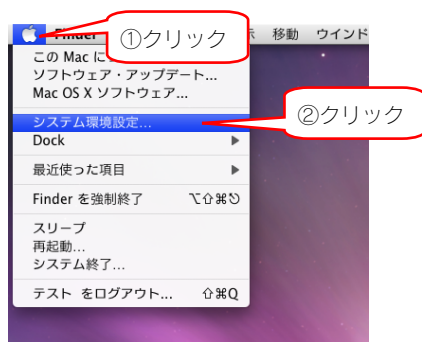
原因	セキュリティー関連のソフトウェアが制限している。
対処	セキュリティー関連のソフトウェアのファイアウォール機能により制限されている場合があります。 ファイアウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイアウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。 なお、ファイアウォール機能に関する設定については、セキュリティー関連のソフトウェアメーカーにお問合せください。

原因	以前に設定した本製品の IP アドレスが間違っている、あるいは、正しく設定していなかった。
対処	RESET ボタンで、本製品の LAN ポートの IP アドレスを出荷時設定 (192.168.0.200) に戻してください。 【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】(21-105 ページ)参照 出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。 【固定の IP アドレスを設定する場合】(3-12 ページ)

原因	Web ブラウザーが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
対処	Web ブラウザーがプロキシサーバーを使用する設定になっている場合、本製品の設定画面を呼び出すことができません。 Web ブラウザーの設定でプロキシサーバーを使わない設定にしてください。 本製品の設定終了後は、プロキシ設定を元に戻してください。 Mac OS をお使いの場合は以下の【Mac OS でプロキシサーバー設定を無効にする設定】をご覧ください。

Mac OS でプロキシサーバー設定を無効にする設定

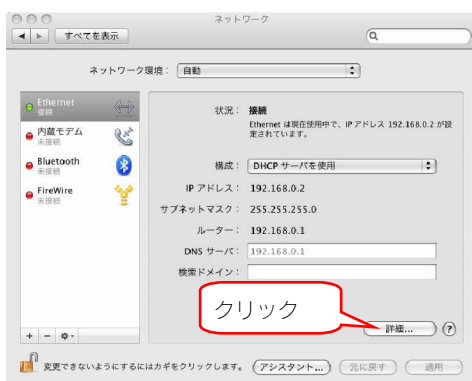
1 [アップルメニュー]→[システム環境設定]をクリックします。



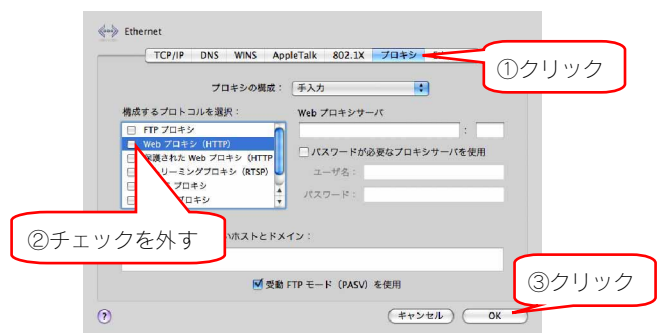
2 [ネットワーク]を開きます。



3 [詳細]をクリックします。



4 [プロキシ]タブをクリックし、以下の設定を行います。



以上で設定は完了です。

パソコンと LAN DISK を直接接続し、LAN DISK を起動すると、[STATUS] ランプが赤く点灯する

原因	本製品の IP アドレスを自動取得設定が有効(出荷時設定)に設定されていて、接続したパソコンに DHCP サーバー機能が無い
対処	本製品の IP アドレスを手動で固定に設定してから、本製品の電源ボタンで一度本製品の電源を切り(シャットダウン)後、再度本製品の電源を入れれば、[STATUS] ランプが緑色に点灯します。

LAN DISK の名前を変更したい

対処	以下をご覧ください。 【システムの名前を変更する】(20-99 ページ)
----	---

ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない

原因	接続が正しく行われていない。
対処	本製品の電源が入っているか ([POWER] ランプが緑色に点灯しているか)、接続ケーブルが LAN に接続されているか (背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか) 確認してください。 本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。

原因	接続先のネットワーク機器の電源が入っていない。
対処	本製品接続先のネットワーク機器 (ルーターやハブなど) の電源が入っているかご確認ください。

ファイアウォールソフトで、LAN DISK に対してアクセスを許可させたい場合、どのポート番号で設定すればよいかわからない

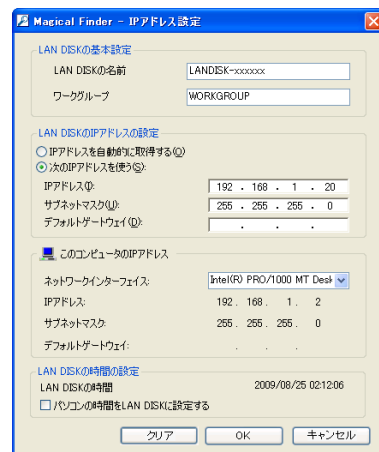
対処	ファイアウォールソフトをお使いの場合、本製品へアクセスできない場合があります。 その場合、ファイアウォールソフト側で、65 番のポートを UDP で、137~139 番、445 番、51055 番のポートを TCP でアクセスすることを許可する設定を行ってください。
----	--

パソコンの IP アドレスがわからない

対処	添付ユーティリティ「Magical Finder」で確認することができます。 以下をご覧ください。
----	--

パソコンの IP アドレス確認方法

- 1 「Magical Finder」を起動します。
- 2 [IP 設定]ボタンをクリックします。
- 3 管理者パスワードを入力後 (出荷時はパスワードは設定されていません)、[OK]ボタンをクリックします。
- 4 表示された [IP アドレス設定] 画面の [このコンピュータの IP アドレス] で確認できます。



本製品へのアクセス時のトラブル

「landisk-xxxxxx」のアイコンを開いたり、共有フォルダーを開こうとすると、「アクセス権限が無い」とエラーが表示されたり、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示される

原因	共有フォルダーにアクセス権限の設定を行っていて、本製品に登録したユーザー名、パスワードと、パソコンからログオンしたユーザー名とパスワードが一致していない。
対処	ネットワークログオン時に入力する [ユーザー名]、[パスワード] と本製品に登録したユーザーの [ユーザー名]、[パスワード] が一致するように、本製品とパソコンの設定をご確認ください。 パソコンの設定については、次を確認してください。 ▼Windows の場合 OS 側にユーザー登録しなおします。 ユーザー登録されていない場合には、本製品に登録した [ユーザー名] [パスワード] と同じユーザーアカウントを作成してください。 ▼Mac OS の場合 [移動] → [サーバへ接続...] で本製品の IP アドレスを設定後、[接続] ボタンをクリックした際に表示される画面で、[登録ユーザー] を選択し、[名前] と [パスワード] に本製品に登録した [ユーザー名] と [パスワード] を入力してください。

Mac OS から書き込んだファイルを Windows から削除すると、本製品の共有へ Mac OS からファイル保存ができなくなる

原因	本製品のシステムに採用されている Windows サービスと Macintosh サービス間のファイル保存情報に不整合が生じるため。
対処	Mac OS のデスクトップ上にマウントした共有を一度、ゴミ箱へ捨て再度、Finder から本製品の共有へアクセスしてください。

本製品にネットワーク経由で接続するパソコンの台数に制限はありますか？

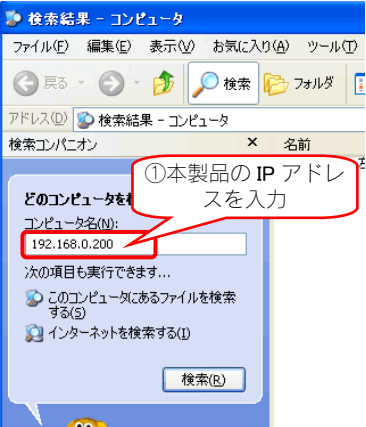
対処	本製品にネットワーク経由で接続可能な端末数について、Windows では制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。 ・ Windows の場合：推奨する同時接続台数は 32 台まで（ネットワークドライブの割り当ても同様です。） ・ Mac OS の場合：推奨する同時接続台数は 8 台まで（最大 16 台まで）
----	---

対処	<p>すでに別のパソコンが LAN DISK にアクセスできている場合、LAN DISK 自体の動作、設定には問題がないため、LAN DISK 自体の設定変更を行う必要はありません。 LAN DISK に接続できないパソコンで以下の点をご確認ください。</p> <p>▼Windows の場合</p> <p>「コンピューターの検索」にて LAN DISK の名前ではなく、本製品に設定されている IP アドレスで検索を行っててください。</p> <p>●IP アドレスの検索で見つかる場合</p> <p>TCP/IP で正しく通信できていますので、IP アドレス設定は正常です。 また、検索の結果表示された共有フォルダーへのアクセスをお試しください。</p> <p>●IP アドレスの検索で見つからない場合</p> <p>検索した IP アドレスが LAN DISK に設定されたものではない、または IP アドレスが正しく設定されていない可能性があります。以下の点をご確認ください。</p> <p><本製品の IP アドレスに PING を実行する></p> <p>①[スタート]→[プログラム (すべてのプログラム)]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。 ②「ping」と入力し、スペースを1文字あけてから、本製品の IP アドレスを入力し Enter キーを押します。 入力例) C:¥xxxxx>ping 192.168.0.200 [Enter]</p> <p>③応答メッセージが表示されますので、メッセージ内容によりそれぞれの対処をご確認ください。</p> <p><「Reply from . . .」と応答があった場合></p> <p>OS のファイル共有サービスが正しく動作していない可能性があります。 お使いの LAN アダプターのドライバーを再インストールしてみてください。</p> <p><「Request time out」と応答があった場合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本製品の IP アドレスが、パソコンの IP アドレスと同じセグメントの IP アドレスになっているかを確認してください。[MagicalFinder] より確認することができます。 ・ファイアウォールソフトがインストールされている場合には、一時的に機能を無効にしてみてください。 <p>▼Mac OS の場合</p> <p>[[landisk-xxxxx]が見つからない、もしくは、接続できない] (26-174 ページ) の対処をご確認ください。</p>
----	--

Windows の場合

[コンピューターの検索]で[[landisk-xxxxx]が見つからない

原因	サービスが有効になってない。
対処	<p>Web ブラウザーより設定画面の詳細設定にて、[サービス設定]→[サービス設定]で、[Microsoft ネットワーク共有]にチェックが入っていることを確認してください。</p> <p>また、[共有管理]→[共有フォルダー設定]より、アクセスしたい共有フォルダーの[詳細]をクリックし、[Microsoft ネットワーク共有]が有効になっていることを確認してください。</p>
原因	ネットワークの参照に時間がかかっている。
対処	エクスプローラーの[表示]メニュー→[最新の情報に更新]をクリックしてください。
原因	本製品がネットワークに正しく接続されていない。
対処	<p>本製品の電源が入っているか ([POWER] ランプが点灯しているか)、接続ケーブルが LAN に接続されているか (背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか) 確認してください。 (本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。)</p>
原因	ファイアウォール系のソフトウェアを使用している。
対処	<p>ファイアウォール系のソフトウェアで、本製品のコンピューター名 (初期値は「landisk-xxxxx」) や本製品の IP アドレス (LAN ポートの初期値は「192.168.0.200」) を使用できるように設定してください。 詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p>

原因	本製品の IP アドレスを変更後、検索しようとしている。
対処	パソコンを一度再起動する必要があります。 Windows が以前の情報を保持しているため、再起動で保持している情報を一度クリアする必要があるからです。
原因	Windows のネットワーク機能が不安定なため、ネットワーク参照が正しく行えない。
対処	・設定画面が開けることをご確認ください。 ・LAN アダプターが正常に認識されていることをご確認ください。(詳しくは、各 LAN アダプターの取扱説明書をご覧ください。)
原因	パソコン側の名前解決がうまくいっておらず、[landisk-xxxxxx](コンピューター名)の文字での検索では検索されない。
対処	本製品に設定されている IP アドレス (出荷時は、192.168.0.200) を入力して検索してみてください。 ※本製品の IP アドレスは、「Magical Finder」で確認することができます。 表示されている [IP アドレス] が本製品の IP アドレスです。 
原因	お使いのネットワークの IP アドレスのセグメントが本製品の IP アドレスと異なっている。
対処	●ブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーをお使いの環境の場合 いったん本製品の電源を入れ直して、再度検索できるかどうかお試しください。 ●DHCP サーバーがない場合 本製品の IP アドレスをお使いのネットワークに合った IP アドレスに変更してください。
原因	すでに LAN DISK を使用しているネットワーク内へ本製品を導入する際に、本製品の [LAN DISK の名前] が他の LAN DISK と重複している。
対処	本製品を複数台使用する場合や他の弊社製 LAN DISK と併用する場合など、LAN DISK を複数台使用する場合は、導入する本製品の [LAN DISK の名前] を、すでに導入済みの LAN DISK と重複しない名前に変更する必要があります。
原因	本製品とお使いのパソコンのワークグループ名が異なる。
対処	本製品とパソコンのワークグループ名を一致するように設定してください。 ・本製品のワークグループ名 設定画面の「詳細設定」→「情報表示」→「ネットワーク情報」 (25-133 ページ) ・パソコンのワークグループ名 【Windows パソコンの「ワークグループ名」がわからない】 (26-195 ページ)

Windows 上から本製品を参照した場合に、見覚えのないフォルダーやファイルがある

原因	アプリケーションが作業中に作成・削除した。
対処	アプリケーションによっては、作業ファイルを作成・削除するものがあります。 そのため、[TrashBox]フォルダーにファイルやフォルダーがある場合があります。

ユーザー権限共有フォルダーにログオンしようとする、エラーメッセージが出てきてログオンができない

原因	LAN DISK に登録したユーザー名・パスワードと、Windows に登録したユーザー名とパスワードが一致していない可能性が考えられます。
対処	LAN DISK に登録したユーザー名・パスワードを、Windows でも作成し、OS ログオン時にそのユーザー名・パスワードを使ってログオンしてください。

LAN DISK の検索を行うと「プリンタと FAX」（「プリンタ」）のアイコンが出ますが削除はできますか？

対処	削除はできません。
----	-----------

Mac OS の場合

[landisk-xxxxxx]が見つからない、もしくは、接続できない

原因	本製品がネットワークへ正しく接続されていない。
対処	本製品の電源が入っているか（[POWER] ランプが点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 (本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。)

原因	ファイアウォール系のソフトウェアを使用している。
対処	ファイアウォール系のソフトウェアで、本製品のコンピューター名（初期値は「landisk-xxxxxx」）や本製品の IP アドレス（LAN ポートの初期値は「192.168.0.200」）を使用できるように設定してください。 詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

原因	すでに LAN DISK を使用しているネットワーク内へ本製品を導入する際に、本製品の [LAN DISK の名前]が他の LAN DISK と重複している。
対処	本製品を複数台使用する場合や他の弊社製 LAN DISK と併用する場合など、LAN DISK を複数台使用する場合は、導入する本製品の [LAN DISK の名前] を、すでに導入済みの LAN DISK と重複しない名前に変更する必要があります。

原因	LAN DISK の名前で検索できない。
対処 1	[サーバへ接続] 画面で、本製品の IP アドレスを使用して接続してください。 入力する IP アドレスは、本製品に設定されている IP アドレスを入力します。 ※本製品の IP アドレスは、「Magical Finder」で確認することができます。表示されている [IP アドレス] が本製品の IP アドレスです。 →IP アドレスを指定して接続する場合： afp://192.168.0.200/
対処 2	Web ブラウザー「Safari」を起動し、ブックマークの「Bonjour」に landisk-xxxxxx が表示されていることを確認します。

(Windows) ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない

対処 1	添付の CD-ROM 内の Magical Finder を起動し、本製品を検索してみてください。 詳しくは【設定画面の開き方】(4-21 ページ) をご覧ください。														
対処 2	<p>セキュリティ関連のソフトウェア（ファイアウォールソフト）の動作を一時的に停止していただき、本製品が検索されるかどうかをお試しくささい。</p> <p>また、一時的に停止した場合に検索されるようになった場合には、ファイアウォールソフトの除外設定を行うと、ファイアウォールソフトを動作させたまま、本製品を検索することが可能となります。</p> <p>（詳しいソフトウェアの操作方法については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください）。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #e8f5e9;"> <th colspan="2" style="text-align: left; padding: 2px;">＜参考：WindowsXP Service Pack 2 以降の Windows ファイアウォール機能の除外設定＞</th> </tr> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center; vertical-align: top;">①</td> <td style="padding: 2px;"> あらかじめ「Magical Finder」をパソコンにインストールします。 1) 添付の CD-ROM をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2) 「サポートソフトインストール」→「Magical Finder」をクリックし、画面の指示にしたがいインストールを行ってください。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: top;">②</td> <td style="padding: 2px;">[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: top;">③</td> <td style="padding: 2px;">一番下の「Windows ファイアウォール」をクリックします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: top;">④</td> <td style="padding: 2px;">[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: top;">⑤</td> <td style="padding: 2px;">一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: top;">⑥</td> <td style="padding: 2px;">「プログラムおよびサービス」の一覧に Magical Finder が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> </table> <p>以上で Windows XP Service Pack 2 以降のファイアウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。</p> <p>[スタート]→[すべてのプログラム]→[I-O DATA]-[Magical Finder]をクリックすると、Magical Finder が起動し、本製品が検索されます。</p> <p>設定変更や設定画面を開く際にご利用ください。</p>	＜参考：WindowsXP Service Pack 2 以降の Windows ファイアウォール機能の除外設定＞		①	あらかじめ「Magical Finder」をパソコンにインストールします。 1) 添付の CD-ROM をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2) 「サポートソフトインストール」→「Magical Finder」をクリックし、画面の指示にしたがいインストールを行ってください。	②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。	③	一番下の「Windows ファイアウォール」をクリックします。	④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。	⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。	⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に Magical Finder が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。
＜参考：WindowsXP Service Pack 2 以降の Windows ファイアウォール機能の除外設定＞															
①	あらかじめ「Magical Finder」をパソコンにインストールします。 1) 添付の CD-ROM をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2) 「サポートソフトインストール」→「Magical Finder」をクリックし、画面の指示にしたがいインストールを行ってください。														
②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。														
③	一番下の「Windows ファイアウォール」をクリックします。														
④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。														
⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。														
⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に Magical Finder が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。														

(Mac OS) ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない

原因	接続が正しく行われていない。
対処	<p>本製品の電源が入っているか（[POWER] ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。</p> <p>【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】(26-181 ページ)</p> <p>本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。</p>
原因	セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。
対処	<p>セキュリティ関連のソフトウェアのファイアウォール機能により制限されている場合があります。</p> <p>ファイアウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイアウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しくささい。</p> <p>なお、ファイアウォール機能に関する設定については、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問い合わせください。</p>
原因	(本製品に固定の IP アドレスを設定した場合)
対処	<p>本製品と設定用パソコンの IP アドレスのネットワークアドレス部が合っていない。</p> <p>お使いのパソコンの IP アドレスが例えば「192.168.1.xxx」に設定されている環境で、本製品の IP アドレスが「192.168.0.200」に設定されているなど、ネットワークアドレスが合っていないことが考えられます。</p> <p>本製品の IP アドレスの設定を、お使いのネットワーク環境にあわせて設定し直してください。</p> <p>【固定の IP アドレスを設定する場合】(3-12 ページ)</p>
原因	本製品が DHCP クライアントに設定されているため、IP アドレスがわからない。
対処	本製品の IP アドレスは、Magical Finder で確認することができます。表示されている [IP アドレス] が本製品の IP アドレスです。

原因	設定画面を開こうとしているパソコンの IP アドレス設定が間違っている。
対処	設定画面を開こうとしている以外のパソコンで、設定画面が開けないかお試しください。 開ける場合は、開けなかったパソコン側の IP アドレスの設定が本製品にアクセスできる設定になっていない可能性があります。 本製品を設定時にパソコンの IP アドレスやサブネットマスクを一時的に変更していた場合などは、本製品設定前の IP アドレスやサブネットマスクに戻してください。

原因	以前に設定した本製品の IP アドレスが間違っている、あるいは、正しく設定していなかった。
対処	RESET ボタンで、本製品の IP アドレスを出荷時設定 (192.168.0.200) に戻してください。 【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】(21-105 ページ) 出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。 【固定の IP アドレスを設定する場合】(3-12 ページ)

原因	Web ブラウザーが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
対処	Web ブラウザーがプロキシサーバーを使用する設定になっている場合、本製品の設定画面を呼び出すことができません。 Web ブラウザーの設定でプロキシサーバーを使わない設定にしてください。 本製品の設定終了後は、プロキシ設定を元に戻してください。 【Mac OS でプロキシサーバー設定を無効にする設定】(26-169 ページ)

設定画面で一部表示されない項目がある

原因	セキュリティー関連のソフトウェアの影響により表示されない。
対処	セキュリティー関連のソフトウェアのファイアウォール機能により制限されている場合があります。 ファイアウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイアウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。 なお、ファイアウォール機能に関する設定については、ソフトウェアメーカーにお問合せください。

原因	Web ブラウザーのセキュリティーレベルが高く設定されている。
対処	本製品の設定時のみセキュリティーレベルを「中」に設定してください。 設定後は、元の「高」設定に戻してください。 ■Internet Explorer 6 (Windows) をご利用の場合 ①デスクトップにある「Internet Explorer」のアイコンを右クリックし、メニューの中の[プロパティ]をクリックし、[インターネットオプション]もしくは[インターネットのプロパティ]を開いてください。 ②[セキュリティ]タブをクリックし、[このゾーンのセキュリティーレベル]を「中」に合わせます。 ③「OK」ボタンをクリックします。

空き容量が実際より少なく見える

原因	[TrashBox]フォルダーのファイルが多数ある。
対処	各共有の[TrashBox]フォルダーを空にしてください。

設定画面で文字が入力できない

原因	入力個所をクリックしていない。
対処	一度入力したい個所をクリックしてから入力してください。
原因	入力できない文字を入力しようとしている。
対処	入力できる文字かを確認してから入力してください。 本製品の設定画面上で入力できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】 (24-121 ページ) をご覧ください。

設定画面上から入力できる文字制限について

対処	【文字制限一覧】 (24-121 ページ) をご覧ください。
----	--------------------------------

パスワード認証に失敗し設定画面を表示できない

原因	パスワードが間違っている。
対処	出荷時設定では、「パスワード：(なし)」に設定されています。 出荷時設定の場合は、パスワード入力欄には何も入力せずに [OK] ボタンをクリックすれば設定画面が表示されます。 設定画面の [管理者パスワードの変更] でパスワードを設定した場合は、そのパスワードをパスワード入力欄に入力する必要があります。 再度パスワードをご確認いただき入力しなおしてみてください。 パスワードを忘れてしまった場合は、【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】 (21-105 ページ) をご覧になり、出荷時状態に戻してください。
原因	空白(スペース)のみのパスワードになっている。
対処	パスワード無しに設定したつもりで、空白(スペース)で設定されていることがありますので、空白(スペース)を入力してみてください。ログオンできない場合は、上の対処をご覧ください。

設定画面にログオンするためのパスワードがわからない

対処	出荷時設定では、「パスワード：(なし)」に設定されています。 出荷時設定の場合は、パスワード入力欄には何も入力せずに [OK] ボタンをクリックすれば設定画面が表示されます。 設定画面の [管理者パスワードの変更] でパスワードを設定した場合は、そのパスワードをパスワード入力欄に入力する必要があります。 再度パスワードをご確認いただき入力しなおしてみてください。 パスワードを忘れてしまった場合は、【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】 (21-105 ページ) をご覧になり、出荷時状態に戻してください。
----	--

以下のメッセージが表示された

「現在システムは処理中です。しばらく待ってから操作してください。」

原因	設定処理実行中に他の設定をしようとした。 設定処理の途中で別の設定を行おうとすると上記メッセージが表示されることがあります。
対処	他の設定処理が実行中でないかご確認ください。
原因	ファームウェアが正常に動作していない。
対処	①いったん、本製品の電源を入れ直して、同様の操作をしてみてください。 ②本製品の初期化を行ってください。詳しくは、【出荷時設定に戻す】 (21-105 ページ) をご覧ください。

設定画面上のハードディスク使用領域が、ドライブのプロパティと異なる

対処	ハードディスクに問題はありません。本製品が使用するファームウェアの制限です。
----	--

設定画面の動作が遅い

原因	バックアップ中、アクティブリペアー中など、本製品の処理動作中である。 以下の動作中は、本製品の操作・動作が遅くなる場合があります。 ・バックアップ中 ・アクティブリペアー中 ・RAID リビルド中 ・ファイル共有サービス転送中/再生中 ・スピンアップ中
対処	処理が終了するまでお待ちください。

レプリケーション設定時に「レプリケーション先に接続できませんでした。」と表示された

原因	レプリケーション設定を行うためには、レプリケーション先が使用できる状態である必要があります。
対処 1	レプリケーション先の設定を先に行ってください。 詳しくは、【 レプリケーション先（予備機）の本製品を設定する 】（13-79 ページ）をご覧ください。
対処 2	レプリケーション元とレプリケーション先がネットワークケーブルで接続され、レプリケーション先が正常に起動していることを確認してください。 詳しくは、【 予備機を接続する 】（13-79 ページ）をご覧ください。

原因	レプリケーション設定で入力している情報が正しくない。
対処	レプリケーション設定時にレプリケーション先で設定した内容を正確に入力していることを確認してください。

原因	レプリケーション先のホスト名が解決できない。
対処	レプリケーション設定の「レプリケーション先ホスト名」欄にレプリケーション先の IP アドレスを入力して接続できるか確認してください。

レプリケーション設定が無効に戻っている

原因	レプリケーション元にフォルダーを 20000 個を越えて保存した。
対処	レプリケーション元に保存されているフォルダー数を 20000 個以下に減らしてからレプリケーション設定をやり直してください。

原因	内蔵ボリュームのボリューム設定またはフォーマットを行った。
対処	レプリケーション設定をやり直してください。

本製品の IP アドレスについて

本製品に設定した IP アドレスを忘れた
本製品に設定されている IP アドレスを調べたい

ご注意

DHCP サーバーのあるネットワークで確認する場合は、毎回以下の手順を行うことをおすすめします。
DHCP サーバーは常に固定の IP アドレスを割り当てるわけではありません。
下記手順でいったん確認できた IP アドレスも、本製品の電源を入れなおした後や DHCP サーバーを再起動した場合などには、本製品やパソコンに割り当てられた IP アドレスが変更されている場合もあります。

対処 1	添付ユーティリティ Magical Finder を起動してください。 表示されている [IP アドレス] が本製品の IP アドレスです。
------	---

対処 2	(DHCP サーバーのあるネットワークの場合) DHCP サーバー内の情報から確認します。 ご使用のブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーが、本製品に割り当てた IP アドレスの情報を記録している場合があります。詳しくは、DHCP サーバーとなっている機器の取扱説明書などをご覧ください。
------	---

ファイルの保存について

本製品に保存したファイルに、「読み込みのみ」「読み書き可能」のような属性設定ができない

対処	製品の仕様上、ファイルごとのセキュリティー設定はできません。 ファイルやフォルダーに属性やセキュリティー設定は行わないでください。
----	--

ファイル名やフォルダー名の制限について

対処	本製品に保存できるファイルやフォルダー名は、文字制限があります。以下をご覧ください。 【文字制限一覧】 (24-121 ページ) をご覧ください。
----	--

ファイルを削除するとごみ箱にいったん入りますか？

対処	本製品の「ごみ箱機能」を有効（初期値は無効）に設定した場合は、その共有フォルダーの中の[TrashBox]フォルダーにいったん削除したファイルが入ります。 各 OS のデスクトップにあるごみ箱へは入らないのでご注意ください。 ごみ箱機能を無効にして削除した場合は、そのまま削除されます。
----	---

共有フォルダーにファイルをコピーする際のサイズの制限はありますか？

対処	以下をご覧ください。 【ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い】 (24-117 ページ)
----	---

ランプやブザーについて

起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」となり続けている

原因	本製品が起動停止の状態です。
対処	前面の [FUNC.] ボタンを押していったんブザーを止めた後、起動停止画面を開いて画面の表示に応じた対処を行ってください。詳しくは、以下をご覧ください。 【起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」と鳴り続けている】 (26-164 ページ)

使用中、または、起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」となり続けている

原因	RAID 崩壊の状態です。
対処	前面の [FUNC.] ボタンを押していったんブザーを止めた後、RAID の再構成を行ってください。詳しくは、以下をご覧ください。 【RAID が崩壊したときには】 (22-107 ページ)

パソコンと本製品を直接接続すると、[STATUS] ランプが赤く点灯している

対処	本製品の LAN ポートの設定が「IP アドレスを自動的に取得する(DHCP)」である場合は、IP アドレスの自動取得に失敗したために [STATUS] ランプが赤く点灯している可能性があります。その場合は本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。 【固定の IP アドレスを設定する場合】 (3-12 ページ)
----	---

ACT/LINK ランプが点灯または点滅していない

対処	本製品と接続先のネットワーク機器（ハブやルーター等）間で正常に LINK していません。以下をご確認ください。 <ul style="list-style-type: none">・ LAN ケーブルに問題がないか、正しく接続されているか確認 ※LAN ケーブルは、カテゴリ-6 以上のものをご使用ください。・ LAN ケーブルのコネクタ、本製品の LAN ポートに問題がないか確認・ 接続先のネットワーク機器の電源が入っているか
----	---

ランプとブザーの動作について知りたい

対処	以下をご覧ください。 【各部の名称・機能】 (24-114 ページ) 【ランプ表示別の対応】 (23-110 ページ)
----	---

カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル

カートリッジの取り外し（スライドスイッチを [UNLOCK] した）後に、UNLOCK したカートリッジの [ACCESS] ランプが青点灯している

原因	カートリッジを取り外せない状態です。
対処	本製品が再構築中など、システムで使用中のため取り外すことはできません。 無理に取り外すと、データの損失や RAID 崩壊、ハードディスクの故障、システムの故障の原因となります。 スライドスイッチを [LOCK] に戻してください。 取り外したい場合は、再構築が終了するまで待つ、など取り外せる状態になってから取り外してください。 ただし、RAID0（ストライピング）で使用中など、取り外せない場合もあります。

カートリッジの取り付け（スライドスイッチを [LOCK] した）後に、すべての [ACCESS] ランプが速く青点滅を開始している

原因	RAID を再構築している状態です。
対処	RAID 使用中に、カートリッジを交換、あるいは、再度取り付けられた場合、RAID 再構築を開始します。 本製品では、RAID 再構築中でも通常通りの使用が可能ですので、そのままお使いください。 ただし、RAID 再構築中は、操作および処理が遅くなる場合があります。 また、RAID 再構築中に [電源] ボタンを押すなどシャットダウンを行った場合は、再起動後に、再度最初から RAID 再構築を開始しますのでご注意ください。 RAID の再構築の状態は、[ボリューム情報] 画面で確認することができます。

カートリッジの取り付け（スライドスイッチを [LOCK] した）後に、LOCK したカートリッジの [ACCESS] ランプが赤く点滅している

原因	RAID に組み込むために必要なディスク容量が足りないカートリッジを接続した。
対処	[ボリューム情報] 画面で [内蔵ボリューム] の [構成ディスク] の状態をご確認ください。 ・取り付けられたカートリッジの状態が、[容量不足] と表示されている場合 システムは RAID を構成するディスクとして使用できないため、適切なディスク容量を持つカートリッジと交換してください。

原因	ディスクエラー発生過多のカートリッジを接続した。
対処	[ボリューム情報] 画面で [内蔵ボリューム] の [構成ディスク] の状態をご確認ください。 ・取り付けられたカートリッジの状態が、[故障] と表示されている場合 本製品はディスクにエラーが発生した回数を記録しており、エラーが多数発生したディスクは RAID を構成するディスクとして使用しないようにしています。新しいカートリッジを準備し、交換してください。

原因	S.M.A.R.T.チェックエラー発生のカートリッジを接続した。
対処	[ボリューム情報] 画面で [内蔵ボリューム] の [構成ディスク] の状態をご確認ください。 ・取り付けられたカートリッジの状態が、[故障] と表示されている場合 本装置はディスクを接続されたとき、ディスク自身の故障診断機能 (S.M.A.R.T.) を利用してディスクが壊れていないか確認します。 S.M.A.R.T.情報により故障と判定されるディスクは、使用しないようにしています。 新しいカートリッジを準備し、交換してください。

HDL-XR/2D シリーズにて起動後に空カートリッジのスライドスイッチを UNLOCK にすると LOCK にもどした時に [ACCESS] ランプが青点滅し続ける

対処	スイッチを LOCK に戻した状態で再起動してください。
----	------------------------------

eSATA ハードディスクとミラーリング使用時のトラブル

eSATA ハードディスクを接続すると、[STATUS] ランプが赤く点灯し、ブザーが「ピーピーピー」と鳴った

原因	FAT/NTFS/専用フォーマット形式でデータが入っている eSATA ハードディスクを接続した。
対処	[eSATA ポート] の動作モード設定が [ミラーリングモード] 中の場合、通常、FAT/NTFS/専用フォーマット形式以外、あるいは、FAT/NTFS/専用フォーマット形式でデータが入っていない eSATA ハードディスクを接続すると自動的に本製品とミラーリングを開始します。 ただし、以下のような場合、システムは自動でデータを上書きしないようになっています。 ・ FAT/NTFS/専用フォーマット形式でデータが入っている eSATA ハードディスクの場合 ・ NTFS 形式の 2TB 以上容量のある eSATA ハードディスクの場合 この eSATA ディスクでミラーリングを開始するには、設定画面より [ディスク設定] → [ボリューム操作] 画面で、[内蔵から eSATA ヘミラーリング開始] を実行してください。

原因	ミラーリングに必要なディスク容量が足りない eSATA ハードディスクを接続した。
対処	システムはミラーリング構成する eSATA ハードディスクとして使用できないため、適切なディスク容量を持つ eSATA ハードディスクに交換する必要があります。必要な容量については、以下をご覧ください。 【 ミラーリングに使用できる増設ハードディスク 】 (14-82 ページ)

原因	ディスクエラー発生過多の eSATA ハードディスクを接続した。
対処	本製品はディスクにエラーが発生した回数を記録しており、エラーが多数発生した eSATA ハードディスクは RAID を構成する eSATA ハードディスクとして使用しないようになっています。新しい eSATA ハードディスクと交換してください。

eSATA ハードディスクを接続しても認識されない

原因	eSATA ハードディスクの電源が入っていない。
対処	eSATA ハードディスクの電源を入れてください。
原因	USB で接続されたまま eSATA に接続している。
対処	RHD-UX などの複数インターフェイス対応ハードディスクの場合、使用するインターフェイス以外のポートは外してください。

プリントサーバー機能を使用する際、プリンタドライバのインストールがうまくできない

対処	<p>以下の手順にしたがってください。</p> <p>●Windows 7の場合</p> <ol style="list-style-type: none"> ①[スタート]→[デバイスとプリンター]をクリックします。 ②画面上側の「プリンターの追加」をクリックします。 ③「プリンターの追加」画面が表示されるので、「ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンターを追加します」をクリックします。 ④「探しているプリンターはこの一覧にはありません」をクリックします。 ⑤[プリンターを参照する]にチェックをし、[次へ]ボタンをクリックします。 ⑥コンピューターの一覧の中に[LAN DISK の名前]が表示されたらダブルクリックし、更にその下に表示される [USB_printer]をクリックして、[選択]ボタンをクリックします。 ⑦ダイアログ「ドライバが見つかりません。～」が表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。 ⑧プリンターの製造元、機種名を選択して、[OK]ボタンをクリックします。 ⑨「USB_printer ([LAN DISK の名前] 上)が正しく追加されました」と表示されたら、[次へ]ボタンをクリックします。 ⑩[完了]ボタンをクリックします。 <p>以上で設定は終了です。</p> <p>●Windows Vista の場合</p> <ol style="list-style-type: none"> ①[スタート]→[コントロール パネル] (→「ハードウェアとサウンド」) の「プリンタ」をクリックします。 ②画面上側の「プリンタのインストール」をクリックします。 ③「プリンタの追加」画面が表示されるので、「ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンタを追加します」をクリックします。 ④「探しているプリンタはこの一覧にはありません」をクリックします。 ⑤[プリンタを参照する]にチェックをし、[次へ]ボタンをクリックします。 ⑥コンピューターの一覧の中に[LAN DISK の名前]が表示されたらダブルクリックし、更にその下に表示される [USB_printer]をクリックして、[選択]ボタンをクリックします。 ⑦ダイアログ「プリンタのサーバーに正しいプリンタドライバがインストールされていません。～」が表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。 ⑧プリンターの製造元、機種名を選択して、[OK]ボタンをクリックします。 ⑨「プリンタ名を入力してください」と表示されたら [次へ] ボタンをクリックします。 ⑩「USB_printer - [LAN DISK の名前] が正しく追加されました」と表示されたら[完了]ボタンをクリックします。 <p>以上で設定は終了です。</p> <p>●Windows XP の場合</p> <ol style="list-style-type: none"> ①[スタート]→[コントロールパネル]→ ([プリンタとその他のハードウェア]) →[プリンタと FAX]をクリックします。 ②画面左側の「プリンタのインストール」をクリックします。 ③[プリンタの追加ウィザード開始]画面が表示されますので、[次へ]ボタンをクリックします。 ④[ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続されているプリンタ]にチェックをして、[次へ]をクリックします。 ⑤[指定したプリンタに接続する (プリンタを参照するにはこのオプションを選択して [次へ] をクリック):] にチェックをして[次へ]をクリックします。 ⑥[共有プリンタ]内に[LAN DISK の名前]が表示されたら、ダブルクリックし、更にその下に表示される[USB_printer]をクリックして、[次へ]ボタンをクリックします。 ⑦[プリンタの接続 xxxx 上のプリンタに接続しようとしています。お使いのコンピュータに ~]というメッセージが出たら、[はい]ボタンをクリックします。 ⑧[プリンタの接続プリンタのサーバーに正しいプリンタドライバがインストールされていません。 ~]というメッセージがでたら、[OK]ボタンをクリックします。 ⑨プリンターの製造元、機種名を選択して、[OK]ボタンをクリックします。 ⑩[このプリンタを通常のプリンタとして使いますか?]で通常のプリンタとして使用する場合は、[はい]にチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。 ⑪[プリンタの追加ウィザードの完了]画面にて、[完了]ボタンをクリックします。 <p>以上で設定は終了です。</p>
----	--

対処	<p>●Windows 2000 の場合</p> <p>①[スタート]→[設定]→[プリンタ]→[プリンタの追加]アイコンをクリックします。</p> <p>②[プリンタの追加ウィザードの開始]画面が表示されますので、[次へ]ボタンをクリックします。</p> <p>③[ネットワークプリンタ]にチェックをして、[次へ]ボタンをクリックします。</p> <p>④[プリンタ名を入力するか[次へ]]をクリックして、[プリンタを参照します]にチェックした状態で、[次へ]ボタンをクリックします。</p> <p>⑤[共有プリンタ]内に[LAN DISK の名前]が表示されたら、ダブルクリックをして、更にその下に表示される[USB_printer]をクリックして、[次へ]ボタンをクリックします。</p> <p>⑥[プリンタが接続されているサーバーに正しいプリンタドライバがインストールされていません。~]というメッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。</p> <p>⑦プリンタの製造元、機種名を選択して、[OK]ボタンをクリックします。</p> <p>⑧[Windows アプリケーションで、このプリンタを通常のプリンタとして使いますか?]で通常のプリンタとして使用する場合は、[はい]にチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。</p> <p>⑨[プリンタの追加ウィザードが完了しています]で、[完了]ボタンをクリックします。</p> <p>以上で設定は終了です。</p>
----	--

印刷時にエラー画面が表示される
インク残量を確認するユーティリティソフトが使えない

原因	双方向機能が有効になっている。
対処	本製品のプリントサーバー機能は双方向通信に対応しておりません。 そのため、インク残量等を確認するユーティリティソフトにも対応ができませんので、ユーティリティソフトをアンインストールしてください。

プリントサーバー機能を利用して印刷を行ったところ、正常に印刷ができない

原因	プリンターメーカーより提供されている、ユーティリティソフトをインストールしている。
対処	本製品ではプリンターの双方向通信には対応していません。 プリンターメーカーから提供されてるインク残量の確認が行えるようなユーティリティソフトがインストールされている場合には、アンインストールしてください。

原因	動作確認済み以外のプリンターを使用している。
対処	お使いのプリンターが動作確認済みのプリンターかどうかご確認ください。 最新の対応機器については、弊社製品ホームページ(http://www.iodata.jp/support/product/hdl-xr/)をご覧ください。

原因	印刷先のポートの設定が正しくない。
対処	<p>以下の手順でポートの設定が LAN DISK 経由の設定されているかご確認ください。</p> <p>●Windows 7 の場合</p> <p>①[スタート]→[コントロールパネル]→([ハードウェアとサウンド]→)[プリンター]をクリックします。</p> <p>②登録したプリンターを選択後、右クリックしメニューより[プリンターのプロパティ]をクリックします。</p> <p>③[ポート]タブをクリックし、現在チェックが付いているポート名が「¥¥LAN DISK の名前¥USB_printer」と表示されているか確認してください。</p> <p><例>LAN DISK の名前が、「LANDISK」の場合は「¥¥landisk¥USB_printer」となります。</p> <p>●Windows Vista の場合</p> <p>①[スタート]→[コントロールパネル]→([ハードウェアとサウンド]→)[プリンタ]をクリックします。</p> <p>②登録したプリンターを選択後、右クリックし、メニューより[プロパティ]をクリックします。</p> <p>③[ポート]タブをクリックし、現在チェックが付いているポート名が「¥¥LAN DISK の名前¥USB_printer」と表示されているか確認してください。</p> <p><例>LAN DISK の名前が、「LANDISK」の場合は「¥¥landisk¥USB_printer」となります。</p> <p>●Windows XP の場合</p> <p>①[スタート]→[コントロールパネル]→([プリンタとその他のハードウェア] →)「プリンタと FAX」を開きます。</p> <p>②登録したプリンターのアイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。</p> <p>③[ポート]タブをクリックし、現在、チェックが付いているポート名が「¥¥LAN DISK の名前¥USB_printer」と表示されているかご確認ください。</p> <p><例>LAN DISK の名前が、「LANDISK」の場合は「¥¥landisk¥USB_printer」となります。</p>

対処	<p>●Windows 2000 の場合</p> <p>①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[プリンタ]をクリックします。</p> <p>②登録したプリンターのアイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。</p> <p>③[ポート]タブをクリックし、現在、チェックが付いているポート名が「¥¥LAN DISK の名前¥USB_printer」と表示されているかご確認ください。</p> <p><例>LAN DISK の名前が、'LANDISK'の場合は「¥¥landisk¥USB_printer」となります。</p>
----	--

原因	プリンターの設定で双方向通信が有効になっている。
対処	<p>以下の手順で、双方向通信が無効に設定されているかどうかご確認ください。</p> <p>●Windows 7 の場合</p> <p>①[スタート]→[コントロールパネル]→([ハードウェアとサウンド]→)[プリンター]をクリックします。</p> <p>②登録したプリンターを選択後、右クリックしメニューより[プリンターのプロパティ]をクリックします。</p> <p>③[ポート]タブをクリックし、「双方向サポートを有効にする」にチェックが入っている場合には、チェックを外し[OK] ボタンをクリックして画面を閉じます。</p> <p>●Windows Vista の場合</p> <p>①[スタート]→[コントロールパネル]→([ハードウェアとサウンド]→)[プリンタ]をクリックします。</p> <p>②登録したプリンターを選択後、右クリックし、メニューより[プロパティ]をクリックします。</p> <p>③[ポート]タブをクリックし、「双方向サポートを有効にする」にチェックが入っている場合には、チェックを外し[OK] ボタンをクリックして画面を閉じます。</p> <p>●Windows XP の場合</p> <p>①[スタート]→[コントロールパネル]→(「プリンタとその他のハードウェア」 →)「プリンタと FAX」を開きます。</p> <p>②登録したプリンターのアイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。</p> <p>③[ポート]タブをクリックし、「双方向サポートを有効にする」にチェックが入っている場合には、チェックを外し、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じます。</p> <p>●Windows 2000 の場合</p> <p>①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[プリンタ]をクリックします。</p> <p>②登録したプリンターのアイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。</p> <p>③[ポート]タブをクリックして、「双方向サポートを有効にする」にチェックが入っている場合には、チェックを外し、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じます。</p>

クイックコピー機能について

コピー後にデータを参照したい

対処	以下をご覧ください。 【コピーしたデータを確認する】 (12-74 ページ)
----	---

コピーにかかる時間について

対処	目安として 1G バイトあたり約 200 秒かかります。 コピー元・コピー先のアクセス速度やファイル構成などにより、さらに多くの時間を要する場合があります。
----	---

ログにクイックコピーのエラーが表示された クイックコピーを実行するとブザーが鳴り、エラーとなる

対処	コピー先が増設ハードディスクの場合は、接続されていること、電源が入っていること、書き込み可能なフォーマットでフォーマットされていることをご確認ください。
----	--

対処	コピー先のディスクに空きが不足している可能性があります。 ディスクの使用量をご確認ください。 空き容量が不足している場合は不要なファイルを削除するなどして十分な空きを確保する必要があります。
----	---

コピーデータを見せないようにできますか？

対処	見せないようにできます。 すべてのサービスを無効にした共有フォルダーをコピー先に指定してください。
----	--

バックアップ機能について

バックアップ後にデータを参照したい

対処	以下をご覧ください。 【バックアップしたデータを確認する】 (12-77 ページ)
----	--

バックアップにかかる時間について

対処	バックアップ元がこの装置上の場合、目安として 1G バイトあたり約 200 秒かかります。 バックアップ元がネットワーク上の場合、ネットワークの負荷状況などにより変動しますが、さらに多くの時間を要します。
----	---

スケジュール設定でバックアップした場合、更新されたデータのみバックアップされますか？

対処	更新されたデータのみバックアップされます。
----	-----------------------

バックアップログメールが送信されない

対処	【メール送信テストでエラーとなる】 (26-194 ページ) をご覧ください。
----	---

バックアップログでエラーのログが表示された バックアップを実行すると、ブザーが鳴り、エラーとなる

対処	バックアップ先が増設ハードディスクの場合は、接続されていること、電源が入っていること、専用フォーマットでフォーマットされていること、正しくファイルが読めることをご確認ください。
----	--

対処	バックアップ元がネットワーク上の場合は、本装置及びネットワーク上の装置が、ネットワークに接続されていること、電源が入っていることをご確認ください。 バックアップ元から該当の装置を削除し、再度追加することでも確認できます。
----	---

対処	バックアップ先のドライブに空きがない可能性があります。 ディスクの使用量を確認してください。 空き容量が無い場合はバックアップ先の読み取り専用オプションを外して不要なファイルを削除する必要があります。
----	--

対処	バックアップ元または先のファイルシステムに異常がある可能性があります。 チェックディスクにより、ファイルシステムに異常がないかご確認ください。
----	--

バックアップデータを見せないようにできますか？

対処	見せないようにできます。 すべてのサービスを無効にした共有フォルダーをバックアップ先に指定してください。
----	---

[USB ポート 1]に増設ハードディスクを接続しても利用できない

対処	<p>本製品の出荷時設定では、前面の[USB ポート 1]は、クイックコピー用に設定されているため、そのままの状態では利用できません。</p> <p>【USB ポート 1 (前面)の設定】 (11-60 ページ) をご覧になり、USB ポート 1 を共有モードに変更してください。</p>
----	--

増設ハードディスクを接続するとブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS] ランプが赤く点灯したままとなる

原因	<p>FAT/NTFS/専用フォーマット形式以外の増設ハードディスクを接続した。</p> <p>以下のような場合にエラーとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Mac OS で使用していたハードディスク ・ 未フォーマット状態のハードディスク ・ 以前に [ミラーディスクの保管] を行った eSATA ハードディスク ・ 本製品以外の LAN DISK で専用フォーマットにした増設ハードディスク ・ NTFS 形式の 2TB 以上容量のあるハードディスク
対処	<p>以下の方法があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いったんケーブルを抜いて FAT/NTFS 形式にパソコンなどでフォーマットしてから再度接続する。 ・ 接続したまま設定画面で「フォーマット (FAT32)」もしくは「フォーマット (専用)」を実行する。 <p>フォーマット方法については、以下をご覧ください。</p> <p>【増設ハードディスクをフォーマットする】 (11-64 ページ)</p>

eSATA ハードディスクを [eSATA ポート] に接続しても認識されない

原因	eSATA ハードディスクのケーブルを USB ケーブルから eSATA ケーブルに切り替えて接続した。
対処	<p>パソコンや本製品の USB ポートでご利用になっていた eSATA ハードディスクの USB ケーブルを eSATA ケーブルに切り替える場合は、切り替える前に一度 eSATA ハードディスクの電源ケーブルの抜き差しを行ってください。</p> <p>電源ケーブルの抜き差しを行わずに eSATA ケーブルに切り替えて本製品の [eSATA ポート] に接続しても、本製品に認識されない場合があります。</p>

増設ハードディスクのパソコンでのフォーマット方法について

対処	<p>FAT32 や NTFS 形式のハードディスクはそのまま Windows ではご利用になれます。</p> <p>再度フォーマットする場合などのフォーマット方法の詳細については、お使いの増設ハードディスクの取扱説明書を参照してください。</p> <p>※フォーマットするとデータはすべて消去されます。</p> <p>※LAN DISK をパソコンに直接接続して、FAT32 や NTFS 形式にフォーマットすることはできません。</p> <p>なお、弊社ホームページ (http://www.iodata.jp/)で「DiskRefresherLE を使用した FAT32 へのフォーマット手順」をご案内しています。</p>
----	--

ハードディスクの不良でカートリッジ交換が必要な場合は？

対処	<p>以下の場合が考えられます。</p> <p>各カートリッジの状態については、[ボリューム情報] 画面の [構成ディスク] でご確認ください。</p> <p>① [S.M.A.R.T. 自己診断機能] で異常と判断されたハードディスク →この場合、[ボリューム情報] 画面の [構成ディスク] には、[故障] と表示されています。</p> <p>②エラーが多数発生しているハードディスク →この場合も、[ボリューム情報] 画面の [構成ディスク] には、[故障] と表示されています。</p>
----	---

本製品に接続可能なハードディスクについて

対処	以下をご覧ください。 【増設できる USB 機器】 (24-116 ページ) 【増設できる eSATA 機器】 (24-116 ページ)
----	--

デフラグ機能はありますか？

対処	本製品にデフラグ機能はありませんが、本製品に採用しているファイルシステムの仕様により、フラグメンテーション（断片化）が起こりにくくなっています。
----	--

省電力機能が働かない

原因	省電力に対応していない増設ハードディスクである。
対処	増設ハードディスクによっては、省電力に対応していないハードディスクがあります。 最新の対応機器については、弊社製品ホームページ(http://www.iodata.jp/support/product/hdl-xr/)をご覧ください。
原因	本製品のシステムがアクセスしている。
対処	本製品のシステムが必要なファイルにアクセスする場合があります。

タイムサーバーとの同期が行われない

原因	<p>「ネットワーク設定」で正しく設定されていない。</p>
対処	<p>「ネットワーク設定」で「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバー」を DHCP サーバーから自動で取得していない場合は、以下を確認してください。</p> <p>設定画面の「ネットワーク設定」で、「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバー」を正しく設定してください。</p> <p>入力するデフォルトゲートウェイと DNS サーバーの IP アドレスは、パソコンで設定されているものと同じ値に設定してください。</p> <p>以下の手順で確認した IP アドレスを、本製品の「ネットワーク設定」画面に入力してタイムサーバーとの同期とメール通知テストで送信ができるかどうかご確認ください。</p> <p>【デフォルトゲートウェイと DNS サーバーの確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Windows 7/Vista の場合 <ol style="list-style-type: none"> ①[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。 ②ipconfig /all と入力して Enter キーを押します。 ③[デフォルトゲートウェイ]と「DNS サーバー」の IP アドレスを確認します。 ●Windows XP/2000 の場合 <ol style="list-style-type: none"> ① [スタート] → [(すべての) プログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。 ②ipconfig /all と入力して Enter キーを押します。 ③[Default Gateway]と[DNS Servers]の IP アドレスを確認します。 ●Mac OS X の場合 <ol style="list-style-type: none"> ① [アップルメニュー] → [システム環境設定] で [ネットワーク] を開きます。 ② [Ethernet] を選択し、表示された [ルーター] [DNS サーバ] の IP アドレスを確認します。

NT ドメインへの参加ができない

対処	Web ブラウザーより設定画面を表示して、[詳細設定]→[サービス設定]→[Microsoft ネットワーク設定]で、[ドメイン名]および[ドメインコントローラーの名前]が正しく設定されている事を確認してください。
対処	設定画面の[詳細設定]→[サービス設定]→[Microsoft ネットワーク]で、一度ワークグループモードに設定を戻してから、再度 NT ドメインモードに設定してください。
対処	本製品を再起動してから、再度 NT ドメインモードに設定してください。
対処	ご利用のネットワークに BDC(バックアップドメインコントローラー)がある場合、以下について確認してください。 ①いったん、NT ドメインモードからワークグループモードに変更します。 設定画面の[詳細設定]→[サービス設定]→[Microsoft ネットワーク]の参加方法の設定で[ワークグループ]を選択して、設定します。 ②PDC(プライマリドメインコントローラー)を再起動します。 ③本製品を再度 NT ドメインモードに設定します。

ドメインモードに切り替えると共有にアクセスできなくなった

対処	ドメインモードでは、ユーザー認証をドメインコントローラーで行います。そのため、本製品に登録しているユーザーやグループに詳細アクセス権設定を有効にした共有フォルダーは、Windows ネットワーク共有サービスから利用できなくなります。ただし、詳細アクセス権設定を無効に設定されている場合はアクセス可能です。 逆に、ワークグループモードでは、予め詳細アクセス権設定でドメインユーザーやドメイングループを設定した共有フォルダーは Windows ネットワーク共有サービスから利用できません。
----	---

Active Directory への参加ができない

対処	Web ブラウザーより設定画面を表示して、[詳細設定]→[基本設定]→[ネットワーク設定]から[DNS サーバーアドレス]が正しく設定されていることを確認してください。
対処	[詳細設定]→[基本設定]→[ネットワーク設定]から[ドメイン名(NetBIOS 名)]、[ドメイン名 (フル DNS 名)]、[ドメインコントローラーの名前]、[管理者ユーザー名]、[管理者パスワード]が正しく設定されていることを確認してください。
対処	指定の管理者ユーザーがドメインコントローラー上で Administrator 権限を有していることを確認してください。
対処	Active Directory の仕様により、ドメインコントローラーの Administrator パスワードが一度も変更されていない場合、ログオンは失敗します。その場合は Administrator パスワードを変更してから再度設定を行ってください。
対処	ドメインコントローラーの時刻設定と LAN DISK の時刻設定が 5 分以上離れているとログオンは失敗します。その場合、両者の時刻設定を合わせてから再度設定を行ってください。
対処	設定画面の[詳細設定]→[サービス設定]→[Microsoft ネットワーク設定]で、一度ワークグループモードに設定を戻してから、再度 Active Directory モードに設定してください。
対処	本製品を再起動してから、再度 Active Directory モードに設定してください。
対処	ご利用のネットワークに BDC (バックアップドメインコントローラー) がある場合、以下について確認してください。 ①いったん、Active Directory モードからワークグループモードに変更します。 設定画面の[詳細設定]→[サービス設定]→[Microsoft ネットワーク]の参加方法の設定で[ワークグループ]を選択して、設定します。 ②PDC(プライマリドメインコントローラー)を再起動します。 ③本製品を再度 Active Directory モードに設定します。

FTP 共有機能を使用すると、フォルダーやファイル名が文字化けしてしまう

対処	お使いの FTP クライアントソフトに合わせて、エンコード設定を変更する必要がある場合があります。[FTP 設定] の [エンコード] より設定してご利用ください。					
	<table border="1" data-bbox="368 349 1321 622"> <thead> <tr> <th data-bbox="368 349 600 383">エンコード設定</th> <th data-bbox="600 349 1321 383">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="368 383 600 488">UTF-8</td> <td data-bbox="600 383 1321 488">FileZilla 3.2.8 など UTF-8 対応の FTP クライアントソフトを利用する場合に設定します。 ファイル名、フォルダー名に日本語が使用できます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="368 488 600 622">Shift-JIS</td> <td data-bbox="600 488 1321 622">FFFTP や、コマンドプロンプトの FTP コマンドなど Shift-JIS 対応の FTP クライアントソフト利用の場合に設定します。 ファイル名、フォルダー名に一部の日本語が使用できない場合があります。*1</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="300 629 1479 689"> なお、Windows のエクスプローラおよび Internet Explorer では日本語文字を含む共有フォルダー名・フォルダー名・ファイル名は使用できません。 </p> <p data-bbox="300 730 1123 757"> *1 Shift-JIS エンコード設定の場合、以下の文字は使用しないようにしてください。 </p> <div data-bbox="368 763 1102 1473" style="font-family: monospace; font-size: small;"> 焔倅風咩啣嶸悞晒栞楡洵煨琿琿葦閭都銑銷鏽餉鷓 倍洵洽咏禽律惺昂柀檄森煜琇益靖菇誦郎鉅鏘鏘飯鷓 配恍宜陀萌崎愠昉椈操浹煮肆曠身成詹違鉀銀鏗頭鷓 銑倣燻夔參宮惕昂朗櫛清亟均晶苾宇諷逸鈺銑鏘頭鷓 鏘秘允坂發松愜昕聆舞湲炫玳線嶺茁詡返鈔鏘鏘頭鷓 襲但徹厲撫嶮愆昀曹橫洋貝珉皜福羽裹軌鈐鏘鏘青鯨 纒仔佃厓增岑悅敦嗜槽泣瀨均皂禎羨螭赴鈔鏘鏘頭鷓 U 倂謙邵塚立劫擊暉摺活瀟瀟均自禎羨螭赴鈔鏘鏘頭鷓 〇 任備匡塔寮恣搗髙築涇溼猪瓶神繪種賢鈔鏘鏘頭鷓 ˙ 伋楔勿埤寬德摠嗜樺洄瀆猥璟礼緒薰賴鈔鏘鏘頭鷓 ˆ 一 倦勻埃寬或捷哲植泚漸狄璉礪綠鵠瞻鈎鈎鏘鏘頭鷓 ˆ 上 礪倂勛坵甯彈柄晴栢汰澈孰瑤碎董謨鈎鈎鏘鏘頭鷓 ˆ 鼻僂劫坵窠鉅或竣椈沆澗壽琮硤絜蕙諷釗鉗鏘鏘頭鷓 ˆ 銀僂荔莖孛諷愔哈桃汜漾燁瑁劓紉藝謨鈎鏘鏘頭鷓 ˆ 精俠九詰妹嶠悞皖柳汎滌熙琪砭精萌諸鄧鉑鏘鏘頭鷓 ˆ 昱俚翁寄孛嶸愷吟被步湜輝琦劭筭葉謨鄉鈎鏘鏘頭鷓 </div>	エンコード設定	説明	UTF-8	FileZilla 3.2.8 など UTF-8 対応の FTP クライアントソフトを利用する場合に設定します。 ファイル名、フォルダー名に日本語が使用できます。	Shift-JIS
エンコード設定	説明					
UTF-8	FileZilla 3.2.8 など UTF-8 対応の FTP クライアントソフトを利用する場合に設定します。 ファイル名、フォルダー名に日本語が使用できます。					
Shift-JIS	FFFTP や、コマンドプロンプトの FTP コマンドなど Shift-JIS 対応の FTP クライアントソフト利用の場合に設定します。 ファイル名、フォルダー名に一部の日本語が使用できない場合があります。*1					

メール送信テストでエラーとなる

原因	[ネットワーク設定] で正しく設定されていない。
対処	<p>「ネットワーク設定」で「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバー」を DHCP サーバーから自動で取得していない場合は、以下を確認してください。</p> <p>設定画面の [ネットワーク設定] で、「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバー」を正しく設定してください。</p> <p>入力するデフォルトゲートウェイと DNS サーバーの IP アドレスは、パソコンで設定されているものと同じ値に設定してください。</p> <p>以下の手順で確認した IP アドレスを、本製品の「ネットワーク設定」画面に入力してタイムサーバーとの同期とメール通知テストで送信ができるかどうかご確認ください。</p> <p>【デフォルトゲートウェイと DNS サーバーの確認方法】</p> <p>●Windows 7/Vista の場合</p> <p>①[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。</p> <p>②ipconfig /all と入力して Enter キーを押します。</p> <p>③[デフォルトゲートウェイ]と「DNS サーバー」の IP アドレスを確認します。</p> <p>●Windows XP/2000 の場合</p> <p>① [スタート] → [(すべての) プログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。</p> <p>②ipconfig /all と入力して Enter キーを押します。</p> <p>③[Default Gateway]と[DNS Servers]の IP アドレスを確認します。</p> <p>●Mac OS X の場合</p> <p>① [アップルメニュー] → [システム環境設定] で [ネットワーク] を開きます。</p> <p>② [Ethernet] を選択し、表示された [ルーター] [DNS サーバ] の IP アドレスを確認します。</p>
原因	メール送信先のサーバー（プロバイダー）が「POP before SMTP」や「SMTP AUTH」を使用している。 ※メール送信時の認証を使用しているかどうかはプロバイダーやメール送信サーバーの管理者にご確認ください。
対処	[メール基本設定] の「メール送信時認証設定」で、適切な認証方式を選択し設定します。
原因	インターネットプロバイダーが OP25B を実施している。 OP25B (Outbound Port 25 Blocking)とは、迷惑メール送信防止のための措置で、プロバイダー外部への通常の SMTP 接続（25 番ポートでの接続）がブロックされます。
対処	以下のいずれかの方法を試してください。
	<ul style="list-style-type: none"> ・プロバイダーから指定された SMTP サーバーを[SMTP サーバー名]に指定する。 ・プロバイダー外部の SMTP サーバーを指定する場合は SMTP AUTH を使用し、25 番ポートでのメール送信を行わないようにする。（SMTP サーバーが SMTP AUTH に対応している場合に限られます。）
原因	ドメインコントローラーの DNS サーバーに転送設定がない
対処	Active Directory に参加している場合は、ドメインコントローラーの DNS サーバーに転送設定がないとメール送信先のサーバーが外部の場合などに名前解決が行えずエラーとなります。Windows のヘルプをご覧ください。DNS サーバーの転送設定を行ってください。

パソコンのネットワーク設定について

パソコンの IP アドレスがわからない

対処	以下をご覧ください。 【パソコンの IP アドレス確認方法】 (26-170 ページ)参照
----	--

Windows パソコンの [ワークグループ名] がわからない

対処	<ul style="list-style-type: none">●Windows 7 の場合<ul style="list-style-type: none">① [スタート] をクリック後、[コンピューター] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。② 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」のワークグループの欄で確認できます。 ●Windows Vista の場合<ul style="list-style-type: none">① [スタート] をクリック後、[コンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。② 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」のワークグループの欄で確認できます。 ●Windows XP の場合<ul style="list-style-type: none">① [スタート] をクリック後、[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。② [システムのプロパティ] 画面で [コンピュータ名] タブをクリックすれば確認できます。 ●Windows 2000 の場合<ul style="list-style-type: none">① [マイコンピュータ] を右クリックし、メニュー内の [プロパティ] をクリックします。② [システムのプロパティ] 画面で [ネットワーク ID] タブをクリックすれば確認できます。
----	--

(Windows) ネットワークドライブの割り当て方法がわからない

対処	以下をご覧ください。 【参考】ネットワークドライブの割り当て方法】 (3-18 ページ)参照
----	---

(Windows) [ローカルエリア接続]アイコンに×マークが付いている

原因	LAN ケーブルが正しく接続されていない。
対処	パソコンに LAN ケーブルが接続されているか、また、パソコン接続先のネットワーク機器 (ルーターやハブなど) に LAN ケーブルが接続されているかご確認ください。

原因	LAN ケーブルに問題がある。
対処	LAN ケーブルを交換してお試しください。

パソコンに固定の IP アドレスを設定するには

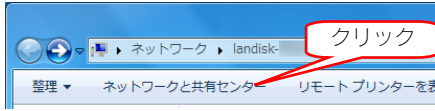
対処	以下をご覧ください。
----	------------

パソコンに固定の IP アドレスを設定する方法

以下は、パソコンに固定の IP アドレス (例は「192.168.0.3」) を設定する場合の例です。
一時的に変更する場合などは、必ず以前の [IP アドレス] [サブネットマスク] [デフォルトゲートウェイ] などのアドレスはメモしてください。
ネットワーク内に DHCP サーバーが無い場合 (本製品が「192.168.0.200」の IP アドレスで起動した場合) などに、パソコンから設定画面を開く際には、パソコン側は同じネットワークアドレスで別の IP アドレスを設定する必要があります。

1 [スタート]→[コンピューター]→[ネットワーク]をクリックします。

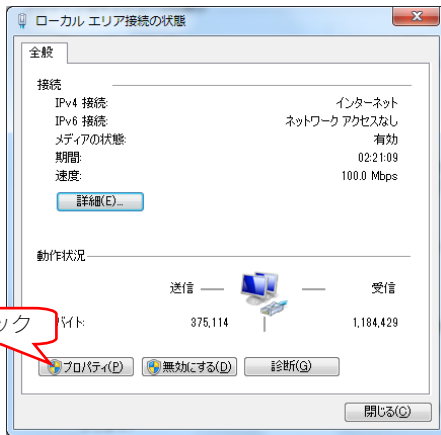
2 [ネットワークと共有センター]をクリックします。



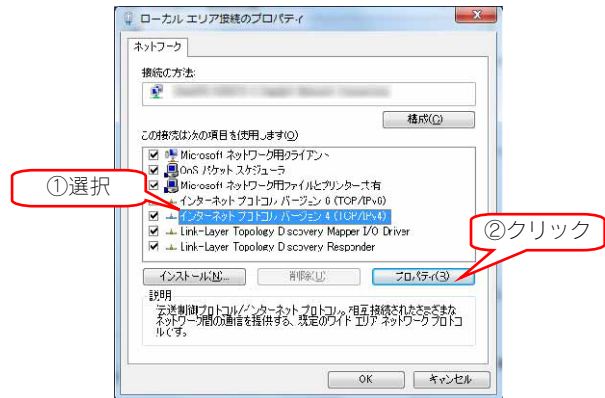
3 [ローカルエリア接続]をクリックします。



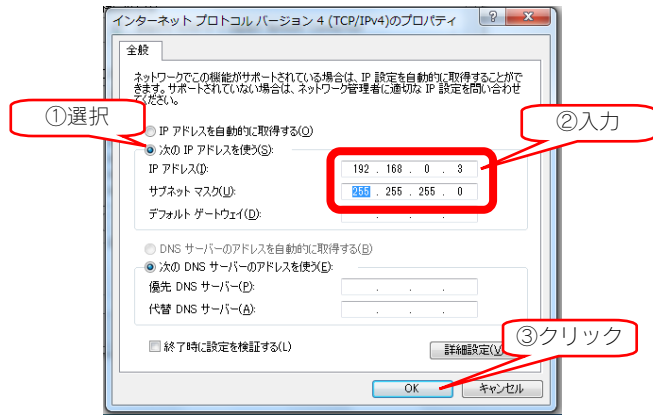
4 [プロパティ]をクリックします。



5 [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)]を選択し、[プロパティ]をクリックします。

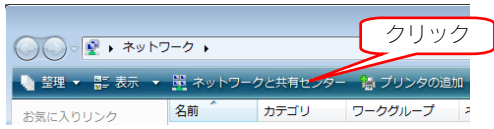


6 [次の IP アドレスを使う]をチェック後、[IP アドレス] [サブネットマスク]を設定後、[OK] ボタンをクリックします。

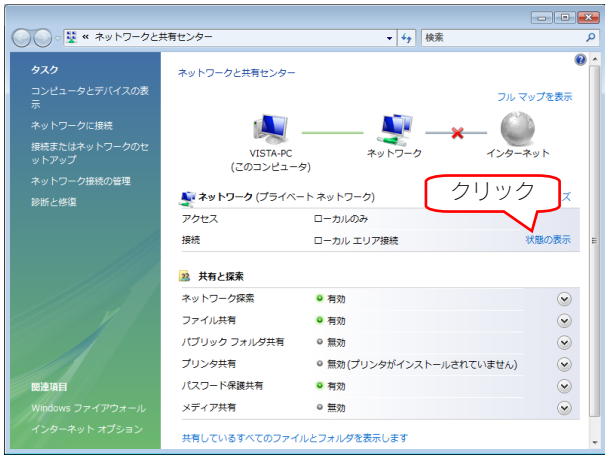


以上で設定終了です。開いた画面を閉じてください。

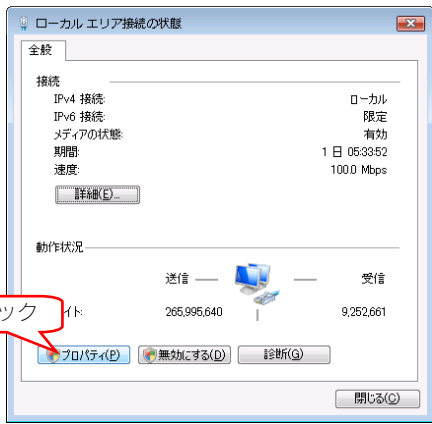
1 [スタート] → [ネットワーク] をクリックし、[ネットワークと共有センター] をクリックします。



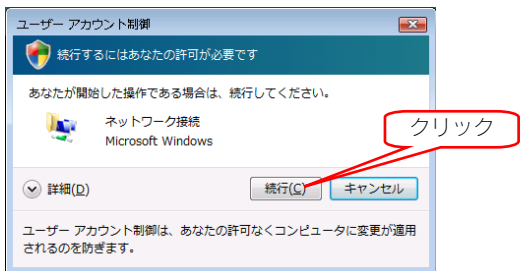
2 [状態の表示] をクリックします。



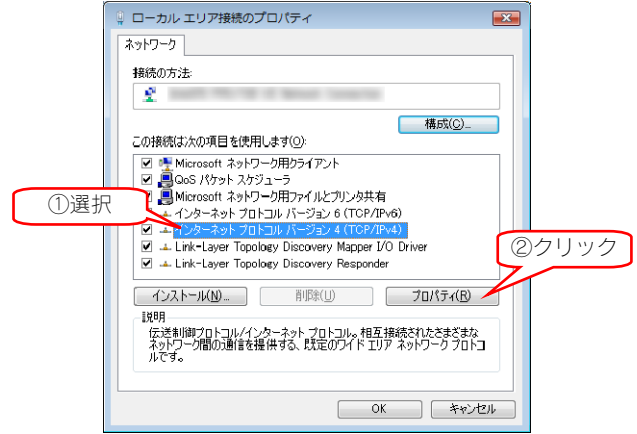
3 [プロパティ] をクリックします。



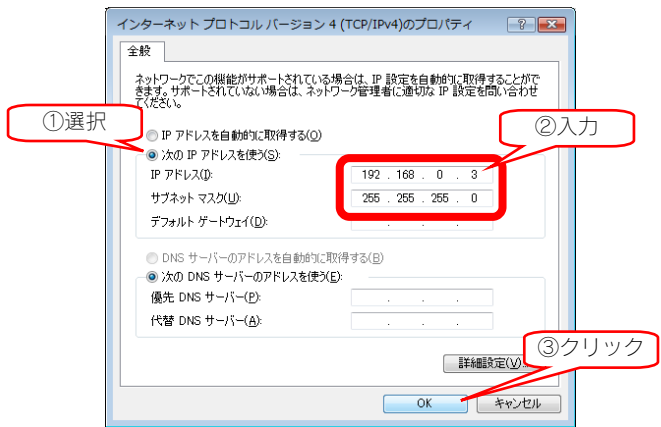
4 以下の確認画面が表示された場合は、[続行] をクリックします。



5 [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)] を選択し、[プロパティ] をクリックします。



6 [次の IP アドレスを使う] を選択後、[IP アドレス] [サブネットマスク] を設定後、[OK] ボタンをクリックします。

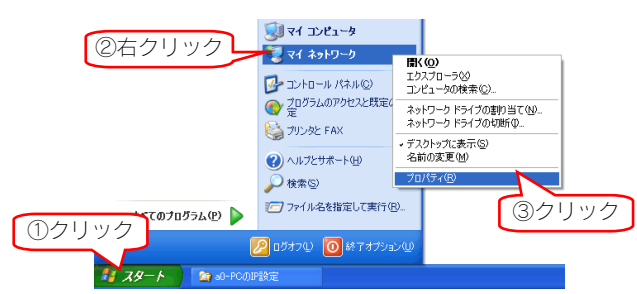


以上で設定終了です。開いた画面を閉じてください。

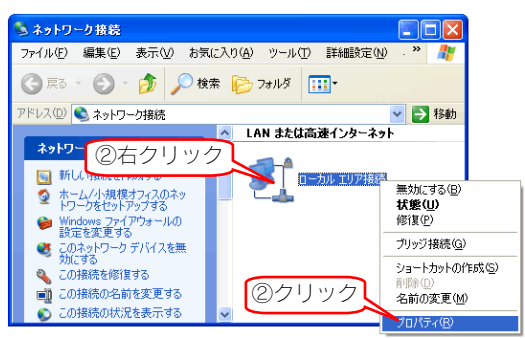
Windows XP/2000 の場合

※画面は Windows XP での例です。

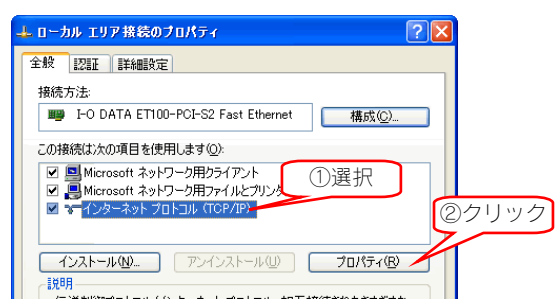
1 [スタート] → [マイネットワーク] を右クリック後、[プロパティ] をクリックします。
(Windows 2000 の場合は、デスクトップ上の [マイ ネットワーク] アイコンを右クリック)



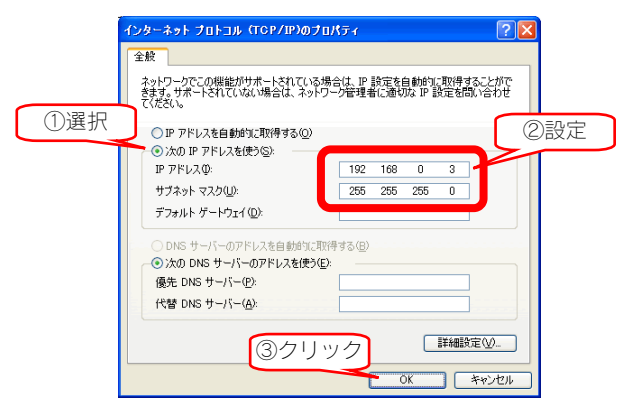
2 [ローカルエリア接続] アイコンを右クリック後、[プロパティ] をクリックします。



3 [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択後、[プロパティ] ボタンをクリックします。



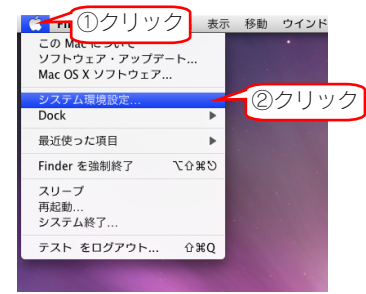
4 [次の IP アドレスを使う] を選択後、[IP アドレス] [サブ ネットマスク] を設定後、[OK] ボタンをクリックします。



以上で設定終了です。開いた画面を閉じてください。

Mac OS X の場合

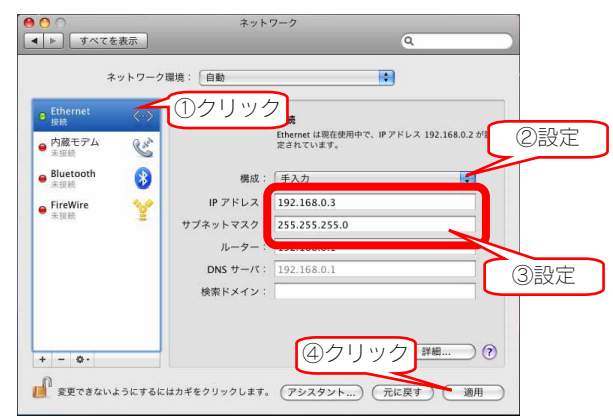
1 [アップルメニュー]→[システム環境設定]をクリックし、[ネットワーク]を選択します。



2 [ネットワーク]を開きます。



3 ①左の欄で[Ethernet]を選択します。
②[構成]を[手入力]に変更します
③以下を設定します。
IP アドレス : 192.168.0.3
サブネットマスク : 255.255.255.0
④[適用]ボタンをクリックします。



4 画面を閉じて、パソコンを再起動します。

以上で設定終了です。開いた画面を閉じてください。

オプション品

各製品の詳細な情報は弊社ホームページ <http://www.iodata.jp/> をご確認ください。

カートリッジ

本製品の容量にあったカートリッジをお買い求めください。

本製品	対応交換用カートリッジ
HDL-XR2.0	RHD-500
HDL-XR4.0	RHD-1.0T
HDL-XR6.0	RHD-1.5T
HDL-XR8.0	RHD-2.0L

ご注意

- 対応交換用カートリッジよりも容量の大きいカートリッジを RAID に組み込んだ場合、実際に使用できる容量は対応交換用カートリッジと同じ容量に調整されます。
- オプション品のカートリッジには、RAID システムは入っていません。
- 本製品の容量を後から増やすことはできません(HDL-XR2.0 において、1TB の交換用 HDD を4つ使用して HDL-XR4.0 と同容量とする、など)。

ファン

本製品の背面ファンを交換する必要がある場合は、以下の製品をお買い求めください。

- ・ RHD-FAN

本製品のお問い合わせ

① 弊社ホームページをご覧ください。

サポート Web ページには、最新の情報や過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらをご参考ください。

製品 Q&A、News など ⇒ <http://www.iodata.jp/support/>

ソフトウェアをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポートライブラリから最新のソフトウェアをダウンロードしてお試しください。

最新サポートソフト ⇒ <http://www.iodata.jp/lib/>

② それでも解決しない場合は、下記にお問い合わせください。

住所： 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器 サポートセンター
電話： 本社…**076-260-3644** 東京…**03-3254-1144**
※受付時間 9:00~17:00 月~金曜日（祝祭日を除く）
FAX： 本社…**076-260-3360** 東京…**03-3254-9055**
インターネット： <http://www.iodata.jp/support/>

※お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

1. ご使用の弊社製品名
2. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番
3. ご使用のシステムバージョン
4. トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

※ご提供いただいた個人情報は、製品のお問合せなどアフターサービス及び顧客満足度向上のアンケート以外の目的には利用いたしません。また、これらの利用目的の達成に必要な範囲内で業務を委託する場合を除き、お客様の同意なく第三者へ提供、または第三者と共同して利用いたしません。

修理について

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●内部のデータについて

- ・ 検査の際には、内部のデータはすべて消去されてしまいます。

(厳密な検査を行うためです。どうぞご了承ください。)

※データに関しては、弊社はいっさいの責任を負いかねます。バックアップできる場合は、修理にお出しになる前にバックアップしてください。

弊社では、データの修復は行っておりません。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。

その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

- ・ 保証期間中は、無料にて修理いたします。

ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」の「保証適応外」の内容に該当する場合は、有料となります。

※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

- ・ 保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。

※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

- ・ お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。

修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。

(ご依頼時に FAX 番号をお知らせいただければ、修理金額を FAX にて連絡させていただきます。)

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

①メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、シリアル番号(S/N)、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

②これらを用意してください

- ・ 必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書 (コピー不可)

※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

- ・ 下の内容を書いたもの

返送先 [住所/氏名/(あれば)FAX 番号]、日中にご連絡できるお電話番号、
ご使用環境 (機器構成、OS など)、故障状況 (どうなったか)

③修理品を梱包してください

- ・ 上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

- ・ 輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。

※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

④修理をご依頼ください

- ・ 修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。

※原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

- ・ 送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先 〒920-8513

石川県金沢市桜田町 2 丁目 84 番地 アイ・オー・データ第 2 ビル
株式会社アイ・オー・データ機器 修理センター 宛

【ご注意】

1)本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。

したがって、別段の定めが無い限り、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。

2)本製品には、GNU General Public License Version3 (GPL v3) に基づいた、ソフトウェアが含まれています。

変更済み GPL 対象モジュール、GNU General Public License、及びその配布に関する条項については、弊社のホームページにてご確認ください。これらのソースコードで配布されるソフトウェアについては、弊社ならびにソフトウェアの著作者は一切のサポートの責を負いませんのでご了承ください。

3)本製品には、OpenSSL Project が、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org>) での使用のために開発したソフトウェアが含まれています。

本製品には Eric Young (eay@cryptsoft.com) により作成された暗号化ソフトウェアが含まれています。

本製品には Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com) により作成されたソフトウェアが含まれています。

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

4)本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関する設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。

5)本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。

また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)

6)本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により輸出規制製品に該当する場合があります。

国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。

7)本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

- I-O DATA は、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft、Windows および Windows Vista ロゴは、米国または他国における Microsoft Corporation の登録商標です。
- Apple、Macintosh、Power Macintosh、PowerBook、iMac、iBook、FireWire、Power Mac、Mac、Mac OS、Mac OS ロゴおよびその標章は、米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

HDL-XR シリーズ 画面で見るマニュアル 2010.1.12

発行 株式会社アイ・オー・データ機器

〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 2009-2010 I-O DATA DEVICE, INC. All rights reserved.

本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。